岐阜県文化財保護センター調査書　第76集

徳山陣屋跡

2002

財団法人　岐阜県文化財保護センター

徳山陣屋跡全景（東より）

完掘状況（右上が北）

本郷地区地籍図（藤橋村教育委員会所蔵・複写）

序

揖斐郡藤橋村の徳山地区は、美濃地方北西部の揖斐川最上流部に位置します。四方を海抜1,200 mを越える山地に囲まれ、かつては7つの集落が揖斐川が形成する河岸段丘上に営まれていました。当遺跡のある本郷は、徳山村の中心集落であり、揖斐川本流と西谷川が合流する徳山地区の入口に当たります。古代より徳山の地は美濃との交流だけにとどまらず、北陸や近江との交流も図られ、それぞれの地域から大きな影響を受けてきました。

このたびの徳山ダムの建設に伴い、徳山地区のほとんどが水没することになり、事業の範囲にかかる遺跡について記録保存をすることとなりました。本報告書は平成12年度に実施した「徳山陣屋跡」の発掘調査の成果をまとめたものです。

今回の調査では、中世後期と考えられる住居跡・土坑・溝など、当時の生活を物語る遺構や、近世においては地鎮など祭祀に関わる遺構が検出され、今まで知られていなかった中世後半から近世後半の徳山地区の様子をうかがい知る上で貴重な資料となりました。本報告書が埋蔵文化財に対する認識を深めるとともに、当地の歴史研究の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び出土品の整理・報告書作成にあたりまして、多大な御支援・御協力をいただいた関係諸機関並びに関係者各位、藤橋村教育委員会、地元地区の皆様に深く感謝申し上げます。

平成14年12月

財団法人　岐阜県文化財保護センター
理事長　服　部　卓　郎

例　言

1　本書は、揖斐郡藤橋村大字徳山字村平に所在する徳山陣屋跡（岐阜県遺跡番号 21407－06423)の発掘調査報告書である。

2　本調査は、徳山ダム建設事業に伴うもので、水資源開発公団から岐阜県が委託を受けた。発掘調査及び整理作業は財団法人岐阜県文化財保護センターが実施した。

3　発掘調査は、坂東　肇・三輪晃三が平成 12 年度に実施した。

4　発掘調査及び整理作業の担当などは本書第 1 章第 2 節に一括掲載した。

5　本書の執筆分担は目次に示した。編集は浅野哲男が行った。

6　発掘調査における作業員雇用、現場管理、掘削などの業務及び地形測量・空中写真測量は、㈱イビソクに委託して行った。

7　遺物の写真撮影は、アートフォト石文に委託して行った。

8　放射性探査年代測定、炭化材の樹種同定、寄生虫卵分析、合子内容物の分析は㈱パレオ・ラボに委託して行った。また脂肪酸分析は㈱ズコーシャに委託して行った。その結果は第 5 章に掲載した。

9　発掘調査および報告書の作成にあたって、次の方々や諸機関から御指導・御協力をいただいた。記して感謝の意を表する次第である（敬称略・五十音順)。
井川祥子・内堀信雄・太田三郎・竹中一秋・戸崎憲一・中井　均・長屋幸二・新美倫子・西村勝広・八賀　晋・藤澤良祐・水野和雄・三宅唯美・山田哲也・藤橋村教育委員会・揖斐川町歴史民俗資料館

10　本文中の方位は、国土座標第Ⅶ系の座標北を示している。

11　土層及び土器類の色調は、小山正忠・竹原秀雄 1997『新版　標準土色帖』（日本色研事業株式会社）による。

12　調査記録及び出土品は、財団法人岐阜県文化財保護センターで保管している。

目　次

序
例言
第１章　調査の経緯 …… 1
　第１節　調査に至る経緯 …… （坂東） …… 1
　第２節　発掘調査の経緯 …… （三輪） …… 2

第２章　遺跡の環境 …… 5
　第１節　自然環境 …… （坂東） …… 5
　第２節　徳山氏と徳山 …… （坂東） …… 5
　第３節　遺跡周辺の様子（本郷地区の試掘調査より） …… （坂東） …… 15

第３章　遺構 …… 17
　第１節　基本層序 …… （三輪） …… 17
　第２節　遺構の概要 …… （三輪） …… 19
　第３節　検出した主要遺構 …… （坂東・三輪） … 24

第４章　遺物 …… 83
　第１節　出土遺物の概要 …… （三輪・浅野） … 83
　第２節　遺構出土遺物 …… （浅野） …… 83
　第３節　包含層出土遺物 …… （浅野） ……111

第５章　自然科学分析 ……127
　第１節　放射性炭素年代測定 …… （山形　秀樹）…127
　第２節　木材及び炭化材の樹種同定 …… （植田　弥生）…129
　第３節　寄生虫卵 …… （鈴木　茂）…133
　第４節　ASQ１出土合子の内容物 …… （藤根　久）…135
　第５節　ASQ１出土合子に残存する脂肪の分析 …… （中野益男他）…138
　第６節　動物遺体 …… （新美　倫子）…147

第６章　まとめ ……149
　第１節　出土土器について …… （浅野） ……149
　第２節　遺物出土状況と遺構 …… （浅野） ……151
参考文献
写真図版

挿図目次

第1図　地区設定及び地形測量図 …… 3
第2図　旧徳山村地内の遺跡分布図 …… 6
第3図　徳山城跡概要図 …… 10
第4図　本郷地区の地籍図 …… 10
第5図　本郷地区の姓氏の分布図 …… 12
第6図　想定できる近世の本郷集落 …… 12
第7図　試掘位置図 …… 15
第8図　試掘結果住状図 …… 16
第9図　調査区上層位置図 …… 17
第10図　調査区下層図 …… 18
第11図　掘立柱建物跡位置図 …… 20
第12図　石垣・石列・杭列・道路状遺構位置図 …… 21
第13図　溝位置図 …… 22
第14図　土坑・その他の遺構位置図 …… 23
第15図　SB 1 ・2実測図 …… 25
第16図　SB 3 ・4 ・11実測図 …… 27
第17図　SB 5 実測図 …… 28
第18図　SB12実測図 …… 29
第19図　SB 6 実測図 …… 30
第20図　SB 7 ・10実測図 …… 31
第21図　SB 8 ・9 実測図 …… 32
第22図　SB13実測図 …… 33
第23図　SA 1 a 断面図 …… 34
第24図　SA 1 a ・SA 1 b ・SA 1 c ・SA 2 実測図 …… 35
第25図　SA 3 実測図 …… 37
第26図　SA 4 実測図 …… 37
第27図　SAs 1 実測図 …… 39
第28図　SAs 2 実測図 …… 39
第29図　SW 1 ・2 ・3 ・4 実測図 …… 39
第30図　ASD 8 実測図 …… 41
第31図　BSD 2 実測図 …… 41
第32図　ASK 4 実測図 …… 42
第33図　ASK11・20実測図 …… 43
第34図　ASK19実測図 …… 44
第35図　ASK26実測図 …… 45
第36図　ASK27実測図 …… 46
第37図　ASK65実測図 …… 48
第38図　SK 実測図(1) …… 49
第39図　SK 実測図(2) …… 51
第40図　ASK81実測図 …… 52
第41図　ASK88実測図 …… 53
第42図　SK 実測図(3) …… 55
第43図　BSK89実測図 …… 58
第44図　BSK91実測図 …… 59
第45図　BSK95実測図 …… 60
第46図　SK 実測図(4) …… 62
第47図　BSK116・117実測図 …… 64
第48図　SK 実測図(5) …… 65
第49図　ASS 1 実測図 …… 69
第50図　ASQ 1 実測図 …… 70
第51図　ASQ 1 出土礎の法量相関 …… 70
第52図　ASBk 1 実測図 …… 72
第53図　SP 実測図 …… 73
第54図　SB 出土遺物 …… 84
第55図　SA ・SF 出土遺物 …… 87
第56図　SD 出土遺物 …… 88
第57図　SK 出土遺物(1) …… 91
第58図　SK 出土遺物(2) …… 95
第59図　SK 出土遺物(3) …… 97
第60図　SK 出土遺物(4) …… 98
第61図　SK 出土遺物(5) …… 101
第62図　SK 出土遺物(6) …… 103
第63図　SK 出土遺物(7)・その他の遺構出土遺物 …… 107
第64図　SP 出土遺物 …… 109
第65図　包含層出土遺物(1) …… 112
第66図　包含層出土遺物(2) …… 113
第67図　包含層出土遺物(3) …… 114
第68図　包含層出土遺物(4) …… 115
第69図　包含層出土遺物(5) …… 116
第70図　寄生虫卵分布図 …… 133
第71図　コロイド分の蛍光X線スペクトル図 …… 136
第72図　合子内の砂粒物の粒度組成 …… 137
第73図　脂肪の脂肪酸組成 …… 140
第74図　脂肪のコレステロール組成 …… 141
第75図　脂肪の脂肪酸組成樹状構造図 …… 144
第76図　脂肪の脂肪酸組成による種特異性相関 …… 145
第77図　器種別土器組成(中世) …… 149
第78図　用途別土器組成(中世) …… 149
第79図　古瀬戸時期別組成 …… 150
第80図　大窯時期別組成 …… 150
第81図　器種別土器組成(近世) …… 151
第82図　用途別土器組成(近世) …… 151
第83図　連関時期別組成 …… 151
第84図　器種別土器出土状況図 …… 152
第85図　掘立柱建物跡における軸の方位の傾向 …… 153

表目次

第1表　遺跡別古代の遺構・遺物(徳山村内) …… 7
第2表　徳山氏関係年表 …… 8
第3表　遺構検出数 …… 19
第4表　SD 属性一覧表 …… 41
第5表　SK 属性一覧表(1) …… 67
第6表　SK 属性一覧表(2) …… 68
第7表　ASQ 1 出土礎計測表 …… 71
第8表　SP 属性一覧表(1) …… 74
第9表　SP 属性一覧表(2) …… 75
第10表　SP 属性一覧表(3) …… 76
第11表　SP 属性一覧表(4) …… 77
第12表　SP 属性一覧表(5) …… 78
第13表　SP 属性一覧表(6) …… 79
第14表　SP 属性一覧表(7) …… 80
第15表　SP 属性一覧表(8) …… 81
第16表　SP 属性一覧表(9) …… 82
第17表　器種別土器組成(総遺物) …… 83
第18表　遺構出土土器一覧表(1) …… 117
第19表　遺構出土土器一覧表(2) …… 118
第20表　包含層出土土器一覧表 …… 119
第21表　土器観察表(1) …… 120
第22表　土器観察表(2) …… 121
第23表　土器観察表(3) …… 122
第24表　土器観察表(4) …… 123
第25表　土器観察表(5) …… 124
第26表　土器観察表(6) …… 125
第27表　土師観察表 …… 125
第28表　金属製品観察表 …… 125
第29表　煙管雁首観察表 …… 126
第30表　銭貨観察表 …… 126
第31表　硯石観察表 …… 126
第32表　砥観察表 …… 126
第33表　剥片観察表 …… 126
第34表　不明石器観察表 …… 126
第35表　放射性炭素年代測定結果 …… 128
第36表　木材および炭化材の樹種同定結果 …… 129
第37表　試料1 c c 中の寄生虫卵個数 …… 133
第38表　コロイド分の土成分元素分析値 …… 136
第39表　試料の残存脂肪抽出量 …… 139
第40表　コレステロールとシトステロールの割合 …… 142
第41表　貝類出土一覧表 …… 147
第42表　魚類・鳥類・哺乳類出土一覧表 …… 148
第43表　器種別土器組成表(中世) …… 149
第44表　用途別土器組成表(中世) …… 149
第45表　古瀬戸時期別組成表 …… 150
第46表　大窯時期別組成表 …… 150
第47表　用途別土器組成表(近世) …… 150
第48表　器種別土器組成表(近世) …… 151
第49表　連関時期別土器組成表 …… 151
第50表　遺構別出土土器一覧表 …… 152

図版目次

図版0　旧本郷地区・調査前風景
図版1　SB 1 ・2 ・3 ・4 ・7 ・8 ・9 ・10・11完掘状況
図版2　SA 1 a ・SA 1 b ・SA 1 c ・SA 2 ・SA 4 ・ASD 8 検出状況
図版3　ASK11・19・26・43・65・67検出状況
図版4　ASK69・73・88, BSK 8 ・15・21・89検出状況
図版5　BSK91・93・95・96・115・116検出状況
図版6　ASS 1 ・ASBk 1 ・ASQ 1 ・SF 1 ・BSP73・320検出状況
図版7　出土遺物(1)
図版8　出土遺物(2)
図版9　出土遺物(3)
図版10　出土遺物(4)
図版11　出土遺物(5)
図版12　出土遺物(6)
図版13　出土遺物(7)
図版14　出土遺物(8)
図版15・出土遺物(9)
図版16　木材及び炭化材樹種(1)
図版17　木材及び炭化材樹種(2)
図版18　木材及び炭化材樹種(3)
図版19　木材及び炭化材樹種(4)
図版20　寄生虫卵
図版21　合子内容物
図版22　動物遺体

第1章　調査の経緯

第1節　調査に至る経緯

徳山ダム建設は、昭和32年（1957）、電源開発株式会社が発電を主目的に建設計画を発表した。その後、伊勢湾台風をはじめとして相次ぐ下流域の大出水により、昭和46年度（1971）からは、建設省が引き継いで調査を行ってきた。そして、昭和48年（1973）3月、木曽川水系の水資源開発基本計画の変更により、水資源開発公団が事業を実施することになった。

徳山ダムは、流水の正常な機能の維持、水道水および工業用水の供給、ならびに発電を目的として建設する多目的ダムで、ロックフィル形式である。貯水容量は6億6千万㎥、堤高は161mである。ダム建設により、洪水満水位水没線は、401mとなり、旧徳山村のほぼ全戸が水没（門入地区だけが水没からまぬがれる）し、旧徳山村内の埋蔵文化財の殆どがダム湖底に沈むことになる。

このため、昭和58年（1983）10月12日に、水資源開発公団徳山ダム建設所長より遺跡の分布調査の依頼が岐阜県教育委員会にあった。これを受けて岐阜県教育委員会は、昭和59年（1986）10月2日から11月17日にかけて、文化庁の昭和59年度国庫補助事業として分布調査を実施した。そして昭和60年（1985）3月には、この調査に基づき、『揖斐川上流域徳山ダム・杉原ダム水没地区埋蔵文化財分布調査報告書』を発刊した。さらに、同年5月9日、水資源開発公団徳山ダム建設所において、徳山ダム水没地区内埋蔵文化財発掘調査計画のための打ち合わせを行い、夏から秋にかけて、発掘調査計画策定のため岐阜県文化財保護審議会委員（当時信州大学教授）の大参義一氏の指導のもとに、数回にわたる現地調査を実施した。この調査結果に基づき、昭和61年（1986）3月17日、徳山ダム水没地区埋蔵文化財発掘調査計画書を水資源開発公団に提出した。

昭和61年4月7日、水資源開発公団から岐阜県に対し、昭和61年度の発掘調査実施の依頼があり、岐阜県教育委員会は、「はいづめ遺跡」の本発掘調査を行った。

昭和62年（1987）3月27日、計画書の一部手直しを行い、水資源開発公団と岐阜県の間で「徳山ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に関する協定」を締結した。岐阜県教育委員会では、この協定書に基づき、昭和62年度から発掘調査を実施することになった。

平成3年（1991）4月1日、財団法人岐阜県文化財保護センターが発足し、水資源開発公団から岐阜県が受託した発掘調査は、財団法人岐阜県文化財保護センターが実施することになった。同年、水資源開発公団と岐阜県との間で「徳山ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に関する協定書」の一部を変更して締結した。

平成6年（1994）に、平成7年度以降発掘調査予定地の遺跡範囲確認事前調査を実施した。その結果をもとに協定書の一部を変更して、以後発掘調査を実施している。

平成12年度は、「徳山陣屋跡」の発掘調査を実施した。この遺跡は、徳山の中心地区である本郷の北部にあり、調査面積は、3,000㎡であった。

第2節　発掘調査の経緯

平成6年度の現地踏査・平成11年度の試掘確認調査の結果、調査地内に江戸時代以前に遡る可能性がある石垣（SA1）が遺存しており、SA1によって区画された内部で中・近世の所産と見られる遺構を確認したことから、本発掘調査に着手する際にこれを記録する必要があった。そこでSA1に接する石積遺構（SA2）と共に精査後に写真測量を行い、合わせて調査地周辺の地形測量を実施した。以下SA1で区画された内部を「A区」（5列以東、J列以北）、外部を「B区」と呼称する。地形測量の結果、両区とも廃村時の家屋解体に伴う大きな土地改変が想定されたため、図上からは微地形の復元は困難であった。しかし調査地の東隣・北隣の山裾を大きく削出されている様子が読みとれ、試掘確認調査の結果から遺構検出面は、A区では近世と中世の2面、B区では中世の1面が想定された。

調査地内の区割方法はSA1の一部が江戸時代の地割りや建物配置等に大きく影響すると考え、SA1aとSA1bのうち積み直しの可能性が低い巨礫2石を選び、その基底部分を結んだ線を東西軸とした。これを4m四方で調査区全体を網羅するように割付け、任意の点（X＝－33731.996・Y＝－61874.110）を起点にして北から南に向けて順にA～Sのアルファベット、西から東に向けて順に1～17の算用数字を付した。グリッド名は北西角の杭番号により呼称した。以上の方法による区割りは真北から約36°49′69″西に偏る。

本発掘調査ではA・B区並行して作業を進めた。よって基本層序はもとより遺構名、遺物の取り上げ番号、遺物注記名等は各通し番号の前に調査区名（A・B）を付して区別した。除草及び雑木除去後、A区ではⅠa層と現代攪乱をバックホウで除去し、遺物を多く含むⅠb層とⅡ層はほぼ人力により掘削した。続くⅢ層は傾斜地にのみ分布し無遺物層であり上面での遺構検出は困難と判断し、Ⅳ層上面を遺構検出面とした。バックホウの掘削は、SA1のうち確実に積み直しされた礫・裏込め土、SA2、村道の路面や排水溝等の除去等で多用した。B区でもⅢ層上面での遺構検出が困難であり山際でⅣ層上面が現地表面から約1.7mと深いことなどから、希薄な遺物包含層であるⅠa層・現代攪乱・Ⅰb層・Ⅱ層・Ⅲ層をバックホウで除去しⅣ層上面を遺構検出面とした。

遺構名は遺構の平面規模等によっておよそ性格を想定し、調査区名と遺構記号と通し番号で表した。遺構覆土内から現代遺物を出土しない限りこの方式を採ったため、最終的に攪乱坑と判断したものや整理段階で遺構の性格を再検討し遺構記号を変更したために、欠番扱いにした遺構名がある。

遺構の実測方法は完掘状況を模型ラジコンヘリコプターによる空中写真測量（図化縮尺1／40）で図化・記録し、特に礫や遺物を含む遺構については出土状況や土層堆積状況などの詳細な情報を主に1／10の縮尺で図化した。

出土遺物のうち、人工遺物の取り上げ方法は遺物包含層を人力で除去した際にはグリッド単位で行い、遺構内出土遺物は原則として覆土の層位別に取り上げた。ただし個別遺構の情報を図化・記録する場合には、極力トータルステーションの遺物システムによる出土位置の記録に努めた。動植物遺存体の取り上げ方法は遺構内出土遺物のうち肉眼で確認できるものは可能な限り取り上げた。ただしその他微細遺物の有無を確認するために、試験的に一部の遺構の覆土を採取し水洗選別を行ったものが少量ある。

＜調査体制＞　発掘調査及び整理作業の体制は以下の通りである。

	平成12年度（発掘調査）	平成13年度（整理・報告書作成）
理事長	服部　卓郎	服部　卓郎
専務理事兼事務局長	原　　隆男	成戸　宏二
常務理事兼経営部長	二山　　晃	福田　安昭
経営部次長兼経営課長	坂東　　隆	福田　照行
調査部長	高橋　幸仁	武藤　貞昭
調査部次長	武藤　貞昭	片桐　隆彦
担当調査課長	柘植　卓伸	高木　徳彦
担当調査員	坂東　　肇・三輪　晃三	浅野　哲男

整理作業従事者（敬称略・五十音順）　小澤真紀子、小松博子、知本俊美、樋口弘子、堀孝浩、藪下賀代子、山口久子、湯城里美

なお、平成12年度の発掘調査においては、作業員雇用、現場管理、掘削などの業務を㈱イビソクに委託して行った。

第１図　地区設定及び地形測量図（S＝１／800）

＜調査の経過＞

7／7～7／14　7～14. 調査員により石垣付近の清掃をして範囲を確認する。13. 藤橋村教育委員会で本郷地区の地籍図を確認する。

7／17～7／28　調査員により石垣付近の清掃をし、山石と川原石の区別、焼けた石などの調査をする。

8／1～8／5　調査区とその周辺の雑木の伐採と草刈り。5. 石垣の写真実測（イビソクに委託）。

8／7～8／11　A地区（石垣内部）より表土除去をはじめる。9. 石垣の中で新しいと思われる川原石をはずす。

8／21～8／25　A地区の表土除去終了。移転時のゴミ穴等の攪乱を除去する。24. A地区より作業員を入れて、作業を開始する。25. B地区の表土除去を始める。

8／28～8／31　28. B地区のN15～N16付近にある攪乱を除去している最中に、赤褐色土上面より多くのピットが確認される。この面は、試掘における遺構面と重なることが確認されたので、これよりB地区では遺構面をここに設定して掘削を進めることにした。30. A地区のⅢ層を人力掘削。B地区はⅢ層下部まで重機掘削。

9／4～9／8　4. A地区ASX1検出。5. B地区重機掘削終了。A地区Ⅲ層掘削。7. B地区は、石垣Cの西側のD4から南へ遺構の検出を進める。

9／11～9／29　A,B地区ともに遺構掘削、検出作業継続。28. 石垣を含めた調査区の全体写真を徳山小学校の屋上より撮影。

10／2～10／27　石垣が、幕末～明治初期に積まれたものと判明したため、重機により全ての石垣を除去することにし、作業を進める。5. A,B地区ともに遺構の検出、実測を継続する。26. B地区のN～P, 2～4区域に建物跡が広がる可能性があったため、一部拡張する。

10／30～11／24　A,B地区ともに遺構掘削及び検出作業を継続する。14. 科学分析用試料採取（パレオ・ラボに委託）22. 空撮（株式会社イビソクに委託）　24. SB1～6の写真撮影。

11／27～12／1　28. 下開田西部の山頂付近より遠景の撮影。SB7, 8の写真撮影。29. 揖斐郡公民館連合会41名見学。建物跡のピット個別写真の撮影をする。30. 山側法面の埋め戻し補強作業開始。1. 法面補強作業、土捨て場の整備等終了。

12／4～12／8　4. 八賀晋・三重大学名誉教授による指導。4～7. SB1～9のエレベーション実測。8. 撤収完了。

12／10～12／15　12. 米原町教育委員会・中井均氏による指導。13. 水資源開発公団徳山ダム建設所との最終確認を現地で行う。

第2章　遺跡の環境

第1節　自然環境

揖斐郡藤橋村徳山地内にある調査区は、揖斐川本流左岸の河岸段丘部山寄りの高台にあり、周辺の緩斜面及び平坦面は、南北で約15mの比高差がある。南部の標高約290mの平坦面は、段丘面と考えられるが、それ以外の部分は何らかの堆積物が数m以上ある。緩斜面は、北西－南東方向に長く広がっているが、標高294m～300mの斜面の傾斜を見ると、296m辺りを境に下方は斜面が緩やかで、上方は斜面がやや急である。また、この地区の東を流れる円谷や西を流れる谷には堰堤が数カ所存在し、これらの谷は多くの土石を流し出すことがわかる。また、大雨などによる背後斜面の崩落は数多く、昭和になって徳山小学校が崩落した土砂により倒壊したということもあった。このように、何度も崩石性の堆積物が重なって現地表面ができたと推定される。

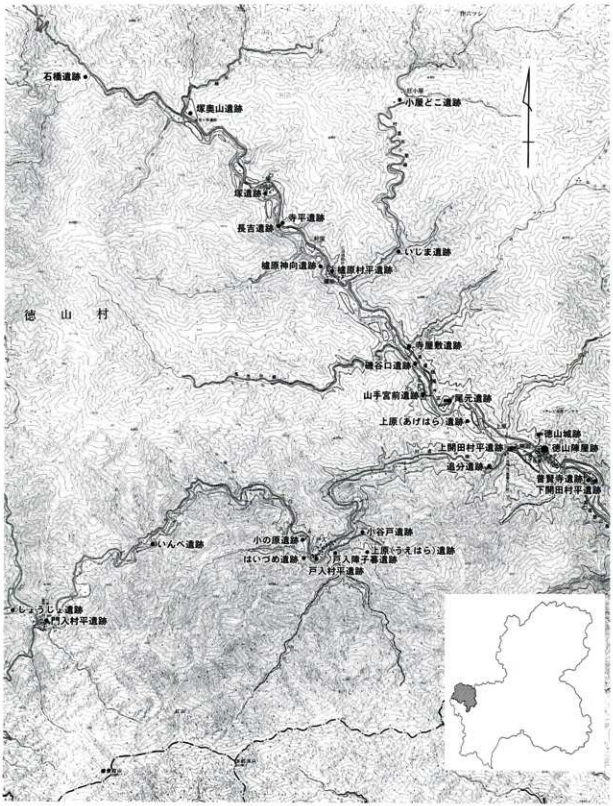
気候は、北陸地方と東海地方の間の内陸山間部ということもあって、夏は南東季節風の影響を受けて多量の雨がふり、冬は北西季節風の影響を受けて大雪が降る。このため徳山地区は年間降水量が3,000㎜を超える日本でも有数の多雨地域である。事実、現在でも大雨による土砂災害などが年間に数回は起き、発掘調査が長期中断したこともあった。気温は年較差が大きく、冬は－10℃近くまで気温が下がり、夏は30℃を超すくらいの暑さを記録する。これは、四方を山で囲まれた内陸性の気候であることに起因している。

植生は、基本的にはブナ、ミズナラを主とする冷温帯落葉樹林帯に属する。この地域で見られるブナ林は、林床にチシマザサを伴っており、日本海側の地域に見られる植生をしている。太平洋側にありながら日本海側型の植生を示すのは、この地域が冬に積雪が多いという日本海型の立地条件のためである。樹木には他にトチノキ、ケヤキ、ホウノキ、クリ、サワグルミ、ヤマボウシなどがみられる。

第2節　徳山（とくのやま）氏と徳山

1．古代の徳山谷

古代における徳山谷の歴史については文献資料がほとんどなく、現在わかっていることは少ない。ただ、最近になって行われた埋蔵文化財発掘調査によって、徳山における古代の遺構や遺物の広がりについておぼろげながらも明らかになりつつある。第1表は、現在まで調査された遺跡の古代の遺構と遺物を表したものである。これを見てわかることが2点ある。1点目は、現在まで発掘した西谷の遺跡では、古代の遺構や遺物は発見されていないということである。西谷には、戸入村平遺跡、小野原遺跡、はいづめ遺跡、いんべ遺跡、小谷戸遺跡などがある。中でも戸入村平遺跡は、縄文時代中期から晩期にかけての大きな遺跡であるとともに、中近世の遺物も多く出土している。しかし、古代の遺物は、1点も出土しなかった。2点目は、徳山の古代においての中心地は、山手地区周辺部であろうということである。実際、山手地区周辺の山手宮前遺跡、上原遺跡、尾元遺跡からは古代の遺構とともに多くの遺物が出土している。また、やや北よりの寺屋敷遺跡では古代寺院跡が見つかっている。



第２図　旧徳山村地内の遺跡分布図（S＝１／125,000）

第1表　遺跡別古代の遺構・遺物

遺跡名	遺構	遺物
山手宮前遺跡	10～11世紀の灰釉陶器の出土した土坑・ピットが2基 SK53　110×90cm　不整形 （灰釉1点、10～11C） P41　30×25cm　不整形 （灰釉1点、10C後半～11C前半）	・須恵器1点　珠洲系？ ・灰釉陶器35点 （器種は、碗・皿・瓶類）
上原（かばはら）遺跡	・礫集積遺構　奈良時代（8C） ・掘立柱建物跡　平安時代中頃 ・土坑Ⅰ　平安時代	第Ⅰ地点　灰釉陶器　4点 第Ⅱ地点 須恵器　約100点 灰釉陶器、山茶碗　約600点 第Ⅲ地点　灰釉陶器　77点
尾元遺跡	水さらし場遺構　平安時代	灰釉陶器（整理中）
寺屋敷遺跡	寺院跡　平安時代	灰釉陶器　58点
磯谷口遺跡	未検出	須恵器　65点 灰釉陶器　16点 緑釉陶器　2点
塚奥山遺跡	未検出	灰釉陶器（整理中）
塚遺跡	未検出	灰釉陶器　3点
追分遺跡	未検出	須恵器　2点
上開田村平遺跡	未検出	須恵器　4点
下開田村平遺跡	未検出	須恵器　2点

文献ではどうかというと、天暦年間撰（947～956）の『美濃国神明帳』によると、山手に「従五位下山道明神」があったと記されている。また、これは江戸時代にはいってからの史料であるが、『徳山家伝系図』（以下『系図』と記す）によると、徳山氏の祖とされている坂上大宿弥貞守は、

「坂上大宿祢貞守　左兵衛大尉　従四位下　弓馬達人　貞守有故蒙　勅勘被左遷于濃州或曰江州山谷之間漸歴歳月而　勅許将帰於京師之時山中無執贄偶見鶯雛得雛之所呼曰山手村於茂登賀比良此名今亦存（以下略）」

とあるように、「勅勘を蒙り」濃州あるいは、江州の山谷に左遷されたという。後に、許されて京に帰る時、その地で鶯を捕まえ天皇に献上したところ、それに喜んだ天皇がその地名を鳥籠山（とこのやま）と名付けた。それが徳山の地名の起こりだというが、その鶯を捕らえた場所が上の史料によると、「於茂登賀比良（おもとがひら）」つまり尾元だという。この史料そのものの信憑性は低いものの、当時の有力者が来た場所を尾元に設定していることは興味深い。

2．中世の徳山氏

14世紀になり徳山氏は歴史に名が出てくる。氏が在地の有力者であったのか、それとも白山にかかわる者であったのかは不明であるが（*1）、南北朝期には根尾氏とともに南朝方に属して戦ったという。特に、1338年（延元3）の青野ヶ原の戦いでは、奥州勢に加わって戦ったといわれている。同じ頃の興国元年(1340)11月17日の勧請銘があるご神体が本郷の白山神社にあるが、おそらくこの頃に徳山谷での徳山氏の地歩が固まったのではないかと思われる。系図によると、この時期に活躍した徳山氏の初代は、徳山金吾貞信で美濃守坂上貞守七代の孫であるといわれているが（*2）、この頃に徳山を舞台とした戦いは記録になく、また当時の徳山氏の徳山谷における勢力基盤や築城するための労働力等をみても、城ができていたとは考えにくい。ただ「系図」等に「新田義貞に属して軍功があり」とあることから、新田氏のもとで活躍したものと思われるが詳細は不明である。貞信は、1404(応永11)年11月に亡くなり、門入にあったといわれる宗応寺に葬られた。貞信には貞幸という子があったが、足利義満の命により京極治部大輔高詮方で山名氏と合戦するなかで、1391（元中8）年12月に討死したという。それにより、美濃の土岐頼世の子・土岐政長（貞長と改名）を娘婿とした（*3）。この貞長の時代が徳山の地を中心として、徳山氏が一番活躍した時期ではないかと思われる。現在、徳山関わる山の年貢や所領についての古文書が数通残されており、当時の様子を知る手がかりになる。地名としては、はしはら（橡原）、やまて（山

第2表　徳山氏関係年表　14C～16C（*4）

1330年頃	**徳山貞信、新田氏について軍功がある。（系図）**
	（この頃、徳山氏は根尾氏とともに宮方につく）
1338年	新田義貞、越前藤島で戦死。
	（義貞は橡原で戦死したという、伝説が徳山村に伝わる。橡原には、仁田四郎由定の墓あり。）
	足利尊氏、室町幕府を開く
1340年	**白山神社に「興国元年11月17日」の勧進銘があるご神体あり**
1391年	**徳山貞幸、京都で討死（系図）**
1392年	南北朝合一
1404年	**徳山貞信没（門入の宗応寺に葬られる）（家譜）**
1431年	**徳山出羽守常長より建殿助への山銭渡状あり（県史）**
1434年	**徳山定長の御服料譲状、所領渡状あり（県史）**
1436年	**出羽守貞長の下人等渡状、百姓等渡状あり（県史）**
1438年	**徳山貞長、赤坂で討死（系図）**
1467～77年	応仁の乱
1472年	**徳山貞次の田地交換状あり（郡志、県史）**
1476年	**徳山貞次没（系図）**
1477年	**徳山貞次の借銭請取状あり（県史）**
1495年頃	**徳山貞輔が牛洞、井深を所領とした（村史）**
1520年	**徳山貞隆は土岐氏に属し、深坂地頭となる（村史）**
1521年	**徳山貞輔没（系図）**
1544年	**朝倉氏が美濃に攻め入り、徳山貞隆は赤坂で斎藤勢を破る（村史）（この頃、徳山城築城カ？）**
1572年	稲葉一鉄、坂内村の広瀬城を攻める。
1575年	室町幕府滅亡
1576年	**徳山五兵衛則秀、御幸城主となる。（村史）**
1577年	**徳山五兵衛則秀、松任城主となる。（村史）**
1582年	本能寺の変
1583年	**賤ヶ岳の戦い、小松城主・徳山五兵衛則秀は近江の柳ヶ瀬の戦いに敗れ、菅並村・洞寿院に逃れる。**
1600年	関ヶ原の戦い
	徳山五兵衛則秀、家康より旧地五千石を拝領する。

手)、いそたに、さもと、かんたに、つか（塚）などが出ている。その中には「あさはたの事」「熊皮銭」「綿五両」等がみられ、当時の山の生活の様子が垣間見られる。なお、平成12年度の発掘調査により確認されたSB1とSB2、及びそれと軸を同じくする掘立柱建物は、ほぼ貞長・貞次の時期にあたるものと考えられる。

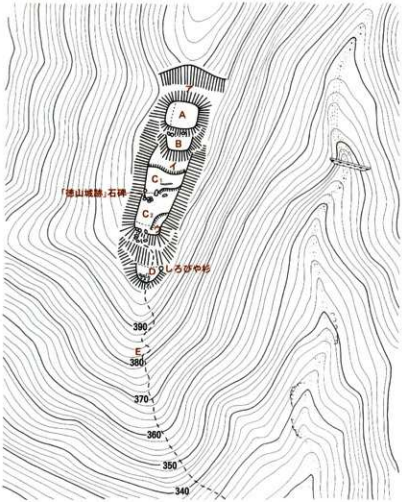
1438（永享10）年、北畠方の残党が立ち上がり、世保(よやす)持頼（土岐氏一族）が、その討伐にあたるという事件があったが、その時、徳山貞長は世保氏に応援し、美濃赤坂の戦いで戦死する。貞長の死後は、長男の貞次が跡を継ぐことになる。『寛政重修諸家譜』（以下『家譜』と記す）等によると、貞次は、「仕于　禁裡後足利将軍幕下」とあり、京へ出て足利義政の臣となったというが、この記載には疑問が残る。つまり、土岐一族全体をみると、幕府の奉公衆となった一族は多く、その中には、揖斐氏、深坂氏、稲木氏などがみられるが、徳山氏の名はどこにもみられないからである。揖斐氏の場合、守護の池田氏(土岐頼世の系統)には従っていなかったらしく、自分の所領を守るために奉公衆になったとも考えられる。奉公衆は幕府直属のため、その領地は守護権力の介入できない土地であり、軍事面でも守護の指揮下になかったからである。現実に、奉公衆は軍事面・経済面・政治面において、つねに守護を牽制する役目をしていた。揖斐氏が奉公衆になった例にならえば、守護職・池田氏の系統にある徳山氏が奉公衆に名を連ねていないのは自然である。実際のところ、貞次は一定の時期は徳山に在住していたと考えられる。例えば、貞次の妻は、根尾氏よりむかえているが（*7）、地元の有力者から妻をむかえることにより、徳山谷で地盤を築こうとしたのではあるまいか。また、貞次には、古文書が3通残されているが、1通は1472（文明4）年のもの、1通は貞次が没した後にあたる1477（文明9）年11月15日の借銭請取状、そして、もう一通は年代不詳の置文である。これら、少数の古文書ではあるが、わずかながらに徳山での活動の跡が伺える。

文献や発掘の資料から大胆に推定を加えるならば、中世の徳山谷において、徳山氏が居を構えて領主として活動するのは、貞長・貞次の時期ではないだろうか。その後の領主については、ほとんどが外へ出て有力大名に仕え、戦国期の一時期に徳山谷に居を構えたかもしれないが、この地で、広く活動することはなかったと考えられる。

貞次は、1476（文明8）年4月に没し、貞輔が跡を継ぐ。貞輔は、朝倉氏に仕え、一生を一乗谷で過ごす。『系図』には、「朝倉氏に属して功あり、弓馬の達人、歌人」であったという。その他の記録は少ないが、美濃の守護家の内紛が起きた時、援軍として美濃に向かい、土岐政房の守護代・斉藤氏について戦ったという。

貞輔は、1521（大永1）年10月に没し、貞隆が跡を継ぐ。貞隆は、土岐氏に属し斎藤新四郎利長により、深坂地頭を与えられる。深坂の地は、大野郡揖斐荘深坂保で、現在の揖斐郡谷汲村深坂にあたる。この地は、もともと深坂氏（揖斐氏の系統）の所領で、1472（文明4）年の『足利義政袖判御教書』には、土岐深坂松寿丸の所領として「揖斐荘深坂保地頭職」とある。1520年になり、斎藤氏により徳山貞隆が深坂地頭を与えられたことが事実とすると、幕府と地方勢力との力関係が以前とは変化してきていることがわかる。また、この頃美濃と越前の交通は、揖斐川沿いに遡って徳山谷を経由していくのが普通であったが、貞隆は、土岐氏の内紛の時、美濃と越前の連絡にあたって功があったと考えられる。

貞隆は、1557（弘治3）年5月に没する。記録では定かでないが、弟の貞孝が一時跡を継ぎ、その



第3図　徳山城跡概要図（坂東肇作図、中井均氏原図を参照）（S＝1／3,000）

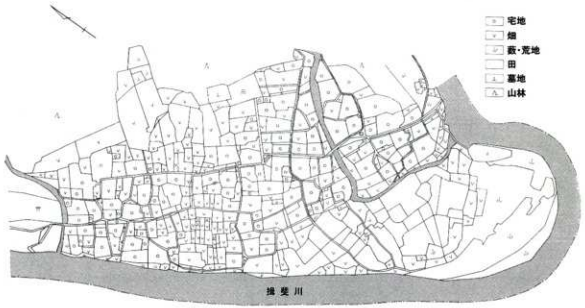
徳山城跡について

Aは、一番高い部分にあり、南北、東西ともに約10mある。破線より西部において、やや低い部分がある。東側のアの堀切は深さ約2～3mである。

Bは、南北7m東西6mで、イから約3mの高さがあり、切岸は明確である。イは堀切の跡と考えられるが、やや低い程度で不明確である。

C1とC2は、巾約11m、長さ25mである。C1とC2の間には低い段差が認められ、石碑の北には石組みらしきものがある。また、C1中央部にも南北4mにわたって石列らしきものがみられる。ただ、これらはわずかに地表に表れたものによる判断なので、岩盤の表出した部分である可能性もある。C2への登り口には、通路の両横に径1m程度の角礫がみられた。また、ウの部分はやや低く、南側には竪掘り状のものがみられるが、これは崩落の跡だと考えられる。南斜面は、現在も崩落しやすくなっている。C2とDの間は約5～6mの高さで、急峻な切岸である。

Dには、しろびや（城平）杉と呼ばれる大きな杉がある。登り口付近には、川原石を敷き詰めたような箇所もあるが、近現代のものである可能性がある。Eの付近はややなだらかな部分があるが、削平された形跡は、明確にはみられない。



第4図　本郷地区の地籍図（S＝1／4,000）

後、則秀が継いだものと思われる。この貞孝は、増徳寺由緒書に開基と書かれている人物で、徳山谷に居住していた可能性が高い。当時、世の中は戦国時代へはいっていくが、徳山谷は美濃と越前の狭間にあって、交通面だけでなく、軍事面でも非常に重要な地になっていた。例えば、

1570（元亀元）年、朝倉義景が徳山谷を通り、赤坂・垂井付近へ兵を進める。

1572（元亀3）年、坂内村の広瀬城が稲葉一鉄に攻められ、6月13日に落城。

1575（天正3）年、西光寺六世正悟は、織田信長と木芽当峠で戦って破れ、徳山村の江口太良左衛門方へ逃れる。

など、徳山谷そのものが戦火にまみれている。この貞孝から則秀に至る時期に徳山城は築城されたのではないだろうか。実際、徳山城は曲輪の削平や切岸が明確で、一部には石積みらしきものもうかがえる（第3図）。今回の発掘調査では、16C頃の建物跡は確認されなかったものの、この頃の遺物は多く出土しており、活動の痕跡は明らかである。ただ、貞孝の後に領主になる徳山則秀は、佐久間盛政が娘婿である関係から柴田勝家に仕えた人物である。彼は、賤ヶ岳の戦いで敗れて一度没落するが、前田利家や徳川家康にうまく仕え、江戸時代をむかえた。その後、徳山の地とは関係なく外部で活躍することになるが、例え徳山城や居館が造られたとしても、徳山の地でどれほど活動したかは定かではない。

中世の本郷地区を俯瞰すると、14C初頭に白山神社と増徳寺が造営される。その頃の領主・貞信の館がここにあったかどうかは定かではない。むしろ14C後半～15Cにかけて、貞長・貞次の時代に館が建てられたと考えられ、それが当遺跡A地区のSB1、SB2に比定されそうである。また一段低い所にあるSB3、SB4は、被官の屋敷跡の可能性がある。増徳寺は天台宗系の寺院であったが、やがて曹洞宗へと変化していく。16C中頃になり徳山谷は戦火にまみえるようになるが、その頃に徳山城が築かれたのではないだろうか。

3．近世の徳山

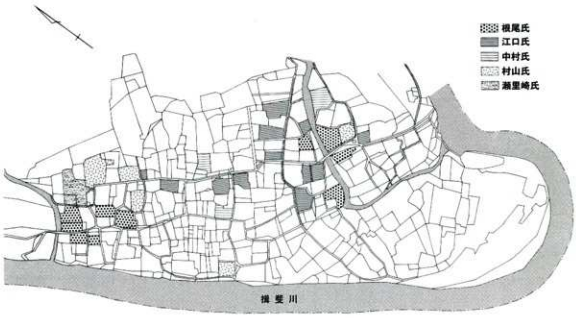
（1）近世の徳山氏

徳山則秀は、徳川家康に仕え、5000石を与えられた。その後、検地や分地などにより、幕末に至っては、本家領2740石、分家領500石となった。領地は、出身地の徳山村と各務郡の2箇所に分かれていたが、各務郡の方が石高が大きかったため、各務郡西市場村に更木陣屋を置いた。そして、今までの徳山氏の居館のあった所には、代官陣屋が置かれることになった。このため、江戸時代においての徳山村は、表向きは代官が支配することになるが、村政の実質的なところは本郷地区の庄屋があたることになった。

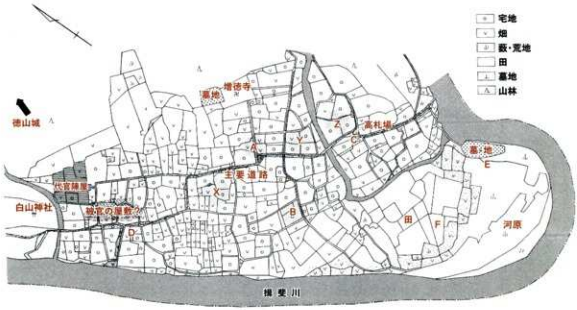
今回の発掘調査では、近世の陣屋跡は明らかにできなかったが（*5）、SB1、SB2の北部の一番高い箇所に削平されたと考えられる部分があり、近世の遺構・遺物が多いことなどから、この付近に近世の建物跡があったと考えられなくはない。実際に「代官屋敷は本郷の一番高い所にある」とか「裏道を抜けて白山神社へ行った」という伝説も残る。

（2）字絵図より近世以前の徳山をみる

本郷地区の地籍図（第4図）を見ると、陣屋跡と考えられるA地区には、凸字状に南部に張り出した箇所があり、屋敷への入り口とも考えられる。地元の人の話によると、昔はこの付近に石段があっ



第5図　本郷地区の姓氏の分布図（S＝1／4,000）



本郷の集落3区画

X 北出（キタデ）	上区画	A	大門（正面参道、石積みのかなり広い参道）
Y 中溝（ナカミジョ）	中区画	B	土居屋このあたりか？（平屋があり、処刑場でもあった。領主徳山氏の館があったという。）「徳山の地名」より
Z 下り（クダリ）	下区画		

第6図　想定できる近世の本郷集落（S＝1／4,000）

たというが、今回の調査では、確認できなかった。

また、南西部に堀を思わせる水路がみられるが、ここは、昭和29年の大火による区画整理を行うまでは、実際に水路があったそうである。また、水路の南西部の一段低い地区は、地元では昔から「土屋敷」と呼ばれているそうで、中世以降に被官の屋敷が建てられた地域の可能性がある。

地割りをみると、旧道に沿って細長い地割りがあるが、これは、かつての幅の広い道の名残りであると考えられる。この細長い地割りを追うと、昔の道は、南部から見ると、Cには高札（*6）があり、増徳寺の前を通り陣屋の正面を西へ折れ、現在の本道へ出る。また、D地点付近から川へ向かって細長い地割りがあり、その突き当たり付近の藪が切れる。これは、推測にすぎないが当時、伐りだした段木を筏や舟で川下げする場合、この付近より出していたとは考えられないだろうか。墓地は、中世の徳山氏の墓は増徳寺にあるが、その他の人々はEの地点であったと考えられる。ここは、三昧（さんま）とか、三昧河原（さんまかいら）という地名が残っているように、中近世においては河原であり、そこが墓地に使われたものと考えられる。

土地利用をみると、Fのトーン部分は、畑地で、その囲まれた区域は田となっている。これはFの部分は川の作用でできた微高地で、その内部の低地は田に利用したものと考えられる。はるか昔には、河原と田の部分を合わせた区域が、川の流路あるいは河原だったのかもしれない。また本郷地区は近世において、集落を3つに区画していた。上区画のXが北出（きたで）、中区画のYが中溝（なかみじょ）、下区画のZが下り（くだり）という。その他、地名でみると、A付近は大門（だいもん）と呼ばれ、増徳寺の正面参道であった。昔は、石積みのかなり広い参道であったというが、現在その面影は残っていない。Bの付近は土居原（どいのはら）と呼ばれ、かつて牢屋や処刑場があり、徳山氏の館もあったと伝えられているが、その形跡は残っていない。

現在のわかる限りの範囲で、姓氏により本郷地区を見てみると、調査区付近は、すべてが瀬里崎氏である。この瀬里崎氏は、古くからの家柄ではなく、明治以降に徳山へ越してきた家という。徳山氏は、最後まで幕府方についており、その関連で考えられるかもしれない。地元の人に聞いてみると、本郷地区で古くからの家は、根尾氏（*7）、江口氏（*8）、中村氏、村山氏であるという。根尾氏は、南北朝以後、徳山氏とともに、この付近で勢力があった根尾氏の一族である。江口氏は、代々白山神社の祢宜を勤める家柄である。中村氏は、代々増徳寺の檀家総代を勤めたという。村山氏は、江戸時代頃からの名家といわれているから、近世において徳山氏に繋がる重要な家だったのかもしれない。これらの家の配置をみると、村山氏は、Aの正面と考えられる地区に集中している。根尾氏は、Aの西部の道路沿いに多い。江口氏は、増徳寺の周辺部に広がっている。中村氏も江口氏と同様の地域に広がっている。Aの陣屋推定地を中心として、村山氏、根尾氏、江口氏、中村氏が居住地を構えているといえなくはない。

ここで近世の本郷地区を俯瞰すると、一番高い箇所に代官陣屋があり、その敷地の北側には14Cに創建された白山神社がある。代官陣屋の正面から南へは主要道路が伸び、左手の山裾には徳山氏の菩提寺である増徳寺（*9）がある。道路の南端にあたるC地点には高札があり、その南の河原には墓地があるというように集落は展開していたと考えられる。

＊1 徳山氏の出自は、白山の修験者集団の首領であるという説がある。それにより、白山権現の神域である能郷村は、根尾氏領に近いにもかかわらず、徳山氏の領地になっているという。

＊2『徳山村史』に記載された「徳山家伝系図」によると、貞信は「徳山城主」とある。

なお、新田義貞が敗れて北陸へ逃げ、藤島で戦死したと一般には言われているが、徳山の櫨原地区には新田義貞（実際には仁田四郎由定と書かれている）の墓と伝えられるものがある。また、新田義貞の弟・脇屋義助は根尾に逃れ根尾城を築城して立てこもったという史実がある。当時、宮方につく者として、徳山、根尾、饗庭氏があったと『揖斐郡志』にみえることから、徳山城も同時期に築城されたと考えられたものであろう。

＊3『美濃明細記』の徳山系図によれば、五代守護の土岐（池田）頼世（頼忠）の末子・頼長（のちに貞長）を始祖としている。ただ、『尊卑分脈』の清和源氏頼光流系図、『美濃明細記』の土岐系図、『続群書類従』巻128の土岐系図には、頼世の子に頼長の名はみられない。頼長という名は、頼遠の子と月海光忠の子にみられるのみである。本稿では、『徳山村史』が引用している『寛政重修諸家譜』巻308の徳山系図にある通り、土岐（池田）頼世の末男・頼長が坂上貞守の後裔と称する徳山貞信の婿養子となったという説をとる。

＊4 出典は以下のように略した。「徳山家伝系図」→（系図）、「寛政重修諸家譜」→（家譜）、『岐阜県史』→（県史）、『揖斐郡志』→（郡志）、『徳山村史』→（村史）

＊5「徳山陣屋」という呼び名は、慶応4（1868？）年の年号の入った村鑑（徳山村、漆原村、池田村、戸入村、塚村）に「徳山御陣屋」「徳山村御陣屋」などとしてみられる。ただ、現在古老に聞くところによると、村では通常「代官屋敷」と呼んだらしい。『郡志』(1924刊）によると、「陣屋」の呼び名はなく「徳山氏屋敷　徳山村徳山字村平増徳寺門前にあり」と書かれている。『村史』(1973刊）によると、「徳山陣屋跡」「更木陣屋跡」として、それぞれ現在の写真がのせられている。『美濃徳山の地名』(1997刊）によると「陣屋」という地名をあげ、「領主徳山五兵衛の代官陣屋の在ったところ。陣屋は本郷集落の一番奥まった小高い所に位置する。屋敷の入口辺りは両側に高い石積みが残っている」と記載されている。

＊6 地籍図に関連する文書（藤橋村教育委員会所蔵）には、この地番に高札とある。

＊7 貞輔の母（貞次の妻）は「根尾右京亮の女」であると系図にあるが、この根尾右京亮の二男の林出羽の子孫が徳山へ行ったということが『根尾根元記』に記載されている。徳山の根尾氏の出自は、このあたりに求められそうである。また江戸時代に徳山の根尾氏は、この地で犬庄屋を勤めている。

＊8 江口家に伝わる話によると、徳山氏の妾妻は代々江口家から出すことになっていたという。また、江口家の出自は根尾村水鳥にある寺院で、その寺の住職が亡くなると、その位牌は江口家が持ったという。

＊9 増徳寺は、もともと二代貞長の時代に菩提寺として確立したと考えられる。ただ増徳寺の由緒書には「元和年中(1615～1623)旧領主徳山兵庫助貞孝」の開基であると書かれていることなどから、貞孝は中興の祖であると考えられそうである。また則秀も縁が深かったらしく、この寺に埋葬された。その後、元禄二年(1689)重政の時、江戸深川の長慶寺にかえたことにより、徳山氏と増徳寺の関係は希薄になった。

参考文献

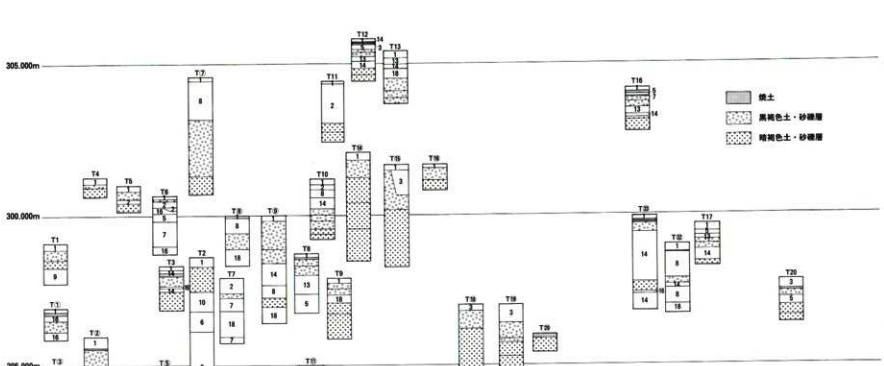
『徳山村史』　徳山村史編集委員会　1973
『揖斐郡志』　揖斐郡教育会　1924
『美濃明細記』伊藤實臣　1932
『岐阜県史』　史料編（古代・中世）
江口義春　『徳山村の伝説』　1990
谷口研語　『美濃・土岐一族』　新人物往来社　1997
根尾　満　「美濃国豪族根尾氏とその子孫について」
（『徳山村－その自然と文化（2）』ブックショップ「マイタウン」1985）
『美濃徳山の地名』　水資源開発公団徳山ダム建設所　1997

第３節　遺跡周辺の様子（本郷地区の試掘調査より）

本郷地区においては、1992年には37箇所293㎡、1999年には20箇所80㎡の試掘確認調査を行った。その結果、昭和29年の大火やその後の区画整理によって多くの部分が破壊されていて遺構の残りはよくなかった。しかし、遺物の分布状況や土の堆積状況について(次頁)は、わずかながら明らかになったのでここで報告することにしたい。

遺物については、徳山陣屋跡付近の１～６で中世～近世の遺物が多く出土した。その他の区域をみると、数点出土しているのが1992年実施の⑫⑱21の３箇所である。⑱より中世のものと考えられる土師器皿の小片が出ている他は、ほとんどが近世～近代にかけての小片であった。１～２点出土しているのは、1992年の⑦⑪⑯⑲、1999年の８，９，10，12，13，16，17，18である。⑦で出土した中世のものと考えられる２点（同一個体）の他は、近世～近代あるいは時期不明の小片であった。

第７図　試掘位置図　●1992年実施▲1999年実施



1　暗褐色土　表土
2　褐色土　盛土
3　攪乱土
4　10YR(5/3)にぶい黄褐色土　粘質土
5　10YR(2/3)黒褐色土　礫層　炭化物を含む
6　10YR(5/1)褐灰色土　粘質土
7　10YR(3/2)黒褐色土　粘質土　炭化物を含む
8　7.5YR(2/3)極暗褐色土　砂層
9　7.5YR(4/4)褐色土　砂層
10　10YR(5/2)灰黄褐色土　砂層
11　5YR(3/4)赤褐色土　砂層　鉄分を含む
12　10YR(6/6)明黄褐色土　砂層　鉄分を含む
13　10YR(2/2)黒褐色土　砂層　炭化物を含む
14　10YR(3/3)暗褐色土　礫層
15　7.5YR(5/6)明褐色土　礫層
16　7.5YR(4/4)褐色土　礫層
17　10YR(5/6)明黄褐色土　礫層　鉄分を含む
18　10YR(3/4)暗褐色土　粘質土

第8図　試掘結果柱状図

第3章　遺構

第1節　基本層序

基本層序は概ね次の通りである。

Ⅰa層：表土

Ⅰb層：黒褐色土（10YR 2／2）

径1～4㎝の角礫・亜角礫を含む、炭化物・焼土粒を含む、粘性ややあり、しまりなし

Ⅱ層：暗褐色土（10YR 3／3）

径1～4㎝の角礫・亜角礫を多く含む、粘性なし、しまりなし

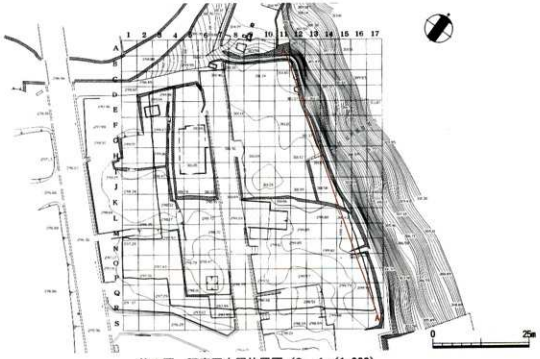
Ⅲ層：黒色粘質土（10YR 2／1）

径1㎝程度の角礫・亜角礫を含む、粘性あり、しまりあり

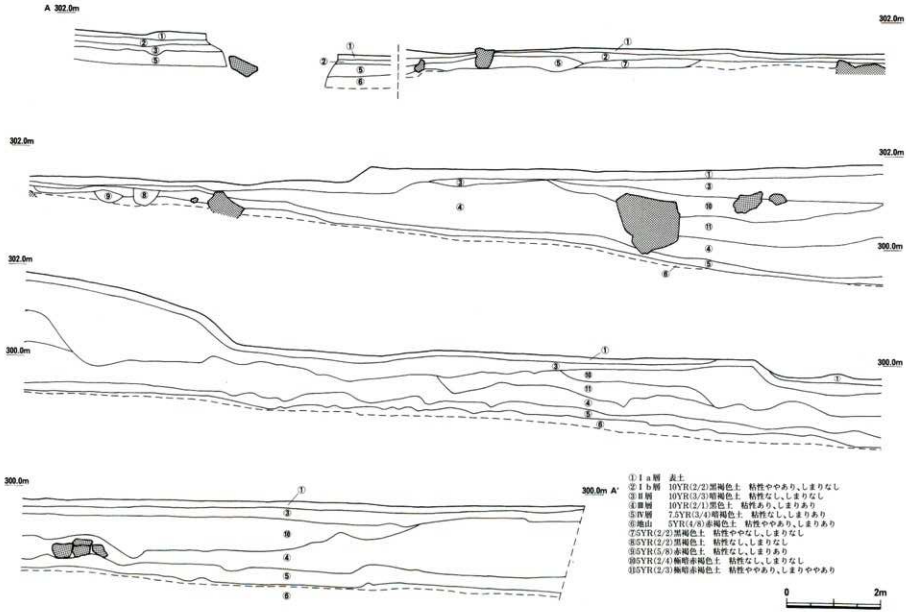
Ⅳ層：暗褐色土（7.5YR 3／4）

径3～5㎝の角礫・亜角礫を含む、粘性なし、しまりあり

土層の広がりについては次の通りである。Ⅰa・Ⅳ層は全域に広がる。Ⅰb層は厚さ0.05～0.15mでC8～10・D8～10・E8～10グリッドの極めて限定された範囲に広がる。Ⅱ層もほぼ全域に広がるが、山裾に近くなるほど厚さが増す。Ⅲ層はG列以南・8列以東に広がり山裾部分が最も厚い。基本層序のうち遺物包含層はⅠ・Ⅱ層で、Ⅲ・Ⅳ層は無遺物層である。Ⅰb層出土遺物の時期幅は瀬戸美濃（大窯）～瀬戸美濃（連房）で、遺物が二次焼成を受けている点や炭化物・焼土粒が確認される点から昭和29年の火災後の整地層の可能性がある。Ⅱ層出土遺物の時期幅は古瀬戸～瀬戸美濃（連房）で、B区山裾ではⅢ層上面に近い地点で出土する傾向がある。明治時代初頭の崩積性堆積物とみられる。Ⅳ層上面の検出状況ではE4－F13グリッドから南東方向に傾斜する旧地形に対し、3箇所に及ぶ平坦地が認められ、人為的な土地改変を如実に示すものである。



第9図　調査区土層位置図（S＝1／1,000）



第10図　調査区土層図（S＝1／80）

第2節　遺構の概要

検出した遺構は中近世・近代を主体とする。遺構の種類の内訳は掘立柱建物跡13棟・土坑139基・溝22条・石垣3箇所・石積1箇所・石列2箇所・柵列2箇所・積石遺構1基・地鎮遺構1基・竈1基・小穴1,891基・杭列2倒木痕11箇所である。（第3表）

このうち掘立柱建物跡は中世後期に属するものが複数棟存在し同一地点での建て替えが認められ、規則的に配置された様子が伺えた。当初近世の陣屋跡に伴うと想定された石垣は近代以前に遡る可能性が少なく、近世の様相は個別遺構の性格を含め不明な点が多い。

なお、遺構の種別は次のとおりの原則を用いる。また掘立柱建物跡・石垣・石列を除き、A区B区の区別は遺構名の前に地区名をつけた。

SA（石垣・石積・石列）……人為的に組まれた石垣あるいは石の列。
SAs（柵列）……ピットあるいは土坑が一列に規則的に並ぶもの。
SB（掘立柱建物跡）……ピットあるいは土坑が対をなして並ぶもの。
SD（溝）……細長い形状を持つもの。
SF（道）……硬化した面が、幅を持ち広がるもの。
SK（土坑）……ピット以外の穴で、径1mをこえる穴。
SQ（地鎮遺構）……不浄を払い、ことしずめのための遺構。
SS（積石遺構）……拳大の礫が人為的に積まれたもの。
SBk（竈）……石などで築かれ、鍋・釜などの煮炊きができるもの。
SP（小穴）……径1m以下で平面はほぼ円か楕円を呈する穴。
SW（杭列）……ピットあるいは土坑が円形に並ぶもの。
SX（風倒木痕）……形態が特殊なもの。

第3表　遺構検出数

種　別	A地区	B地区	合計遺構数
SA	6	0	6
SAs	1	1	2
SB	6	7	13
SD	11	11	22
SF	0	1	1
SK	58	81	139
SQ	1	0	1
SS	1	0	1
SBk	1	0	1
SP	490	1,401	1,891
SW	0	4	4
SX	7	4	11
合　計	582	1,510	2,092

第11図　掘立柱建物跡位置図（S＝1／400）

第12図　石垣・石列・杭列・道路状遺構位置図（S＝１／400）

第13図　溝位置図（S＝1／400）

第14図　土坑・その他の遺構位置図（S＝1／400）

第3節　検出した主要遺構

検出した遺構のうち特に遺跡の性格を端的に示すものを抽出し、以下に種類別に述べる。なお遺構の長・短軸長は検出した掘方の上端値、最大深度は検出面からの計測値である。また遺構に伴って自然礫が多数検出されたが、円磨のクラス分けは記述の都合上大きく二等分（円礫・角礫）した。円礫は掛斐川、角礫（チャートが大半）は遺跡隣接の山裾が供給源と予想される。

1．掘立柱建物跡（SB）

掘立柱建物跡は計13棟検出した。このうちSB1～9は現地で検出し、周辺遺構を含めた平面図とエレベーション図（縮尺1／20）を作成し、SB10～13は整理段階で認定した。まだこの他に柱穴とみられる遺構は多数あるが、建物跡と認定するまでに至っていない。掘立柱建物跡のうちSB1・2とSB3・4については規模や柱配置を同じくして建て替えを行った可能性があるが、柱穴の重複関係で新旧を明らかにすることはできなかった。また全ての掘立柱建物跡の柱穴で、柱痕跡や柱底の施設は検出されなかった。なお各柱穴の配置に規則性のないものは小穴とし、小径で深くオーバーハングするものは植物が腐植した痕跡の可能性もあるが、現地で遺構と植物痕跡の区別はできなかった。

SB1

位置　調査区中央北寄りのF7～F9、G7～G9、H7～H9、I7～I9グリッドに位置する。

形態・方位　桁行6.38～6.54m（2間）、梁行7.5～7.64m（2間）の南北棟の身舎の北・東に庇がつく総柱建物である。桁行方位はN－24.2～25.8°－Wである。

検出状況　建物跡の西半分では削平・攪乱を受けている。各柱穴の平面形態は円形または楕円形であり、その規模は身舎部分で0.46～0.96m、庇部分で0.47～0.93mを測る。柱穴の底面の標高は身舎部分で299.13～299.76m（深さ0.08～0.65m）、庇部分で299.39～300.04m（深さ0.02～0.84m）を測り、身舎と庇の柱穴間で差がない。庇の柱穴間の真々距離はA－B列間で平均2.00m（約6尺6寸）、E－F列間で平均1.51m（約5尺）、身舎隅柱のB－C列間で平均7.67m（約25尺3寸）、D－E列間で平均6.48m（約21尺4寸）を測る。身舎の柱筋の中央の位置が北西方向に偏っており、柱穴間の柱間は2.80～3.98mの幅がある。

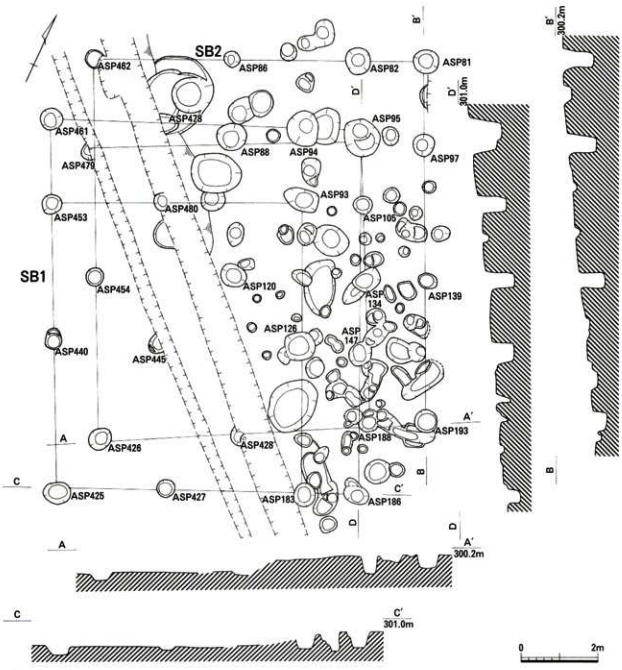
出土遺物　柱穴覆土から古瀬戸平碗や浅碗、青磁鉢（図54－1）などが出土している。このうち古瀬戸浅碗（3）は柱穴ASP105の検出面から約0.2m掘削した時点で柱穴の中央から出土し、古瀬戸平碗（2）は柱穴ASP126の検出面から約0.15m掘削した時点で柱穴の壁際から出土した。

所属時期　柱痕跡が検出されていないことと、古瀬戸浅碗（3）の出土状況から柱は抜き取りの可能性が考えられる。このことから建物の廃絶時期は古瀬戸後Ⅱ期頃とみられる。

SB2

位置　調査区中央北寄りのF7～F11、G7～G9、H7～H9、I7～I9グリッドに位置する。

形態・方位　桁行6.95～7.08m（2間）、梁行7.50～7.74m（2間）の南北棟の身舎の北・東に庇がつく総柱建物である。桁行方位はN－25.5～27.2°－Wである。



第15図　SB1・2実測図（S＝1／100）

検出状況　建物跡の西辺は道路・側溝・埋設管により削平を受けている。各柱穴の平面形態は円形または楕円形であり、その規模は身舎部分で0.47～0.76m、庇部分で0.40～0.71mを測る。柱穴の底面の標高は身舎部分で299.31～300.27m（深さ0.08～0.65m）、庇部分で299.60～300.37m（深さ0.01～0.83m）を測り、身舎と庇の柱穴間で差がない。庇の柱穴間の真々距離はA－B列間で平均2.14m（約7尺1寸）、E－F列間で平均1.58m（約5尺2寸）、身舎隅柱のB－C列間で平均7.88m（約26尺）、D－E列間で平均7.05m（約23尺3寸）を測る。身舎の柱筋中央の位置は、東西辺の間隔が3.49～3.65mとほぼ等間隔であるのに対し南北辺は北に偏る。

出土遺物　柱穴覆土から土師器皿や中世陶器などが出土している。このうち土師器皿（図54－4）は柱穴 ASP139の検出面から約0.2m 掘削した時点で柱穴の中央から出土した。古瀬戸盤類（5）は柱穴 BSP88から出土した。

所属時期　柱痕跡が検出されていないことと、土師器皿（4）の出土状況から柱は抜き取りの可能性が考えられる。このことから建物の廃絶時期は15～16世紀頃とみられる。

SB 3

位置　調査区南西部 N 2 ～N 3 、O 2 ～O 3 、P 2 ～P 3 グリッドの平坦面に位置する。

形態・方位　桁行7.5m（2間）、梁行5.1m（2間）の南北棟の身舎の北に庇がつく建物である。主軸方位は N－32.0～33.0°－W である。

検出状況　建物跡の南部及び中央部の一部で攪乱を受けている。各柱穴の平面形態は円形または楕円形であり、その規模は身舎部分で0.56～0.64m、庇部分で0.52～0.58m を測る。柱穴の検出面からの深さは身舎部分で0.24～0.64m、庇部分で0.32～0.60m を測り、身舎と庇の柱穴間でほとんど差がない。検出面における柱穴間の真々距離は身舎の西辺の BSP1013－BSP1018間で平均3.0m（約10尺）、東辺の BSP206－BSP1022間で平均3.0m（約10尺）で、庇の BSP1020－BSP1013と BSP197－BSP206間は約1.5m とやや狭い。梁行は平均2.5m（約8尺）を測る。

出土遺物　柱穴 BSP217の覆土から青磁鉢（図54－8）が、また、柱穴 BSP1020の覆土からも青磁碗（7）が出土している。柱穴 BSP1013の覆土からは山茶碗鉢（6）が出土している。他の柱穴覆土から灰釉瓶類、土師器皿などが出土している。

所属時期　出土土器の時期は青磁 D－1 頃であり、この建物の所属時期は15世紀頃とみられる。

SB 4

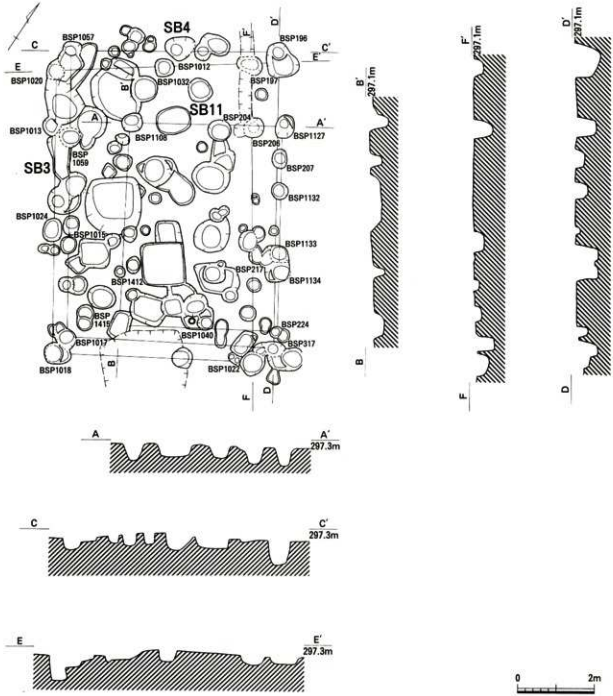
位置　調査区南西部 N 2 ～N 4 、O 2 ～O 4 、P 2 ～P 4 グリッドの平坦面に位置する。

形態・方位　桁行7.5m（3間）、梁行5.3m（2間）の南北棟の側柱建物である。主軸方位は N－30.0～31.0°－W である。

検出状況　各柱穴の平面形態は円形または楕円形であり、隅柱の掘方の規模は0.46～0.54m・底面の標高は296.25～296.85m（深さ0.12～0.62m）、他の柱穴の規模は0.49～0.78m・底面の標高は296.33～296.74m（深さ0.27～0.57m）を測る。柱穴間の真々距離は梁行で2.53～2.76m（平均約8.5尺）、桁行で2.2～2.81m（平均約8尺）を測り、柱間の間隔は一定ではない。

出土遺物　柱穴 BSP1012の覆土からは、多くの中世遺物が出土している。土師器皿（図54－11・12）をはじめ、大窯天目茶碗（14）・有耳甕（15）、銭貨（16）・刀子などが出土している。青磁鉢は（10）は、柱穴 BSP1015の検出面から約0.2m 掘削した時点で柱穴の中央から出土している。同じく古瀬戸瓶子（13）は、柱穴のやや端から出土している。他の柱穴覆土からは、越前壺や古瀬戸盤類、土師器皿などが出土している。

所属時期　出土土器の時期幅は古瀬戸後期Ⅰ～大窯3の頃であり、この建物の所属時期は14～15世紀頃とみられる。



第16図　SB3・4・11実測図（S＝1／100）

SB11

位置　調査区南西部N2～N4、O2～O4、P2～P4グリッドの平坦面に位置する。SB3・4の内部にあたる。

形態・方位　桁行5.3m（3間）、梁行4.0m（2間）の南北棟の側柱建物である。主軸方位はN－29.0～30.0°－Wである。

検出状況　各柱穴の平面形態は円形または楕円形であり、隅柱の掘方の規模は0.34～0.81m・底面の標高は296.43～296.76m（深さ0.06～0.52m）、他の柱穴の規模は0.28～0.58m・底面の標高は296.31～296.70m（深さ0.17～0.61m）を測る。柱穴間の真々距離は梁行で1.41～2.10m（平均約6尺）、桁行で1.68～2.26m（平均約6.5尺）を測り、柱間の間隔は一定ではない。

出土遺物　出土遺物はない。

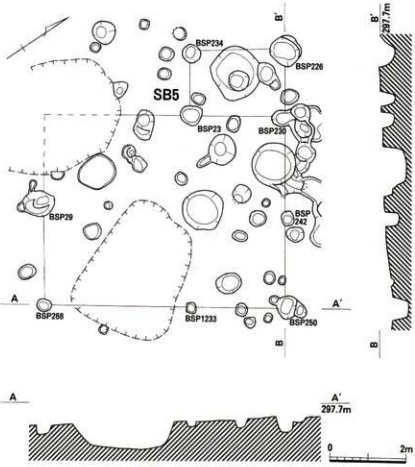
所属時期　出土遺物がなく、建物の所属時期は不明である。

SB5

位置　調査区南部O6～O7、P6～P7、Q6～Q7グリッドの平坦面に位置する。

形態・方位　桁行6.5m（3間）、梁行5.0m（2間）の東西棟の北西に付属施設がつく側柱建物である。主軸方位はN－34.9°－Wである。

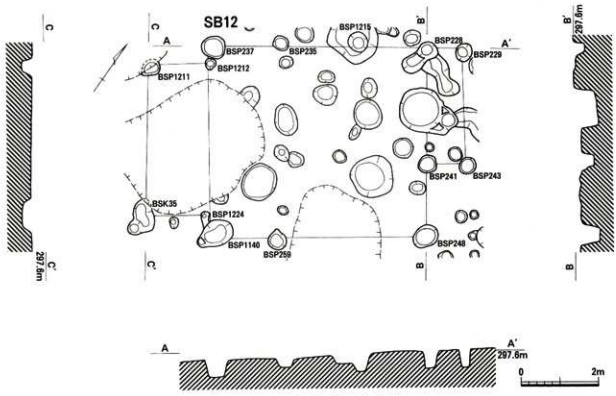
検出状況　建物跡の南部及び北西部で一部攪乱を受けている。各柱穴の平面形態は円形または楕円形であり、隅柱の掘方の規模は0.38～0.60m・底面の標高は296.94～297.36m（深さ0.26～0.46m）、他の柱穴の規模は0.26～0.61m・底面の標高は296.9～297.29m（深さ0.12～0.29m）を測る。付属施設の柱穴の規模は0.49～0.82m・底面の標高は297.38m（深さ0.23～0.33m）を測り側柱の掘方と差が認められない。身舎の柱穴間の真々距離は梁行方向で2.41～3.89m（平均約8.5尺）、桁行で2.31～2.75m（平均約7尺）を測り、付属施設の柱穴は身舎から平均1.73m（約6尺）離れた位置にある。



第17図　SB5実測図（S＝1／100）

出土遺物　出土遺物はない。

所属時期　出土遺物がなく、建物の所属時期は不明である。



第18図　SB12実測図（S＝1／100）

SB12

位置　調査区南西部O5～O7、P5～P7グリッドの平坦面に位置する。軸は違うがSB5に重なる位置である。

形態・方位　桁行5.5m（3間）、梁行4.8m（2間）の東西棟の東西に付属施設をもつ側柱建物である。主軸方位はN－34.0～35.0°－Wである。

検出状況　建物跡の南部及び西部で一部攪乱を受けている。各柱穴の平面形態は円形または楕円形であり、隅柱の掘方の規模は0.46～0.84m・底面の標高は296.95～297.21m（深さ0.15～0.59m）、他の柱穴の規模は0.38～0.54m・底面の標高は297.10～297.26m（深さ0.19～0.45m）を測る。柱穴間の真々距離は梁行で1.57～2.04m（平均約6尺）を測り、柱間の間隔は一定ではない。付属施設の柱穴は、東側施設は身舎から平均0.99m（約3尺）、西側施設は身舎から平均1.55m（約5尺）離れた位置にある。東側施設の柱穴の規模は0.44～0.46m・底面の標高は297.22～297.26m（深さ0.26～0.37m）、西側施設の柱穴の規模は0.23～0.82m・底面の標高は296.90～297.31m（深さ0.07～0.24m）を測り側柱の掘方と差が認められない。

出土遺物　BSP228からは銭貨が出土している。

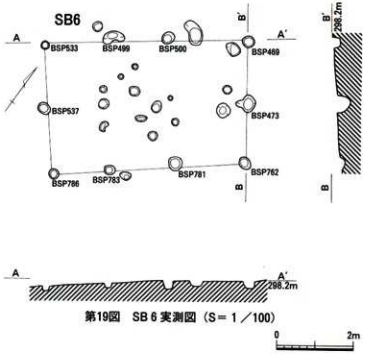
所属時期　建物の所属時期は不明である。

SB6

位置　調査区南部N9～N11、O9～O11グリッドの緩斜面に位置する。

形態・方位　桁行5.0m（3間）、梁行3.4m（2間）の東西棟の側柱建物である。主軸方位はN－35.0～40.0°－Wである。

検出状況　各柱穴の平面形態は円形または楕円形であり、隅柱の掘方の規模は0.19～0.34m・底面の標高は297.85～298.02m（深さ0.09～0.17m）、他の柱穴の規模は0.28～0.44m・底面の標高は297.79～297.98m（深さ0.12～0.24m）を測る。柱穴間の真々距離は梁行で1.42～2.09m（平均約6尺）、桁行で1.55～1.73m（平均約5尺）を測り、柱間の間隔は一定ではない。



第19図　SB6実測図（S＝1／100）

出土遺物　出土遺物はない。

所属時期　出土遺物がなく、建物の所属時期は不明である

SB7

位置　調査区中央西寄りのJ6・7、K6・7、L6・7グリッドに位置する。

形態・方位　桁行4.77～5.11m（4間）、梁行7.48～7.89m（2間）の南北棟の側柱建物である。桁行方位はN－23.0～25.4°－Wである。

検出状況　各柱穴の平面形態は円形または楕円形であり、隅柱の掘方の規模は0.36～0.42m・底面の標高は298.06～298.91m（深さ0.19～0.34m）、他の柱穴の規模は0.31～0.55m・底面の標高は298.27～298.82m（深さ0.13～0.47m）を測る。柱穴間の真々距離は梁行で1.66～2.37m（平均約6尺7寸）、桁行で2.31～2.72m（平均約8尺3寸）を測り、柱間の間隔は一定ではない。

出土遺物　柱穴ASP381の覆土から古瀬戸平碗（図54－17）が、また、柱穴BSP139の覆土からも古瀬戸平碗が出土している。BSP862の覆土からは、大窯稜皿（18）が出土している。

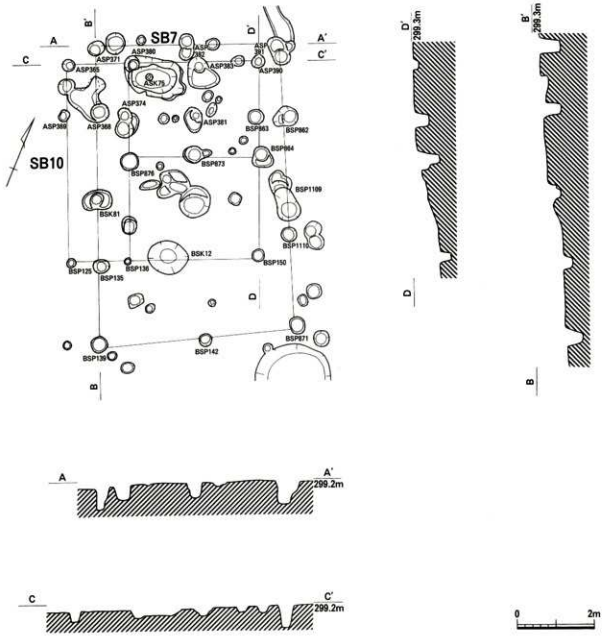
所属時期　出土土器の時期幅は古瀬戸後期Ⅱ～大窯3であり、この前後が想定される。

SB10

位置　調査区中央のJ7～9、K7～9グリッドに位置する。

形態・方位　桁行3.29～3.37m（3間）、梁行5.05～5.11m（2間）の南北棟の身舎の西に縁がつく建物とみられる。桁行方位はN－21.5～22.5°－Wである。

検出状況　整理段階で検出しており現地での確認はしていない。ASP381は当初SB7に帰属していたが本建物の柱筋に一致する。各柱穴の平面形態は円形または楕円形であり、身舎の隅柱の掘方規模は0.17～0.35m・底面の標高は298.28～299.12m（深さ0.07～0.89m）、他の柱穴の規模は0.28～0.49



第20図　SB7・10実測図（S＝1／100）

m・底面の標高は298.33～298.82m（深さ0.18～0.49m）を測り、縁の柱穴の規模は0.23～0.32m・底面の標高は298.33～298.96m（深さ0.04～0.15m）を測る。すなわち身舎・縁の柱穴間で差がない。柱穴間の真々距離は桁行方向では1.55～1.84m（平均約5尺4寸）とその倍3.41m、梁行方向では1.00～1.45m（平均約4尺1寸）とその倍の2.61mの各2種類がある。身舎の内部には中央に間仕切りとみられる柱穴が存在する。遺構の重複関係ではASP380がASK75を切っている。

出土遺物　柱穴BSP876覆土から越前系の壺（図54－21）が出土している。

所属時期　出土土器はわずかであるが、ASK75から出土した古瀬戸卸皿（図58－107）の時期を上限とする。よって15～16世紀が想定される。

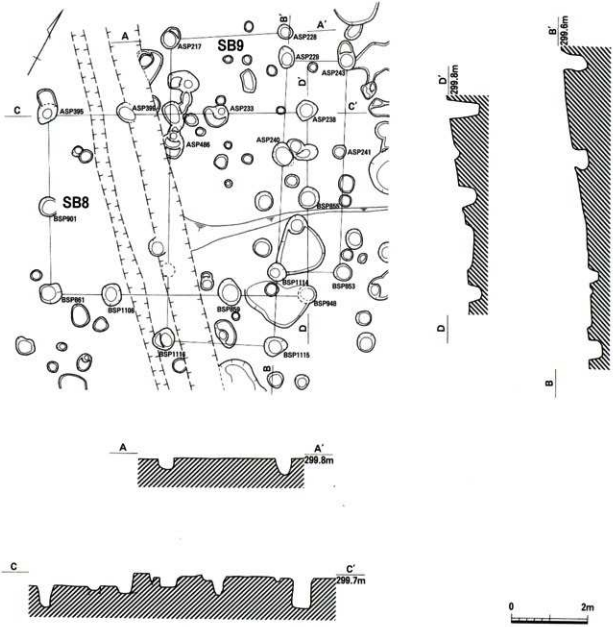
SB8

位置　調査区中央のJ7～9、K7～9グリッドに位置する。

形態・方位　桁行4.65～4.80m（3間）、梁行6.73～6.78m（2間）の東西棟の側柱建物である。梁行方位はN－30.8～31.5°－Wである。

検出状況　各柱穴の平面形態は円形または楕円形であり、隅柱の掘方の規模は1.20～1.50m・底面の標高は298.52～298.69m（深さ0.18～0.71m）、他の柱穴の規模は1.20～1.81m・底面の標高は298.62～299.02m（深さ0.13～0.38m）を測る。柱穴間の真々距離は梁行で1.59～3.07m（平均約7尺4寸）、桁行で2.29～2.45m（平均約7尺8寸）を測り、1間が約7尺5寸で構成されている。出土遺物　柱穴BSP901覆土から古瀬戸緑釉小皿（図54－19）が出土している。

所属時期　出土土器の時期幅は15c～16cであり、この前後が想定される。



第21図　SB8・9実測図（S＝1／100）

SB9

位置　調査区中央のJ8～10、K8・9、L8・9グリッドに位置する。

形態・方位　桁行2.02～2.85m（2間）、梁行5.64m（1間）の南北棟の身舎の南・東に付属施設（庇または下屋）がつく側柱建物である。桁行方位はN－27.4～29.0°－Wである。

検出状況　調査当初はBSP1117を帰属させASP229を隅柱とみたため北辺と西辺の柱筋が不規則な建物を想定したが、整理段階でASP228が柱筋に合い隅柱であることが判明した結果、比較的規則的な柱配置を成す可能性が高まり、結果的にBSP1117は帰属しないと判断した。各柱穴の平面形態は円形または楕円形であり、隅柱の掘方の規模は0.36～0.61m・底面の標高は298.51～299.51m（深さ0.09～0.39m）、他の柱穴の規模は0.45～0.61m・底面の標高は298.71～299.23m（深さ0.17～0.46m）を測る。付属施設の柱穴の規模は0.33～0.49m・底面の標高は298.72～299.14m（深さ0.22～0.46m）を測り側柱の掘方と差が認められない。身舎の柱穴間の真々距離は梁行方向で平均2.43m（約8尺）、桁行で平均9.11m（約30尺1寸）を測り、付属施設の柱穴は身舎から1.67m（約5尺5寸）離れた位置にある。

出土遺物　ASP228柱穴覆土から古瀬戸花瓶（図54－20）が、出土している。

所属時期　出土土器の時期幅は古瀬戸後Ⅰ～Ⅱ期であり、この前後が想定される。

SB13

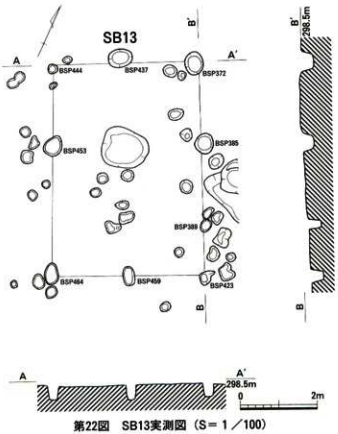
位置　調査区南東部L11～L12、M11～M12、N11～N12グリッドの緩斜面に位置する。

形態・方位　桁行5.5m（3間）、梁行3.8m（2間）の側柱建物である。主軸方位はN－25.0～26.0°－Wである。

検出状況　各柱穴の平面形態は円形または楕円形であり、隅柱の掘方の規模は0.24～0.62m・底面の標高は298.07～298.59m（深さ0.17～0.24m）、他の柱穴の規模は0.34～0.62m・底面の標高は298.08～298.59m（深さ0.18～0.32m）を測る。柱穴間の真々距離は梁行で1.38～2.15m（平均約6尺）、桁行で1.74～2.00m（平均約6尺）を測り、柱間の間隔は一定ではない。

出土遺物　出土遺物はない。

所属時期　出土遺物がなく、建物の所属時期は不明である



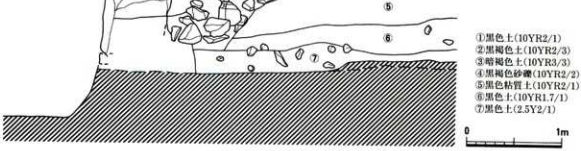
第22図　SB13実測図（S＝1／100）

2．石垣・石列（SA）・杭列（SW）・道路状遺構（SF）

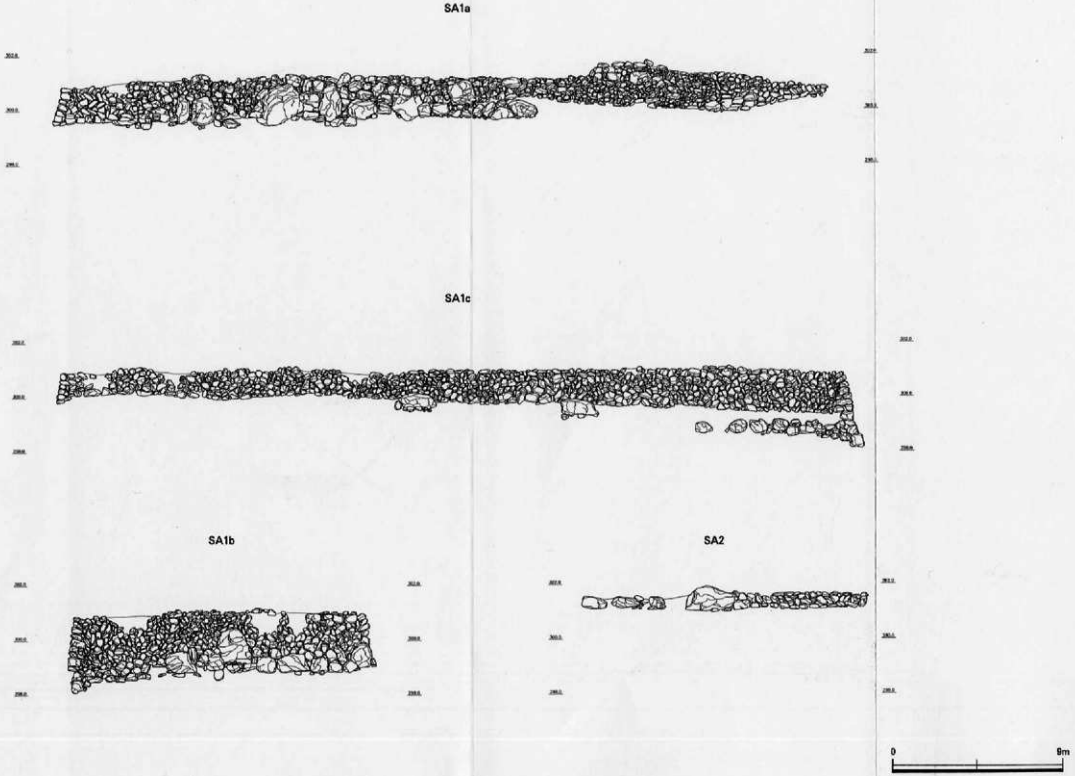
SA 1

調査区中央のD 4～J 4、K 4～15、L15グリッドに位置する石垣である。昭和30年頃に敷設された村道により一部破壊を受けているが、これを含めると東西辺で約46m、南北辺で約28mを測りL字形に区画する。高さは1.1～3.2mを測る。便宜上村道以東を「SA 1 a」、村道以西のうち東西辺を「SA 1 b」、同じく南北辺を「SA 1 c」と呼称した。SA 1 aでは長さ約1mの角礫を境にしてクランク状に平面的な食い違いをみせるので、この大型礫以東を東半、以西を西半とする。礫の積み方をみると、SA 1 aの東半では拳大の円礫が角礫と共に用いられ、東端では乱雑な落とし積みと背後の土圧により崩落寸前の状況である。西半の中央部では角を加工した人頭大の角礫を乱層積みとし、西端では円礫を多用した落とし積みである。SA 1 bでは中央部と基底部分に比較的大きな角礫があり他は拳大の円礫を多用した落とし積みである。SA 1 cでは大半が円礫で落とし積みであり、南隅に近い半数程度の礫に被熱の痕跡が認められた。調査はまず以上の現状を立面写真測量により記録し（調査第1段階）、落とし積みによる積み直し部分とその裏込め土をバックホウで除去（調査第2段階）した。結果大型の角礫を主体とする部分が残り、再び立面写真測量により記録した（調査第3段階）。この大型礫は正面のみ平滑に加工しているように見受けられ、構築当初のものと予想された。礫の積み方をみると、乱積みであり中には小型の円礫の上に大型礫を配置する箇所があった。調査は最後に遺存が良好なSA 1 a西半の裏込め土を一部人力で掘削し、構築当初の裏込め土混入遺物の回収を試みた（調査第4段階）。なお裏込め土の外側（Ⅲ層中）には3m近くの巨大な礫が見受けられることから、そうした崩積性堆積物を利用してSA 1は構築されたと容易に予想される。裏込め土混入遺物の内訳は連房擂鉢（図55－30）・菊皿（28）、古瀬戸平碗（24）、中国磁器青磁碗（22）等である。このうち調査第2段階で出土した遺物（28・30）の所属時期は近世半ばから後半であり、SA 1の積み直しの下限は江戸時代後半とみられる。一方調査第4段階で出土した遺物の所属時期は、染付小碗（34）から構築時期が近代を遡らないことがわかる。

SA 1 aからは他に青磁鉢（23）、連房染付丸碗（25）・端反碗（26）・染付皿（27）・擂鉢（29）・片口鉢（31）、肥前小碗（32）、唐津丸碗（33）が、SA 1 bからは連房染付丸碗（37）が出土している。



第23図　SA 1 a 断面図（S＝1／40）



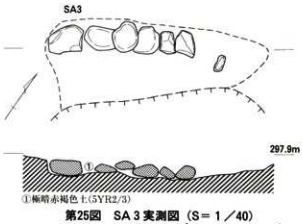
第24図　SA１a・SA１b・SA１c・SA２実測図（S＝１／200）

SA 2

調査区東端に近いH13～K13グリッドに位置する。南端がSA 1 に接し全長10.5m を測る。裏込めのない石積遺構である。調査当初、建物跡の基壇を構成する遺構を想定した。しかし調査が進むと、SA 2 で区画された段上の内部は表土と黒色砂礫（崩積性堆積物）で礎石や遺構は検出されず、表土から幕末以降の遺物が少量出土した。このことからSA 1 構築以降に 2 m を越える巨礫を伴う崩積性堆積物を利用して段上で畑地が営まれたとみられる。

SA 3

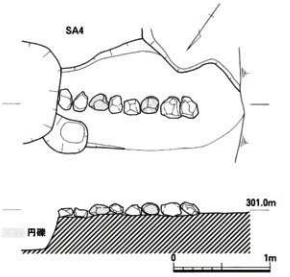
調査区南東部O 1 ～O 2 グリッドに位置する 6 個の石からなる石列である。これら 6 個は、いずれも平たい川原石である。石の設置時のものと思われるが、Ⅳ層へのわずかな掘り込みが認められた。この石列の下部からピット（BSP1095）が検出されたが、石列とは関係がないものと思われる。出土遺物はなく、所属時期は不明である。



第25図　SA 3 実測図（S＝1／40）

SA 4

調査区北端に近いD 8 グリッドに位置する。自然礫 8 個（円礫 2 ・角礫 6 ）が北に面を揃える形で列状に並ぶ。検出当初石列の北側0.35m、南側0.6m の範囲に黒褐色土が並行して検出されたため土坑状を呈していたが、立ち上がりが不明瞭であり最終的にⅠb層の掘り残しと判断し、石列とした。出土遺物はなく、所属時期は不明である。



第26図　SA 4 実測図（S＝1／40）

SAs 1

調査区北西部D 4 ～E 4 グリッドに位置する 7 基の柱穴列である。この付近は、当初二段階に石垣が積まれていたが、その上石垣と下石垣との中位にある幅約0.7～1 m の平坦面に位置する。柱穴の間隔は約0.8～1.2m で、SP1161は、長径約20cm であるが、それ以外の 6 基は、長径約30cm 前後である。深さは、いずれも10cm 前後である。遺物等は、いずれの柱穴からも出土しておらず、時期は不明である。また、この柱穴列の延長される箇所は削平されているため、これがどこまでつづいていたのかも不明である。ただ、柱穴列の軸は、SB 1 とSB 2 の軸にほぼ近いものがある。

SAs 2

調査区西部G4グリッドに位置する5基の柱穴列である。石垣下の削平されたと思われる箇所である。柱穴の間隔は約0.5mで、それぞれの長径は約10cm～15cmの小さい柱穴である。深さはいずれも10cm前後である。遺物等は、いずれの柱穴からも出土しておらず、時期は不明である。

円形杭列

調査区全体からみると、中心的な建物跡は北東部から南西部にかけてみられ、ピット等も径20～50cmで深さが30～50cm前後というように明確にわかるものが多い。しかし、南東部山際にかけての部分は、ピットは数多くあるがいずれも径は10～20cm程度で小さく、深さも15～30cm程度であった。建物は2棟検出されたが、いずれも規模の小さなものであった。このK～R、9～15グリッドの区域に、4つの円形柱穴列がみられた。竪穴住居の側柱列にも似ているが、竪穴や内部における焼土等は検出されず、住居にともなうものかどうかは明確にできなかった。

SW 1

調査区南東部のN～O、13～14に位置する。BSP408—404—354—654—593—614の6基の柱穴からなる。柱穴の間隔は、平均約1.4mで、深さは15～30cmである。径は、約2.8mで正六角形に並ぶ。出土遺物はない。

SW 2

調査区南東部のN～O、11～13に位置する。BSP391—399—413—649—1379—697—705—462—460—420の10基の柱穴からなる。柱穴の間隔は平均約1.5mで、深さは10～25cmである。径は、約5mの円形を呈している。主軸を想定するとするなら、BSP399とBSP705を結ぶ線である。出土遺物はない。

SW 3

調査区南東部のP～Q、12～13に位置する。BSP666—671—675—1382—1383—682—752—747—729—722—715—717の12基の柱穴からなる。柱穴の間隔は平均約1.5mで、深さは10～25cmである。長径5.6m、短径4.8mの楕円形を呈している。主軸を想定するとするなら、BSP675とBSP729を結ぶ線である。出土遺物はない。

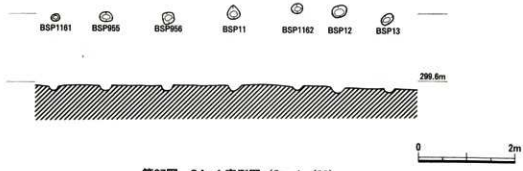
SW 4

調査区南東部のN～P、10～11に位置する。BSP475—1371—766—1376—792—791—789—784—780—1298の10基の柱穴からなる。柱穴の間隔は、平均約1.6mで、深さは15～25cmである。径は、約5mの円形を呈している。主軸を想定するとするなら、BSP475とBSP791を結ぶ線である。出土遺物はない。

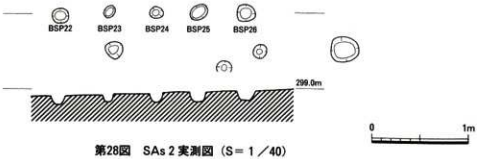
SF 1

現代の道路の下の部分で、全面が硬化していた。この部分は地籍図においても道路であり中・近世

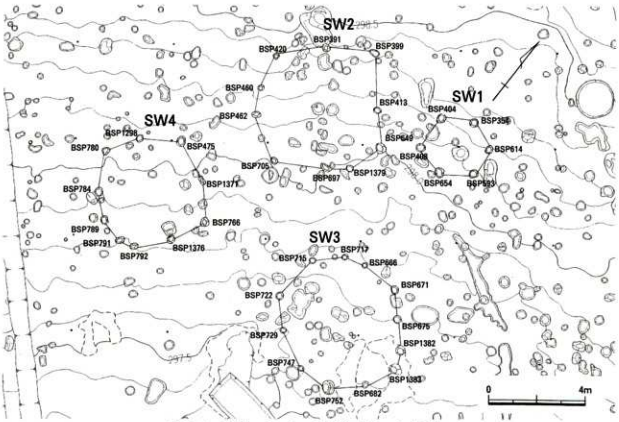
においても道路であった可能性は高いが、出土遺物の多くは近現代のものであった。現代の道路がつくられた時に、そのほとんどが削平されたものと思われ、近世以前の遺構は検出されなかった。出土遺物は備前鉢（図55－39）と古銭（40～43）が出土している。



第27図　SAs 1 実測図（S＝1／80）



第28図　SAs 2 実測図（S＝1／40）



第29図　SW 1・2・3・4 実測図（S＝1／160）

3．溝（SD）

溝は22条検出した。これらの大半は検出した溝の長さが短く、削平のためか複数の遺構が重複した可能性も考えられ、性格が不明である。ここではASD 8・BSD 2・BSD 7について述べ、その他は溝の属性を一覧表にしてまとめた。

ASD 8

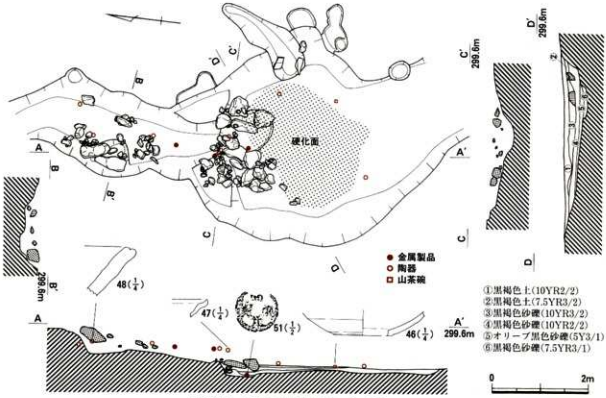
調査区中央西寄りG 6～M 5グリッドに位置する。全長22.0mを測る。溝は長軸方向と平面形態の相違から次の3箇所に区分できる。G 6グリッドからI 6グリッドにかけて南東方向に一旦流下した後、逆「く」の字形に方向を西に変える部分（以降「北部」）。不整楕円形の窪地部分（以降「中央部」）。再びM 5グリッドにかけて南東方向に流下する部分（以降「南部」）。断面の形状は北部・南部共に立ち上がりは緩やかで底面はU字状に窪む。中央部は東壁が比較的急であるが西壁は極めて緩やかな立ち上がりであり、底面は東に傾斜するもののほぼ平坦である。深さは北部で0.17～0.3m、中央部で0.18～0.51m、南部で0.04～0.13mを測る。ただし北部の南東方向を志向する部分は掘りすぎているため、この数字から外している。覆土は5層に分けられるが、中央部のみ厚さ2～14cmを測る硬化層（③・⑤層）が間層（④層）を挟んで上下2箇所検出された。いずれも平面的に検出されたが、壁面では一切硬化は認められなかった。下部硬化層の上面では湛水や通水の痕跡を示す酸化鉄の集積が局部的に存在した。硬化層を覆う①・②層からは径5～61cmの自然礫111個（円礫55・角礫56）が出土した。北部と中央部の北端に分布が分かれる。このうち北部の礫は土坑状の窪地周辺に集中するため、この土坑と重複している可能性がある。しかし中央部の径43～58cm大型角礫3個は硬化層（③層）に伴い、意図的に配置された可能性がある。なお底面まで掘削したところ土坑状の窪地が検出され、覆土（⑥層）から銭貨1枚（図56－51）が出土した。本遺構は硬化層と礫の検出、建物跡との位置関係等から庭園遺構の可能性がある。出土遺物には、山茶碗（46）、古瀬戸折縁小皿（47）・平碗・直縁大皿、越前鉢（48）、釘（49・50）・銭貨（52）等がある。ただしいずれも①・②層に伴う可能性が高い。本遺構の所属時期は中世後期と思われる。

BSD 2

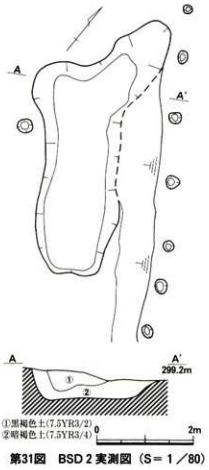
調査区北部D 3～D 4、E 3に位置する。全長5.6m、幅1.6mを測る。覆土は、砂質の土と直径2～3cmの荒い角礫からなっていた。遺物の出土はなく、時期は不明である。明治時代初期の地籍図には、この部分に沿って水路が描かれているが、それとの関係は判然としない。

BSD 7

調査区西部I 3～J 3に位置する。長さ約4m、幅約3mを測り、西部へ続いているものと予想される。覆土はほとんどが、直径2～3cmの川砂利であり、過去にあった流水の作用によって形成されたものと考えられる。遺物の出土はなく、時期は不明である。なお、BSD 7を切る形で、SK10・SK 11がある。



第30図　ASD 8 実測図（S＝1／80）



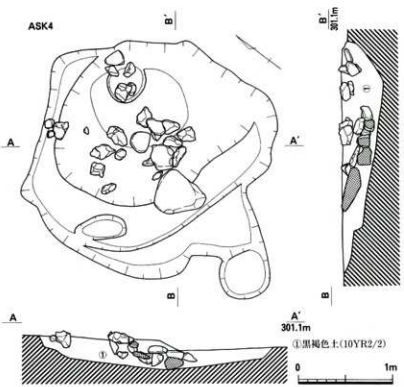
第31図　BSD 2 実測図（S＝1／80）

第4表　SD 属性一覧表

遺構名	グリッド	法量（m）			方位
		長軸	短軸	深さ	
ASD 1	C 9	0.74	0.35－0.75	0.22	N43.0°W
ASD 2	C 9	4.00	0.28－0.45	0.10－0.11	N39.0°W
ASD 3	C 8	5.10	0.25－0.65	0.12－0.18	N49.0°W
ASD 4	D 9	5.58	0.25－0.43	0.08－0.12	N59.5°W
ASD 5	D 9	4.20	0.50－0.65	0.20－0.27	N64.0°W
ASD 7	E5, E6, F 5	5.68	0.44－0.95	0.06－0.24	N6.0°W
ASD 8	H6, I6, I5, J 5	22.00	0.39	0.04－0.51	N15.0°W
ASD 9	I 6	2.35	0.32－0.68	0.11－0.12	N57.0°W
ASD10	J 7	1.63	0.35－0.48	0.06	N42.5°W
ASD11	E10	1.58	0.28－0.50	0.23	N53.0°E
ASD12	J 6	2.11	0.37－0.66	0.14－0.39	N39.0°E
BSD 1	D 3－D 4	2.08	0.36－0.48	0.02	N40.0°E
BSD 2	D 3－E 3	5.76	1.06－1.52	0.11－0.15	N13.5°W
BSD 3	G 3	2.36	0.28－0.48	0.04－0.06	N35.0°W
BSD 4	I 3	1.56	0.16－0.34	0.11	N105.0°W
BSD 5	I 3	1.08	0.34	0.18	N53.0°W
BSD 6	I 3	3.34	0.20－0.28	0.05－0.12	N52.5°E
BSD 7	I 3－J 3	3.52	1.84－2.88	0.18－0.41	N12.0°E
BSD10	P14	4.68	0.28－0.84	0.05－0.11	N63.5°W
BSD11	Q14	5.08	0.34－0.76	0.10	N38.0°W
BSD12	N 1－O 1	5.38	0.28－1.48	0.71－0.11	N32.5°W
BSD13	N 1－O 1	3.68	0.08－0.18	0.02－0.04	N34.0°W

4．土坑（SK）

土坑の分類基準を述べる。前述した掘立柱建物跡の柱穴の特徴として、出土遺物や礫が少なく、平面規模の最大が0.76mを測る（ASP88）ことが挙げられる。このことから遺物や礫を多く含み、平面規模が1m以上のものを土坑と認めた。この作業を通じて検出した土坑は全部で139基である。土坑の中で覆土に礫や遺物を含むものについては極力詳細図を掲載し、他は一覧表（第5・6表）にまとめる。



第32図　ASK 4 実測図（S＝1／40）

ASK 4

調査区北端寄りのC9グリッドに位置する。長軸長5.0m・短軸長3.98m、最大深度0.43mを測り、平面形態は不整方形である。掘方は東辺を除く三辺では平坦面を持つため比較的緩やかな立ち上がりであるが東辺では比較的急であり、底面は北東方向にやや下がるもののほぼ平坦である。覆土は単層で、径10～52cmの自然礫26個（円礫と角礫は同じ割合）が出土した。検出面から底面近くまで分布するが、意図的な配置は認められなかった。底面まで掘削すると柱穴・小穴2基が検出されたが、本遺構との関係は不明である。出土遺物には土師器皿（図57－53）、大窯有耳甕（54）がある。本遺構の所属時期は中世後期である。

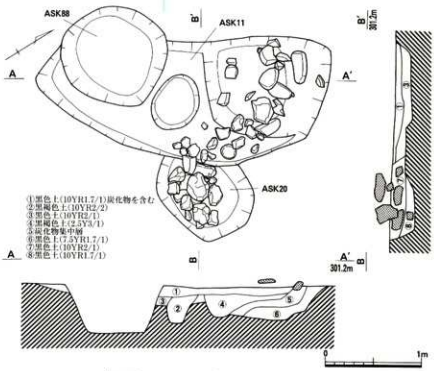
ASK 6

調査区北端のB9グリッドに位置する。長さ1.70m、最大深度0.57mを測り、平面形態は不明である。掘方は比較的急な立ち上がりで底面は擂鉢形を呈する。覆土はほぼ単層で亜角礫を多く含み、径17～30cmの自然礫3個（角礫）が出土した。検出面から中位に分布するが、意図的な配置は認められなかった。覆土の様子から埋没期間が極めて短い可能性がある。出土遺物には土師器（1点）がある。本遺構の所属時期は不明である。

ASK11

調査区北端寄りのD9グリッドに位置する。長軸長3.07m・短軸長1.33m、最大深度0.30mを測り、平面形態は不整長方形である。掘方は東壁と北壁が急に立ち上がるが西壁は皿状を呈する。覆土は2

層に分かれる。③上面から掘り込みが認められ、東端の土坑状の窪地には炭化物が層を成していた。径9～35cmの自然礫約40個（角礫より円礫の個数が優勢）が出土した。検出面での出土が多く、東端に集中する。なお中央から西に寄って礫が分布していたが、整理段階でこれらはASK88に伴うことが判明した。遺構の重複関係では、ASD1・5とASK12・20を切り、ASK88に切られる。出土遺物には大窯天目（図57－55）・丸皿（56）、連房腰錆湯呑（57）・擂鉢（58）・徳利（59）、肥前広東茶碗（60）、信楽系徳利（61）・土瓶（62）、釘（63）等がある。本遺構の所属時期は近世後期である。



第33図　ASK11・20実測図（S＝1／40）

ASK20

調査区北端寄りのD9～E9グリッドに位置する。長軸長1.10m・短軸長0.85m、最大深度0.18mを測り、平面形態は楕円形である。掘方は急な立ち上がりで底面は平坦である。覆土は2層に分かれる。径12～28cmの自然石15個（円礫より角礫の個数が優勢）を円形に配し、その上に径30cmの比較的平坦な亜角礫1個を据えた状態で検出された。礫の配置は一見礎石のようであるが、他に同様な遺構はない。遺構の重複関係では、覆土の違いに大きな差がみられないものの、覆土中の礫の出土状況からASK11に切られたと判断した。出土遺物には連房広東茶碗（図57－68）、染付丸碗（69）、行平鍋等がある。本遺構の所属時期は近世後期である。

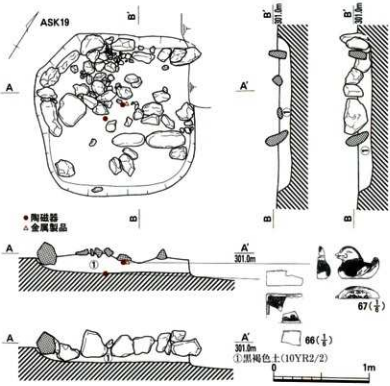
ASK15

調査区北端寄りのD8グリッドに位置する。長軸長1.05m・短軸長0.87m、最大深度0.33mを測り、平面形態は楕円形である。掘方は南北壁に比べ東西壁の方が急な立ち上がりであり、底面や北壁にⅣ層に含まれる礫が露出しているものの、底面は平坦である。覆土は2層に分かれ、検出面で径18・27cmの自然礫2個（円礫）が出土した。出土遺物には土師器皿、連房染付丸碗（図57－65）などがある。本遺構の所属時期は近世後期である。

ASK19

調査区北端寄りのD8～9グリッドに位置する。土坑の北隅を攪乱により滅失している。長軸長2.11m・短軸長1.58m、最大深度0.17mを測り、平面形態は北西の角を切った形であるが隅丸方形である。掘方は比較的急な立ち上がりで底面は平坦である。覆土は単層である。土坑の中央付近と北壁・西壁に沿って径21～41cmの自然礫12個（円礫8・角礫4）が立てられ、立石に囲まれた内部で検出面を中心に径4～23cmの自然礫67個（円礫11・角礫56）が出土した。遺構の重複関係ではASP18を切っている。

出土遺物には連房豆腐形水滴（図57－66）・鳥形水滴（67）、肥前丸碗などがある。本遺構の所属時期は近世後期である。



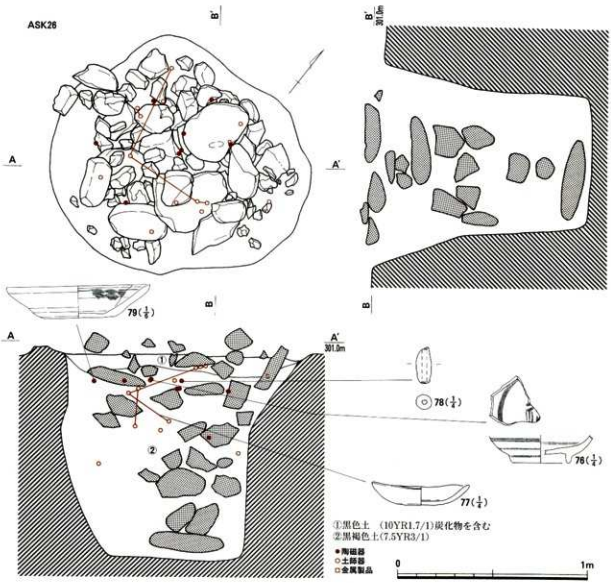
第34図　ASK19実測図（S＝1／40）

ASK21

調査区北端のD11～12グリッドに位置する。攪乱底面で検出した。長軸長2.06m・短軸長1.53m、最大深度0.53mを測り、平面形態は不整楕円形である。掘方は急な立ち上がりで底面は平坦である。覆土は単層で、径8～32cmの自然礫14個（円礫と角礫は同じ割合）が検出面で重ねられるような状態で出土した。出土遺物には、連房染付丸碗などがあり、所属時期は近世後期である。

ASK26

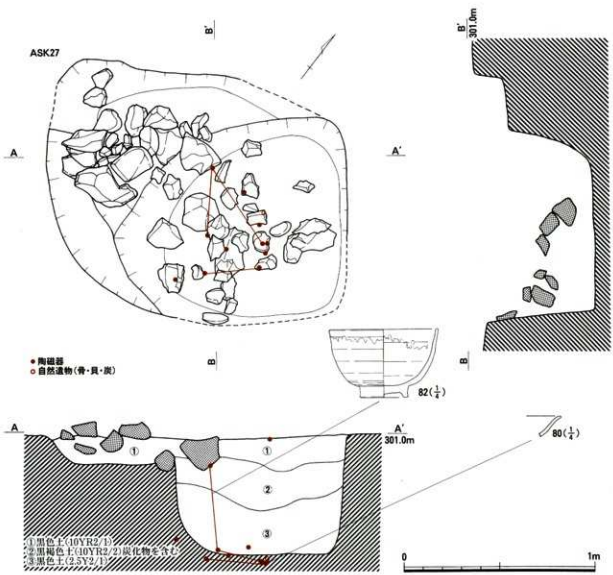
調査区北端寄りのE8グリッドに位置する。長軸長1.45m・短軸長1.18m、最大深度1.11mを測り、平面形態は不整楕円形である。掘方は垂直に近い立ち上がりで底面は平坦である。覆土は2層に分かれるが、下層は掘削の都合上分層を中断せざるを得なかったのでさらに細分できる可能性がある。径5～39cmの自然礫235個（円礫49、角礫186）が検出面から底面近くまで密な状態で出土したが、意図的な配置は認められなかった。全ての礫を除去すると径48cm大型円礫1個が平らな面を上にし据えられた状態で出土した。出土遺物には中国磁器染付碗（図58－76）、土師器皿（77）・土鍾（78）、越前鉢（79）、大窯天目茶碗・擂鉢等がある。本遺構の所属時期は中世後期である。



第35図　ASK26実測図（S＝１／20）

ASK27

調査区北端寄りのＥ８グリッドに位置する。土坑の北側を現代排水溝、南東隅を攪乱によって削平されている。整理段階で２基の土坑が重複していることが判明した。すなわち土坑の北西に平坦な段がありこれをASK27a（以下「27a」）の底面、さらに一段下がる部分をASK27b（以下「27b」）とする。27aでは長さ1.28m、最大深度0.29mを測り平面形態は不整楕円形とみられ、若干下に掘りすぎの感がある。27bでは長軸長1.24m・短軸長1.03m、最大深度0.63mを測り平面形態は不整方形である。掘方は27aでは緩やかな立ち上がりで底面は擂鉢形を成すが、27bでは垂直であり底面は平坦である。覆土は27aが単層、27bは２層に分かれる。27aでは径３～30cmの自然礫45個（円礫21、角礫24）、27bでは径７～25cmの自然礫46個（円礫５、角礫41）が出土した。27aの礫の中には被熱に



第36図　ASK27実測図（S＝1／20）

より黒灰色に変色したものが2個存在する。礫は意図的に配置されていないが、27aでは検出面に集中し、27bでは底面近くから中位にかけて散らばる。出土遺物には中国磁器白磁皿（図58－80）、大窯丸皿（81）・丸碗・天目茶碗、越前擂鉢、連房丸碗（82）・天目茶碗、釘（83）等がある。本遺構の所属時期は中世後期である

ASK30

調査区北端寄りのE8グリッドに位置する。2基の土坑ないしは柱穴が重複し、長軸長1.06m・短軸長0.56m、最大深度0.13mを測り、平面形態は不整楕円形である。掘方は緩やかな立ち上がりで底面はU字形を呈している。覆土は単層で、径18～48cmの破砕した自然礫8個（円礫）が出土した。少なくとも南北端の礫は直立しているように見受けられ、礫の中には被熱により黒灰色に変色したものが1個存在する。遺構の重複関係ではASK26・ASK29に切られている。出土遺物はなく、所属時期は不明である。

ASK33

調査区北端寄りのD10～E10グリッドに位置する。土坑の北東を攪乱により滅失する。土坑の南東に平坦な段があり2基の土坑の重複の可能性がある。長軸長1.68m・短軸長1.39m、最大深度0.52mを測り、平面形態は楕円形である。掘方は比較的急な立ち上がりで底面は平坦である。覆土については暗褐色シルト質土のブロックを多く含む黒褐色土（径0.8m）が垂直に立ち上がり、その内部は上下2層（黒褐色土・黒色土）に分けられる。検出面を中心に径4～30cmの自然礫34個（円礫16と角礫18）が出土した。ただし意図的な配置は認められない。第5章第3節で述べられているように、4層下部で寄生虫卵の検出を試みたが良好な結果は得られなかった。しかし覆土の様子からトイレ遺構の可能性が高い。出土遺物には土師器皿、連房湯呑・碗・皿の小片が出土した。本遺構の所属時期は不明である。

ASK43

調査区北端寄りのE11グリッドに位置する。長軸長1.18m・短軸長0.8m、最大深度0.14mを測り、平面形態は不整楕円形である。掘方はやや急な立ち上がりで底面はⅣ層に含まれる礫が露出して凹凸が著しい。覆土は単層で、径1～22cmの自然礫71個（角礫）が出土した。平面的にも広く広がり、また検出面から底面近くまで分布するが、意図的な配置は認められなかった。出土遺物はなく、所属時期は不明である。

ASK45

調査区北端のE12グリッドに位置する。長軸長1.35m・短軸長1.05m、最大深度0.19mを測り、平面形態は不定形である。掘方は緩やかな立ち上がりであり底面はⅣ層に含まれる礫が露出して凹凸が著しい。覆土は黒褐色土で、径5～25cmの自然礫5個（円礫1、角礫4）が出土した。ただしこれらの礫の個数は覆土と地山の区別が難しいため、若干の誤差を含む。検出面に集中するが、意図的な配置は認められなかった。出土遺物はなく、所属時期は不明である。

ASK49

調査区北端のE12グリッドに位置する。長軸長2.20m・短軸長1.63m、最大深度0.52mを測り、平面形態は隅丸方形である。掘方はほぼ垂直な立ち上がりで底面は平坦である。覆土は2層に分けられ、径15～34cmの自然礫3個（円礫）が北東端でまとまって出土した。土坑中央には長軸0.75m・短軸0.58mの楕円形のプランとオーバーハング気味の立ち上がり（最大深度0.68m）が検出され、この覆土からは径15～42cmの自然礫33個（円礫5・角礫28）が中位にまとまって出土した。土坑の中央に位置しており、どのような性格であるか不明である。出土遺物には大窯擂鉢（図58－99）・甕（100）・丸皿、土師器皿、連房丸碗、釘（101）などがある。本遺構の所属時期は中世後期である。

ASK51

調査区北端寄りのF12グリッドに位置する。長軸長1.15m・短軸長0.72m、最大深度0.50mを測り、平面形態は楕円形である。掘方は垂直に近い立ち上がりで底面は平坦である。覆土は3層に分けられ、

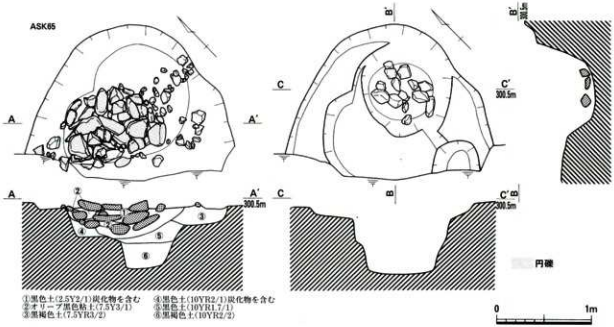
径6～32cmの自然礫19個（円礫1・角礫18）が出土した。検出面から中位まで分布するが、意図的な配置は認められなかった。出土遺物には土師器皿（図58－102）がある。本遺構の所属時期は中世後期である

ASK56

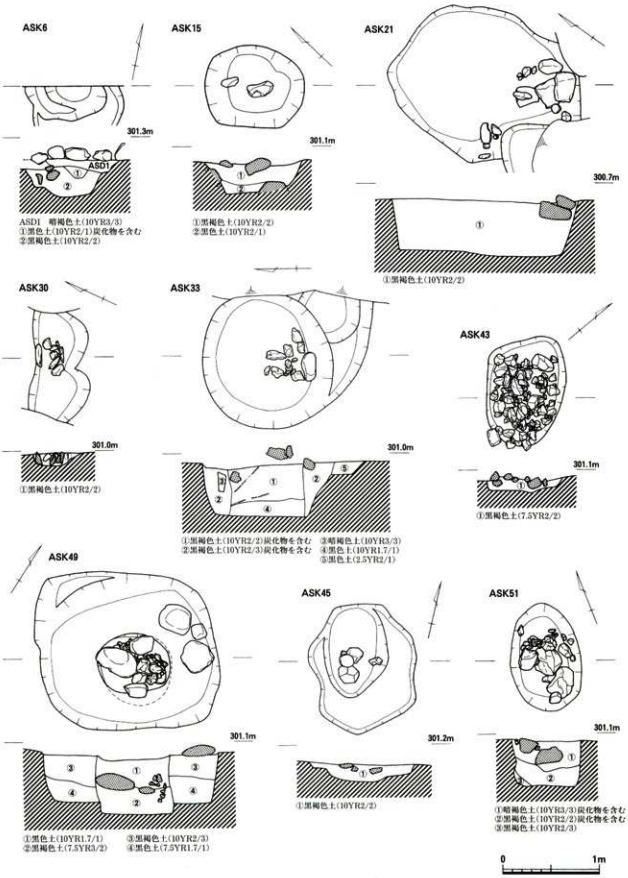
調査区北端寄りのE10～F10グリッドに位置する。長軸長1.0m・短軸長0.68m、最大深度0.29mを測り、平面形態は不整方形である。掘方はやや急な立ち上がりで底面はU字形を呈する。覆土は単層で、自然礫1個（円礫）が中位から出土した。出土遺物には連房灯明皿（図58－104）がある。本遺構の所属時期は近世後半である。

ASK65

調査区中央北寄りのF8～G8グリッドに位置する。攪乱の底面で検出し、さらに土坑の西側は攪乱により滅失している。土層断面の観察と完掘状況から2基以上の土坑が重複している可能性がある。西側を「ASK65a」（以下「65a」）、東側を「ASK65b」（以下「65b」）とする。ASK65検出当初は長軸長2.21m・短軸長1.47mを測る。平面形態は65aが楕円形、65bが円形とみられ、最大深度は65aが0.38m65bが0.72mを測る。掘方は65aが比較的緩やかで底面が平坦であるのに対し、65bは急な立ち上がりで底面はU字形を呈する。覆土は65aが5層に分けられ65bは単層である。65aでは径3～33cmの自然礫164個（円礫53、角礫111）が、65bでは径10～22cmの自然礫19個（角礫）が出土した。65aの礫の中には被熱により黒灰色に変色したもの3個と加工痕のあるもの1個を含む。礫は意図的に配置されていないが65aでは検出面に集中し65bでは底面近くにまとまって出土した。遺構の重複関係では65aがASP478と65bを切っている。出土遺物には備前香炉（図59－105）・湯呑、土師器皿などがある。本遺構の所属時期は近世後期である。



第37図　ASK65実測図（S＝1／40）



第38図　SK 実測図（1）（S＝1／40）

ASK66

調査区中央北寄りのF8～G8グリッドに位置する。攪乱底面で検出した。2基の土坑が重複しているが、切り合い関係は不明である。西側を「ASK66a」(以下「66a」)、東側を「ASK66b」(以下「66b」)とする。66aは長軸長0.66m・短軸長0.63m・最大深度m0.34・平面形態は楕円形、66bは長軸長0.66m・短軸長0.63m・最大深度0.42m・平面形態は円形である。掘方は66aが比較的急な立ち上がりで底面がU字形であるのに対し、66bは垂直で底面は平坦である。覆土は単層で、66aでは径44cmの自然礫1個(円礫)、66bでは径11～39cmの自然礫5個(円礫2、角礫3)が出土した。礫は意図的に配置されていないが、66aでは中位に66bでは底面に重ねられた状態で出土した。出土遺物はなく、所属時期は不明である。

ASK67

調査区中央北寄りのG8グリッドに位置する。長軸長1.46m・短軸長1.10m、最大深度0.54mを測り、平面形態は不整形である。掘方は比較的急な立ち上がりで底面はほぼ平坦である。覆土は単層で、径8～37cmの自然礫42個(円礫9、角礫33)が出土した。底面から中位にかけて分布するが、意図的な配置は認められなかった。出土遺物には大窯丸碗、唐津皿がある。本遺構の所属時期は不明である。

ASK69

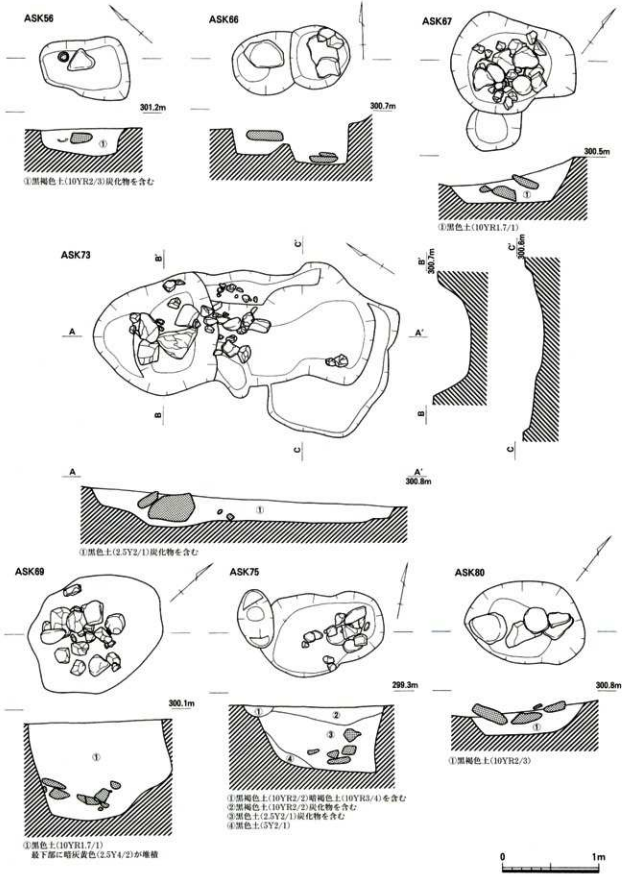
調査区中央H8～I8グリッドに位置する。長軸長1.43m・短軸長1.14m、最大深度1.07mを測り、平面形態は不整楕円形である。掘方は垂直に近い立ち上がりで底面はほぼ平坦である。覆土はほぼ単層とみられるが最下部に厚さ1～2cm程度の粗砂が確認された。径10～33cmの自然礫19個(円礫4、角礫15)が出土した。下部から底面近くまで分布するが、意図的な配置は認められなかった。
出土遺物には灰釉陶器碗(図58－106)、刀子などがある。本遺構の所属時期は不明である。

ASK73

調査区東端のG12・13、H12・13グリッドに位置する。複数の土坑が重複している可能性があるが平面・断面観察では検出できなかった。長軸長3.19m・短軸長1.16m、最大深度0.39mを測り、平面形態は長楕円形である。掘方は北壁は比較的急であるが他は緩やかな立ち上がりで、底面はほぼ平坦である。覆土は単層で、径5～48cmの自然礫78個(円礫14、角礫64)が出土した。検出面から底面近くまで分布し北側に寄るが、意図的な配置は認められなかった。出土遺物はないが炭化物の出土量が多い。本遺構の所属時期は不明である。

ASK75

調査区中央西寄りのJ6グリッドに位置する。長軸長1.31m・短軸長0.87m、最大深度0.65mを測り、平面形態は楕円形である。掘方は西壁は比較的急な立ち上がりだが他は垂直で、底面は東に傾斜するもののほぼ平坦である。覆土は3層に分けられ、径4～27cmの自然礫27個(円礫18、亜角礫9)が出土した。礫は中位から底面近くまで分布し東壁に偏って出土したが、意図的な配置は認められな



第39図　SK 実測図（２）（S＝１／40）

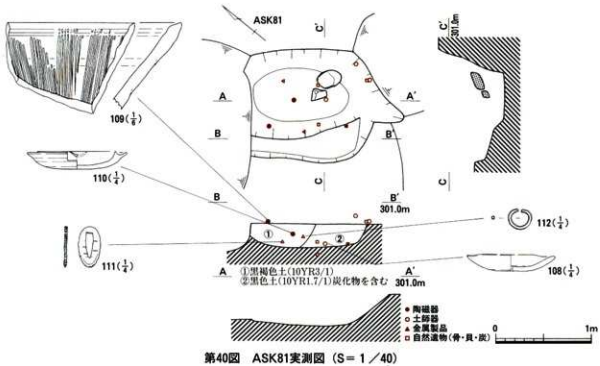
かった。遺構の重複関係ではASP380を切っている。出土遺物には古瀬戸卸皿（図58－107）がある。本遺構の所属時期は中世後期である。

ASK80

調査区北東端のD5～6グリッドに位置する。長軸長1.26m・短軸長0.87m、最大深度0.36mを測り、平面形態は楕円形である。掘方は比較的ゆるやかな立ち上がりで底面は平坦である。覆土は単層で、径22～44cmの自然礫5個（円礫）が出土した。検出面にまとまって出土したが、意図的な配置は認められなかった。出土遺物はなく、所属時期は不明である。

ASK81

調査区北端寄りのE9グリッドに位置する。土坑の東辺を除く全てを攪乱により削平・滅失している。長軸長1.60m・短軸長1.19m、最大深度0.68mを測り、平面形態は楕円形とみられる。掘方は西側に平坦面をもつ特徴があり東壁は比較的急で底面は平坦である。覆土は2層に分けられ明瞭な立ち上がりが認められる。その立ち上がる壁に接するような状況で金属製品切羽（図59－111）・把手（112）、砥（113）が出土した。なお径18～26cmの自然礫2個が中位で出土した。出土遺物には土師器皿（108）、越前擂鉢（109）、在地系灯明皿（110）がある。本遺構の所属時期は中世後期である。



第40図　ASK81実測図（S＝1／40）

ASK83

調査区中央北寄りのG9～H9グリッドに位置する。長軸長0.95m・短軸長0.82m、最大深度0.70mを測り、平面形態は楕円形である。掘方は比較的急な立ち上がりで底面はほぼ平坦である。覆土は単層で、径8～25cmの自然礫25個（角礫）が出土した。中位から底面近くまで分布するが、意図的な配置は認められなかった。出土遺物はなく、所属時期は不明である。

ASK86

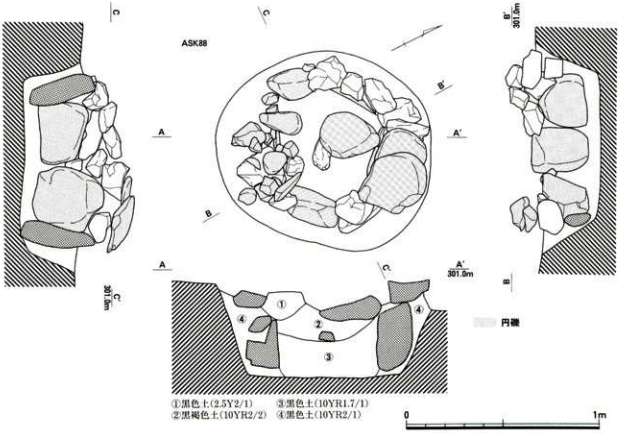
調査区北東端のD5グリッドに位置する。長軸長0.92m・短軸長0.63m、最大深度0.45mを測り、平面形態は楕円形である。掘方は垂直に近い立ち上がりで底面はほぼ平坦である。覆土は2層に分けられ径7～38cmの自然礫10個（円礫7、角礫3）が出土した。礫は検出面近くに重ねられた状態で出土したが、意図的な配置は認められなかった。出土遺物には、土師器皿、古瀬戸腰折皿(図59－114)、大窯端反皿がある。本遺構の所属時期は中世後期である。

ASK87

調査区北東端のD5～6グリッドに位置する。径0.80～0.82m・最大深度0.51mを測り、平面形態は円形である。掘方は比較的急な立ち上がりで底面はほぼ平坦である。覆土は2層に分けられ径8～40cmの自然18個（円礫6・亜角礫12）が出土した。中位から底面近くにかけてまとまって出土したが、意図的な配置は認められなかった。出土遺物には白磁皿、土師器皿(図59－115)、古瀬戸平碗(116)、大窯擂鉢（117）などがある。本遺構の所属時期は中世後期である。

ASK88

調査区北端寄りのD9グリッドに位置する。径1.15～1.01m・最大深度0.45mを測り、平面形態は不整円形である。掘方は急な立ち上がりで底面は平坦である。径26～37cmの自然石（円礫）5個と石製品（図60－121）の転用石1個のうち小型礫2個を東西方向に、大型礫の4個を「く」字形に立



第41図　ASK88実測図（S＝1／20）

てて全体を六角形に成し、その上に径4～38cmの自然礫25個（円礫15・角礫10）を円形に配置する。礫で囲まれた内部の覆土は2層に分けられ、土坑中央付近に検出面で円礫1個が平坦面を上にした状態で出土した。遺構の重複関係では、ASK11・12とASD5を切っている。出土遺物には連房腰錆湯呑（図59－118）・灯明皿（119）、唐津鉢（120）、釘などがある。本遺構の所属時期は近世後期である。

BSK 8

調査区中央寄りのＫ5グリッドに位置する。長軸1.20m・短軸0.89m、最大深度0.46mを測り、平面形態は楕円形である。掘方の立ち上がりをみると、南東部は急に立ち上がるが底部は平坦で浅く、北西部はやや急で径30～60cm程度の平たい亜円礫が階段状に配置されている。覆土は、単層である。出土遺物には連房小碗がある。本遺構の所属時期は不明である。

BSK13

調査区中央寄りのＬ7グリッドに位置する。長軸0.93m・短軸0.89m、最大深度0.36mを測り、平面形態はほぼ円形である。掘方の立ち上がりをみると、比較的急で浅く底面は平坦である。覆土は3層に分かれ、①②層は暗褐色土及び黒褐色土であるが、最下層約5cmは緑がかった褐色土で、粘性が強いものであった。

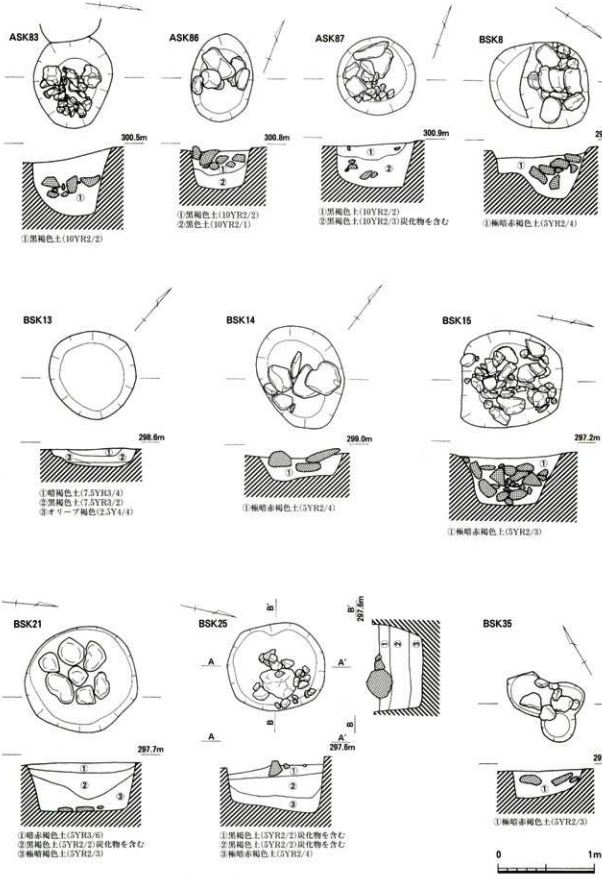
これは、トイレ遺構の可能性がある。ただBSK115～BSK117のようなトイレ遺構と比較して、大きさや底部の粘土の貼り付け等は類似するが、側壁によくみられる「たが」の痕等はみられなかった。出土遺物には大窯丸皿（図59－124）、連房小杯がある。本遺構の所属時期は不明である。

BSK14

調査区西部のＧ3グリッドに位置する。長軸1.15m・短軸0.85m、最大深度0.24mを測り、平面形態はほぼ円形である。掘方の立ち上がりをみると、なだらかで底面は平坦である。覆土は単層で極暗赤褐色土であったが、上部に炭化物が少量みられた。土坑の中央部から南北に向かって、径50m～70mの平たい自然礫（亜円礫）が重ねて置かれていて、それらの石の上部表面には一部炭化物が付着していた。出土遺物は土師器皿がある。本遺構の所属時期は不明である。

BSK15

調査区西部のＭ4グリッドに位置する。長軸1.03m・短軸1.02m、最大深度0.54mを測り、平面形態はほぼ円形である。掘方の立ち上がりをみると、なだらかで底面は平坦という鍋状である。覆土は単層で、内部は上部から底部にかけて角礫と亜円礫が詰まっている状態であった。特に亜円礫の場合、もともと径20～30cm程度のものが、人為的に割られたのか熱を受けて割れたのかは判然としないが、スライス状に割れた状態で出土した。大きい石の配置は、ほとんど不規則で、意識的に並べられたと思われる箇所はなかった。下層になるほど、礫の径は小さくなり、掘りこぶし大のものが多くなった。出土遺物には山茶碗、古瀬戸卸皿（図59－127）がある。本遺構の所属時期は中世後期である。



第42図　SK 実測図（３）（S＝１／40）

BSK21

調査区南部のO7～P7グリッドに位置する。長軸1.18m・短軸1.17m、最大深度0.50mを測り、平面形態はほぼ円形である。掘方の立ち上がりをみると、南部に比べ北部がやや急で、底部は平坦である。底部では、平たい自然礫（亜円礫）8個を、1個を中心として7個を周囲に配置した状態で検出した。礫に焼けた痕はみられなかったが、各所に炭化物の付着がみられた。覆土は3層に分かれ、②層の黒褐色土には多くの炭化物が含まれていた。底部以外には、亜円礫は検出されなかった。出土遺物には古瀬戸四耳壺（図61－128）、鎌？などがある。所属時期は不明である。

BSK25

調査区南部のP7グリッドに位置する。長軸1.02m・短軸0.92m、最大深度0.56mを測り、平面形態はほぼ円形である。掘方の立ち上がりをみると、かなり急で垂直に近く、底部は平坦である。検出面の中央部付近に角礫が集中していて、特に1つは直径約40cmの大きなものであった。覆土は3層に分かれ、①層は黒褐色土で大きめの炭化物が多く混入していた。焼土はみられず、礫のほとんどは角礫であった。位置としては、SB5の中央部にあたるが、その関連は判然としない。出土遺物はなく、所属時期は不明である。

BSK35

調査区南部のP5グリッドに位置する。長軸0.68m・短軸0.40m、最大深度0.26mを測り、平面形態はほぼ円形である。掘方の立ち上がりをみると、なだらかで北西部がやや急である。土坑の中央部をあけて、その周囲を角礫と亜円礫で囲んだような状態である。出土遺物はなく、所属時期は不明である。

BSK36

調査区南端部のQ5～R5グリッドに位置する。長軸1.03m・短軸0.71m、最大深度0.52mを測り、平面形態は不整形である。掘方の立ち上がりをみると、南部は急で北部は上辺がややなだらかに外に開く。土坑の中央底部に、細かく破砕された状態の自然礫（亜円礫）が検出された。出土遺物は古瀬戸盤類がある。本遺構の所属時期は不明である。

BSK40

調査区南端部のP13グリッドに位置する。長軸1.10m・短軸0.81m、最大深度0.53mを測り、平面形態は楕円形である。掘方の立ち上がりをみると、南部や北部ともに急で中位では平たい自然礫（亜円礫）が数個検出された。いずれも意図的に置かれたとは考えにくい。覆土は3層に分かれ、底部の③層が黒褐色土でやや粘性がある。出土遺物には連房鉄絵皿（図59－130・131）があり、検出面と底部の③層から出土した。本遺構の所属時期は近世後期である。

BSK71

調査区中央部のK10グリッドに位置する。長軸0.91m・短軸0.61m、最大深度0.57mを測り、平面

形態は不整円形である。掘方の立ち上がりは比較的急で、底部にピット（BSP1419）がある。土坑の中央部には、大きめ平たい自然礫（亜円礫）が3個検出された。覆土は2層に分かれる。出土遺物はない。土坑中央の自然礫は、かつて礎石として使用されたものが住居廃棄後に動いた可能性がある。しかし、表土は10～20cm上部であり、その面も削平の後に現代住居の基礎（コンクリート）がなされたと考えられ、所属時期は不明である。

BSK73

調査区中央部のK12グリッドに位置する。長軸1.24m・短軸0.81m、最大深度0.44mを測り、平面形態は楕円形である。掘方の立ち上がりは北東部に比べ南西部は比較的急で、底部は平坦である。底部の南西部にはピット（BSP1420）がある。覆土は2層に分かれる。土坑の北東部には、径80cmの平たい自然礫（亜円礫）が設置されており、その下部には割れて平たくなった自然礫（亜円礫）があった。この状態のまま礎石として使われたかどうかについては疑問があるが、かつて礎石として使われた石である可能性はある。レベルとしては、BSK71とほぼ同じである。出土遺物はなく、所属時期は不明である。

BSK75

調査区中央部のK9グリッドに位置する。長軸1.58m・短軸1.17m、最大深度0.16mを測り、平面形態は不整形である。掘方の立ち上がりは比較的なだらかで、底部は平坦で皿状である。北西部と南部にはピット（BSP1113, BSP1114）がある。BSP1113は、BSK75の北西端の底部で検出されたものであり、BSP1114は、BSK75を切っている。覆土は2層に分かれる。土坑の東部には、平たい自然礫（亜円礫）数個が集中している箇所があった。1個は大きく径85cm程度あった。BSK71やBSK73と関連した土坑である可能性もある。出土遺物はなく、所属時期は不明である。

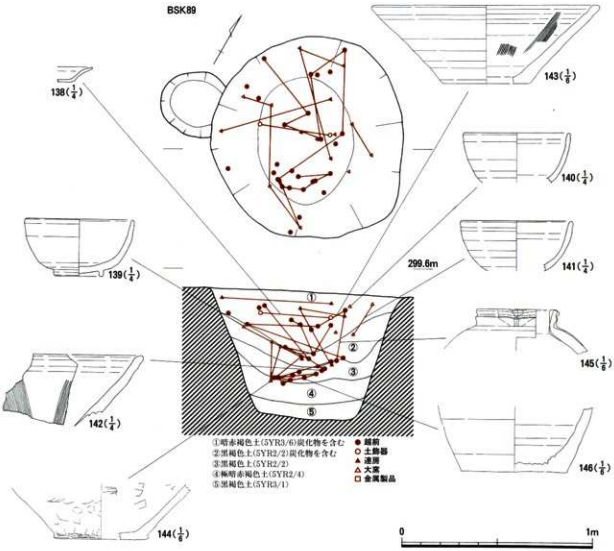
BSK90

調査区の南西部O2グリッドのSB3, SB4の内部に位置する。長軸1.01m・短軸0.67m、最大深度0.28mを測り、平面形態は楕円形である。掘方の立ち上がりは東部は急で、西部はややなだらかである。底部は、ほぼ平坦で、土坑内部では多くの自然礫（亜円礫）が検出された。特に東半分に多く、下位にあるものは平たい自然礫で水平に設置されていた。それ以外のものは、それより上部に重なるようにあった。これらの礫の多くは、よく焼けてボロボロになっていた。覆土は、大きく2層に分かれるが、中位には焼土塊や灰の塊などの集中した箇所があった。検出面で、焼土の広がりは確認できたが、①層を10cm程度下げた面で焼土の塊が明確になった。中位の②～⑤層は、上部の③層に灰が固まったと考えられる褐灰色土があり、下部の⑤層には焼土が密度濃く固まった明赤褐色土があった。

なお、この土坑に繋がるようにしてピット（BSP1082）がある。この両者の切り合いは、明確にできなかったものの、BSP1082がBSK90を切ると考える。このピットは、浅い掘り込みの底面上に平たい自然礫（亜円礫）が設置された状態であった。出土遺物には連房湯呑がある。本遺構の所属時期は不明である。

BSK89

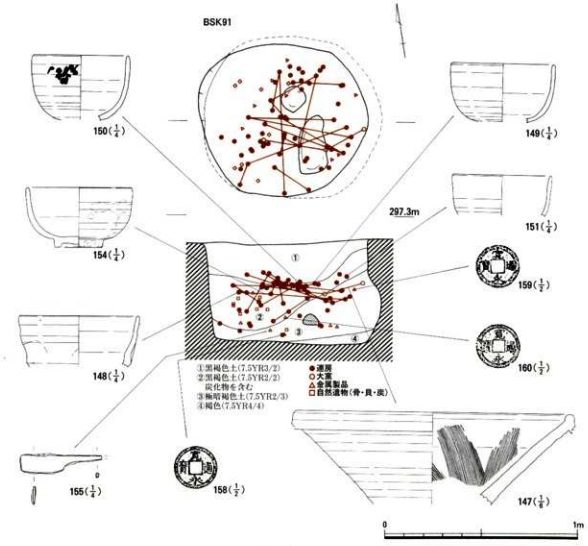
調査区やや北寄りのH4グリッドに位置する。長軸1.09m・短軸1.01m、最大深度0.66mを測り、平面形態は円形である。掘方の立ち上がりはやや急で、底部は平坦になりバケツ状である。西部、南部にはピット（SP973, SP974）があり、BSK89が切っている。覆土は、5層に分かれる。①層は暗赤褐色土で、焼土塊や炭化物を多くふくんでおり、検出面でそれらは明確に確認できた。②③層は黒褐色土で①層より少ないものの、焼土塊や炭化物が混入していた。また、この層は茶碗や甕類等、遺物が多く出土した。④層は極暗赤褐色土、⑤層は黒褐色土、いずれもしまりがある土で遺物はほとんど混入していなかった。土坑内では、自然礫（亜円礫）等、礫類はほとんど検出されなかった。出土遺物には土師器皿（図61－138）、大窯丸碗（139～141）、越前擂鉢（142・143）・鉢（144）・片口壺（145・146）がある。所属時期は中世後期である。



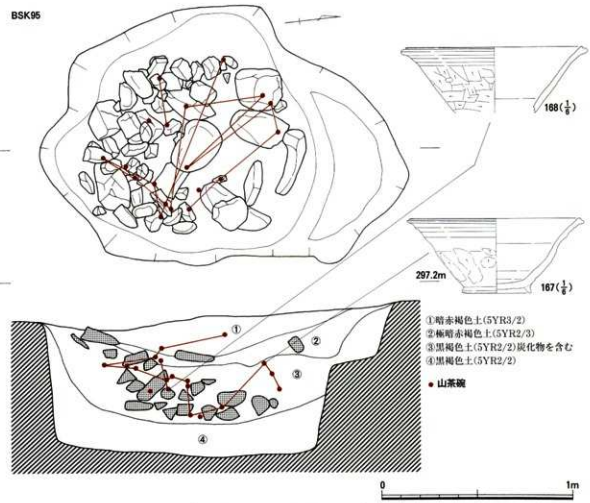
第43図　BSK89実測図（S＝1／20）

BSK91

調査区の南西部N3グリッドのSB3とSB4の内部に位置する。長軸0.88m・短軸0.80m、最大深度0.56mを測り、平面形態はほぼ円形である。掘方の立ち上がりは、西部ではほぼ垂直で、東部ではオーバーハングした状態であった。底面は平坦であり、自然礫（亜円礫）が2個体検出された。覆土は、4層に分かれる。①②層は黒褐色土で、②層では多くの遺物が検出された。③層でも遺物はみられ、ここでは陶磁器の他、銭貨や刀子が出土した。この②③層からは、貝片(その多くはハマグリ)も多く出土した。④層は東部で顕著にみられたが、褐色の粘土が敷いてある状態であった。この土坑の性格については明確にはできなかった。銭貨や刀子の出土からみると墓坑と考えられるが、かなり多くの貝片が出土していることなどからゴミ穴とも考えられる。また、中世～近世にかけて住居があったと考えられる地域であること、また底部に粘土が敷いてあることなどから、かつては貯蔵用の穴として使われたものがゴミ穴等に転用されたことも考えられる。出土遺物には大窯擂鉢（図62－147）、連房丸碗（149～153）・尾呂茶碗（154）・中碗（148）、刀子（155）・釘（156・157）・銭貨（158～160）などがある。本遺構の所属時期は近世後期である。



第44図　BSK91実測図（S＝1／20）



第45図　BSK95実測図（S＝1／20）

BSK95

調査区の南西部N2グリッドのSB3, SB4の西部に位置する。長軸1.95m・短軸1.32m、最大深度0.74mを測り、平面形態は不整形である。掘方の立ち上がりは、南部は急で、北部はややなだらかで浅い段があり、段の下は急である。底面は平坦である。北部の浅い段のところを除いて、土坑全体に数多くの自然礫（亜円礫・角礫）が検出された。特に中央部には大きめの扁平な自然礫（亜円礫）が数個みられ、また西部と南東部では側面に沿って自然礫（亜円礫）が検出された。いずれの礫も不規則な配置で、意図的に設置されたとは考えられない。覆土は4層に分かれる。主に③層に多くの礫を含み、炭化物や遺物が多く検出された。出土遺物には山茶碗鉢（図62－167・168）がある。この鉢は一個体のものが、割れて③層の中に飛び散っているという状況を示していた。④層は粘性のある黒褐色土であるが、礫や遺物はほとんど含まなかった。本遺構の所属時期は中世前期である。

BSK93

調査区の南西部O2グリッドのSB3, SB4の内部に位置する。長軸1.27m・短軸0.54m、最大深度0.62mを測り、平面形態は不整形である。掘方の立ち上がりは急であり、底面は平坦で2箇所に分かれる。土坑が2つ重なってできたものと考えられる。上部においては、南部に自然礫（亜円礫）が

集まっており、下部においては北部に集まっている。いずれも集石の中央部に礫のない箇所がある。覆土は、3層に分かれ、上部の礫は①層の底面を基準として集まっていた。出土遺物には大窯天目茶碗（図63－163）がある。本遺構の所属時期は不明である。

BSK94

調査区の南西部O3グリッドのSB3,SB4の内部に位置する。長軸1.23m・短軸1.09m、最大深度0.64mを測り、平面形態は隅丸方形である。掘方の立ち上がりは急であり、底面は平坦である。そこからは、熱を受けて割れた自然礫（亜円礫）を2個体検出した。覆土は、6層に分かれる。①③層は黒褐色土で、その間に②層の暗赤褐色土の層がはさむ。④⑤層には、随所に焼土や炭化物が混入し、底面には焼土の塊がみられた。出土遺物は概ね上部の①～③層には連房丸皿（図63－165）・腰錆湯呑など近世の遺物が多く出土し、④⑤層にはそれより古い土師器皿、大窯折縁皿（164）・砥石（166）などの遺物が出土した。本遺構の所属時期は不明である。

BSK96

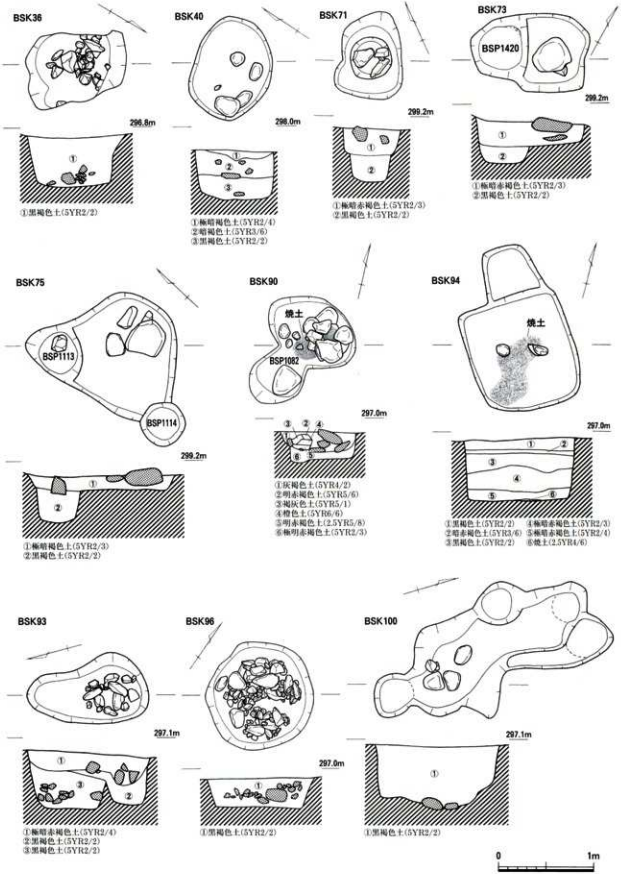
調査区の南西部O2グリッドのSB3,SB4の西部に位置する。長軸1.14m・短軸1.09m、最大深度0.32mを測り、平面形態は円形である。掘方の立ち上がりはやや急で、底部は平坦である。内部では自然礫（亜円礫・角礫）が大量に検出された。大きめの礫は十数個であったが、こぶし大程度の礫がほとんどを占めていた。炭化物も少量出土した。覆土は単層（黒褐色土）である。出土遺物には大窯擂鉢（図63－169）・天目茶碗・丸皿、越前擂鉢、連房加工円盤（170）・尾呂茶碗（171）・小杯、不明金属製品（172）・刀子がある。本遺構の所属時期は不明である。

BSK100

調査区の南西部N2グリッドのSB3,SB4の内部に位置する。長軸2.53m・短軸0.77m、最大深度0.64mを測り、平面形態は不整形である。掘方の立ち上がりは急で、底面は凹凸がある。この土坑は、1つの土坑というより、中世から近世にかけて多くの土坑やピットが作られた結果、この形になったと考えられる。ただ、それら複数の土坑やピットの切り合いは確認できなかった。底部ではやや小さめの扁平な自然礫（亜円礫）を数個検出した。出土遺物には大窯天目茶碗、越前甕、連房腰錆湯呑（図63－174）などがある。本遺構の所属時期は不明である。

BSK101

調査区の南西部N2～N3グリッドのSB3,SB4の北西部に位置する。長軸0.97m・短軸0.94m、最大深度0.34mを測り、平面形態は楕円形である。掘方の立ち上がりはやや急で、底部はゆるやかな凹凸がある。北西よりの上部では扁平な自然礫（亜円礫）が2個、重ねて設置されていた。上の礫に比べ下の礫はひとまわり小さいものであった。覆土は4層に分かれ、下部の④層は黒褐色土で水気が多く粘性のつよいものであった。なお、上部の礫と上坑は別のものと考えられ、土坑は、粘土の貼り付けはないものの、粘性のある土層が深いことなどからトイレ遺構の可能性がある。出土遺物は連房湯呑がある。本遺構の所属時期は不明である。



第46図　SK 実測図（4）（S＝1／40）

BSK104

調査区の南西部O3グリッドのSB3, SB4の内部に位置する。長軸1.08m・短軸0.79m、最大深度0.30mを測り、平面形態は楕円形である。掘方の立ち上がりはやや急で、底面は平坦であるが中央部がやや窪む。土坑内部には、多くの自然礫（亜円礫）がみられたが、いずれも小さめであった。覆土は2層にわかれ、①層は黒褐色土で炭化物がわずかに含まれていた。出土遺物は、山茶碗壺がある。本遺構の所属時期は不明である。

BSK106

調査区の南西部P1グリッドに位置する。長軸0.92m・短軸0.71m、最大深度0.24mを測り、平面形態は不整形である。掘方の立ち上がりはほぼ垂直で、底面は平坦である。土坑の中央部では2個の自然礫（亜円礫）が重なるように検出された。覆土は単層（極暗赤褐色土）である。出土遺物は、銭貨（図63－177）がある。本遺構の所属時期は不明である。

BSK108

調査区の中央部北よりのH4～H5グリッドに位置する。長軸1.01m・短軸0.62m、最大深度0.34mを測り、平面形態は不整形である。掘方の立ち上がりはやや急で、底面は平坦である。土坑中央には扁平な自然礫（亜円礫）が設置され、その上部の東西に並ぶように2個の礫が検出された。覆土は単層（黒褐色土）である。出土遺物はなく、所属時期は不明である。

BSK112

調査区の西部のK3グリッドに位置する。長軸0.86m・短軸0.58m、最大深度0.60mを測り、平面形態は不整形である。掘方の立ち上がりは急で、北西部でオーバーハングしている。底面は平坦である。上部では、中央部をあけて土坑の側面に沿うように自然礫（亜円礫）が検出された（図面は、底部の石のみ）。特に南西部の細長い礫は焼けた痕跡があり、炭化物も付着していた。下部では、底部を覆うように上面が平らな自然礫（亜円礫）が設置されており、礎板として使われた可能性がある。出土遺物はない。なお、この土坑はBSK10, BSK11, BSK121, BSP106とともに一列に並び、掘立柱建物が西部へ広がる可能性が強いが、西部は攪乱がひどく詳細は不明である。

BSK113

調査区の南部のQ5グリッドに位置する。長軸2.06m・短軸1.31m、最大深度0.68mを測り、平面形態は楕円形である。掘方の立ち上がりは急で、底面は平坦である。土坑中央やや西よりに自然礫（亜円礫・角礫）が集中して検出された。上部には角礫が多く、それを取り除くと扁平な亜円礫で円形に並べられたような状態であった。覆土は、3層に分かれ、①層の暗赤褐色土に礫は多く検出された。南部は掘方が階段状になるが、それぞれ別個の土坑があったと考えられ、BSK113に切られている。出土遺物には灰釉陶器、青磁皿（図63－178）、越前甕（179）などがある。本遺構の所属時期は中世後期である。

BSK114

調査区の南部のO6グリッドに位置する。長軸0.78m・短軸0.44m、最大深度0.32mを測り、平面形態は楕円形である。掘方の立ち上がりは急であるが、底面は北西部で浅く、南東部でやや深い状態であった。中央部で自然礫（亜円礫）が数個検出された。覆土は単層（暗赤褐色土）であった。出土遺物はない。本遺構の所属時期は不明である。

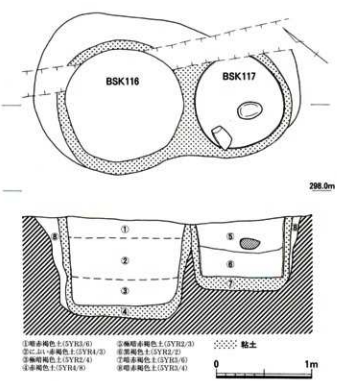
BSK115

調査区の東部のN15グリッドに位置する。長軸2.06m・短軸1.94m、最大深度0.40mを測り、平面形態は楕円形である。内部の掘方の立ち上がりは垂直で、底面は平坦であった。土坑の中央部には大きめの亜円礫が3個あった。覆土は径2～3cm程度の角礫が内部に投入されたような状態であった。側面の周囲は10cm幅で明褐色の粘土が貼ってあった。側面内側には木枠がはめられていた痕が、また側面底部の周囲にはタガの痕が明瞭に残っていた。底面も粘土が貼ってあったが木桶の底の痕はみられなかった。底部の粘土上面の土を分析したところ寄生虫卵は検出されなかったが、トイレ遺構であると考えられる（第5章　第3節）。ただ上部の多くは削られているものと考えられる。出土遺物には、連房染付湯呑（図63－180）・輪禿皿（181）・土瓶（182）図がある。本遺構の所属時期は近世後期である。

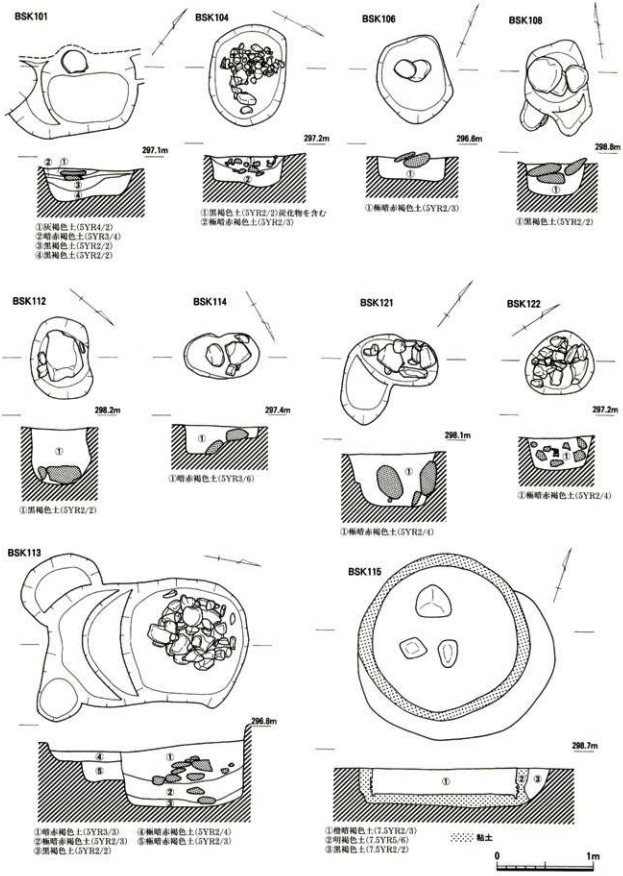
なお、掛斐地区においてトイレを廃棄する場合、大きめの川原石を2～3個中へ入れて埋め、そこへ節を抜いた竹を3本入れて竹が腐る3年程度はそのままにしておいたそうである。トイレには便所の神様が宿るとして大切にしたということである。

BSK116

調査区の南部の近現代の道路下にあたるN8グリッドに位置する。長軸1.66m・短軸1.42m、最大深度1.04mを測り、平面形態は円形である。内部の掘方の立ち上がりはほぼ垂直で、底面は平坦である。覆土は径4～5cm程度の角礫が内部に大量に投入されたような状態で、その中に遺物も混入していた。こうした状態であったから分層は不可能で、側面に残った土により層位を推定した。それによると3層に分かれ、底部になるほど粘性は強くなる。周囲と底部には暗赤褐色の粘土が10cm程度の厚みで貼り付けられていた。その外側の北東部にかけての範囲には、この土坑制作時の掘り込み（⑧



第47図　BSK116・117実測図（S＝1／40）



第48図　SK 実測図（5）（S＝1／40）

層）がみられた。出土遺物には、連房徳利・碗、近現代湯呑みなどがある。本遺構の所属時期は近世後期から近現代である。底部の土を分析したところ、鞭虫卵が検出され、この遺構はトイレ遺構であることが明らかになった（第5章　第3節）。

BSK117

調査区の南部の近現代の道路下にあたるN8グリッドに位置する。長軸1.16m・短軸1.02m、最大深度0.76mを測り、平面形態は円形である。内部の掘方の立ち上がりはほぼ垂直で、底面は平坦である。内部では自然礫（亜円礫）が2個体検出されたが、BSK115と同じ意味合いであろうと考えられる。覆土は2層に分かれ、②層は黒褐色土で粘性の強いものであった。隣のBSK116のように角礫が内部に大量に投入されたような状態ではなく、内部に角礫は少なかった。側面には木枠として使われた皮状になった木が付着していた。上部には焼けた痕があり、その多くは炭化していた。周囲と底部には暗赤褐色の粘土が10cm程度の厚みで貼り付けられていた。この粘土はBSK116の周囲の粘土と同じもので、繋がっているようにもみえた。しかし、削った時BSK116とBSK117の中央部で、粘土がきれいに分かれてはがれてきたので、同じ時に作られたとしても、それぞれ独立したものとして作られたと考えられる。その外側の北東部にかけての範囲には、この土坑掘削時の掘り込み（⑧層）がみられたが、BSK116とつながるものであり、両者同時に作られた可能性はある。出土遺物には、連房広東茶碗（図63－183）・甕（184）・急須などがある。本遺構の所属時期はBSK116と同様近世後期から近現代である。底部と側面の土を分析したところ、回虫卵と鞭虫卵が検出され、この遺構はトイレ遺構であることが明らかになった（第5章　第3節）。

BSK121

調査区西部のK3グリッドに位置する。長軸1.10m・短軸0.56m、最大深度0.54mを測り、平面形態は不整形である。掘方の立ち上がりはやや急で、底面は平坦である。内部には多くの自然礫（亜円礫）があり、上部から底部にかけて全体的に投入された状態であった。覆土は単層（極暗赤褐色土）であった。出土遺物には、大窯天目茶碗（図63－185）、連房腰錆茶碗などがある。本遺構の所属時期は不明である。

BSK122

調査区南西部のO4グリッドに位置する。長軸0.72m・短軸0.62m、最大深度0.32mを測り、平面形態は楕円形である。掘方の立ち上がりはやや急で、底面は平坦である。内部には多くの自然礫（角礫）があり、上部から底部にかけて全体的に投入された状態であった。礫がからんだ多くの土坑の場合、内部には亜円礫が多くみられるものだが、この土坑においては亜円礫はみられず、すべて角礫であった。出土遺物はなく、所属時期は不明である。

第5表　SK属性一覧表(1)

整理番号	遺構番号	グリッド	出土遺物の有(○)無			法量			備考
			土器・石	金属	骨・貝炭・木	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	
1	ASK1	C11	○			1,22	0,68	0,14	〈ASK 7
2	ASK4	C9	○			5,00	3,98	0,43	
3	ASK5	C8～C9	○	○		1,29	1,08	0,14	〉ASD 1
4	ASK6	B9	○			1,70	(0,75)	0,57	
5	ASK7	C11				1,08	0,79	0,15	〉ASK 1
6	ASK8	C11	○			0,82	0,80	0,57	
7	ASK10	D9				1,17	(1,22)	0,04	〈ASD 1
8	ASK11	D9	○	○	○	3,07	1,33	0,30	〈ASK88　〉ASD1・5, ASK12・20
9	ASK12	D9	○			2,45	(1,51)	0,23	〈ASD 1・5
10	ASK15	D8	○			1,05	0,87	0,33	〉SA 4
11	ASK17	D8				1,45	0,75	0,19	
12	ASK19	D8～D9	○	○		2,11	1,58	0,17	〉ASP18
13	ASK20	D9～E9	○			1,10	0,85	0,18	〈ASK11
14	ASK21	D11～D12				2,06	1,53	0,53	
15	ASK22	D11	○	○		2,20	(0,72)	0,11	
16	ASK23	D10～D11	○			(1,12)	(0,89)	0,59	
17	ASK24	D10～D11	○			2,05	1,95	0,16	
18	ASK26	E8	○		○	1,45	1,18	1,11	〉ASK30
19	ASK27	E8	○	○	○	a1,28 b1,24	b1,03	a0,29 b0,63	
20	ASK29	D8～E8	○			1,64	1,04	0,24	〉ASK30
21	ASK30	E8				1,06	0,56	0,13	〈ASK26・29
22	ASK32	E9	○	○		0,86	0,80	0,28	
23	ASK33	E10	○		○	1,68	1,39	0,52	〈撹乱
24	ASK35	E9～E10	○	○		1,88	1,09	0,40	〈ASK81
25	ASK36	E10	○	○	○	1,04	0,94	0,19	〉ASK35
26	ASK38	E11	○			1,40	0,75	0,38	
27	ASK40	E10				1,78	1,73	0,15	〈ASP488　〈ASQ 1
28	ASK43	E11				1,18	0,80	0,14	
29	ASK45	E12				1,35	1,05	0,19	
30	ASK46	D10	○			1,78	1,70	0,35	〈ASD 1　〉ASD21
31	ASK49	E12	○	○		2,20	1,63	0,52	
32	ASK50	F11				2,79	1,20	0,19	
33	ASK51	F12	○		○	1,15	0,72	0,50	
34	ASK55	F10	○		○	0,50	0,43	0,60	
35	ASK56	E10～F10	○			1,00	0,68	0,29	
36	ASK58	D12				0,94	0,60	0,21	
37	ASK59	F9	○		○	2,03	1,13	0,42	
38	ASK64	F8				0,78	0,70	0,65	
39	ASK65	F8～G8	○			2,21	1,47	a0,38 b0,72	
40	ASK66	F8～G8				a0,66 b0,66	a0,63 b0,63	a0,34 b0,42	〉ASP478
41	ASK67	G8	○		○	1,46	1,10	0,54	〈ASP89
42	ASK68	H8～H9				1,38	0,85	0,18	
43	ASK69	H8～I8	○	○	○	1,43	1,14	1,07	
44	ASK70	I9				2,01	0,96	0,16	
45	ASK71	J10				2,06	0,85	0,05	
46	ASK73	G12・13, H12・13			○	3,19	1,16	0,39	〉ASX 6
47	ASK75	J6	○			1,31	0,87	0,65	〉ASP380
48	ASK76	H5～I5				1,28	0,88	0,10	
49	ASK77	I6				1,46	0,66	0,29	
50	ASK79	G5	○			2,77	1,94	0,28	
51	ASK80	D5～D6				1,26	0,87	0,36	
52	ASK81	E9	○	○	○	1,60	1,19	0,68	
53	ASK82	G5				1,36	1,26	0,26	
54	ASK83	H9				0,95	0,82	0,70	
55	ASK84	I13				1,32	0,83	0,29	
56	ASK85	D5				1,32	0,78	0,40	〈ASP475
57	ASK86	D5	○			0,92	0,63	0,45	
58	ASK87	D5	○			0,82	0,80	0,51	
59	ASK88	D9	○	○		1,15	1,01	0,45	〉ASK11・12, ASD 5
60	BSK4	L3	○			0,92	0,84	0,31	
61	BSK5	K4	○			0,96	0,92	0,48	
62	BSK8	K5	○			1,20	0,89	0,46	
63	BSK10	J3	○			1,00	0,68	0,32	
64	BSK11	J3				1,03	0,63	0,62	
65	BSK12	K6		○		1,08	0,92	0,52	
66	BSK13	L7	○			0,93	0,89	0,36	
67	BSK14	G3	○			1,15	0,85	0,24	
68	BSK15	M4	○			1,03	1,02	0,54	
69	BSK20	O6～O7				1,30	1,20	0,21	

第6表　SK属性一覧表(2)

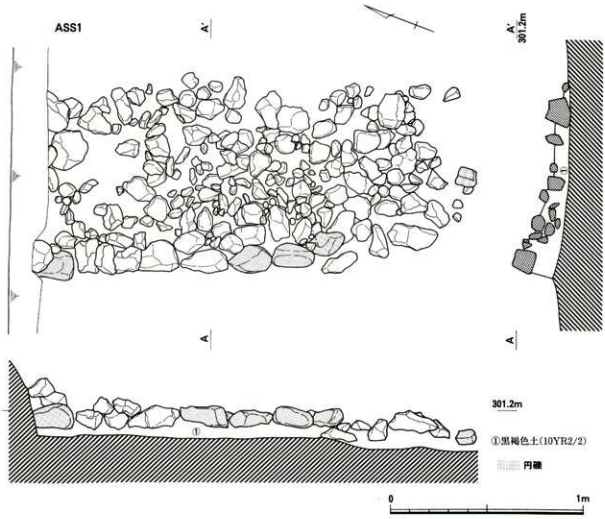
整理番号	遺構番号	グリッド	出土遺物の有(○)無			法量			備考
			土器・石	金属	骨・貝炭・木	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	
70	BSK21	O7～P7	○	○		1.18	1.17	0.50	
71	BSK25	P7				1.02	0.92	0.56	
72	BSK26	P7	○	○		0.44	0.40	0.12	
73	BSK27	Q7	○			1.00	0.72	0.09	
74	BSK28	P6	○			0.96	0.88	0.14	
75	BSK35	P5				0.68	0.40	0.26	
76	BSK36	Q5～R5	○			1.03	0.71	0.52	
77	BSK37	R5				1.10	0.70	0.25	
78	BSK38	Q4～Q5				0.78	0.57	0.44	
79	BSK40	P13	○	○		1.10	0.81	0.53	
80	BSK42	L10	○			1.68	1.52	0.37	
81	BSK43	N15	○			1.56	0.88	0.18	
82	BSK44	P12	○	○		1.32	0.68	0.26	
83	BSK46	M12				1.50	0.84	0.11	
84	BSK47	M11				1.14	0.98	0.30	
85	BSK49	M10				1.36	0.52	0.04	
86	BSK50	L9～M9				1.35	0.60	0.25	
87	BSK51	M9				1.91	0.54	0.38	
88	BSK52	O15				1.00	0.85	0.23	
89	BSK54	O15				1.83	0.75	0.30	
90	BSK57	P16				1.79	1.04	0.11	
91	BSK62	R14				0.95	0.85	0.11	
92	BSK64	Q10				1.11	0.57	0.11	
93	BSK71	K10				0.91	0.61	0.57	
94	BSK72	K10				1.80	1.19	0.19	
95	BSK73	K12				1.24	0.81	0.44	
96	BSK74	K10				1.36	0.01	0.79	
97	BSK75	K9				1.58	1.17	0.16	〈BSP1114
98	BSK76	K9				1.58	0.12	0.14	
99	BSK82	J6～K6				0.99	0.93	0.46	
100	BSK86	G4	○			1.12	0.88	0.48	
101	BSK87	G4	○			0.92	0.76	0.34	
102	BSK88	N8				1.15	0.90	0.70	
103	BSK89	H4	○		○	1.09	1.01	0.66	〉BSP973・974
104	BSK90	O2	○			1.01	0.67	0.28	焼土塊、〈BSP1082
105	BSK91	N3	○	○	○	0.88	0.80	0.56	
106	BSK92	O3	○			1.20	0.80	0.19	
107	BSK93	O2	○			1.27	0.54	0.62	
108	BSK94	O3	○	○		1.23	1.09	0.64	焼土塊
109	BSK95	N2	○			1.95	1.32	0.74	
110	BSK96	O2	○	○		1.14	1.09	0.32	
111	BSK97	M1～N1	○			1.28	1.08	0.09	
112	BSK98	N2	○			0.84	0.80	0.60	
113	BSK99	N2	○			1.24	0.84	0.17	
114	BSK100	N2	○			2.53	0.77	0.64	
115	BSK101	N2～N3	○			0.97	0.94	0.34	
116	BSK102	N3	○			1.30	0.85	0.35	
117	BSK103	O3				1.00	0.82	0.19	
118	BSK104	O3	○			1.08	0.79	0.30	
119	BSK105	O1	○			2.32	0.76	0.31	
120	BSK106	P1		○		0.92	0.71	0.24	
121	BSK108	H4～H5				1.01	0.62	0.34	
122	BSK109	H4～I4				1.63	0.58	0.23	
123	BSK110	I4				1.87	0.61	0.47	
124	BSK111	I4				1.76	0.35	0.30	
125	BSK112	K3				0.86	0.58	0.60	
126	BSK113	Q6	○			2.06	1.31	0.68	
127	BSK114	O6				0.78	0.44	0.32	
128	BSK115	N15	○			2.06	1.94	0.40	トイレ遺構
129	BSK116	N8	○			1.66	1.42	1.04	トイレ遺構
130	BSK117	N8	○			1.16	1.02	0.76	トイレ遺構
131	BSK118	P14				1.11	0.77	0.16	
132	BSK119	O1				1.05	0.94	0.43	
133	BSK120	O1～P1				1.73	0.93	0.23	
134	BSK121	K3	○			1.10	0.56	0.54	
135	BSK122	O4				0.72	0.62	0.32	
136	BSK123	Q8				1.34	0.86	0.39	
137	BSK124	Q9				1.00	0.63	0.06	

5．その他の遺構

積石遺構（ASS１）

調査区北端のB11グリッドに位置する。Ⅱ層を除去中に円礫が南北に並ぶため、精査を進めるとその東側にも礫が帯状に広がった。長軸長2.23m・短軸長0.96m、遺構面からの高さは0.23mを測る。検出当初黒褐色土が西端石列の外側に広がっていたので土坑扱いとしたが、結局掘方は検出されなかった。このことからⅣ層上面に積まれた積石遺構と判断した。遺構は石列とその東側の充填礫とで構成される。石列は径11～28cmの自然礫12個（円礫４・角礫８）のうち８個を直線的に配置するが、２段に積む箇所もある。充填礫は径５～24cmの自然礫379個（円礫１・角礫378）を数え、隙間が多くしまりはない。石列と充填礫との上下関係については、石列上に充填礫の一部が存在することから石列が構築の最終段階に配置されたものではない。北東端にも大型礫が散見されるので東端にも石列があった可能性がある。全ての礫を取り除くとASP483が検出された。

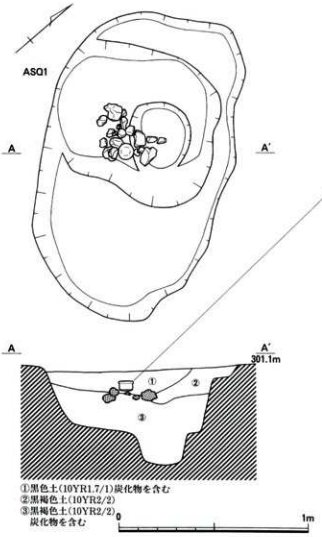
出土遺物には連房染付皿（図63－186）・甕、越前甕などがある。本遺構の所属時期は近世後期である。



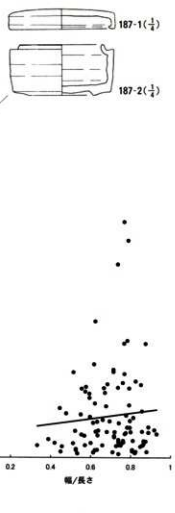
第49図　ASS１実測図（S＝１／20）

地鎮遺構（ASQ1）

調査区北端寄りのE11グリッドに位置する。長軸長1.62m・短軸長0.95m、最大深度0.49mを測り、平面形態は楕円形である。土坑南側には平坦面があり、北側には隅丸方形の掘方が存在する。しかし土層断面では明瞭な立ち上がりが認められないので単独の遺構と判断する。南側平坦面は浅く北側の掘方は急な立ち上がりで底面は平坦である。覆土は3層に分けられる。③層上部では径2.3～10.4cmの自然礫98個（角礫）・破損した石製品1個がまとまって出土し、その上に連房合子（図63－187-1,187-2）が正位で置かれた状況で出土した。合子の中には粗砂が充填されておりその下部からヒト胎盤試料やタヌキ・シカ・イノシシ・ウサギのような動物試料の脂肪と類似する脂肪酸が検出された（第5章第4・5節）。自然礫もほぼ同じ様な大きさで意図的に敷き詰められた様相を呈する。このような結果から地鎮のための遺構ではないかと思われる。なお礫を精査中に③層中からイノシシの臼歯1点（第5章第6節）が出土した。この他出土遺物には大窯丸碗・土師器皿などがある。本遺構の所属時期は近世である。



第50図　ASQ1実測図（S＝1／20）



第51図　ASQ1出土礫の法量相関

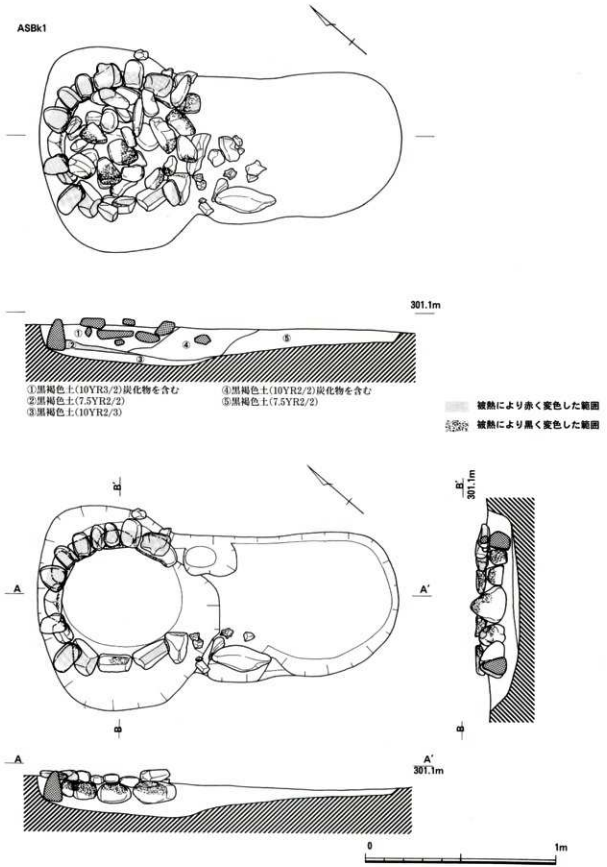
第7表　ASQ1出土礫計測表

No.	短	長	質量(g)	No.	短	長	質量(g)	No.	短	長	質量(g)
1	7.1	9.0	341.9	34	3.2	6.7	69.7	67	3.2	4.4	18.5
2	5.8	7.4	184.7	35	3.0	4.9	55.3	68	3.1	4.1	23.1
3	5.6	6.4	179.8	36	3.9	4.9	47.8	69	3.3	4.0	9.2
4	6.7	9.1	304.6	37	3.7	4.8	57.8	70	3.0	3.5	19.2
5	5.0	8.1	147.5	38	3.8	6.4	100.9	71	2.4	4.0	23.5
6	5.2	6.3	120.3	39	3.6	5.0	40.9	72	3.1	4.2	19.9
7	5.3	8.5	215.3	40	4.1	5.9	57.7	73	2.1	5.4	29.4
8	3.3	7.4	78.0	41	4.0	7.2	108.9	74	2.4	4.2	19.8
9	5.5	7.7	139.0	42	4.5	4.9	44.0	75	3.1	4.2	25.2
10	4.1	6.6	85.4	43	4.0	5.4	54.7	76	3.0	3.7	27.0
11	3.9	5.7	115.9	44	4.2	6.2	81.0	77	3.2	3.7	22.0
12	3.8	6.9	68.1	45	3.8	4.9	39.4	78	2.7	3.6	19.4
13	4.2	5.3	82.6	46	3.5	5.6	41.6	79	2.1	4.6	17.9
14	4.8	7.2	109.6	47	3.5	5.3	59.9	80	2.0	3.8	12.0
15	5.3	6.9	180.2	48	3.1	4.9	57.0	81	2.0	3.8	13.7
16	3.9	6.8	104.2	49	3.6	4.6	48.1	82	2.4	3.8	12.2
17	5.1	6.7	117.9	50	3.2	4.2	27.1	83	1.5	4.5	19.5
18	4.1	6.9	94.2	51	3.2	4.7	41.2	84	2.3	2.8	7.2
19	4.6	5.4	114.8	52	4.0	4.3	37.6	85	2.1	5.0	23.5
20	4.5	6.7	102.2	53	3.1	5.6	37.0	86	1.8	2.9	11.9
21	3.7	5.8	43.3	54	4.0	4.5	48.5	87	1.8	4.0	9.5
22	3.5	6.7	42.8	55	3.3	5.2	35.7	88	2.1	2.6	12.2
23	5.0	6.5	132.1	56	4.0	4.5	40.0	89	2.8	3.3	17.5
24	4.6	5.8	109.2	57	3.6	4.5	40.8	90	2.9	3.8	24.5
25	8.0	10.4	371.5	58	2.9	5.1	35.1	91	3.1	4.2	28.5
26	3.7	6.2	64.3	59	3.3	4.6	32.9	92	2.7	4.1	19.7
27	5.0	7.0	135.4	60	3.5	4.0	25.9	93	1.9	3.1	8.2
28	3.0	5.2	111.7	61	3.5	4.3	63.0	94	2.2	3.1	8.6
29	3.6	7.0	134.9	62	4.2	4.9	73.0	95	2.1	2.6	10.0
30	4.8	5.6	41.6	63	3.3	4.6	34.7	96	1.6	3.0	6.6
31	4.2	5.7	110.3	64	3.1	3.6	19.6	97	1.7	2.3	5.7
32	4.3	5.4	58.3	65	3.2	3.7	26.6	98	2.2	2.5	9.0
33	4.2	5.4	66.6	66	2.1	4.1	23.1				

竈（ASBk1）

調査区北端のB10・11、C11グリッドに位置する。掘方は長軸長2.89m・短軸長1.13mを測る。平面形態は地山の締まりが悪いため掘方が広がり完掘時点では鍵穴形を呈しているが、検出時点では不整楕円形に近い。燃焼部は径約8.5mを測り平面形態は円形である。燃焼部下部をよく遺存しており、2段に積まれた自然礫（全て円礫：1段目10個、2段目9個）と粘土で構築されている。礫の上面は被熱により円形に赤褐色化し内側は黒灰色化して亀裂がみられ、礫の内側が上面よりも高温であったことがわかる。土層断面をみると、礫の中位には火床面と思われる焼土層が燃焼部北半の全体で認められた。火床面が遺存しない南半には焚き口付近に立ち上がりがみられ、被熱痕跡をもつ自然礫が充填されていた。これらの礫の被熱状況は規則性がなく黒灰色化する礫もあることから、廃絶時に燃焼部上部の構築材を燃焼部に埋めた可能性が高い。焚き口西側には燃焼部の礫の配置手法と異なる1個の礫があり、その南には掘方の長軸方向に合わせる形で自然礫が1個存在する。一方東側には西側に対応する礫は存在しないものの、覆土除去後に礫の抜き取り痕跡が検出され掘方の長軸方向と一致する。以上の想定から焚き口の幅は約0.51m以内と推測される。なお焚き口付近床面の硬化、カマドの作り替えは認められなかった。燃焼部の規模、位置から風呂遺構の可能性もある。

出土遺物には連房植木鉢（図63－188）・碗・湯呑・皿、金属製品釘（189）・鉄鍋片などがある。本遺構の所属時期は近世後期である。



第52図　ASBk 1 実測図（S＝1／20）

小穴（SP）

BSP320

調査区南部のR13グリッドに位置する。深さ15cmの浅いピットで、約10cm下より灰釉陶器碗（図64－203）が出土した。角礫と並んだ状態で検出され、意図的に埋められた可能性がある。東部の山側は小さいピットが多いものの、ほとんど遺物が出土しない地域であり、遺構の性質は不明である。

BSP237

調査区南部のO6グリッドに位置する。側面に径5～10cmの亜円礫が組んだような状態で検出した。SB12の柱穴の1つである。

BSP286

調査区南部のQ4グリッドに位置する。上部に川原石が意図的に置かれたような状態で検出した。出土遺物には、山茶碗小皿（図64－201）がある。

BSP515

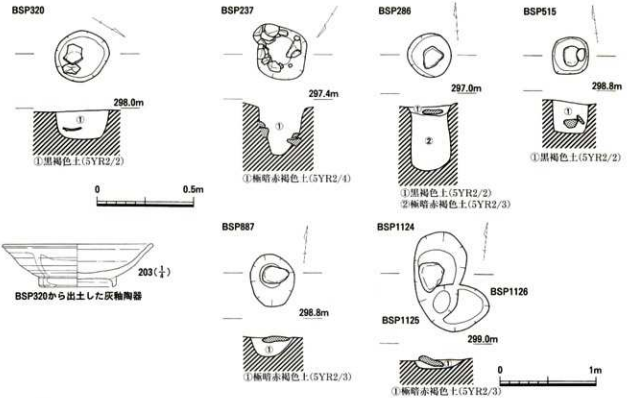
調査区南部のL9グリッドに位置する。底部付近の中央部で亜円礫を検出した。

BSP887

調査区南部のK4グリッドに位置する。上部で平坦な亜円礫を検出した。

BSP1124・1125・1126

調査区南部のO6グリッドに位置する。BSP1124の亜円礫はかつての礎石が動いたと考えられる。



第53図　BSP320・237・286・515・887・1124・1125・1126実測図（BSP320のみ S＝1／20、他は S＝1／40）

第8表　SP属性一覧表(1)

整理番号	道構番号	グリッド	法量(m) 長軸	短軸	深さ
1	ASP1	B10	0.35	0.28	0.20
2	ASP3	B10	0.14	0.10	0.18
3	ASP4	B8	0.60	0.40	0.06
4	ASP5	B8	0.69	0.35	0.16
5	ASP6	C8	0.45	0.35	0.04
6	ASP7	C8	0.37	0.35	0.01
7	ASP8	C9	0.25	0.15	0.17
8	ASP9	C9	0.48	0.45	0.14
9	ASP10	B11	0.65	0.49	0.25
10	ASP11	C11	0.63	0.59	0.28
11	ASP12	C11	0.40	0.36	0.24
12	ASP13	C11	0.57	0.54	0.32
13	ASP14	C11	0.56	0.34	0.18
14	ASP15	D10	0.64	0.42	0.33
15	ASP16	D9	0.24	0.20	0.30
16	ASP17	D8	0.58	0.32	0.34
17	ASP18	D9	0.40	0.39	0.15
18	ASP19	C8	0.55	0.43	0.14
19	ASP20	D8	0.32	0.29	0.09
20	ASP21	D10	0.99	0.57	0.50
21	ASP22	D11	0.75	0.58	0.06
22	ASP23	E8	0.84	0.55	0.37
23	ASP24	E9	0.60	0.54	0.08
24	ASP26	E9	0.56	0.45	0.13
25	ASP27	E10	0.24	0.20	0.23
26	ASP28	E10	0.49	0.35	0.30
27	ASP29	E10	0.50	0.42	0.23
28	ASP30	E9～10	0.35	0.29	0.26
29	ASP31	E9	0.85	0.43	0.29
30	ASP32	E11	0.40	0.19	0.13
31	ASP33	E11	0.27	0.21	0.09
32	ASP34	E11	0.16	0.15	0.18
33	ASP35	E11	0.34	0.26	0.10
34	ASP36	F11	0.89	0.30	0.10
35	ASP37	F11	0.36	0.36	0.50
36	ASP38	F11	0.34	0.34	0.10
37	ASP39	F11	0.34	0.33	0.27
38	ASP40	F11	0.45	0.35	0.17
39	ASP41	F11	0.36	0.34	0.16
40	ASP42	F11	0.19	0.16	0.28
41	ASP43	F11	0.72	0.50	0.22
42	ASP44	F11	0.49	0.45	0.19
43	ASP45	F11	0.65	0.67	0.11
44	ASP46	F9	0.29	0.30	0.21
45	ASP47	F9	0.59	0.49	0.18
46	ASP48	F9	0.48	0.44	0.15
47	ASP49	F9	0.50	0.29	0.13
48	ASP50	F9	0.52	0.49	0.69
49	ASP51	F9	0.30	0.29	0.06
50	ASP52	F9	0.89	0.36	0.20
51	ASP53	F9	0.23	0.20	0.17
52	ASP54	F9	0.54	0.40	0.36
53	ASP55	F9	0.47	0.39	0.50
54	ASP57	F11	0.24	0.20	0.06
55	ASP58	D11	0.20	0.19	0.16
56	ASP59	E11	0.64	0.36	0.11
57	ASP61	E12	0.75	0.60	0.15
58	ASP62	E11～12	0.40	0.31	0.11
59	ASP63	E12	0.34	0.31	0.10
60	ASP64	E12	0.94	0.46	0.18
61	ASP65	F12	0.36	0.34	0.13
62	ASP66	F12	1.12	0.48	1.00
63	ASP67	F12	0.36	0.32	0.10
64	ASP68	F12	0.49	0.30	0.15
65	ASP69	F12～13	0.46	0.34	0.13
66	ASP70	F12	0.48	0.53	0.16
67	ASP71	F12	0.29	0.26	0.11
68	ASP72	F12	0.88	0.73	0.08
69	ASP73	F12	0.44	0.40	0.20
70	ASP74	F12	0.75	0.69	0.17
71	ASP75	F12～13	0.70	0.74	0.17

整理番号	道構番号	グリッド	法量(m) 長軸	短軸	深さ
73	ASP77	D12	0.48	0.28	0.16
74	ASP78	F10	0.26	0.25	0.25
75	ASP79	F10	0.34	0.29	0.42
76	ASP80	F10	0.29	0.24	0.12
77	ASP81	F9	0.65	0.55	0.83
78	ASP82	F9	0.65	0.60	0.52
79	ASP83	E12	0.63	0.49	0.09
80	ASP84	E12	0.51	0.23	0.16
81	ASP85	F9	0.50	0.45	0.12
82	ASP86	F8	0.43	0.37	0.42
83	ASP88	G8	0.76	0.64	0.57
84	ASP89	G8	0.56	0.39	0.26
85	ASP90	G8	0.39	0.34	0.13
86	ASP91	G8	0.64	0.46	0.26
87	ASP92	G8	0.55	0.39	0.14
88	ASP93	G8～9	0.91	0.56	0.73
89	ASP94	G9	0.94	0.83	0.57
90	ASP95	G9	0.94	0.90	0.92
91	ASP96	G9	0.50	0.39	0.44
92	ASP97	G9	0.56	0.51	0.75
93	ASP98	G9	0.41	0.32	0.11
94	ASP99	G9	0.24	0.21	0.16
95	ASP100	G9	0.38	0.35	0.18
96	ASP101	G9	0.82	0.48	0.66
97	ASP102	G9	0.66	0.45	0.10
98	ASP103	G9	0.95	0.82	0.70
99	ASP104	G9	0.23	0.23	0.15
100	ASP105	G9	0.49	0.45	0.84
101	ASP106	G9	0.91	0.59	0.45
102	ASP107	G9	0.48	0.39	0.56
103	ASP108	G9	0.40	0.34	0.08
104	ASP109	G9	0.40	0.36	0.38
105	ASP110	G9	0.66	0.60	0.25
106	ASP111	G10	0.30	0.36	0.16
107	ASP112	G10	0.39	0.35	0.41
108	ASP113	G10	0.44	0.36	0.03
109	ASP114	G10	0.60	0.44	0.52
110	ASP115	G10	0.55	0.42	0.13
111	ASP116	G10	0.44	0.40	0.13
112	ASP117	G10	0.38	0.34	0.22
113	ASP118	G11	0.62	0.45	0.27
114	ASP119	H8	0.31	0.29	0.17
115	ASP120	H8	0.69	0.51	0.61
116	ASP121	H8	0.31	0.28	0.06
117	ASP122	H8	0.25	0.20	0.09
118	ASP123	H8	0.27	0.20	0.17
119	ASP124	H8	0.25	0.20	0.14
120	ASP125	H8	0.23	0.19	0.43
121	ASP126	H8	1.34	0.74	0.48
122	ASP127	H8	0.56	0.50	0.44
123	ASP128	H9	0.57	0.30	0.32
124	ASP129	H9	0.25	0.24	0.18
125	ASP130	H9	0.86	0.42	0.42
126	ASP131	H9	0.56	0.39	0.34
127	ASP132	H9	0.38	0.30	0.23
128	ASP133	H9	0.52	0.41	0.22
129	ASP134	H9	0.64	0.55	0.57
130	ASP135	H9	0.51	0.54	0.08
131	ASP136	H9	0.30	0.28	0.29
132	ASP137	H9	0.46	0.29	0.29
133	ASP138	H9	0.50	0.40	0.09
134	ASP139	H9	0.49	0.44	0.47
135	ASP140	H9	0.25	0.24	0.25
136	ASP141	H9	0.26	0.24	0.07
137	ASP142	H9	0.65	0.32	0.03
138	ASP143	H9	0.46	0.44	0.37
139	ASP144	H9	0.92	0.44	0.64
140	ASP145	H9	0.50	0.30	0.19
141	ASP146	H9	0.26	0.25	0.26
142	ASP147	H9	0.55	0.54	0.46
143	ASP148	H9	0.35	0.24	0.57

整理番号	道構番号	グリッド	法量(m) 長軸	短軸	深さ
145	ASP150	H9～I9	1.41	0.73	0.18
146	ASP151	H9～10	0.25	0.25	0.13
147	ASP152	H9～10	0.44	0.33	0.46
148	ASP153	H10	0.46	0.39	0.13
149	ASP154	H10	0.20	0.21	0.16
150	ASP155	H10	0.80	0.43	0.05
151	ASP156	H10	0.24	0.21	0.14
152	ASP157	H10	0.22	0.21	0.09
153	ASP158	H10	0.36	0.20	0.13
154	ASP159	H10	0.24	0.17	0.14
155	ASP160	H10	0.24	0.24	0.08
156	ASP161	H10	0.29	0.22	0.17
157	ASP162	H10	0.36	0.35	0.08
158	ASP163	H10	0.22	0.18	0.13
159	ASP164	H10	0.39	0.35	0.10
160	ASP165	H10	0.24	0.18	0.20
161	ASP166	H10	0.46	0.42	0.09
162	ASP167	H10	0.34	0.25	0.06
163	ASP168	H10	0.35	0.28	0.08
164	ASP169	H10	0.47	0.25	0.04
165	ASP170	H10	0.94	0.39	0.37
166	ASP171	H10	0.14	0.12	0.18
167	ASP172	H10～I10	0.25	0.24	0.04
168	ASP173	H10～I10	0.36	0.30	0.14
169	ASP174	H10～I10	0.16	0.14	0.12
170	ASP175	H11	0.39	0.30	0.08
171	ASP176	I8	0.25	0.17	0.28
172	ASP177	I8	1.17	0.40	0.14
173	ASP178	I8	1.08	0.44	0.12
174	ASP179	I8	0.48	0.39	0.17
175	ASP180	I8	0.45	0.30	0.62
176	ASP181	I8	0.40	0.34	0.32
177	ASP182	I8	0.39	0.26	0.39
178	ASP183	I8	0.50	0.50	0.35
179	ASP184	I8	0.49	0.40	0.04
180	ASP185	I8～9	64.00	0.27	0.20
181	ASP186	I8～9	0.65	0.45	0.36
182	ASP187	I9	0.50	0.36	0.54
183	ASP188	I9	0.59	0.44	0.45
184	ASP189	I9	0.26	0.21	0.20
185	ASP190	I9	0.19	0.15	0.08
186	ASP192	I9	1.16	0.62	0.20
187	ASP193	I9	0.55	0.51	0.46
188	ASP194	I9	0.70	0.65	0.14
189	ASP195	I9	0.44	0.35	0.18
190	ASP197	I9	0.14	0.13	0.13
191	ASP198	I9	0.23	0.20	0.15
192	ASP199	I9	0.40	0.30	0.11
193	ASP200	I9	0.44	0.30	0.30
194	ASP201	I9	0.30	0.24	0.16
195	ASP202	I9	0.26	0.22	0.49
196	ASP203	I9	0.32	0.26	0.11
197	ASP204	I9	0.28	0.26	0.31
198	ASP205	I9	0.26	0.24	0.08
199	ASP206	I10	1.01	0.69	0.17
200	ASP207	I10	0.39	0.39	0.09
201	ASP208	I10	0.54	0.45	0.13
202	ASP209	I10	0.40	0.38	0.04
203	ASP210	I10	0.46	0.43	0.14
204	ASP211	I10	0.76	0.34	0.34
205	ASP212	I10	0.63	0.45	0.12
206	ASP213	I10	0.89	0.52	0.08
207	ASP214	I10	2.00	0.66	0.14
208	ASP215	I11	0.42	0.40	0.08
209	ASP216	I11	0.64	0.59	0.11
210	ASP217	J8	0.58	0.45	0.23
211	ASP218	J8	0.63	0.75	0.23
212	ASP219	J8	0.78	0.56	0.15
213	ASP220	J8	0.79	0.45	0.40
214	ASP222	J8	0.34	0.34	0.27
215	ASP223	J8	0.25	0.24	0.19

第9表　SP属性一覧表(2)

整理番号	遺構番号	グリッド	法量(m) 長軸	短軸	深さ
217	ASP2225	J9	0.27	0.26	0.35
218	ASP2226	J9	0.29	0.25	0.07
219	ASP2227	J9	0.64	0.34	0.16
220	ASP2228	J9	0.41	0.40	0.16
221	ASP2229	J9	0.59	0.45	0.64
222	ASP2230	J9	0.30	0.28	0.06
223	ASP2231	J9	0.30	0.26	0.09
224	ASP2232	J9	0.27	0.24	0.24
225	ASP2233	J9	0.59	0.61	0.23
226	ASP2234	J9	0.25	0.22	0.22
227	ASP2235	J9	0.43	0.32	0.18
228	ASP2236	J9	0.30	0.25	0.12
229	ASP2237	J9	0.23	0.19	0.24
230	ASP2238	J9	0.76	0.46	0.72
231	ASP2239	J9	0.85	0.42	0.29
232	ASP2240	J9	0.54	0.50	0.45
233	ASP2241	J9	0.36	0.37	0.36
234	ASP2242	J9～J10	0.40	0.35	0.20
235	ASP2243	J9～J10	0.80	0.44	0.13
236	ASP2244	J10	0.52	0.36	0.52
237	ASP2245	J10	0.40	0.36	0.17
238	ASP2246	J10	0.45	0.42	0.19
239	ASP2247	J10	0.85	0.35	0.11
240	ASP2248	J10	0.74	0.75	0.39
241	ASP2249	J10	0.60	0.75	0.39
242	ASP2250	J10	0.65	0.59	0.10
243	ASP2251	J10	0.40	0.43	0.10
244	ASP2252	J10	0.54	0.35	0.14
245	ASP2253	J10	0.44	0.35	0.07
246	ASP2254	J10	0.88	0.55	0.18
247	ASP2255	J10	0.53	0.53	0.53
248	ASP2256	J10	0.43	0.29	0.19
249	ASP2257	J10	0.59	0.34	0.26
250	ASP2258	J10	0.33	0.29	0.19
251	ASP2259	J11	0.34	0.30	0.12
252	ASP2260	J11	0.27	0.23	0.08
253	ASP2261	J11	0.50	0.41	0.08
254	ASP2262	G13	0.53	0.53	0.53
255	ASP2263	G12	0.34	0.76	0.02
256	ASP2264	G12	0.54	0.44	0.21
257	ASP2265	G12	0.48	0.40	0.02
258	ASP2266	G12	0.34	0.31	0.09
259	ASP2267	G12	0.65	0.50	0.03
260	ASP2268	G13～G13	0.24	0.20	0.10
261	ASP2269	G13	0.50	0.33	0.19
262	ASP2270	H11	0.25	0.29	0.09
263	ASP2271	H11	0.29	0.25	0.13
264	ASP2272	H11	0.34	29.00	0.21
265	ASP2273	H11	0.45	0.36	0.10
266	ASP2274	H11	0.23	0.20	0.05
267	ASP2275	H11	0.40	0.39	0.05
268	ASP2276	H12	0.55	0.44	0.18
269	ASP2277	H12	0.55	0.29	0.21
270	ASP2278	H12	0.87	0.78	0.10
271	ASP2280	H12	0.32	0.25	0.07
272	ASP2281	H12	0.89	0.65	0.12
273	ASP2282	H12	0.58	0.45	0.25
274	ASP2283	H12	0.40	0.36	0.19
275	ASP2284	H13	0.58	0.50	0.20
276	ASP2285	H13	0.39	0.29	0.15
277	ASP2286	H13	0.18	0.14	0.12
278	ASP2287	H13	0.21	0.20	0.17
279	ASP2288	H13	0.38	0.34	0.24
280	ASP2289	H13	0.18	0.17	0.17
281	ASP2290	I11	0.50	0.20	0.24
282	ASP2292	I11	0.36	0.34	0.11
283	ASP2294	I11	0.44	0.40	0.19
284	ASP2295	I11	0.39	0.31	0.11
285	ASP2296	I12	0.40	0.29	0.14
286	ASP2297	I12	0.34	0.29	0.18
287	ASP2298	I12	0.45	0.36	0.12
288	ASP2299	I12	0.21	0.20	0.15
289	ASP2300	I12	0.39	0.25	0.21
290	ASP2301	I12	0.40	0.36	0.11
291	ASP2302	I12	0.54	0.40	0.06
292	ASP2303	I12	0.40	0.25	0.14
293	ASP2304	I12	0.17	0.16	0.04
294	ASP2305	I12	0.19	0.18	0.05
295	ASP2306	I12	0.18	0.16	0.13
296	ASP2307	I12	0.25	0.24	0.28
297	ASP2308	I12	0.25	0.22	0.10
298	ASP2309	I12	0.24	0.15	0.05
299	ASP2310	I12	0.27	0.26	0.10
300	ASP2311	I12	0.76	0.66	0.20
301	ASP2312	I12	0.30	0.24	0.20
302	ASP2313	I12	0.48	0.44	0.03
303	ASP2314	I12	0.30	0.26	0.18
304	ASP2315	I12	0.64	0.34	0.16
305	ASP2316	I12	0.64	0.40	0.05
306	ASP2317	I12	0.33	0.23	0.17
307	ASP2318	I12	0.48	0.43	0.18
308	ASP2319	I12	0.26	0.21	0.15
309	ASP2320	I12	0.25	0.23	0.12
310	ASP2321	I12	0.19	0.16	0.08
311	ASP2322	I12	0.23	0.16	0.03
312	ASP2323	I12	0.28	0.25	0.11
313	ASP2324	I12	0.40	0.25	0.09
314	ASP2325	I12	0.30	0.26	0.07
315	ASP2326	I12	0.50	0.35	0.12
316	ASP2327	I12	0.45	0.40	0.18
317	ASP2328	I12	0.26	0.20	0.08
318	ASP2329	I13	0.70	0.58	0.25
319	ASP2330	I13	0.28	0.76	0.29
320	ASP2331	J11	0.39	0.32	0.11
321	ASP2332	J11	0.73	0.54	0.15
322	ASP2333	J11	0.39	0.33	0.09
323	ASP2334	J11	0.41	0.24	0.14
324	ASP2335	J11	0.32	0.24	0.28
325	ASP2336	J11	0.47	0.36	0.21
326	ASP2337	J12	0.24	0.23	0.05
327	ASP2338	J12	0.30	0.22	0.02
328	ASP2339	J12	0.36	0.35	0.17
329	ASP2340	J12	0.38	0.34	0.09
330	ASP2341	J12	0.32	0.28	0.01
331	ASP2342	J12	0.49	0.42	0.09
332	ASP2343	J12	0.29	0.26	0.18
333	ASP2344	J12	0.34	0.26	0.17
334	ASP2345	J12	0.49	0.39	0.27
335	ASP2346	J12	0.50	0.42	0.11
336	ASP2347	J12	0.27	0.25	0.06
337	ASP2348	J12	0.20	0.19	0.02
338	ASP2349	J12	0.20	0.20	0.18
339	ASP2350	J12	0.23	0.23	0.06
340	ASP2351	J12	0.55	0.35	0.03
341	ASP2352	J12	0.40	0.31	0.04
342	ASP2353	J13	0.64	0.50	0.27
343	ASP2354	J14	0.84	0.49	0.02
344	ASP2355	J5	0.50	0.46	0.17
345	ASP2356	J5	1.05	0.41	0.06
346	ASP2357	J5	0.26	0.21	0.09
347	ASP2358	J5	0.30	0.25	0.04
348	ASP2359	J5	0.21	0.18	0.12
349	ASP2360	J5	0.21	0.20	0.17
350	ASP2363	J6	0.59	0.46	0.11
351	ASP2364	J6	0.40	0.30	0.30
352	ASP2365	J6	0.34	0.30	0.33
353	ASP2366	J6	0.43	0.35	0.19
354	ASP2368	J6	1.19	1.00	0.18
355	ASP2369	J6	0.28	0.28	0.18
356	ASP2370	J6	0.49	0.31	0.06
357	ASP2371	J6	0.40	0.40	0.33
358	ASP2372	J6	0.59	0.50	0.49
359	ASP2373	J6	0.65	0.42	0.09
360	ASP2374	J6	0.78	0.45	0.40
361	ASP2375	J6	0.26	0.24	0.16
362	ASP2376	J6	0.29	0.24	0.19
363	ASP2377	J6	0.33	0.30	0.09
364	ASP2378	J6	0.25	0.20	0.07
365	ASP2379	I6～J6	0.84	0.80	0.08
366	ASP2380	J6～J7	0.65	0.40	0.39
367	ASP2381	J6～J7	0.58	0.44	0.06
368	ASP2382	J7	0.65	0.42	0.07
369	ASP2383	J7	0.90	0.70	0.22
370	ASP2384	J7	0.33	0.28	0.07
371	ASP2385	J7	0.20	0.18	0.07
372	ASP2386	J7	0.34	0.28	0.08
373	ASP2387	J7	0.39	0.31	0.14
374	ASP2388	J7	0.14	0.13	0.10
375	ASP2389	J7	0.30	0.30	0.11
376	ASP2390	J7	0.36	0.31	0.12
377	ASP2391	J7	0.75	0.66	0.58
378	ASP2393	J7	0.33	0.26	0.19
379	ASP2394	I7～J7	0.45	0.34	0.32
380	ASP2395	J7～J8	0.54	0.49	0.58
381	ASP2396	J8	0.43	0.35	0.11
382	ASP2397	J8	0.39	0.15	0.03
383	ASP2398	J8	0.36	0.15	0.29
384	ASP2399	J8	0.46	0.24	0.15
385	ASP1400	I5	0.29	0.23	0.09
386	ASP1401	I5	0.28	0.24	0.20
387	ASP1402	I5	0.36	0.30	0.17
388	ASP1403	I5	0.31	0.26	0.10
389	ASP1405	I5	0.26	0.21	0.04
390	ASP1406	I5	0.22	0.24	0.16
391	ASP1407	I5	0.21	0.20	0.16
392	ASP1408	I5	0.30	0.24	0.06
393	ASP1409	I5	0.29	0.20	0.21
394	ASP1410	I5	0.36	0.32	0.34
395	ASP1413	I5	0.20	0.20	0.07
396	ASP1414	I5.6	0.49	0.36	0.02
397	ASP1415	I5.6	0.45	0.45	0.22
398	ASP1416	I6	0.59	0.50	0.10
399	ASP1417	I6	0.40	0.26	0.19
400	ASP1418	I6	0.16	0.15	0.04
401	ASP1419	I6	0.20	0.17	0.09
402	ASP1420	I6	0.40	0.39	0.17
403	ASP1421	I6	0.64	0.73	0.14
404	ASP1422	I6	0.47	0.40	0.14
405	ASP1423	I6	0.41	0.35	0.14
406	ASP1424	I6	0.34	0.29	0.11
407	ASP1425	I7	0.70	0.54	0.35
408	ASP1426	I7	0.61	0.52	0.20
409	ASP1427	I7	0.45	0.44	0.08
410	ASP1428	I8	0.55	0.46	0.13
411	ASP1430	H5	0.46	0.44	0.24
412	ASP1431	H5	0.41	0.40	0.13
413	ASP1432	H5	0.26	0.21	0.21
414	ASP1433	H5	0.51	0.45	0.23
415	ASP1434	H5	0.36	0.35	0.12
416	ASP1436	H5	0.50	0.46	0.29
417	ASP1437	H5	0.69	0.26	0.12
418	ASP1438	G5～H5	0.96	0.63	0.34
419	ASP1439	G5	0.38	0.35	0.12
420	ASP1440	H7	0.55	0.46	0.18
421	ASP1441	H6	0.41	0.36	0.29
422	ASP1442	G6～H6	1.25	0.76	0.17
423	ASP1443	G6～H6	0.36	0.33	0.10
424	ASP1444	H7	0.33	0.30	0.17
425	ASP1445	H7	0.36	0.49	0.37
426	ASP1446	G5	0.40	0.49	0.53
427	ASP1447	G5	0.44	0.44	0.14
428	ASP1448	G5	0.66	0.49	0.02
429	ASP1450	G5	0.49	0.48	0.26
430	ASP1451	G6	0.39	0.32	0.17
431	ASP1452	G6	0.38	0.26	0.10
432	ASP1453	G7	0.47	0.45	0.17

第10表　SP 属性一覧表(3)

整理番号	遺構番号	グリッド	法量(m) 長軸	短軸	深さ
433	ASP454	G7	0.46	0.45	0.08
434	ASP455	G7	0.79	0.40	0.09
435	ASP456	F5	0.96	0.66	0.41
436	ASP457	F5	0.68	0.52	0.06
437	ASP458	F6	0.73	0.61	0.07
438	ASP461	F7	0.54	0.54	0.02
439	ASP462	F7	0.41	0.19	0.02
440	ASP463	E5	0.46	0.44	0.36
441	ASP464	D5	1.13	0.45	0.55
442	ASP465	E5	0.62	0.50	0.37
443	ASP466	E5	0.94	0.73	0.12
444	ASP467	E5	0.70	0.39	0.04
445	ASP468	E5	0.51	0.31	0.12
446	ASP469	E6	0.49	0.44	0.40
447	ASP470	E6	0.50	0.41	0.06
448	ASP471	D5	0.94	0.65	0.23
449	ASP472	D5	0.80	0.66	0.25
450	ASP474	D6	0.79	0.76	0.10
451	ASP475	D5	0.52	0.44	0.12
452	ASP477	D8	0.45	0.37	0.27
453	ASP478	F8, G8	0.50	0.45	0.56
454	ASP479	G7	0.46	0.21	0.10
455	ASP480	G8	0.39	0.43	0.28
456	ASP482	B10	0.39	0.40	0.22
457	ASP483	B11	0.50	0.47	0.14
458	ASP484	D9	0.40	0.38	0.33
459	ASP485	C11	0.47	0.40	0.12
460	ASP486	J8	0.75	0.60	0.10
461	ASP487	E10	0.56	0.50	0.32
462	ASP488	E10	0.56	0.51	0.46
463	ASP489	F9	0.96	0.51	0.34
464	ASP490	F11	0.89	0.64	0.31
465	ASP491	F9	1.06	0.52	0.19
466	ASP492	F11	0.79	0.62	0.29
467	ASP493	H5	0.94	0.84	0.33
468	ASP494	G12	0.39	0.35	0.19
469	ASP495	F12	0.78	0.74	0.19
470	ASP496	C9	0.55	0.55	0.09
71	ASP497	D8	0.41	0.40	0.29
472	ASP498	F9	0.78	0.50	0.34
473	ASP499	F10	0.36	0.34	0.12
474	ASP500	F10	1.30	0.84	0.18
475	ASP501	F10	1.15	0.88	0.11
476	ASP502	E11	0.50	0.24	0.12
477	ASP503	G10	0.24	0.16	0.07
478	ASP504	G10	0.93	0.80	0.17
479	ASP505	I8	0.22	0.16	0.26
480	ASP506	H9	0.66	0.51	0.12
481	ASP507	H9	0.49	0.36	0.13
482	ASP508	G10	0.48	0.40	0.44
483	ASP509	I10	0.56	0.37	0.01
484	ASP510	G12	0.25	0.24	0.25
485	ASP511	J8	0.14	0.14	0.11
486	ASP512	J8	0.40	0.15	0.15
487	ASP513	H13	0.19	0.19	0.17
488	ASP514	I7	0.46	0.34	0.19
489	ASP515	E5	0.65	0.45	0.22
490	ASP516	F6	0.46	0.39	0.22
491	BSP1	D3	0.28	0.27	0.09
492	BSP2	D3	0.41	0.32	0.13
493	BSP3	D3	0.30	0.29	0.11
494	BSP4	E2	0.50	0.35	0.11
495	BSP5	E2	0.40	0.38	0.13
496	BSP6	E3	0.31	0.21	0.14
497	BSP7	F3	0.35	0.34	0.07
498	BSP8	F4	0.24	0.21	0.04
499	BSP9	F3	0.33	0.32	0.15
500	BSP10	F3	0.32	0.29	0.10
501	BSP11	E4	0.27	0.26	0.06
502	BSP12	E4	0.24	0.29	0.07
503	BSP13	E4	0.27	0.18	0.09
504	BSP14	F4	0.55	0.49	0.27
505	BSP15	F4	0.32	0.31	0.25
506	BSP16	F4	0.25	0.21	0.17
507	BSP17	G3	0.33	0.27	0.15
508	BSP18	G3	0.22	0.20	0.14
509	BSP19	G3	0.37	0.28	0.16
510	BSP20	G3	0.26	0.22	0.17
511	BSP21	G3	0.27	0.26	0.15
512	BSP22	G3	0.16	0.15	0.10
513	BSP23	G3	0.13	0.10	0.07
514	BSP24	G3	0.13	0.13	0.11
515	BSP25	G3	0.20	0.14	0.09
516	BSP26	G3	0.18	0.17	0.10
517	BSP27	G3	0.18	0.17	0.11
518	BSP28	G3	0.14	0.10	0.10
519	BSP29	G3	0.15	0.15	0.05
520	BSP30	G3	0.15	0.14	0.09
521	BSP31	G3	0.28	0.26	0.20
522	BSP32	G3	0.29	0.28	0.15
523	BSP33	G3	0.15	0.11	0.10
524	BSP34	G3	0.25	0.19	0.17
525	BSP35	G3	0.25	0.23	0.13
526	BSP36	G3	0.28	0.26	0.12
527	BSP37	G3	0.35	0.32	0.21
528	BSP38	G3	0.17	0.13	0.12
529	BSP39	G3	0.31	0.28	0.17
530	BSP40	G3	0.28	0.24	0.17
531	BSP41	G3	0.23	0.22	0.18
532	BSP42	G3	0.29	0.26	0.16
533	BSP43	H3	0.34	0.32	0.15
534	BSP44	H3	0.49	0.20	0.22
535	BSP45	H3	0.48	0.35	0.16
536	BSP46	G4	0.43	0.30	0.31
537	BSP47	G4	0.38	0.23	0.12
538	BSP48	G4	0.24	0.21	0.03
539	BSP49	G4	0.31	0.23	0.23
540	BSP50	G3	0.34	0.28	0.18
541	BSP51	H3	0.36	0.27	0.09
542	BSP52	H4	0.29	0.25	0.02
543	BSP53	H3	0.24	0.23	0.16
544	BSP54	H3	0.31	0.30	0.06
545	BSP55	H3	0.23	0.21	0.11
546	BSP56	H3	0.34	0.27	0.09
547	BSP57	H3	0.19	0.18	0.11
548	BSP58	H3	0.52	0.32	0.21
549	BSP59	H3	0.33	0.27	0.37
550	BSP60	H3	0.30	0.24	0.24
551	BSP61	H3	0.26	0.21	0.23
552	BSP62	I3	0.29	0.25	0.19
553	BSP63	I3	0.30	0.28	0.12
554	BSP64	I3	0.55	0.45	0.11
555	BSP65	I3	0.25	0.23	0.15
556	BSP66	I3	0.40	0.30	0.15
557	BSP67	I4	0.23	0.20	0.14
558	BSP68	J3	0.49	0.41	0.20
559	BSP69	J3	0.60	0.36	0.47
560	BSP70	J3	0.37	0.29	0.19
561	BSP71	K3	0.25	0.20	0.06
562	BSP72	J3	0.82	0.81	0.32
563	BSP73	K3	0.54	0.44	0.35
564	BSP74	K3	0.37	0.32	0.20
565	BSP75	K4	0.24	0.20	0.23
566	BSP76	K3	0.42	0.39	0.11
567	BSP77	H3	0.51	0.47	0.27
568	BSP80	K5	0.50	0.35	0.09
569	BSP81	K3	0.35	0.31	0.31
570	BSP82	K3	0.45	0.38	0.31
571	BSP83	K3	0.43	0.35	0.06
572	BSP84	K3	0.29	0.28	0.05
573	BSP85	K3	0.71	0.41	0.37
574	BSP86	M5	0.45	0.30	0.18
575	BSP87	M5	0.27	0.26	0.10
576	BSP88	M5	0.33	0.29	0.13
577	BSP89	K3	0.50	0.41	0.05
578	BSP90	K3	0.40	0.37	0.21
579	BSP91	M5	0.19	0.16	0.26
580	BSP92	M5	0.44	0.36	0.11
581	BSP93	K3	0.35	0.28	0.09
582	BSP94	K3	0.20	0.16	0.12
583	BSP98	L3	0.35	0.28	0.14
584	BSP100	L3	0.24	0.22	0.12
585	BSP101	L3	0.37	0.30	0.21
586	BSP102	M3	0.42	0.30	0.38
587	BSP103	L3	0.30	0.24	0.08
588	BSP104	N5	0.16	0.14	0.02
589	BSP105	N5	0.22	0.19	0.13
590	BSP106	L3	0.47	0.42	0.15
591	BSP107	L3	0.19	0.18	0.05
592	BSP108	L3	0.23	0.17	0.14
593	BSP109	L3	0.24	0.19	0.36
594	BSP110	L3	0.27	0.23	0.16
595	BSP111	L3	0.24	0.23	0.15
596	BSP112	L3	0.47	0.26	0.17
597	BSP113	N5	0.35	0.30	0.09
598	BSP114	L3	0.28	0.26	0.18
599	BSP115	L3	0.25	0.21	0.09
600	BSP116	L3	0.28	0.22	0.11
601	BSP117	K4	0.32	0.32	0.28
602	BSP118	L4	0.36	0.35	0.32
603	BSP119	L4	0.36	0.35	0.31
604	BSP120	L4	0.32	0.32	0.20
605	BSP121	K5	0.16	0.15	0.10
606	BSP122	O5	0.49	0.34	0.20
607	BSP123	K5	0.23	0.21	0.10
608	BSP124	K5	0.23	0.21	0.11
609	BSP125	K6	0.31	0.22	0.16
610	BSP126	K5	0.40	0.30	0.24
611	BSP127	L5	0.35	0.17	0.06
612	BSP128	L5	0.23	0.22	0.20
613	BSP129	L5	0.25	0.23	0.12
614	BSP130	L5	0.28	0.27	0.16
615	BSP131	L5	0.44	0.23	0.14
616	BSP132	L6	0.23	0.21	0.06
617	BSP133	L5	0.27	0.23	0.12
618	BSP134	M5	0.72	0.47	0.11
619	BSP135	K6	0.20	0.16	0.24
620	BSP136	K6	0.19	0.17	0.15
621	BSP137	K6	0.38	0.31	0.25
622	BSP138	L6	0.33	0.27	0.21
623	BSP139	L6	0.40	0.36	0.42
624	BSP140	L6	0.28	0.20	0.03
625	BSP141	L6	0.32	0.31	0.06
626	BSP142	L6	0.32	0.28	0.14
627	BSP143	L6	0.29	0.26	0.12
628	BSP144	L6	0.28	0.24	0.28
629	BSP145	L6	0.27	0.20	0.13
30	BSP146	L6	0.35	0.15	0.06
631	BSP147	L7	0.29	0.25	0.18
632	BSP148	L6	0.35	0.35	0.11
633	BSP149	L6	0.25	0.20	0.15
634	BSP150	K7	0.36	0.35	0.21
635	BSP151	M6	0.27	0.23	0.09
636	BSP152	M6	0.38	0.30	0.24
637	BSP153	M6	0.30	0.26	0.24
638	BSP154	M6	0.20	0.17	0.09
639	BSP155	M6	0.43	0.25	0.18
640	BSP156	M6	0.27	0.21	0.11
641	BSP157	M6	0.20	0.19	0.14
642	BSP158	M6	0.27	0.24	0.19
643	BSP159	M6	0.30	0.20	0.14
644	BSP160	M6	0.27	0.20	0.03
645	BSP161	M6	0.21	0.19	0.08
646	BSP162	M6	0.18	0.17	0.16
647	BSP163	M6	0.41	0.36	0.12
648	BSP164	M6	0.43	0.39	0.20

第11表　SP属性一覧表（4）

整理番号	遺構番号	グリッド	法量（m） 長軸	短軸	深さ
649	BSP165	M6	0.56	0.35	0.31
650	BSP166	M7	0.32	0.30	0.24
651	BSP167	M7	1.25	0.69	0.22
652	BSP168	M7	0.43	0.15	0.35
653	BSP169	M7	0.29	0.25	0.17
654	BSP170	L7	0.27	0.22	0.11
655	BSP171	L7	0.38	0.35	0.26
656	BSP172	M5	0.26	0.26	0.07
657	BSP173	M5	0.30	0.23	0.19
658	BSP174	M5	0.27	0.23	0.20
659	BSP175	M5	0.53	0.35	0.19
660	BSP176	M5	0.67	0.53	0.47
661	BSP177	M5	0.32	0.30	0.11
662	BSP178	M5	0.31	0.29	0.13
663	BSP179	M5	0.26	0.23	0.17
664	BSP180	M5	0.30	0.25	0.24
665	BSP181	M5	0.42	0.32	0.21
666	BSP182	N5	0.35	0.30	0.13
667	BSP183	N5	0.45	0.38	0.12
668	BSP184	N5	0.24	0.22	0.07
669	BSP185	N5	0.40	0.37	0.10
670	BSP186	N5	0.26	0.23	0.10
671	BSP187	N5	0.59	0.35	0.23
672	BSP188	N5	0.36	0.30	0.15
673	BSP189	N5	0.20	0.18	0.13
674	BSP190	N5	0.48	0.35	0.16
675	BSP191	N5	0.59	0.39	0.04
676	BSP192	N5	0.44	0.36	0.12
677	BSP193	N5	0.39	0.31	0.21
678	BSP194	N5	0.18	0.16	0.01
679	BSP195	N4	0.50	0.40	0.24
680	BSP196	N4	0.96	0.46	0.64
681	BSP197	N4 N5	0.68	0.40	0.06
682	BSP198	N5	0.27	0.23	0.07
683	BSP199	N6	0.81	0.42	0.17
684	BSP200	N4	0.41	0.31	0.15
685	BSP201	N3	0.53	0.35	0.39
686	BSP203	N3	0.67	0.62	0.13
687	BSP204	N3	0.64	0.54	0.28
688	BSP205	N3	0.35	0.30	0.10
689	BSP206	N3 N4	0.52	0.50	0.43
690	BSP207	O4	0.51	0.44	0.24
691	BSP211	O4	0.25	0.19	0.18
692	BSP212	O4	0.26	0.26	0.29
693	BSP213	O4	0.46	0.39	0.16
694	BSP214	O4	0.45	0.44	0.26
695	BSP215	O3	0.29	0.21	0.14
696	BSP216	O3	0.21	0.20	0.10
697	BSP217	O3	0.52	0.40	0.28
698	BSP218	O3	0.46	0.35	0.26
699	BSP219	O3	0.65	0.40	0.18
700	BSP220	O3	0.42	0.34	0.17
701	BSP221	P3	0.47	0.45	0.13
702	BSP222	P3	0.45	0.22	0.12
703	BSP223	P3	0.45	0.35	0.05
704	BSP224	P4	0.51	0.30	0.07
705	BSP225	P4	0.26	0.25	0.08
706	BSP226	O7	0.88	0.82	0.40
707	BSP227	O7	0.47	0.41	0.40
708	BSP228	O7	0.54	0.46	0.41
709	BSP229	O7	0.47	0.41	0.36
710	BSP230	O7	0.48	0.41	0.28
711	BSP231	O7	0.51	0.39	0.16
712	BSP232	O6	0.40	0.34	0.28
713	BSP233	O6	0.29	0.26	0.19
714	BSP234	O6	0.48	0.45	0.24
715	BSP235	O6	0.39	0.35	0.32
716	BSP236	O6	0.36	0.31	0.15
717	BSP237	O6	0.65	0.56	0.48
718	BSP238	O6	0.40	0.30	0.30
719	BSP240	P7	0.52	0.51	0.57
720	BSP241	P7	0.46	0.44	0.36
721	BSP242	P7	0.40	0.32	0.32
722	BSP243	P7	0.46	0.43	0.26
723	BSP244	P7	0.23	0.22	0.10
724	BSP245	P7	0.42	0.34	0.17
725	BSP246	P7	0.34	0.30	0.14
726	BSP247	P7	0.23	0.22	0.05
727	BSP248	P7	0.68	0.54	0.28
728	BSP249	P7	0.28	0.21	0.13
729	BSP250	P7	0.56	0.48	0.40
730	BSP251	P7	0.47	0.35	0.20
731	BSP252	P7	0.26	0.25	0.10
732	BSP253	P7	0.48	0.35	0.20
733	BSP254	Q7	0.34	0.30	0.07
734	BSP255	P6	0.48	0.34	0.18
735	BSP256	P6	0.42	0.39	0.10
736	BSP257	P6	0.35	0.31	0.20
737	BSP258	P6	0.28	0.22	0.15
738	BSP259	P6	0.54	0.46	0.19
739	BSP260	Q7	0.40	0.39	0.17
740	BSP261	Q7	0.26	0.25	0.07
741	BSP262	Q7	0.31	0.28	0.14
742	BSP263	Q7	0.65	0.42	0.07
743	BSP264	Q7	0.26	0.25	0.16
744	BSP265	Q7	0.39	0.36	0.29
745	BSP266	Q7	0.32	0.25	0.14
746	BSP267	Q6	0.47	0.37	0.25
747	BSP268	Q6	0.36	0.32	0.24
748	BSP269	Q6	0.23	0.20	0.14
749	BSP270	Q6	0.28	0.24	0.08
750	BSP271	Q6	0.35	0.28	0.12
751	BSP272	Q6	0.20	0.18	0.07
752	BSP273	Q6	0.46	0.22	0.11
753	BSP274	Q6	0.37	0.26	0.23
754	BSP275	R7	0.24	0.18	0.10
755	BSP276	R7	0.37	0.27	0.10
756	BSP277	R7	0.51	0.38	0.36
757	BSP278	O5	0.28	0.27	0.09
758	BSP279	O5	0.29	0.27	0.18
759	BSP280	P5	0.40	0.31	0.19
760	BSP281	P5	0.27	0.25	0.11
761	BSP282	P5	0.36	0.31	0.34
762	BSP283	P5	0.31	0.26	0.12
763	BSP284	P5	0.40	0.36	0.18
764	BSP285	P5	0.57	0.55	0.22
765	BSP286	Q4	0.46	0.44	0.66
766	BSP287	Q5	0.35	0.32	0.22
767	BSP288	Q5	0.37	0.31	0.14
768	BSP289	Q5	0.31	0.30	0.19
769	BSP290	Q5	0.31	0.25	0.18
770	BSP291	Q5	0.31	0.22	0.80
771	BSP292	Q5	0.35	0.31	0.15
772	BSP293	Q5	0.40	0.33	0.31
773	BSP294	Q5	1.15	0.70	0.27
774	BSP295	R6	0.32	0.30	0.18
775	BSP296	R6	0.44	0.33	0.22
776	BSP297	Q5	0.35	0.31	0.19
777	BSP298	R5	0.44	0.40	0.14
778	BSP299	R5	0.45	0.36	0.22
779	BSP300	R5	0.48	0.45	0.20
780	BSP301	Q5	0.57	0.38	0.37
781	BSP302	R5	0.35	0.26	0.21
782	BSP303	R5	0.35	0.25	0.21
783	BSP304	R5	0.90	0.62	0.26
784	BSP305	R5	0.58	0.55	0.48
785	BSP306	Q4	0.37	0.36	0.34
786	BSP307	Q4	0.38	0.32	0.10
787	BSP308	Q4	0.51	0.40	0.28
788	BSP309	Q4	0.68	0.37	0.59
789	BSP310	Q4	0.55	0.38	0.10
790	BSP311	R4	0.57	0.44	0.31
791	BSP312	R4	0.84	0.36	0.11
792	BSP313	R4	0.31	0.19	0.10
793	BSP314	R4	0.37	0.28	0.07
794	BSP315	P3	0.71	0.41	0.36
795	BSP316	Q4	0.44	0.40	0.41
796	BSP317	P3	0.51	0.39	0.27
797	BSP318	Q4	0.50	0.40	0.26
798	BSP319	Q4	0.29	0.27	0.09
799	BSP320	R13	0.32	0.25	0.15
800	BSP321	Q4	0.62	0.60	0.20
801	BSP322	Q7	0.29	0.24	0.10
802	BSP323	Q6	0.32	0.27	0.08
803	BSP324	Q6	0.29	0.23	0.13
804	BSP325	R6	0.23	0.22	0.21
805	BSP326	M15	0.30	0.29	0.08
806	BSP327	M15	0.35	0.34	0.14
807	BSP328	M15	0.35	0.30	0.16
808	BSP329	M15	0.40	0.34	0.28
809	BSP330	N15	0.40	0.40	0.14
810	BSP331	M15	0.35	0.30	0.21
811	BSP332	M15	0.30	0.27	0.14
812	BSP333	M14	0.55	0.42	0.04
813	BSP334	M14	0.46	0.41	0.17
814	BSP335	M14	0.35	0.30	0.17
815	BSP336	M14	0.22	0.20	0.09
816	BSP337	N15	0.36	0.35	0.21
817	BSP338	N15	0.31	0.30	0.15
818	BSP339	N15	0.38	0.37	0.29
819	BSP340	N15	0.28	0.26	0.13
820	BSP341	N15	0.30	0.25	0.11
821	BSP342	N15	0.44	0.39	0.08
822	BSP343	N15	0.17	0.15	0.09
823	BSP344	N15	0.34	0.24	0.10
824	BSP345	N15	0.31	0.27	0.09
825	BSP346	N14	0.27	0.22	0.12
826	BSP347	N14	0.55	0.36	0.16
827	BSP348	N14	0.26	0.23	0.12
828	BSP349	N14	0.26	0.24	0.12
829	BSP350	N14	0.53	0.51	0.07
830	BSP351	N14	0.28	0.24	0.15
831	BSP352	N14	0.30	0.27	0.02
832	BSP353	N14	0.25	0.23	0.07
833	BSP354	N14	0.37	0.35	0.17
834	BSP355	N14	0.21	0.20	0.09
835	BSP356	L13	0.45	0.35	0.13
836	BSP357	L13	0.36	0.26	0.12
837	BSP358	L13	0.52	0.45	0.25
838	BSP359	L13	0.53	0.33	0.09
839	BSP360	L13	0.47	0.36	0.12
840	BSP361	L13	0.28	0.26	0.18
841	BSP362	L12	0.22	0.17	0.09
842	BSP363	L12	0.43	0.40	0.26
843	BSP364	L12	0.36	0.26	0.31
844	BSP365	L12	0.37	0.36	0.17
845	BSP366	L12	0.26	0.23	0.12
846	BSP367	L12	0.77	0.75	0.11
847	BSP368	L12	0.65	0.50	0.19
848	BSP369	L12	0.31	0.30	0.26
849	BSP370	L12	0.37	0.30	0.28
850	BSP371	L12	0.35	0.28	0.20
851	BSP372	L12	0.57	0.46	0.50
852	BSP373	L12	0.27	0.21	0.11
853	BSP374	M13	0.35	0.34	0.08
854	BSP375	M14	0.29	0.28	0.12
855	BSP376	M13	0.43	0.38	0.15
856	BSP377	M13	0.34	0.30	0.16
857	BSP378	M13	0.36	0.28	0.20
858	BSP379	M13	0.30	0.26	0.26
859	BSP380	M13	0.29	0.27	0.17
860	BSP381	M12	0.34	0.32	0.23
861	BSP382	M12	0.40	0.39	0.21
862	BSP383	M12	0.37	0.27	0.22
863	BSP384	M12	0.31	0.30	0.17
864	BSP385	M12	0.50	0.45	0.32

第12表　SP属性一覧表(5)

整理番号	遺構番号	グリッド	法量（m）		
			長軸	短軸	深さ
865	BSP386	M12	0.40	0.33	0.13
866	BSP387	M12	0.34	0.30	0.08
867	BSP388	M12	0.35	0.29	0.23
868	BSP389	M12	0.34	0.26	0.19
869	BSP390	M12	0.30	0.25	0.12
870	BSP391	M12	0.35	0.30	0.35
871	BSP392	M12	0.20	0.14	0.15
872	BSP393	N13	0.29	0.28	0.12
873	BSP394	N13	0.23	0.22	0.19
874	BSP395	N13	0.32	0.31	0.16
875	BSP396	N13	0.19	0.16	0.13
876	BSP397	N13	0.38	0.35	0.17
877	BSP398	N13	0.28	0.26	0.06
878	BSP399	N13	0.41	0.24	0.11
879	BSP400	N13	0.33	0.31	0.16
880	BSP401	N13	0.68	0.50	0.19
881	BSP402	N13	0.22	0.21	0.16
882	BSP403	N13	0.25	0.24	0.16
883	BSP404	N13	0.41	0.35	0.17
884	BSP405	N13	0.34	0.28	0.08
885	BSP406	N13	0.65	0.41	0.15
886	BSP407	N13	0.47	0.42	0.22
887	BSP408	N13	0.37	0.31	0.36
888	BSP409	N13	0.34	0.29	0.13
889	BSP410	N13	0.27	0.20	0.18
890	BSP411	N13	0.31	0.20	0.20
891	BSP412	N13	0.33	0.27	0.16
892	BSP413	N13	0.31	0.26	0.13
893	BSP414	N12	0.26	0.24	0.11
894	BSP415	N12	0.34	0.31	0.16
895	BSP416	N12	0.56	0.40	0.11
896	BSP417	N12	0.67	0.46	0.28
897	BSP418	N12	0.48	0.30	0.23
898	BSP419	N12	0.20	0.19	0.08
899	BSP420	N12	0.26	0.23	0.15
900	BSP421	N12	0.40	0.27	0.20
901	BSP422	N12	0.24	0.23	0.13
902	BSP423	N12	0.40	0.32	0.17
903	BSP424	N12	0.47	0.30	0.14
904	BSP425	N12	0.46	0.40	0.12
905	BSP426	N12	0.56	0.51	0.08
906	BSP427	N12	0.50	0.47	0.19
907	BSP428	N12	0.33	0.26	0.18
908	BSP429	N12	0.40	0.25	0.28
909	BSP430	N12	0.37	0.22	0.14
910	BSP431	N12	0.53	0.32	0.20
911	BSP432	L11	0.31	0.30	0.17
912	BSP433	L11	0.33	0.31	0.17
913	BSP434	L11	0.24	0.19	0.09
914	BSP435	L11	0.67	0.28	0.15
915	BSP436	L11	0.25	0.21	0.06
916	BSP437	L11	0.59	0.48	0.18
917	BSP438	L11	0.45	0.43	0.34
918	BSP439	L11	0.20	0.16	0.10
919	BSP440	L11	0.31	0.24	0.11
920	BSP441	L11	0.53	0.20	0.14
921	BSP442	M11	0.35	0.30	0.09
922	BSP443	L11	0.80	0.48	0.54
923	BSP444	L11	0.24	0.23	0.21
924	BSP445	M10	0.50	0.42	0.03
925	BSP446	M10	0.38	0.32	0.16
926	BSP447	M10	0.26	0.21	0.08
927	BSP448	M10	0.28	0.25	0.19
928	BSP449	M10	0.24	0.20	0.24
929	BSP450	L11	0.21	0.15	0.20
930	BSP451	M11	0.29	0.25	0.14
931	BSP452	M11	0.35	0.21	0.12
932	BSP453	M11	0.54	0.44	0.30
933	BSP454	M11	0.27	0.26	0.08
934	BSP455	M11	0.33	0.30	0.14
935	BSP456	M11	0.36	0.35	0.22
936	BSP457	M11	0.41	0.25	0.14
937	BSP458	M11	0.35	0.21	0.22
938	BSP459	N11	0.49	0.37	0.31
939	BSP460	N11	0.28	0.24	0.18
940	BSP461	N11	0.41	0.36	0.27
941	BSP462	N11	0.35	0.27	0.21
942	BSP463	N11	0.30	0.25	0.23
943	BSP464	N11	0.55	0.35	0.24
944	BSP465	N11	0.38	0.29	0.23
945	BSP466	N11	0.33	0.28	0.22
946	BSP467	N11	0.20	0.15	0.18
947	BSP468	N11	0.37	0.26	0.13
948	BSP469	N11	0.32	0.26	0.20
949	BSP470	N11	0.45	0.30	0.26
950	BSP471	N11	0.56	0.25	0.23
951	BSP472	N11	0.18	0.16	0.06
952	BSP473	N11	0.52	0.40	0.32
953	BSP474	N11	0.27	0.23	0.18
954	BSP475	N11	0.42	0.34	0.13
955	BSP476	L10	0.60	0.59	0.21
956	BSP477	L10	0.30	0.30	0.13
957	BSP478	L10	0.66	0.60	0.12
958	BSP479	L10	0.50	0.49	0.47
959	BSP480	M10	0.81	0.53	0.21
960	BSP481	M10	0.29	0.21	0.12
961	BSP482	L10	0.35	0.15	0.08
962	BSP483	L10	0.29	0.20	0.06
963	BSP484	M10	0.38	0.25	0.22
964	BSP485	L10	0.30	0.26	0.04
965	BSP486	L10	0.24	0.23	0.09
966	BSP487	L10	0.35	0.25	0.10
967	BSP488	L10	0.43	0.41	0.28
968	BSP489	L10	0.29	0.20	0.12
969	BSP490	L10	0.25	0.19	0.03
970	BSP491	L10	0.40	0.23	0.11
971	BSP492	L10	0.33	0.25	0.08
972	BSP493	L10	0.35	0.27	0.10
973	BSP494	L10	0.29	0.21	0.07
974	BSP495	M10	0.27	0.23	0.15
975	BSP496	M10	0.52	0.28	0.18
976	BSP497	N10	0.70	0.50	0.20
977	BSP498	N10	0.27	0.26	0.35
978	BSP499	N10	0.34	0.24	0.14
979	BSP500	N10	0.36	0.32	0.21
980	BSP501	N10	0.75	0.38	0.15
981	BSP502	N10	0.15	0.12	0.12
982	BSP503	N10	0.27	0.26	0.17
983	BSP504	N10	0.25	0.20	0.13
984	BSP505	N10	0.27	0.24	0.26
985	BSP506	L9	0.44	0.43	0.10
986	BSP507	L9	0.50	0.48	0.35
987	BSP508	L9	0.32	0.26	0.11
988	BSP509	L9	0.44	0.34	0.55
989	BSP510	L9	0.20	0.10	0.02
990	BSP511	L9	0.46	0.36	0.19
991	BSP512	L9	0.33	0.32	0.23
992	BSP513	L9	0.27	0.19	0.09
993	BSP514	L9	0.20	0.19	0.08
994	BSP515	L9	0.44	0.38	0.32
995	BSP516	L9	0.72	0.32	0.56
996	BSP517	L9	0.73	0.43	0.15
997	BSP518	K9	0.20	0.16	0.08
998	BSP519	L9	0.30	0.27	0.17
999	BSP520	L9	0.22	0.21	0.09
1000	BSP521	L9	0.24	0.17	0.04
1001	BSP522	L9	0.29	0.24	0.15
1002	BSP523	L9	0.34	0.23	0.16
1003	BSP524	L9	0.70	0.28	0.07
1004	BSP525	M9	0.30	0.19	0.35
1005	BSP526	M9	0.28	0.26	0.11
1006	BSP527	M9	0.35	0.33	0.10
1007	BSP528	M9	0.30	0.26	0.16
1008	BSP529	N9	0.60	0.36	0.16
1009	BSP530	N9	0.26	0.24	0.15
1010	BSP531	N9	0.22	0.14	0.10
1011	BSP532	N9	0.23	0.18	0.18
1012	BSP533	N9	0.22	0.21	0.10
1013	BSP534	N9	0.18	0.17	0.07
1014	BSP535	N9	0.22	0.19	0.15
1015	BSP536	N9	0.50	0.27	0.06
1016	BSP537	N9	0.38	0.36	0.15
1017	BSP538	O15	0.23	0.19	0.14
1018	BSP539	O15	0.30	0.21	0.13
1019	BSP540	O15	0.42	0.41	0.13
1020	BSP541	O15	0.55	0.42	0.15
1021	BSP542	O15	0.25	0.14	0.07
1022	BSP543	O15	0.45	0.34	0.24
1023	BSP544	O15	0.40	0.37	0.08
1024	BSP545	O15	0.28	0.22	0.14
1025	BSP546	O15	0.31	0.27	0.12
1026	BSP547	O15	0.37	0.26	0.04
1027	BSP548	O15	0.45	0.31	0.08
1028	BSP549	O16	0.50	0.38	0.15
1029	BSP550	P16	0.25	0.25	0.13
1030	BSP551	P16	0.36	0.34	0.21
1031	BSP552	P15	0.24	0.22	0.08
1032	BSP553	P15	0.23	0.20	0.10
1033	BSP554	P15	0.30	0.26	0.11
1034	BSP555	P15	0.41	0.30	0.14
1035	BSP556	P15	0.26	0.23	0.12
1036	BSP557	P15	0.25	0.21	0.13
1037	BSP558	P15	0.46	0.32	0.14
1038	BSP559	P15	0.46	0.33	0.08
1039	BSP560	P15	0.29	0.24	0.04
1040	BSP561	P15	0.62	0.45	0.07
1041	BSP562	P15	0.42	0.36	0.11
1042	BSP563	Q16	0.25	0.23	0.11
1043	BSP564	Q16	0.25	0.23	0.09
1044	BSP565	Q16	0.64	0.35	0.24
1045	BSP566	Q16	0.25	0.18	0.04
1046	BSP567	Q16	0.36	0.33	0.10
1047	BSP568	Q16	0.23	0.19	0.08
1048	BSP569	Q16	0.41	0.36	0.11
1049	BSP570	Q16	0.26	0.23	0.12
1050	BSP571	Q16	0.34	0.23	0.08
1051	BSP572	Q16	0.36	0.27	0.12
1052	BSP573	Q16	0.34	0.23	0.09
1053	BSP574	R16	0.36	0.29	0.15
1054	BSP575	R16	0.25	0.23	0.19
1055	BSP576	R16	0.37	0.29	0.11
1056	BSP577	R16	0.28	0.26	0.12
1057	BSP578	Q15	0.52	0.48	0.20
1058	BSP579	Q15	0.60	0.28	0.20
1059	BSP580	Q15	0.27	0.25	0.20
1060	BSP581	Q15	0.35	0.29	0.13
1061	BSP582	Q15	0.52	0.38	0.12
1062	BSP583	Q15	0.45	0.40	0.09
1063	BSP584	Q15	0.45	0.38	0.26
1064	BSP585	Q15	0.17	0.15	0.10
1065	BSP586	Q15	0.27	0.17	0.13
1066	BSP587	Q15	0.34	0.32	0.10
1067	BSP588	Q15	0.30	0.27	0.18
1068	BSP589	R15	0.40	0.35	0.12
1069	BSP590	R15	0.27	0.22	0.13
1070	BSP591	O14	0.64	0.59	0.23
1071	BSP592	O14	1.15	0.45	0.25
1072	BSP593	O14	0.35	0.30	0.16
1073	BSP594	O14	0.28	0.20	0.15
1074	BSP595	O14	0.21	0.18	0.05
1075	BSP596	O14	0.14	0.14	0.11
1076	BSP597	O14	0.19	0.19	0.16
1077	BSP598	O14	0.39	0.35	0.08
1078	BSP599	O14	0.45	0.36	0.28
1079	BSP600	O14	0.31	0.29	0.15
1080	BSP601	O14	0.41	0.39	0.13

第13表　SP属性一覧表（6）

整理番号	遺構番号	グリッド	法量（m） 長軸	短軸	深さ
1081	BSP602	O14	0.18	0.13	0.07
1082	BSP603	O14	0.30	0.28	0.11
1083	BSP604	O14	0.13	0.11	0.13
1084	BSP605	O14	0.62	0.24	0.14
1085	BSP606	O14	0.30	0.29	0.11
1086	BSP607	O14	0.36	0.23	0.13
1087	BSP608	O14	0.40	0.34	0.15
1088	BSP609	O14	0.34	0.24	0.09
1089	BSP610	O14	0.20	0.17	0.18
1090	BSP611	O14	0.20	0.18	0.25
1091	BSP612	O14	0.24	0.21	0.16
1092	BSP613	O14	0.83	0.36	0.21
1093	BSP614	O14	0.34	0.31	0.13
1094	BSP615	O14	0.25	0.24	0.17
1095	BSP616	O14	0.42	0.24	0.09
1096	BSP617	P14	0.38	0.33	0.09
1097	BSP618	P14	0.34	0.27	0.08
1098	BSP619	P14	0.34	0.29	0.10
1099	BSP620	P14	0.31	0.30	0.18
1100	BSP621	P14	0.50	0.45	0.09
1101	BSP622	P14	0.19	0.15	0.15
1102	BSP623	P14	0.30	0.25	0.13
1103	BSP624	P14	0.39	0.36	0.14
1104	BSP625	P14	0.29	0.24	0.15
1105	BSP626	P14	0.50	0.43	0.09
1106	BSP627	P14	0.31	0.27	0.18
1107	BSP628	P14	0.40	0.35	0.06
1108	BSP630	P14	0.30	0.28	0.24
1109	BSP631	P14	0.34	0.25	0.21
1110	BSP632	P14	0.45	0.41	0.24
1111	BSP633	Q14	0.41	0.32	0.14
1112	BSP634	Q14	0.22	0.16	0.11
1113	BSP635	Q14	0.34	0.19	0.07
1114	BSP636	Q14	0.49	0.25	0.07
1115	BSP637	Q14	0.36	0.26	0.16
1116	BSP638	Q14	0.30	0.21	0.11
1117	BSP639	Q14	0.39	0.30	0.10
1118	BSP640	Q14	0.24	0.22	0.12
1119	BSP641	Q14	0.20	0.17	0.02
1120	BSP642	Q14	0.25	0.22	0.22
1121	BSP643	R14	0.25	0.24	0.10
1122	BSP644	R14	0.55	0.25	0.09
1123	BSP645	R14	0.20	0.11	0.23
1124	BSP646	R14	0.34	0.15	0.10
1125	BSP647	O13	0.36	0.29	0.13
1126	BSP648	O13	0.29	0.27	0.21
1127	BSP649	O13	0.45	0.38	0.20
1128	BSP650	O13	0.29	0.25	0.24
1129	BSP651	O13	0.50	0.29	0.13
1130	BSP652	O13	0.45	0.24	0.21
1131	BSP653	O13	0.56	0.30	0.23
1132	BSP654	O13	0.34	0.31	0.12
1133	BSP655	O13	0.36	0.29	0.17
1134	BSP656	O13	0.51	0.33	0.14
1135	BSP657	O13	0.39	0.36	0.12
1136	BSP658	O13	0.21	0.19	0.22
1137	BSP659	O13	0.47	0.30	0.18
1138	BSP660	O13	0.41	0.31	0.10
1139	BSP661	O13	0.41	0.35	0.27
1140	BSP662	O13	0.27	0.26	0.14
1141	BSP663	O13	0.25	0.21	0.18
1142	BSP664	P13	0.43	0.16	0.11
1143	BSP665	P13	0.35	0.25	0.15
1144	BSP666	P13	0.24	0.22	0.09
1145	BSP667	P13	0.24	0.18	0.10
1146	BSP668	P13	0.34	0.30	0.17
1147	BSP669	P13	0.28	0.22	0.14
1148	BSP670	P13	0.50	0.36	0.20
1149	BSP671	P13	0.37	0.28	0.15
1150	BSP672	P13	0.47	0.34	0.31
1151	BSP673	P13	0.35	0.31	0.16
1152	BSP674	P13	0.37	0.32	0.15
1153	BSP675	P13	0.30	0.24	0.15
1154	BSP676	P13	0.60	0.43	0.16
1155	BSP677	P13	0.30	0.27	0.08
1156	BSP678	Q13	0.50	0.39	0.17
1157	BSP679	Q13	0.27	0.23	0.08
1158	BSP680	Q13	0.42	0.23	0.11
1159	BSP681	Q13	0.37	0.25	0.09
1160	BSP682	Q13	0.30	0.26	0.27
1161	BSP683	Q13	0.29	0.26	0.12
1162	BSP684	Q13	0.31	0.28	0.14
1163	BSP685	Q13	0.18	0.17	0.11
1164	BSP686	Q13	0.37	0.33	0.13
1165	BSP687	R13	0.27	0.26	0.12
1166	BSP688	Q13	0.45	0.33	0.08
1167	BSP689	R13	0.30	0.25	0.09
1168	BSP690	R13	0.71	0.32	0.32
1169	BSP691	R13	0.35	0.34	0.26
1170	BSP692	R13	0.41	0.33	0.08
1171	BSP693	R13	0.37	0.28	0.10
1172	BSP694	R13	0.43	0.16	0.36
1173	BSP695	O12	0.41	0.24	0.21
1174	BSP696	O12	0.44	0.21	0.13
1175	BSP697	O12	0.82	0.27	0.26
1176	BSP698	O12	0.25	0.21	0.20
1177	BSP699	O12	0.48	0.25	0.20
1178	BSP700	O12	0.25	0.20	0.30
1179	BSP701	O12	0.55	0.23	0.15
1180	BSP702	O12	0.57	0.24	0.08
1181	BSP703	O12	0.35	0.23	0.06
1182	BSP704	O12	0.30	0.21	0.18
1183	BSP705	O12	0.30	0.25	0.06
1184	BSP706	O12	0.78	0.32	0.18
1185	BSP707	O12	0.35	0.25	0.12
1186	BSP708	O12	0.25	0.23	0.14
1187	BSP709	O12	0.25	0.23	0.28
1188	BSP710	O12	0.45	0.40	0.12
1189	BSP711	P12	0.21	0.20	0.18
1190	BSP712	P12	0.33	0.29	0.08
1191	BSP713	P12	0.51	0.26	0.10
1192	BSP714	P12	0.52	0.33	0.06
1193	BSP715	P12	0.30	0.26	0.01
1194	BSP716	P12	0.26	0.23	0.06
1195	BSP717	P12	0.36	0.24	0.90
1196	BSP718	P12	0.23	0.21	0.11
1197	BSP719	P12	0.26	0.24	0.10
1198	BSP720	P12	0.35	0.31	0.20
1199	BSP721	P12	0.50	0.46	0.17
1200	BSP722	P12	0.34	0.31	0.18
1201	BSP723	P12	0.34	0.24	0.19
1202	BSP724	P12	0.51	0.32	0.22
1203	BSP725	P12	0.62	0.47	0.12
1204	BSP726	P12	0.38	0.34	0.16
1205	BSP727	P12	0.62	0.35	0.20
1206	BSP728	P13	0.18	0.15	0.13
1207	BSP729	P12	0.27	0.25	0.26
1208	BSP730	P12	0.25	0.24	0.32
1209	BSP731	P12	0.34	0.32	0.14
1210	BSP732	P12	0.25	0.21	0.09
1211	BSP733	Q12	0.20	0.18	0.18
1212	BSP734	P12	0.35	0.32	0.01
1213	BSP735	P12	0.78	0.40	0.10
1214	BSP736	Q12	0.38	0.35	0.15
1215	BSP737	P12	0.63	0.43	0.42
1216	BSP738	P12	0.16	0.14	0.14
1217	BSP739	P12	0.27	0.23	0.14
1218	BSP740	Q12	0.51	0.30	0.16
1219	BSP741	Q12	0.35	0.27	0.12
1220	BSP742	Q12	0.26	0.25	0.10
1221	BSP743	Q12	0.23	0.20	0.18
1222	BSP744	Q12	0.17	0.15	0.12
1223	BSP745	Q12	0.32	0.29	0.23
1224	BSP746	Q12	0.62	0.53	0.21
1225	BSP747	Q12	0.25	0.23	0.15
1226	BSP748	Q12	0.30	0.28	0.18
1227	BSP749	Q12	0.28	0.23	0.14
1228	BSP750	Q12	0.30	0.28	0.16
1229	BSP751	Q12	0.35	0.28	0.23
1230	BSP752	Q12	0.60	0.50	0.03
1231	BSP753	Q12	0.31	0.29	0.16
1232	BSP754	Q12	0.27	0.25	0.15
1233	BSP755	Q12	0.36	0.33	0.14
1234	BSP756	Q12	0.27	0.24	0.15
1235	BSP757	R12	0.23	0.20	0.24
1236	BSP758	R12	0.60	0.28	0.10
1237	BSP759	O11	0.30	0.23	0.12
1238	BSP760	O11	0.32	0.29	0.14
1239	BSP761	O11	0.23	0.17	0.10
1240	BSP762	O11	0.40	0.35	0.14
1241	BSP763	O11	0.44	0.36	0.13
1242	BSP764	O11	0.43	0.38	0.18
1243	BSP765	O11	0.61	0.49	0.16
1244	BSP766	O11	0.37	0.36	0.22
1245	BSP767	O11	0.46	0.31	0.22
1246	BSP768	P11	0.23	0.18	0.24
1247	BSP769	P11	0.25	0.24	0.24
1248	BSP770	P11	0.57	0.30	0.14
1249	BSP771	P11	0.56	0.50	0.09
1250	BSP772	P11	0.35	0.34	0.08
1251	BSP773	P11	0.22	0.20	0.18
1252	BSP774	P11	0.27	0.19	0.16
1253	BSP775	Q11	0.36	0.27	0.10
1254	BSP776	R11	0.37	0.33	0.25
1255	BSP777	Q11	0.27	0.25	0.08
1256	BSP778	O10	0.21	0.17	0.10
1257	BSP779	O10	0.31	0.23	0.16
1258	BSP780	O10	0.31	0.28	0.15
1259	BSP781	O10	0.41	0.40	0.21
1260	BSP782	O10	0.36	0.22	0.15
1261	BSP783	O10	0.25	0.22	0.12
1262	BSP784	O10	0.40	0.35	0.20
1263	BSP785	O10	0.25	0.21	0.16
1264	BSP786	O10	0.30	0.29	0.10
1265	BSP787	O10	0.30	0.26	0.11
1266	BSP788	O10	0.36	0.35	0.29
1267	BSP789	O10	0.27	0.25	0.20
1268	BSP790	O10	0.25	0.21	0.22
1269	BSP791	P10	0.40	0.25	0.18
1270	BSP792	P10	0.34	0.25	0.13
1271	BSP793	P10	0.36	0.30	0.15
1272	BSP794	P10	0.23	0.18	0.13
1273	BSP795	P10	0.27	0.23	0.10
1274	BSP796	P10	0.46	0.33	0.14
1275	BSP797	P10	0.37	0.30	0.10
1276	BSP798	Q10	0.40	0.37	0.08
1277	BSP799	Q10	0.20	0.18	0.10
1278	BSP800	R10	0.31	0.30	0.21
1279	BSP801	R10	0.27	0.25	0.12
1280	BSP802	L15	0.44	0.36	0.08
1281	BSP803	L14	0.46	0.33	0.07
1282	BSP804	L14	0.25	0.23	0.09
1283	BSP805	L14	0.42	0.40	0.06
1284	BSP806	L14	0.49	0.25	0.12
1285	BSP807	L14	0.43	0.40	0.11
1286	BSP808	L14	0.37	0.33	0.09
1287	BSP809	L14	0.20	0.18	0.13
1288	BSP810	L14	0.25	0.18	0.07
1289	BSP811	L14	0.18	0.15	0.13
1290	BSP812	L13	0.32	0.23	0.13
1291	BSP813	L13	0.35	0.26	0.10
1292	BSP814	L13	0.30	0.29	0.12
1293	BSP815	L13	0.47	0.37	0.19
1294	BSP816	L12	0.22	0.20	0.12
1295	BSP817	L12	0.48	0.27	0.19
1296	BSP818	L12	0.40	0.33	0.15

第14表　SP属性一覧表(7)

整理番号	遺構番号	グリッド	法量(m) 長軸	短軸	深さ
1297	BSP819	K13	0.50	0.48	0.09
1298	BSP820	K13	0.27	0.20	0.08
1299	BSP821	K13	0.32	0.27	0.16
1300	BSP822	K13	0.26	0.25	0.25
1301	BSP823	K13	0.21	0.20	0.10
1302	BSP824	K13	0.30	0.27	0.06
1303	BSP825	K12	0.44	0.40	0.06
1304	BSP826	K12	0.56	0.47	0.09
1305	BSP827	K12	0.20	0.17	0.09
1306	BSP828	K12	0.60	0.44	0.26
1307	BSP829	K12	0.35	0.30	0.21
1308	BSP830	K12	0.49	0.43	0.21
1309	BSP831	K13	0.28	0.27	0.13
1310	BSP832	K12	0.40	0.36	0.12
1311	BSP833	K12	0.44	0.24	0.33
1312	BSP834	K12	0.28	0.26	0.21
1313	BSP835	K12	0.28	0.21	0.14
1314	BSP836	K12	0.23	0.15	0.11
1315	BSP837	K12	0.24	0.19	0.18
1316	BSP838	K12	0.33	0.28	0.42
1317	BSP839	K12	0.31	0.30	0.32
1318	BSP840	K11	0.37	0.36	0.14
1319	BSP841	K11	0.55	0.46	0.36
1320	BSP842	K11	0.26	0.24	0.24
1321	BSP843	K11	0.30	0.28	0.15
1322	BSP844	K11	0.19	0.17	0.09
1323	BSP845	K11	0.46	0.38	0.25
1324	BSP846	K11	0.35	0.21	0.09
1325	BSP847	K11	0.43	0.41	0.18
1326	BSP848	K10	0.60	0.52	0.20
1327	BSP849	K10	0.42	0.37	0.30
1328	BSP850	K10	0.56	0.50	0.26
1329	BSP851	K10	1.21	0.64	0.12
1330	BSP852	K10	0.46	0.50	0.28
1331	BSP853	K9	0.53	0.50	0.12
1332	BSP854	K9	0.63	0.56	0.53
1333	BSP855	K9	0.56	0.54	0.40
1334	BSP856	K9	0.40	0.36	0.10
1335	BSP857	K9	0.54	0.45	0.40
1336	BSP858	K9	0.50	0.47	0.47
1337	BSP859	K9	0.62	0.51	0.32
1338	BSP860	K8	0.74	0.49	0.12
1339	BSP861	K7	0.54	0.48	0.28
1340	BSP862	K7	0.64	0.40	0.44
1341	BSP863	K7	0.47	0.23	0.19
1342	BSP864	K7	0.39	0.34	0.45
1343	BSP865	K7	0.24	0.20	0.06
1344	BSP866	K7	0.60	0.49	0.08
1345	BSP867	K7	0.24	0.22	0.12
1346	BSP868	K7	0.35	0.30	0.12
1347	BSP869	K7	0.38	0.30	0.07
1348	BSP870	K7	0.40	0.39	0.15
1349	BSP871	L7	0.44	0.42	0.26
1350	BSP872	L7	0.41	0.35	0.36
1351	BSP873	K6	0.72	0.42	0.30
1352	BSP874	K6	0.23	0.16	0.27
1353	BSP875	K6	0.20	0.18	0.18
1354	BSP876	K6	0.46	0.40	0.42
1355	BSP877	K6	0.55	0.24	0.13
1356	BSP878	K6	0.49	0.42	0.35
1357	BSP879	K6	0.23	0.21	0.35
1358	BSP880	K5	0.45	0.38	0.06
1359	BSP881	K5	0.37	0.24	0.23
1360	BSP882	K5	0.19	0.19	0.14
1361	BSP883	K5	0.21	0.20	0.16
1362	BSP884	K5	0.60	0.45	0.10
1363	BSP885	K5	0.25	0.21	0.10
1364	BSP886	K5	0.50	0.41	0.05
1365	BSP887	K4	0.56	0.46	0.20
1366	BSP888	K4	0.25	0.22	0.24
1367	BSP889	K4	0.46	0.37	0.35
1368	BSP890	K4	0.48	0.37	0.47

整理番号	遺構番号	グリッド	法量(m) 長軸	短軸	深さ
1369	BSP891	K7	0.49	0.38	0.39
1370	BSP892	O7	0.40	0.23	0.45
1371	BSP893	O7	1.09	0.78	0.28
1372	BSP894	O7	0.49	0.45	0.12
1373	BSP895	O7	0.40	0.38	0.51
1374	BSP896	N7	0.39	0.35	0.12
1375	BSP897	N7	0.50	0.40	0.19
1376	BSP898	N7	0.65	0.60	0.38
1377	BSP899	N7	0.47	0.38	0.15
1378	BSP900	N7	0.49	0.46	0.15
1379	BSP901	K7	0.44	0.36	0.36
1380	BSP902	K7 L7	0.50	0.41	0.08
1381	BSP903	M7	0.17	0.15	0.10
1382	BSP904	M7	0.22	0.21	0.15
1383	BSP905	M7	0.21	0.20	0.11
1384	BSP906	M6	0.16	0.15	0.02
1385	BSP907	M6	0.15	0.13	0.03
1386	BSP908	M6	0.35	0.28	0.07
1387	BSP909	M7	0.35	0.15	0.08
1388	BSP910	M6	0.37	0.17	0.09
1389	BSP911	M7	0.21	0.17	0.14
1390	BSP912	M7	0.23	0.19	0.12
1391	BSP913	M7	0.20	0.17	0.14
1392	BSP914	M7	0.30	0.19	0.06
1393	BSP915	M7	0.27	0.27	0.16
1394	BSP916	M7	0.90	0.52	0.31
1395	BSP917	M7	0.87	0.36	0.13
1396	BSP918	M7	0.11	0.07	0.10
1397	BSP919	M7	0.09	0.07	0.11
1398	BSP920	M7	0.31	0.26	0.17
1399	BSP921	M7	0.32	0.24	0.20
1400	BSP922	M7	0.37	0.33	0.64
1401	BSP923	M7	0.33	0.28	0.43
1402	BSP924	M7	0.74	0.30	0.12
1403	BSP925	M7	0.45	0.40	0.21
1404	BSP926	M7	0.14	0.13	0.02
1405	BSP927	M8	0.65	0.50	0.20
1406	BSP928	M7	0.20	0.18	0.06
1407	BSP929	M7	0.37	0.20	0.21
1408	BSP930	N7	0.91	0.45	0.51
1409	BSP931	N7	0.44	0.31	0.50
1410	BSP932	N7	0.24	0.20	0.09
1411	BSP933	N7	0.74	0.35	0.23
1412	BSP934	N8	0.65	0.35	0.20
1413	BSP935	N8	0.67	0.39	0.09
1414	BSP936	N8	0.30	0.24	0.17
1415	BSP937	N8	0.31	0.22	0.19
1416	BSP938	N8	0.64	0.49	0.20
1417	BSP939	N8	0.77	0.38	0.28
1418	BSP940	N8	0.30	0.24	0.10
1419	BSP941	O7	0.50	0.47	0.58
1420	BSP942	O8	0.61	0.60	0.10
1421	BSP943	O8	0.65	0.60	0.62
1422	BSP944	O8	1.34	0.58	0.11
1423	BSP945	K8	0.45	0.30	0.10
1424	BSP946	L8	0.78	0.43	0.70
1425	BSP947	L8	0.40	0.31	0.05
1426	BSP948	K9	0.52	0.40	0.38
1427	BSP949	K9	0.37	0.35	0.20
1428	BSP950	D4	0.68	0.66	0.38
1429	BSP951	D4	0.96	0.74	0.46
1430	BSP952	D4	0.30	0.24	0.21
1431	BSP953	D4	0.77	0.43	0.20
1432	BSP954	D4	0.50	0.45	0.39
1433	BSP955	D4	0.26	0.19	0.12
1434	BSP956	D4	0.23	0.22	0.11
1435	BSP957	E4	0.31	0.30	0.07
1436	BSP958	E4	0.28	0.24	0.11
1437	BSP959	E4	0.55	0.38	0.17
1438	BSP960	E4	0.49	0.43	0.10
1439	BSP961	F4	0.46	0.38	0.22
1440	BSP962	F4 G4	0.80	0.57	0.54

整理番号	遺構番号	グリッド	法量(m) 長軸	短軸	深さ
1441	BSP963	G4	0.46	0.41	0.39
1442	BSP964	G4	0.52	0.25	0.10
1443	BSP965	G4	0.41	0.30	0.26
1444	BSP966	G4	0.60	0.35	0.16
1445	BSP967	G4	0.31	0.30	0.27
1446	BSP968	G4	0.51	0.48	0.27
1447	BSP969	G4	0.44	0.43	0.23
1448	BSP970	H4	0.31	0.25	0.21
1449	BSP971	H4	0.63	0.43	0.21
1450	BSP972	H4	0.60	0.23	0.09
1451	BSP973	H4	0.47	0.33	0.50
1452	BSP974	H4	0.29	0.25	0.14
1453	BSP975	H4	0.57	0.45	0.47
1454	BSP976	H4	0.25	0.20	0.18
1455	BSP977	H4	0.45	0.41	0.27
1456	BSP978	H4	0.23	0.21	0.14
1457	BSP979	I4	0.45	0.42	0.22
1458	BSP980	I4	0.35	0.25	0.05
1459	BSP981	H4	0.34	0.31	0.18
1460	BSP982	H4	0.32	0.28	0.18
1461	BSP983	I4	0.30	0.30	0.14
1462	BSP984	H4	0.44	0.33	0.20
1463	BSP985	I4	0.22	0.20	0.05
1464	BSP986	I4	0.30	0.26	0.13
1465	BSP987	H4	0.68	0.45	0.19
1466	BSP988	H4	0.48	0.38	0.30
1467	BSP989	J4	0.31	0.25	0.13
1468	BSP990	J4	0.50	0.42	0.44
1469	BSP991	J4	0.43	0.39	0.50
1470	BSP992	J4	0.29	0.28	0.21
1471	BSP993	J4	0.44	0.20	0.16
1472	BSP994	L4	0.56	0.32	0.04
1473	BSP995	M4	0.23	0.21	0.13
1474	BSP996	J4	0.34	0.29	0.25
1475	BSP997	J4	0.43	0.36	0.49
1476	BSP998	J4	0.28	0.19	0.03
1477	BSP999	M4	0.38	0.33	0.19
1478	BSP1000	J4	0.48	0.45	0.58
1479	BSP1001	J4	0.25	0.23	0.15
1480	BSP1002	J4	0.26	0.22	0.11
1481	BSP1003	N4	0.61	0.56	0.23
1482	BSP1004	J4	0.33	0.31	0.25
1483	BSP1005	O3	0.32	0.31	0.17
1484	BSP1006	O3	0.29	0.25	0.13
1485	BSP1007	O3	0.75	0.63	0.20
1486	BSP1008	O3	0.49	0.24	0.12
1487	BSP1009	O3	0.72	0.55	0.19
1488	BSP1010	O2	0.65	0.59	0.23
1489	BSP1011	O3	0.51	0.34	0.18
1490	BSP1012	N3	0.79	0.61	0.37
1491	BSP1013	N2	0.52	0.48	0.53
1492	BSP1014	O3	0.84	0.79	0.63
1493	BSP1015	O2	0.42	0.37	0.34
1494	BSP1016	P2	0.38	0.34	0.19
1495	BSP1017	P2	0.42	0.33	0.52
1496	BSP1018	P2	0.46	0.43	0.39
1497	BSP1019	P3	0.64	0.43	0.54
1498	BSP1020	N2	0.44	0.40	0.62
1499	BSP1021	N2	0.51	0.48	0.23
1500	BSP1022	P3	0.91	0.60	0.22
1501	BSP1023	P3	0.74	0.38	0.15
1502	BSP1024	O2	0.67	0.48	0.57
1503	BSP1025	O3	0.51	0.42	0.13
1504	BSP1026	N3	0.45	0.40	0.06
1505	BSP1027	N3	0.23	0.20	0.06
1506	BSP1028	N3	0.35	0.29	0.19
1507	BSP1029	N3	0.34	0.31	0.27
1508	BSP1030	N3	0.47	0.45	0.09
1509	BSP1031	N3	0.56	0.40	0.33
1510	BSP1032	N3	0.45	0.43	0.22
1511	BSP1033	N3	0.33	0.20	0.20
1512	BSP1034	N3	0.36	0.30	0.17

第15表　SP属性一覧表(8)

整理番号	遺構番号	グリッド	法量(m) 長軸	短軸	深さ
1513	BSP1035	O3	0.55	0.40	0.18
1514	BSP1036	O3	0.41	0.35	0.24
1515	BSP1037	O3	0.35	0.30	0.44
1516	BSP1038	P3	0.60	0.50	0.25
1517	BSP1039	P3	0.55	0.47	0.17
1518	BSP1040	P3	0.44	0.37	0.33
1519	BSP1041	P3	0.89	0.74	0.08
1520	BSP1042	P3	0.75	0.28	0.15
1521	BSP1043	P3	0.89	0.75	0.10
1522	BSP1044	N2	0.47	0.41	0.12
1523	BSP1045	N2	0.45	0.32	0.09
1524	BSP1046	N2	0.32	0.21	0.06
1525	BSP1047	N2	0.27	0.25	0.20
1526	BSP1048	N2	0.64	0.40	0.27
1527	BSP1049	N2	0.51	0.27	0.08
1528	BSP1050	N2	0.37	0.36	0.12
1529	BSP1051	N2	0.41	0.24	0.06
1530	BSP1052	N2	0.49	0.40	0.06
1531	BSP1053	N2	0.28	0.19	0.12
1532	BSP1054	N2	0.33	0.24	0.13
1533	BSP1055	N2	0.34	0.31	0.11
1534	BSP1056	N2	0.43	0.33	0.17
1535	BSP1057	N2	0.49	0.44	0.17
1536	BSP1058	N2	0.55	0.44	0.16
1537	BSP1059	N2	0.52	0.47	0.40
1538	BSP1060	N2	0.25	0.23	0.17
1539	BSP1061	N2	1.20	0.40	0.20
1540	BSP1062	N2	0.51	0.48	0.40
1541	BSP1063	N2	0.65	0.56	0.20
1542	BSP1064	O2	0.56	0.43	0.11
1543	BSP1065	O2	0.38	0.35	0.15
1544	BSP1066	O2	0.65	0.55	0.15
1545	BSP1067	O2	0.43	0.38	0.33
1546	BSP1068	O2	0.30	0.27	0.29
1547	BSP1069	O2	0.21	0.19	0.11
1548	BSP1070	O2	0.23	0.22	0.06
1549	BSP1071	O2	0.55	0.20	0.12
1550	BSP1072	O2	0.42	0.35	0.15
1551	BSP1073	O2	0.53	0.44	0.24
1552	BSP1074	O2	0.24	0.21	0.16
1553	BSP1075	O2	0.27	0.25	0.25
1554	BSP1076	O2	0.44	0.23	0.14
1555	BSP1077	O2	0.30	0.23	0.16
1556	BSP1078	O2	0.21	0.20	0.22
1557	BSP1079	O2	0.25	0.20	0.14
1558	BSP1080	O2	0.37	0.25	0.09
1559	BSP1081	O2	0.31	0.25	0.14
1560	BSP1082	O2	0.56	0.46	0.16
1561	BSP1083	O2	0.42	0.37	0.38
1562	BSP1084	O2	0.46	0.45	0.24
1563	BSP1085	P2	0.40	0.30	0.22
1564	BSP1086	P2	0.42	0.21	0.12
1565	BSP1087	O2	0.64	0.47	0.18
1566	BSP1088	O2	0.50	0.46	0.17
1567	BSP1089	O2	0.45	0.32	0.24
1568	BSP1090	N1	0.75	0.54	0.11
1569	BSP1091	N1	0.90	0.46	0.19
1570	BSP1092	N1	0.40	0.37	0.18
1571	BSP1093	N1	0.33	0.29	0.24
1572	BSP1094	O1	0.36	0.30	0.16
1573	BSP1095	O1	0.45	0.38	0.23
1574	BSP1096	O1	0.33	0.31	0.20
1575	BSP1097	O1	0.32	0.24	0.21
1576	BSP1098	N1	0.25	0.23	0.08
1577	BSP1099	N1	0.30	0.25	0.04
1578	BSP1100	O1	0.57	0.44	0.12
1579	BSP1101	O1	0.36	0.31	0.30
1580	BSP1102	O1	0.35	0.28	0.14
1581	BSP1103	O1	0.36	0.30	0.14
1582	BSP1104	O1	0.36	0.34	0.14
1583	BSP1105	O1	0.44	0.25	0.37
1584	BSP1106	O1	0.72	0.37	0.25
1585	BSP1107	O1	0.95	0.58	0.17
1586	BSP1108	K8	0.57	0.51	0.13
1587	BSP1109	K7	0.33	0.28	0.02
1588	BSP1110	K7	0.41	0.37	0.25
1589	BSP1111	K7	0.80	0.58	0.59
1590	BSP1112	K8	0.43	0.32	0.06
1591	BSP1113	K9	0.67	0.50	0.53
1592	BSP1114	K9	0.51	0.42	0.28
1593	BSP1115	L9	0.64	0.48	0.38
1594	BSP1116	L8	0.56	0.43	0.39
1595	BSP1117	K8	0.60	0.33	0.24
1596	BSP1118	K9	0.73	0.66	0.23
1597	BSP1119	K9	0.35	0.34	0.20
1598	BSP1120	K4	0.51	0.42	0.51
1599	BSP1121	K4	0.95	0.50	0.36
1600	BSP1122	K4	0.56	0.48	0.60
1601	BSP1123	K5	0.75	0.58	0.30
1602	BSP1124	K5・K6	0.66	0.54	0.20
1603	BSP1125	K5・K6	0.44	0.34	0.31
1604	BSP1126	K5・K6	0.56	0.51	0.23
1605	BSP1127	N4	0.60	0.42	0.52
1606	BSP1128	K6	0.77	0.45	0.46
1607	BSP1129	K6	0.85	0.69	0.36
1608	BSP1130	K6	0.92	0.80	0.51
1609	BSP1131	K7	0.40	0.30	0.23
1610	BSP1132	O4	0.55	0.42	0.26
1611	BSP1133	O4	0.49	0.40	0.60
1612	BSP1134	O4	0.63	0.61	0.61
1613	BSP1135	O4	0.65	0.35	0.07
1614	BSP1136	P4	0.78	0.51	0.15
1615	BSP1137	P4	0.90	0.62	0.30
1616	BSP1138	O6	0.60	0.50	0.26
1617	BSP1139	O7	0.77	0.71	0.49
1618	BSP1140	P6	0.97	0.67	0.28
1619	BSP1141	Q6	0.74	0.69	0.14
1620	BSP1142	L11	0.81	0.89	0.22
1621	BSP1143	K12	0.85	0.84	0.37
1622	BSP1144	L14	0.74	0.70	0.12
1623	BSP1145	K14	0.81	0.40	0.18
1624	BSP1146	K14	0.78	0.61	0.15
1625	BSP1147	L14	0.73	0.28	0.11
1626	BSP1148	O16	0.94	0.49	0.17
1627	BSP1149	P15	0.89	0.72	0.19
1628	BSP1150	Q16	0.86	0.55	0.07
1629	BSP1151	Q15	0.33	0.26	0.14
1630	BSP1152	R15	0.85	0.45	0.19
1631	BSP1153	G3	0.54	0.39	0.14
1632	BSP1154	K5	0.53	0.36	0.35
1633	BSP1155	Q14	0.56	0.17	0.10
1634	BSP1161	D4	0.17	0.16	0.08
1635	BSP1162	E4	0.22	0.20	0.10
1636	BSP1163	E4	0.65	0.26	0.05
1637	BSP1164	F4	0.17	0.16	0.02
1638	BSP1165	F4	0.65	0.36	0.26
1639	BSP1166	F4	0.41	0.36	0.20
1640	BSP1167	H4	0.35	0.20	0.24
1641	BSP1168	M5	0.49	0.37	0.05
1642	BSP1169	N5	0.40	0.34	0.15
1643	BSP1170	N5	0.48	0.42	0.18
1644	BSP1171	K7	0.26	0.21	0.16
1645	BSP1172	L7	0.70	0.47	0.13
1646	BSP1173	L7	0.27	0.26	0.03
1647	BSP1174	L7	0.30	0.21	0.11
1648	BSP1175	L7	0.28	0.24	0.07
1649	BSP1176	L7	0.20	0.26	0.17
1650	BSP1177	L7	0.31	0.25	0.18
1651	BSP1178	L7	0.20	0.11	0.08
1652	BSP1179	L7	0.27	0.23	0.07
1653	BSP1180	M6	0.28	0.17	0.01
1654	BSP1181	M6	0.30	0.26	0.24
1655	BSP1182	M6	0.55	0.37	0.11
1656	BSP1183	M6	0.55	0.39	0.16
1657	BSP1184	M6	0.23	0.21	0.24
1658	BSP1185	M6	0.12	0.11	0.03
1659	BSP1186	M6	0.13	0.10	0.01
1660	BSP1187	N7	0.44	0.30	0.22
1661	BSP1188	N7	0.32	0.26	0.17
1662	BSP1189	O4	0.43	0.23	0.18
1663	BSP1190	O4	0.21	0.16	0.09
1664	BSP1191	O4	0.36	0.25	0.04
1665	BSP1192	O4	0.61	0.25	0.09
1666	BSP1193	O4	0.66	0.36	0.05
1667	BSP1194	O4	0.43	0.40	0.06
1668	BSP1195	O4	0.44	0.41	0.14
1669	BSP1196	O4	0.37	0.29	0.10
1670	BSP1197	O4	0.94	0.41	0.33
1671	BSP1198	P4	0.45	0.41	0.18
1672	BSP1199	P4	0.27	0.25	0.09
1673	BSP1200	P4	0.26	0.15	0.19
1674	BSP1201	P4	0.18	0.17	0.29
1675	BSP1202	P4	0.43	0.43	0.17
1676	BSP1203	P4	0.59	0.50	0.26
1677	BSP1204	P4	0.34	0.30	0.08
1678	BSP1205	Q4	0.40	0.39	0.19
1679	BSP1206	Q4	0.75	0.37	0.12
1680	BSP1207	Q4	0.60	0.53	0.26
1681	BSP1208	Q4	0.48	0.40	0.34
1682	BSP1209	Q4	0.28	0.27	0.21
1683	BSP1210	O5	0.40	0.36	0.05
1684	BSP1211	O5	0.49	0.39	0.23
1685	BSP1212	O6	0.30	0.26	0.07
1686	BSP1213	O6	0.57	0.37	0.11
1687	BSP1214	O6	0.40	0.25	0.14
1688	BSP1215	O7	0.54	0.47	0.45
1689	BSP1216	O7	0.48	0.39	0.23
1690	BSP1217	O7	0.46	0.25	0.17
1691	BSP1218	O7	1.20	0.43	0.28
1692	BSP1219	O7	0.25	0.20	0.22
1693	BSP1220	P5	0.50	0.36	0.11
1694	BSP1221	P5	0.51	0.40	0.28
1695	BSP1222	P5	0.33	0.25	0.16
1696	BSP1223	P5	0.30	0.21	0.10
1697	BSP1224	P6	0.45	0.16	0.10
1698	BSP1225	P6	0.42	0.16	0.13
1699	BSP1226	P7	0.42	0.23	0.10
1700	BSP1227	P7	0.46	0.43	0.38
1701	BSP1228	P7	0.60	0.48	0.66
1702	BSP1229	Q5	0.26	0.24	0.13
1703	BSP1230	Q5	0.19	0.18	0.07
1704	BSP1231	Q5	0.26	0.24	0.07
1705	BSP1232	Q6	0.24	0.21	0.14
1706	BSP1233	Q7	0.25	0.24	0.14
1707	BSP1234	Q7	0.22	0.19	0.13
1708	BSP1235	R5	0.33	0.27	0.27
1709	BSP1236	R5	0.62	0.40	0.12
1710	BSP1237	K8	0.57	0.36	0.10
1711	BSP1238	K9	0.21	0.17	0.10
1712	BSP1239	K9	0.42	0.29	0.05
1713	BSP1240	K9	0.35	0.28	0.12
1714	BSP1241	K9	0.31	0.25	0.22
1715	BSP1242	L8	0.26	0.17	0.15
1716	BSP1243	L8	0.20	0.18	0.04
1717	BSP1244	L8	0.87	0.45	0.10
1718	BSP1245	M8	0.43	0.32	0.16
1719	BSP1246	M8	0.35	0.25	0.35
1720	BSP1247	M8	0.70	0.43	0.09
1721	BSP1248	M8	0.48	0.38	0.08
1722	BSP1249	M8	0.25	0.22	0.13
1723	BSP1250	M8	0.36	0.33	0.15
1724	BSP1251	M8	0.35	0.27	0.24
1725	BSP1252	M8	0.23	0.18	0.08
1726	BSP1253	M8	0.50	0.30	0.24
1727	BSP1254	M8	0.36	0.15	0.12
1728	BSP1255	M9	0.30	0.11	0.15

第16表　SP属性一覧表(9)

整理番号	道構番号	グリッド	法量(m) 長軸	短軸	深さ
1729	BSP1256	M9	0.25	0.24	0.21
1730	BSP1257	M9	0.34	0.19	0.18
1731	BSP1258	M9	0.43	0.20	0.12
1732	BSP1259	M9	0.37	0.25	0.13
1733	BSP1260	M9	0.22	0.19	0.13
1734	BSP1261	M9	0.24	0.22	0.06
1735	BSP1262	M9	0.37	0.25	0.01
1736	BSP1263	M9	0.61	0.53	0.09
1737	BSP1264	M9	0.17	0.13	0.17
1738	BSP1265	M9	0.37	0.24	0.06
1739	BSP1266	M9	0.29	0.21	0.25
1740	BSP1267	M9	0.36	0.24	0.14
1741	BSP1268	M9	0.42	0.27	0.09
1742	BSP1269	M9	0.40	0.26	0.14
1743	BSP1270	N8	0.39	0.26	0.10
1744	BSP1271	N8	0.22	0.17	0.09
1745	BSP1272	N8	0.37	0.23	0.14
1746	BSP1273	N9	0.28	0.18	0.13
1747	BSP1274	N9	0.27	0.25	0.12
1748	BSP1275	N9	0.26	0.24	0.15
1749	BSP1276	N9	0.34	0.29	0.13
1750	BSP1277	N9	0.26	0.18	0.12
1751	BSP1278	N9	0.30	0.21	0.07
1752	BSP1279	N9	0.40	0.14	0.09
1753	BSP1280	K10	0.27	0.25	0.10
1754	BSP1281	K10	0.33	0.18	0.11
1755	BSP1282	K10	0.64	0.45	0.10
1756	BSP1283	K11	0.60	0.37	0.14
1757	BSP1284	K11	0.78	0.75	0.11
1758	BSP1285	K11	0.49	0.40	0.24
1759	BSP1286	K11	0.77	0.60	0.07
1760	BSP1287	M10	0.42	0.24	0.20
1761	BSP1288	M10	0.35	0.34	0.07
1762	BSP1289	M10	0.27	0.22	0.06
1763	BSP1290	M10	0.21	0.16	0.19
1764	BSP1291	M11	0.27	0.25	0.21
1765	BSP1292	M11	0.20	0.20	0.13
1766	BSP1293	M11	0.26	0.24	0.27
1767	BSP1294	N10	0.35	0.25	0.11
1768	BSP1295	N10	0.33	0.29	0.33
1769	BSP1296	N10	0.15	0.14	0.17
1770	BSP1297	N10	0.17	0.16	0.15
1771	BSP1298	N10	0.32	0.28	0.16
1772	BSP1299	L12	0.72	0.60	0.07
1773	BSP1300	L14	0.35	0.34	0.20
1774	BSP1301	M12	0.25	0.24	0.09
1775	BSP1302	M12	0.43	0.36	0.11
1776	BSP1303	M12	0.24	0.21	0.08
1777	BSP1304	M13	0.32	0.28	0.05
1778	BSP1305	M14	0.23	0.21	0.14
1779	BSP1306	M14	0.30	0.29	0.20
1780	BSP1307	M14	0.27	0.25	0.14
1781	BSP1308	M14	0.20	0.16	0.13
1782	BSP1309	M14	0.17	0.16	0.16
1783	BSP1310	N12	0.64	0.44	0.11
1784	BSP1311	N13	0.27	0.24	0.26
1785	BSP1312	N13	0.32	0.29	0.17
1786	BSP1313	N14	0.41	0.24	0.11
1787	BSP1314	O8	0.35	0.27	0.25
1788	BSP1315	O8	0.34	0.17	0.20
1789	BSP1316	O9	0.18	0.14	0.10
1790	BSP1317	O9	0.45	0.35	0.09
1791	BSP1318	O9	0.30	0.23	0.05
1792	BSP1319	O9	0.16	0.14	0.04
1793	BSP1320	O9	0.29	0.28	0.04
1794	BSP1321	P8	0.30	0.24	0.33
1795	BSP1322	P8	0.46	0.30	0.34
1796	BSP1323	P8	0.26	0.23	0.10
1797	BSP1324	P8	0.33	0.23	0.06
1798	BSP1325	P8	0.39	0.35	0.21
1799	BSP1326	P8	0.29	0.18	0.15
1800	BSP1327	P8	0.11	0.10	0.07
1801	BSP1328	P8	0.14	0.13	0.05
1802	BSP1329	P8	0.11	0.10	0.04
1803	BSP1330	P8	0.12	0.11	0.07
1804	BSP1331	P8	0.15	0.14	0.08
1805	BSP1332	P8	0.17	0.15	0.14
1806	BSP1333	P8	0.16	0.15	0.06
1807	BSP1334	P8	0.35	0.15	0.11
1808	BSP1335	P8	0.30	0.29	0.15
1809	BSP1336	P8	0.29	0.28	0.13
1810	BSP1337	P8	0.91	0.60	0.25
1811	BSP1338	P8	0.46	0.19	0.15
1812	BSP1339	P8	0.23	0.22	0.07
1813	BSP1340	P8	0.32	0.22	0.20
1814	BSP1341	P9	0.30	0.29	0.12
1815	BSP1342	P9	0.21	0.17	0.08
1816	BSP1343	P9	0.19	0.15	0.08
1817	BSP1344	P9	0.34	0.29	0.14
1818	BSP1345	P9	0.20	0.17	0.04
1819	BSP1346	P9	0.19	0.17	0.12
1820	BSP1347	P9	0.13	0.12	0.11
1821	BSP1348	P9	0.35	0.25	0.18
1822	BSP1349	P9	0.26	0.20	0.20
1823	BSP1350	P9	0.27	0.18	0.03
1824	BSP1351	Q8	0.14	0.12	0.11
1825	BSP1352	Q8	0.17	0.16	0.08
1826	BSP1353	Q8	0.26	0.19	0.04
1827	BSP1354	Q8	0.22	0.19	0.09
1828	BSP1355	Q8	0.90	0.47	0.05
1829	BSP1356	Q9	0.47	0.38	0.16
1830	BSP1357	Q9	0.63	0.31	0.34
1831	BSP1358	Q9	0.40	0.20	0.11
1832	BSP1359	Q9	0.43	0.25	0.08
1833	BSP1360	R8	0.50	0.37	0.25
1834	BSP1361	R9	0.38	0.30	0.18
1835	BSP1362	R9	1.30	0.34	0.21
1836	BSP1363	R9	0.44	0.33	0.09
1837	BSP1364	R9	0.44	0.43	0.27
1838	BSP1365	O10	0.27	0.25	0.15
1839	BSP1366	O10	0.56	0.30	0.21
1840	BSP1367	O11	0.42	0.25	0.16
1841	BSP1368	O11	0.21	0.19	0.13
1842	BSP1369	O11	0.25	0.21	0.15
1843	BSP1370	O11	0.45	0.37	0.40
1844	BSP1371	O11	0.37	0.16	0.10
1845	BSP1372	O11	0.31	0.26	0.17
1846	BSP1373	O11	0.40	0.20	0.12
1847	BSP1374	O11	0.27	0.17	0.12
1848	BSP1375	P10	0.30	0.23	0.06
1849	BSP1376	P11	0.37	0.33	0.14
1850	BSP1377	O12	0.71	0.66	0.11
1851	BSP1378	O12	0.40	0.17	0.21
1852	BSP1379	O12	0.29	0.26	0.10
1853	BSP1380	O12	0.27	0.24	0.08
1854	BSP1381	P14	0.27	0.24	0.26
1855	BSP1382	Q13	0.41	0.39	0.22
1856	BSP1383	Q13	0.55	0.41	0.09
1857	BSP1384	Q14	0.35	0.28	0.23
1858	BSP1385	Q14	0.25	0.20	0.05
1859	BSP1386	Q14	0.25	0.23	0.13
1860	BSP1387	R12	0.73	0.43	0.18
1861	BSP1388	R13	0.47	0.18	0.34
1862	BSP1389	R13	0.46	0.22	0.25
1863	BSP1390	R13	0.31	0.23	0.33
1864	BSP1391	P15	0.24	0.21	0.10
1865	BSP1392	Q15	0.32	0.28	0.07
1866	BSP1393	Q15	0.32	0.26	0.12
1867	BSP1394	Q15	0.45	0.35	0.11
1868	BSP1395	Q15	0.60	0.27	0.08
1869	BSP1396	Q15	0.27	0.15	0.18
1870	BSP1397	R15	0.33	0.20	0.03
1871	BSP1399	N1	0.21	0.19	—
1872	BSP1400	N2	0.30	0.26	0.06
1873	BSP1401	N2	0.43	0.21	0.08
1874	BSP1402	N2	0.27	0.26	0.12
1875	BSP1403	N3	0.77	0.64	0.59
1876	BSP1404	N3	0.37	0.20	0.23
1877	BSP1405	N3	0.74	0.51	0.22
1878	BSP1406	N3	0.11	0.10	0.12
1879	BSP1407	N3	0.17	0.16	0.10
1880	BSP1408	N3	0.15	0.13	0.06
1881	BSP1409	O2	0.35	0.21	0.03
1882	BSP1410	O3	0.38	0.34	0.34
1883	BSP1411	O3	0.31	0.26	0.15
1884	BSP1412	O3	0.35	0.32	0.17
1885	BSP1413	O3	0.55	0.49	0.33
1886	BSP1414	O3	0.57	0.45	0.17
1887	BSP1415	P3	0.75	0.57	0.06
1888	BSP1416	P3	0.15	0.10	0.05
1889	BSP1417	P3	0.18	0.17	0.08
1890	BSP1418	P3	0.43	0.24	0.06
1891	BSP1419	K10	0.49	0.47	0.56
1892	BSP1420	K10	0.65	0.54	0.55

第4章　遺物

第1節　出土遺物の概要

出土遺物は中近世・近代の土器・陶磁器が大半で、少量の土製品、石製品、金属製品・銭貨、木製品、動植物遺体（獣骨・貝類）が伴出した。数量の内訳は接合前破片数（1㎝以上）で土器・陶磁器3,243点、土製品3点、石製品17点、金属製品81点、銭貨22点、木製品12点、動植物遺体92点（獣骨36点・貝類32点・不明焼破片24点）である。土器・陶磁器の時代別の内訳をみると（第17表）、時期によっては少量ではあるものの平安時代から昭和時代までほぼ連綿と確認できる。

次節以降で示す遺物の抽出方法は、原則として遺物の種類や性格等が明確で図示に耐えうるものは全て掲載した。掲載点数は324点に及ぶ。掲載した遺物のうち遺構内出土遺物については下記に記し、その他は三輪・浅野が観察内容を一覧表にまとめた。なお本書で使用する遺物の分類・年代観等は参考文献に挙げた諸研究を参考にしたが、本書における記載内容の責任は執筆者にある。

第17表　総出土土器組成表

	灰釉陶器	山茶碗	土師器皿	古瀬戸	大窯	越前	備前	中国陶磁	連房	肥前	唐津	信楽系	常滑	在地系	不明	近現代	合計
遺物出土数	21	55	140	48	178	58	4	96	1,740	78	48	60	5	20	391	301	3,243
総出土土器数に対する割合(%)	0.6	1.7	4.3	1.5	5.5	1.8	0.1	3	53.7	2.4	1.5	1.9	0.2	0.6	12	9.2	100

第2節　遺構出土遺物

1．掘立柱建物跡（SB）

SB1

中国磁器（図54－1）

1は、SB1－ASP126より出土した青磁鉢である。体部内面は回転ナデにより調整され、外面は幅の広い方切彫蓮連弁文をもつ14世紀の製品と考えられる。

古瀬戸（図54－2・3）

2は、SB1－ASP126より出土した平碗である。口縁端部がやや外反し、古瀬戸後Ⅰ期14世紀後半の製品と考えられる。3は、SB1－ASP105より出土した浅碗である。削り出し高台で、底部周辺を除き灰釉が施される。底部内面には、トチン痕が認められる。古瀬戸後Ⅱ期14世紀末～15世紀初頭の製品と考えられる。

SB2

土師器（図54－4）

4は、SB2－ASP139より出土した土師器皿である。底部中央内側に突出部を有し、体部上方内外面は横ナデによる調整が施される。焼成不良により器壁が剥離しているが、口縁端部に煤が付着している。

古瀬戸（図54－5）

5は、SB2－ASP88より出土した盤類である。底部を除き内外面に灰釉が施される。古瀬戸後Ⅰ～Ⅱ期14世紀後半～15世紀初頭の製品と考えられる。

SB3

山茶碗（図54－6）

6は、SB3－BSP1013より出土した荒肌手の鉢である。底部内外面とも摩滅が激しいが、底部外面は回転ヘラ削りにより調整され、高台端部には籾殻痕が認められる。

中国磁器（図54－7・8）

7は、SB3－BSP1020より出土した青磁碗である。8は、SB3－BSP217より出土した鉢である。どちらも口縁部の外反する14～15世紀の製品と考えられる。

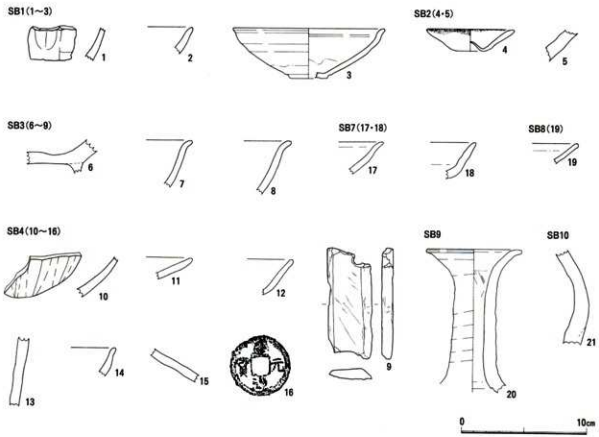
石製品（図54－9）

9は、SB3－BSP206より出土した板状の手持ち砥石である。石材は泥岩で、表面及び側面に線状痕が認められる。

SB4

中国磁器（図54－10）

10は、SB4－BSP1015より出土した青磁鉢である。体部は丸味を帯びて立ち上がり、外面には鎬連弁文を持つ。B－Ⅰ類13から14世紀の製品と考えられる。



第54図　掘立柱建物跡出土遺物（S＝1／3、16のみS＝1／2）

土師器（図54－11・12）

11・12は、SB4－BSP1012より出土した土師器皿で、口縁端部には煤が付着している。体部上方内外面は板状工具による横ナデが認められる。いずれもB2a類と考えられる。

古瀬戸（図54－13）

13は、SB4－BSP1015より出土した瓶子である。体部内外面に回転ナデにより調整され、外面に灰釉が施される。古瀬戸後Ⅰ～Ⅱ期14世紀後半から～15世紀初頭の製品と考えられる。

瀬戸美濃（大窯）（図54－14・15）

14は、SB4－BSP1012より出土した天目茶碗である。口縁部はほぼ直立し、端部はやや外反する。内外面に鉄釉が施される。大窯第3段階16世紀後半から末の製品と考えられる。15は、SB4－BSP1012より出土した有耳甕で、口縁部内外面は回転ナデにより調整され、鉄釉が施される。大窯第1段階15世紀末から16世紀初頭の製品と考えられる。

金属製品（図54－16）

16は、SB4－BSP1012より出土した銭貨（慶元通寶）である。

SB7

古瀬戸（図54－17）

17は、SB7・10－ASP381より出土した平碗である。口縁部は開き気味に立ち上がり、口縁端部はやや外反する。内外面に灰釉が施される。古瀬戸後Ⅱ期14世紀末～15世紀初頭の製品と考えられる。

瀬戸美濃（大窯）（図54－18）

18は、SB7－BSP862より出土した稜皿で、体部内外面に回転ナデによる調整が顕著に認められる。大窯第3段階16世紀中頃から後半の製品と考えられる。

SB8

古瀬戸（図54－19）

19は、SB8－BSP901より出土した緑釉小皿である。体部内外面は回転ナデにより調整され、口縁内外面には鉄釉が施される。古瀬戸後Ⅳ期古段階15世紀中頃の製品と考えられる。

SB9

古瀬戸（図54－20）

20は、SB9－ASP228より出土した花瓶で、口縁部から口頸部にかけての外面は、回転ナデによる調整が顕著である。頸の部分は芯に粘土を巻き成形した後、胴部に付けた痕跡が認められる。古瀬戸後期Ⅰ～Ⅱ段階14世紀後半～15世紀初頭の製品と考えられる。

SB10

越前（図54－21）

21は、SB10－BSP876より出土した壺？である。無釉で、体部内面に指ナデによる調整が認められる。

2．石垣（SA）・道路状遺構（SF）

SA 1 a

中国磁器（図55－22・23）

22は、SA 1 a 西半石垣の裏込め土より出土した青磁碗である。体部は直線的に立ち上がり、口縁部がやや内湾する。E 類14世紀後半～15世紀の製品と考えられる。23は、同じくSA 1 a 西半より出土した鉢である。削り出し高台で、高台内面途中まで釉がかかる。

古瀬戸（図55－24）

24は、SA 1 a 西半石垣の裏込め土より出土した平碗である。体部は直線的に開き、外面は回転ナデによる調整が顕著である。削り出し高台で、内面底部にトチン痕が付着する。古瀬戸後Ⅳ期新段階15世紀後半～末の製品と考えられる。

瀬戸美濃（連房）（図55－25～31）

25は、石垣東半のⅢ層より出土した染付丸碗である。削り出し高台で腰部からやや開き気味に立ち上がる。体部外面には草花文が、見込には蝶文が施文されている。連房第Ⅲ段階19世紀後半の製品と考えられる。26は、石垣東半より出土した端反碗である。口縁部は外反し、体部外面には山水文が、また見込には帆船が施文されている。連房第Ⅲ段階19世紀初頭の製品と考えられる。27は、染付皿である。蛇の目凹形高台で高台脇のくびれは小さい。内外面に唐草文が施釉され、連房第Ⅲ段階19世紀中頃の製品と考えられる。28は、石垣裏込め土より出土した菊皿である。削り出し高台で内外面に灰釉が施釉される。体部は丸味を帯びて立ち上がる。連房第Ⅱ段階18世紀前半の製品と考えられる。29は、石垣西半の表土直下より出土した擂鉢である。口縁部は直線的に立ち上がり端部はやや外反する。体部外面は回転ナデにより調整され、内外面に錆釉が施される。連房第Ⅰ段階17世紀初頭の製品と考えられる。30も石垣裏込め土より出土した小型の擂鉢で、擂目は細かい。連房第Ⅲ段階19世紀中頃から末の製品と考えられる。31は、石垣東半のⅢ層より出土した片口鉢で、丸い腰部を持つ。連房第Ⅲ段階19世紀中頃から末の製品と考えられる。

肥前（図55－32）

32は、小碗で体部外面に丸文、口縁内には四方襷文が施釉される。体部は丸味を帯び、腰部から口縁部にかけてはほぼ垂直に立ち上がる。18世紀後半から19世紀の製品と考えられる。

唐津（図55－33）

33は、石垣西半より出土した丸碗で、高台はやや高く、畳付部分はやや開く。腰部内外面には貫入が多く入る。唐津18世紀後半から19世紀の製品と考えられる。

近現代（図55－34～36）

34～36は、小碗・小杯・小皿で、いずれも近現代の製品と考えられる。

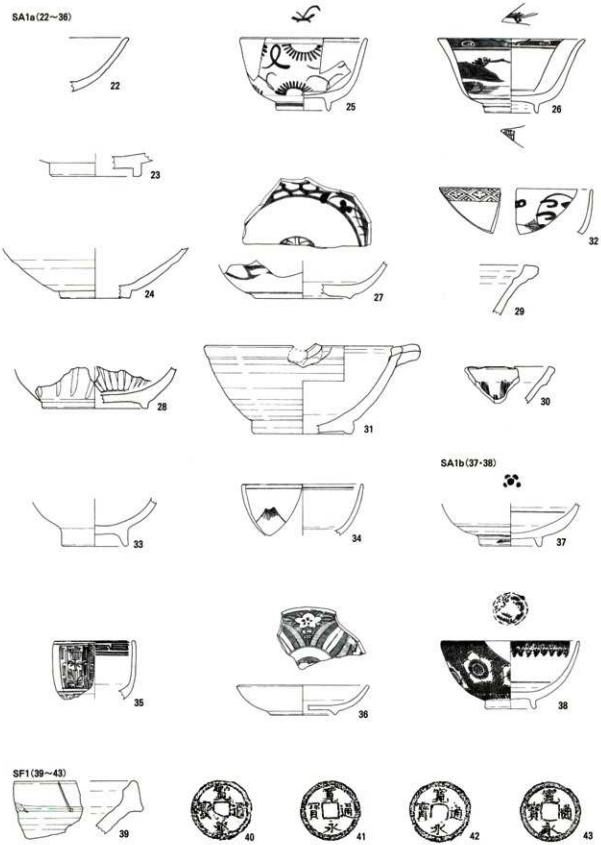
SA 1 b

瀬戸美濃（連房）（図55－37）

37は、染付丸碗で内外面に長石釉を施した後、畳付の釉を拭き取っている。見込にはコンニャク印判の五弁花が施文され、連房第Ⅲ段階19世紀後半の製品と考えられる。

近現代（図55－38）

38は、体部内外面にプリントによる染付を施した丸碗で、近現代の製品と考えられる。



第55図　石垣・道路状遺構出土遺物（22～39はS＝1／3、40～43はS＝1／2）

BSF 1

備前（図55－39）

39は、錆釉が施された鉢で、口縁外面には一条の刻みが認められる。胎土は硬く焼き締められ、16世紀頃の製品と考えられる。

金属製品（図55－40～43）

40～43は、銭貨（寛永通寶）である。40のみ、「古寛永」である。

3．溝（SD）

ASD 3

在地系（図56－44）

44は、外面に10条の沈線が施された行平蓋と思われる。つまみ部外面は、回転ヘラ削り、内面は回転ナデにより調整を施した後、回転ヘラ削りで丁寧に成形している。産地時期は不明である。

ASD 5

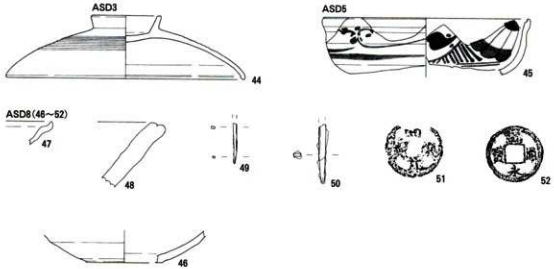
瀬戸美濃（連房）（図56－45）

45は、内面に菊割花つなぎと草文を施した鉢である。腰部は丸味を帯び、開き気味に立ち上がる。口縁端部はやや外反する。連房第Ⅲ段階19世紀初頭の製品と考えられる。

ASD 8

山茶碗（図56－46）

46は、均質手の山茶碗の底部である。体部内外面は回転ナデにより調整され、底部外面は回転糸切痕が認められる。



第56図　溝出土遺物（44～50はS＝1／3、51・52はS＝1／2）

古瀬戸（図56－47）

47は、折縁小皿で、体部内面より口縁外面は、回転ナデにより調整される。口縁周辺に自然釉が降灰し、体部下方に炭化物が付着している。古瀬戸後Ⅲ期15世紀初頭～15世紀中頃の製品と考えられる。

越前（図56－48）

48は、口縁端部に沈線を有する鉢で、14世紀後半ごろの製品と考えられる。口縁部は直線的に開いて立ち上がる。

金属製品（図56－49～52）

49・50は、鉄製の釘である。どちらも頭部を欠損している。51は、銭貨（開元通寶）、52は（寛永通寶）「新寛永」である。

4．土坑（SK）

ASK 4

土師器（図57－53）

53は薄手の土師質の皿で、轆轤で仕上げたように真丸に成形されている。B2a類と考えられる。

瀬戸美濃（大窯）（図57－54）

54は、有耳甕である。体部内外面は回転ナデにより調整され、外面口頸部はロクロ目が顕著である。大窯第Ⅰ段階15世紀末～16世紀初頭の製品と考えられる。

ASK11

瀬戸美濃（大窯）（図57－55・56）

55は、天目茶碗である。体部はほぼ直線的に開き、口縁部はほぼ直立し端部は外反する。底部内面に茶筅の痕跡が認められる。大窯第4段階前半で16世紀末の製品と考えられる。56は、丸皿である。体部外面下方は回転ヘラ削りで、その他は回転ナデで調整される。大窯第2段階16世紀初頭から中頃の製品と考えられる。

瀬戸美濃（連房）（図57－57～59）

57は、腰錆湯呑である。胴部に数条の沈線を有し、体部上方は灰釉、下方は鉄釉と釉が掛け分けられる。削り出し高台で畳付は釉が拭き取られている。連房第Ⅲ段階19世紀初頭の製品と考えられる。58は、錆釉が施された擂鉢である。口縁部と体部との境の指ナデによる凹みが形骸化し内面にのみ段を有する。擂目一単位は9条で、幅2.3cmを測る。連房第Ⅲ段階19世紀中頃の製品と考えられる。59は、徳利である。底部外面は指ナデにより調整され、底部中央は内側にやや突出している。連房第Ⅲ段階19世紀後半の製品と考えられる。

肥前（図57－60）

60は、広東茶碗である。体部外面に雲文が施釉され、回転ヘラ削りにより成形された高台は薄く、やや高い。18世紀後半から19世紀の製品と考えられる。

信楽系（図57－61・62）

61は、薄手の徳利である。底部から胴部へほぼ垂直に立ち上がる。18世紀後半から19世紀の製品と考えられる。62-1・62-2・62-3は、同一個体で信楽系の土瓶である。体部内外面とも轆轤目が顕

著で、耳の下方には鉄絵が、胴部には葉脈が描かれる。底部には煤が付着している。18世紀後半から19世紀の製品と考えられる。

金属製品（図57－63）

63は、鉄製の釘である。頭部を欠損している。

ASK12

在地系（図57－64）

64は、薄手の湯呑みである。体部は開き気味に立ち上がり、口縁端部はやや外反する。胴部と口縁部には鉄絵が施される。時期は不明である。

ASK15

瀬戸美濃（連房）（図57－65）

65は、ややなま焼けの染付丸碗である。呉須絵が口縁部内外面に施される。連房第Ⅲ段階19世紀中頃から末の製品と考えられる。

ASK19

瀬戸美濃（連房）（図57－66・67）

66・67は水滴である。66は豆腐形水滴で表面に呉須絵が施される。67は、鳥形の水滴で、底部には、「天保六□　□□□□」の墨書を持つ。いずれも連房第Ⅲ段階19世紀初頭の製品と考えられる。

ASK20

瀬戸美濃（連房）（図57－68・69）

68は、広東茶碗である。体部は直線的に立ち上がり、やや開き気味である。体部内外面は回転ナデにより調整され、胴部に呉須絵が施文される。連房第Ⅲ段階19世紀後半の製品と考えられる。69は、染付丸碗である。体部外面に草花蝶文、口縁内には列点文が施される。底部周辺を除き体部内外面は回転ナデにより調整される。体部は直線的に立ち上がり口縁端部はやや外反する。連房第Ⅲ段階19世紀中頃から末の製品と考えられる。

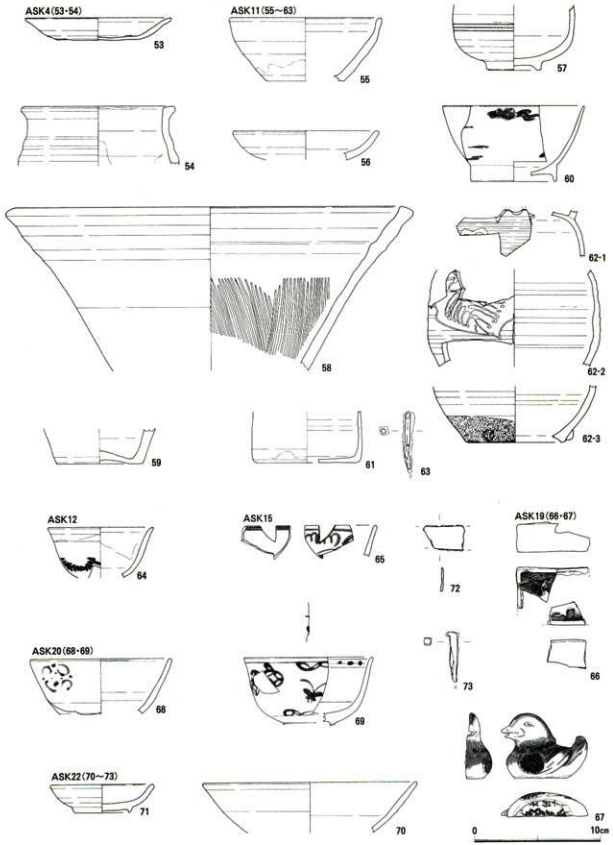
ASK22

瀬戸美濃（大窯）（図57－70・71）

70は、緑釉平碗である。体部は直線的に立ち上がり、内外面には緑釉が施される。大窯第2段階16世紀初頭から中頃の製品と考えられる。71は、丸皿である。削り出し高台で全面に灰釉が施される。底部外面に輪ドチが付着している。大窯第3段階前で16世紀中頃の製品と考えられる。

金属製品（図57－72・73）

72は、鉄製の刀子である。薄手で両端を欠損している。73は鉄製の釘である。三角形に近い形の頭部を持つ。



第57図　土坑出土遺物（1）（S＝1／3）

ASK24

金属製品（図58－74・75）

74は、銭貨（開元通寶）、75は、（紹聖元寶）である。

ASK26

中国磁器（図58－76）

76は、底部外面にカンナ痕が認められる染付碗で、内面見込に「福」字文を持つ。C群16～17世紀の製品と考えられる。

土師器（図58－77）

77は、土師器皿である。体部内外面は回転ナデにより調整され、底部には指頭圧痕が認められる。C2類と考えられる。

越前（図58－79）

79は、器高の低い鉢である。体部は直線的に開き口縁端部はやや内傾する。内面には半円形の擂目を有する。

土製品（図58－78）

78は、土錘である。中央部に最大径を持つ。

ASK27

中国磁器（図58－80）

80は、口縁部が外反する白磁皿で、E群16世紀の製品と考えられる。

瀬戸美濃（大窯）（図58－81）

81は、丸皿である。削り出し高台で全面に灰釉が施される。底部外面に輪ドチが付着している。大窯第4段階前半で16世紀末の製品と考えられる。

瀬戸美濃（連房）（図58－82）

82は、丸碗である。体部外面下方は回転ヘラ削り、その他は回転ナデにより調整される。底部内面に茶筅の痕跡が認められる。連房第Ⅰ段階17世紀初頭から中頃の製品と考えられる。

金属製品（図58－83）

83は、鉄製の釘あるいは小型の鏃と思われる。一方を欠損している。

ASK28

瀬戸美濃（大窯）（図58－84）

84は、鉄釉の施された茶入れである。胴部から頸にかけてやや丸味を帯び、口縁部は外反する。口縁部内面には鉄分が付着している。大窯第3段階16世紀中頃から後半の製品と考えられる。

ASK32

瀬戸美濃（連房）（図58－85）

85は、端反碗の蓋である。つまみ部周辺は回転ヘラ削り、その他は回転ナデにより調整される。外

面には山水文、内面には丸文が施され、SA１a出土の（26）とセットと考える。連房第Ⅲ段階19世紀初頭の製品と考えられる。

金属製品（図58－86～92）

86～92は、鉄製の釘である。86・88・90・91・92は、木片が付着している。

石製品（図58－93）

93は、厚手の手持ち砥石である。石材は砂岩で、表裏及び側面は使用のため研面の摩滅が激しい。どの面にも線状痕が認められる。

ASK35

金属製品（図58－94）

94は、鉄製の釘である。頭部を欠損している。

ASK36

土師器（図58－95）

95は、土師器皿である。体部上方外面は横ナデ、内面は板状工具による横ナデ調整が施される。口縁端部に煤が付着している。

越前（図58－96）

96は、擂鉢である。口縁部はやや内傾し、内面の段は凹線である。口縁部外面には強いナデが廻る。越前Ⅲb群16世紀後半の製品と考えられる。

ASK38

石製品（図58－97）

97は、板状の手持ち砥石である。石材は安山岩で、表裏面に線状痕が認められる。

ASK46

中国磁器（図58－98）

98は、口縁端部に小さなくびれを持つ輪花皿で、口縁部は外反し、底部内面には唐草文様が施される。削り出し高台で、高台の釉は拭き取られている。染付皿B１群15～16世紀の優品と考えられる。

ASK49

瀬戸美濃（大窯）（図58－99・100）

99は、内外面に錆釉が施された擂鉢である。体部外面に回転ナデによる櫛幅目が顕著に認められる。大窯第１～２段階で15世紀末から16世紀中頃の製品と考えられる。100は、鉄釉が施されたやや小型の甕である。体部外面回転ナデにより調整され、内面はロクロ目が顕著である。大窯第１～２段階15世紀末～16世紀初頭の製品と考えられる。

金属製品（図58－101）

101は、鉄製の釘である。頭部を欠損している。

ASK51

土師器（図58－102）

102は、やや厚手の土師器皿である。体部内面は横ナデにより調整され、外面は指頭圧痕が認められる。

ASK55

瀬戸美濃（連房）（図59－103）

103は、内面見込に呉須の摺絵が施文された皿である。底部周辺は回転ヘラ削りにより成形され、高台内は無釉である。連房第Ⅱ段階18世紀前半の製品と考えられる。

ASK56

瀬戸美濃（連房）（図58－104）

104は、完形で出土した灯明皿(受皿)である。底部を除き錆釉が施釉される。切り込み幅1.0cmで、桟部端に煤が付着している。連房第Ⅲ段階18世紀末から19世紀初頭の製品と考えられる。

ASK65

備前（図59－105）

105は、香炉である。底部周辺及び内面は回転ヘラ削りにより調整され、内面は櫛目が顕著である。体部は直線的に立ち上がる。18世紀後半から19世紀の製品と考えられる。

ASK69

灰釉陶器（図58－106）

106は、碗である。口縁部は直線的に開き、端部はやや外反する。内外面は回転ナデによる調整が施される。時期は不明である。

ASK75

古瀬戸（図58－107）

107は、卸皿である。体部内外面は回転ナデにより調整が施され、口縁端部のみつけがけによる灰釉が施される。古瀬戸後Ⅳ期古段階15世紀中頃の製品と考えられる。

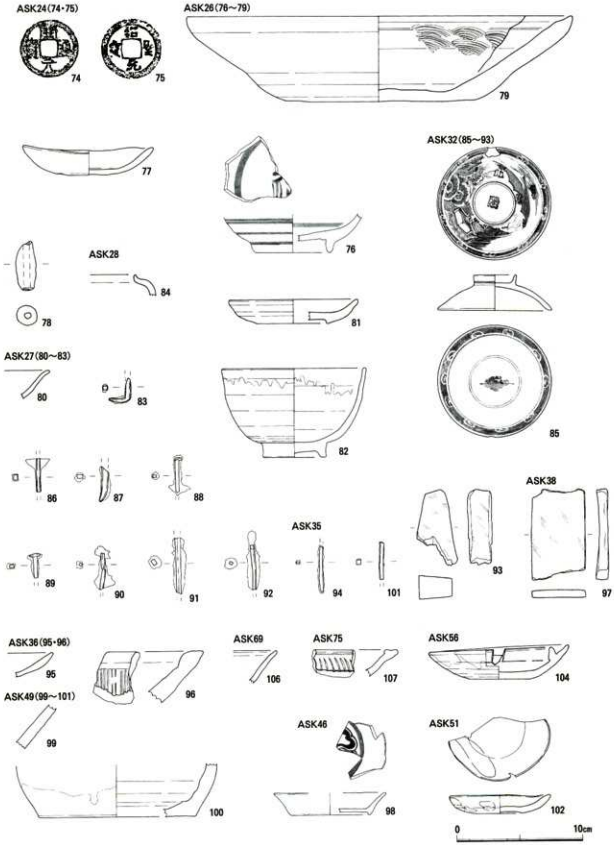
ASK81

土師器（図59－108）

108は、土師器皿である。体部外面無調整、内面指ナデによる調整が施され、底部には指頭圧痕が認められる。C2類と考えられる。

越前（図59－109）

109は、擂鉢である。体部は直線的に立ち上がり、口縁部は内傾する。内面の段は凹線で、外面には強いナデが廻る。擂目一単位は8条で、幅2.3cmを測る。16世紀後半の製品と考えられる。



第58図　土坑出土遺物（２）（S＝１／３、74・75のみ S＝１／２）

在地系（図59－110）

110は、灯明皿（受皿）である。外面底部は回転ヘラ削り、内面は回転ナデにより調整される。切り込み幅1.8cmで内外面に煤が付着している。時期は不明である。

金属製品（図59－111・112）

111は、銅製の切羽で、縁は刻仕上げである。112は、引き出しの把手と考えられる。

石製品（図59－113）

113は、小型の長方硯である。硯面中央の墨道及び裏面の硯陰もやや窪んでいる。海部及び右縁部を欠損している。

ASK86

古瀬戸（図59－114）

114は、腰折皿である。底部周辺は回転ヘラ削りにより調整され、腰部で屈曲し口縁部は大きく外反する。古瀬戸後Ⅳ期新段階15世紀後半～末の製品と考えられる。

ASK87

土師器（図59－115）

115は、薄手の土師器皿で、轆轤で仕上げたように真丸に成形されている。体部内面より外面にかけてナデにより調整され、端部はつまみ上げられる。B1類と考えられる。

古瀬戸（図59－116）

116は、平碗である。体部は直線的に開いて立ち上がり、口縁部は上方にやや内傾する。内面にトチン痕が認められる。古瀬戸後Ⅳ期新段階15世紀後半～末の製品と考えられる。

瀬戸美濃（大窯）（図59－117）

117は、擂鉢の底部である。体部外面は回転ナデにより調整され、底部外面に回転糸切痕が認められる。擂目一単位は11条で、幅3.2cmを測る。大窯第1段階15世紀末から16世紀初頭の製品と考えられる。

ASK88

瀬戸美濃（連房）（図59－118・119）

118は、腰錆湯呑である。胴部に数条の沈線を有し、体部上方は灰釉、下方は鉄釉と釉が掛け分けられる。削り出し高台で畳付は釉が拭き取られている。連房第Ⅲ段階19世紀初頭の製品と考えられる。

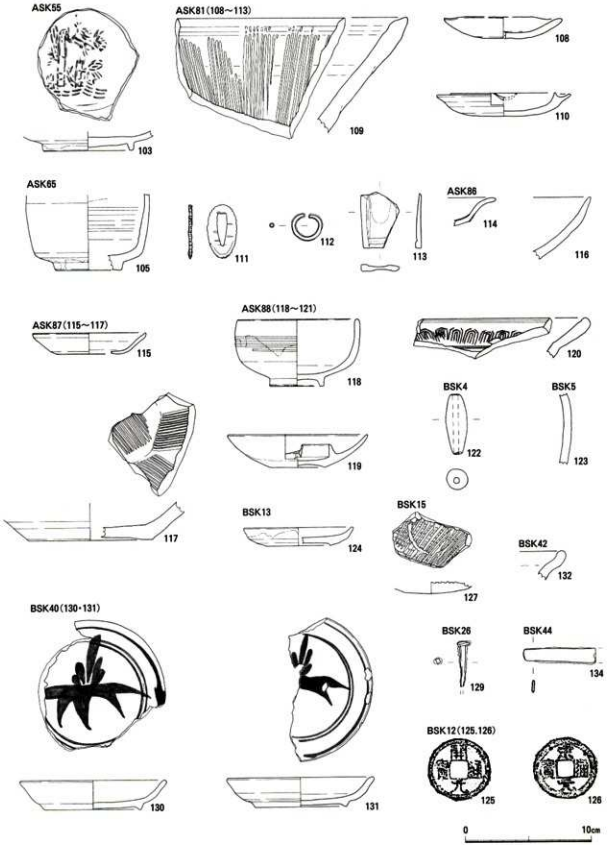
119は、灯明皿（受皿）である。体部下方外面はは回転ヘラ削りにより調整され、底部周辺を除き灰釉が施される。内面突出部は口縁部より低く、桟部切り込み幅約0.5cmである。連房第Ⅲ段階19世紀中頃から末の製品と考えられる。

唐津（図59－120）

120は、鉢である。腰部で屈曲して開き気味に立ち上がる。口縁部内外面は回転ナデにより調整され、口縁部内面には、三島文が施される。18世紀後半から19世紀の製品と考えられる。

石製品（図60－121）

121は、不明石製品で正面と平面に丁寧に加工した段を有する。段の幅9.8cm、高さ7.8cmを測る。



第59図　土坑出土遺物（3）（S＝1／3、125・126のみ S＝1／2）

おそらく建物に続く階段あるいは、塀などの敷居の一部分と考えられ、背面は粗く割った程度の作りとなっている。左側面の突出部にも加工痕が見られ接合部とも考えられる。

BSK 4

土製品（図59－122）

122は、土錘である。中央部に最大径を持つ。

BSK 5

灰釉陶器（図59－123）

123は、壺の胴部と思われる。体部内面は幡幅目が顕著である。時期は不明である。

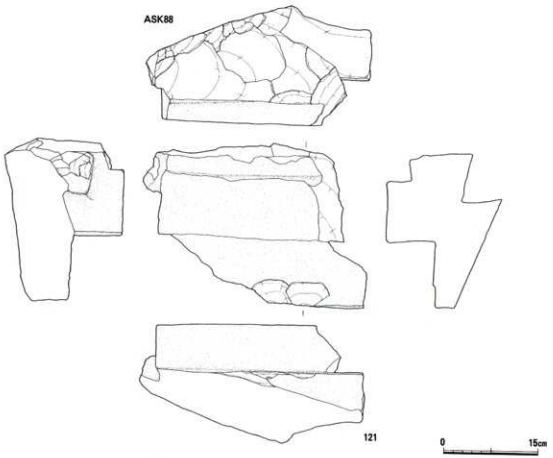
BSK12

金属製品（図59－125・126）

125は、銭貨（開元通寶）、126は、（宋通元寶）である。

BSK13

瀬戸美濃（大窯）（図59－124）



第60図　土坑出土遺物（4）（S＝1／6）

124は、丸皿である。削り込み高台で底部を除いて灰釉が施される。底部内面には輪ドチ痕が付着している。大窯第4段階後半で16世紀末の製品と考えられる。

BSK15

古瀬戸（図59－127）

127は、卸皿の底部である。体部外面に糸切り痕が、内面の卸目上には輪ドチ痕が認められる。古瀬戸後Ⅰ～Ⅱ期14世紀後半～15世紀初頭の製品と考えられる。

BSK21

古瀬戸（図61－128）

128は、四耳壺の口頸部である。内外面とも丁寧に仕上げられている。古瀬戸前期13世紀頃の製品と考えられる。

BSK26

金属製品（図59－129）

129は、鉄製の釘である。先端部を欠損している。

BSK40

瀬戸美濃（連房）（図59－130・131）

130・131は、セットで出土した鉄絵皿である。底部周辺は回転ヘラ削り、その他は回転ナデにより調整される。底部内面に円錐ピン痕が認められる。全体に長石釉が施され、底部内面に鉄絵が描かれる。連房第Ⅰ段階17世紀初頭から中頃の製品と考えられる。

BSK42

瀬戸美濃（連房）（図59－132）

132は、口縁端部が垂直に立ち上がるやや厚手の鉢である。口縁内部より外面にかけて回転ナデにより調整され、内外面長石釉が施される。連房第Ⅰ段階17世紀初頭の製品と考えられる。

BSK43

瀬戸美濃（大窯）（図61－133）

133は、擂鉢である。口縁端部は肉厚で、体部に対しほぼ直角に上下にのび2㎝前後の縁帯を形成する。体部外面は指ナデによる幅幅目が顕著で、内外面に錆釉が施される。擂目一単位は11条で、幅2.2㎝を測る。大窯第4段階前半で16世紀末の製品と考えられる。

BSK44

金属製品（図59－134）

134は、鉄製の刀子の柄部と考えられる。腐食が激しい。

BSK86

山茶碗（図61－135・136）

135・136は、大変薄手な均質手の小皿である。体部内外面は回転ナデにより調整され、底部外面は回転糸切痕が認められる。いずれも内外面に煤が付着している。

BSK87

古瀬戸（図61－137）

137は、小鉢である。体部は直線的に開いて立ち上がり、体部外面下方に回転ヘラ削り痕が認められる。外面底部を除いて灰釉が施される。古瀬戸後期Ⅲ15世紀初頭～15世紀中頃の製品と考えられる。

BSK89

土師器（図61－138）

138は、土師器皿である。体部は開き気味に立ち上がり、口縁端部は外反する。体部外面上方は板状工具による一段ナデにより調整が施される。B1類と考えられる。

瀬戸美濃（大窯）（図61－139～141）

139～141は、丸碗である。付高台で全面に灰釉が施される。139は高台内面に輪ドチ痕が認められる。いずれも大窯第1段階15世紀末から16世紀初頭の製品と考えられる。

越前（図61－142～146）

142・143は、擂鉢である。いずれも丸味を持った口縁で、口縁部内面の段はやや下がった位置にある。擂目の間隔は広く、口縁下の段で止まる。142は、擂目一単位が11条で、幅2．9cmを測る。143は、一単位が11条で、幅2．8cmを測る。15世紀後半の製品と考えられる。144は、鉢である。体部内面下方は回転ナデ、外面には板状工具による調整と指圧痕が認められる。145・146は、同一個体で厚手の片口壺である。体部内面は回転ナデによる調整が施され、口縁部の口は棒状工具により押し広げられた痕跡が認められる。内面底部には粒状化した窯くそが溜まっている。

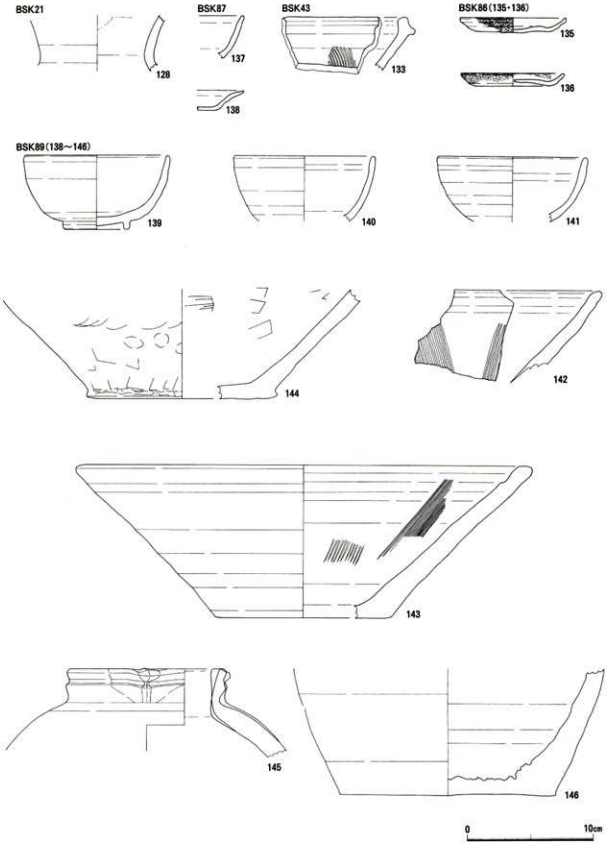
BSK91

瀬戸美濃（大窯）（図62－147）

147は、擂鉢である。口縁端部は肉厚で、体部に対しほぼ直角に上下にのび2cm前後の縁帯を形成する。体部外面は指ナデによる轆轤目が顕著で、内外面に錆釉が施される。擂目一単位は17条で、幅3．7cmを測る。大窯第4段階前半で16世紀末の製品と考えられる。

瀬戸美濃（連房）（図62－148～154）

148～151は、丸碗である。連房第Ⅱ段階18世紀前半の製品と考えられる。148は、胴部に凹部を持つ筝骨形で、体部内面から外面にかけ回転ナデによる調整が施される。149・150・151は、体部外面下方は回転ヘラ削り、その他は回転ナデによる調整が施される。いずれも体部下方は丸味を帯び、口縁部はほぼ垂直に立ち上がる。全面に灰釉が施され、149は多くの貫入が入る。150は、体部外面に鉄絵で梅が描かれる。152・153は、同じく丸碗でやや薄手である。体部外面下方は回転ヘラ削り、その他は回転ナデによる調整が施される。連房第Ⅲ段階18世紀末から19世紀初頭の製品と考えられる。154



第61図　土坑出土遺物（5）（S＝1／3）

は、尾呂茶碗で、高台を除き内外面に灰釉にうのふ釉が施される。削り出し高台で、高台内は無釉である。連房第Ⅱ段階18世紀後半の製品と考えられる。

金属製品（図62－155～160）

155は、鉄製の刀子である。柄部から刃部にかけて厚みがある。156・157は、鉄製の釘である。いずれも頭部を欠損している。158～160は、銭貨（寛永通寶）で、いずれも「新寛永」である。

石製品（図62－161）

161は、板状の手持ち砥石である。石材は泥岩で、表裏及び側面に線状痕が認められる。

BSK92

中国磁器（図62－162）

162は、白磁碗である。体部は丸味を帯びて立ち上がり、口縁端部は外反する。底部周辺を除き回転ナデにより調整が施される。E群16世紀の製品と考えられる。

BSK93

瀬戸美濃（大窯）（図63－163）

163は、天目茶碗である。同一個体と思われる底部破片から高台脇の削り幅はやや広めである。大窯第3～4段階で16世紀中頃から末の製品と考えられる

BSK94

瀬戸美濃（大窯）（図63－164）

164は、折縁皿である。体部内面にソギを施し、口縁端部は折り返され内湾気味である。削り出し高台で全面に灰釉が施される。ただし底部内面凸部と高台端は釉薬が拭い取られている。高台内には輪ドチが付着している。大窯第4段階前半で16世紀末の製品と考えられる。

瀬戸美濃（連房）（図62－165）

165は、丸皿である。削り込み高台で底部外面を除き灰釉が施される。連房第Ⅱ段階18世紀中頃の製品と考えられる。

石製品（図63－166）

166は、柱状の手持ち砥石である。石材は砂岩で、表裏面に多数の線状痕が認められる。

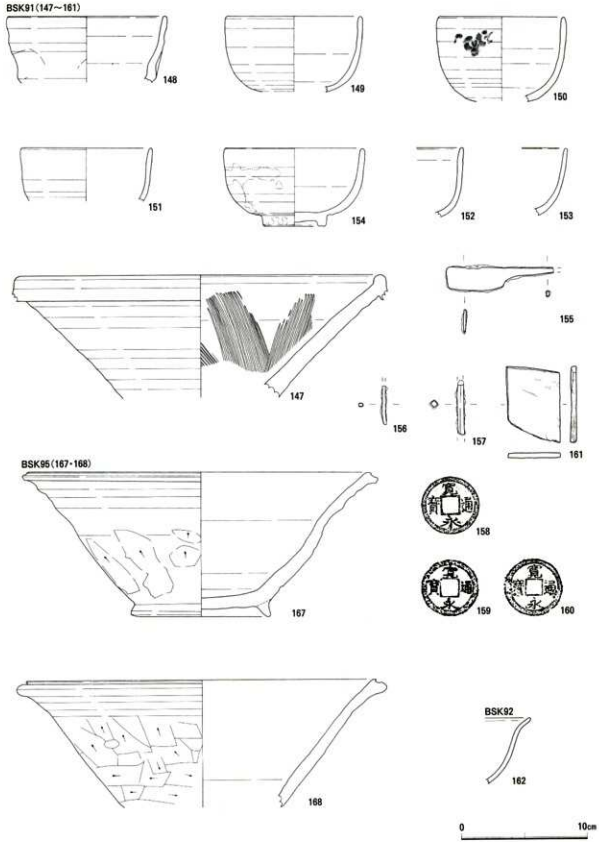
BSK95

山茶碗（図62－167・168）

167・168は、やや厚手の鉢である。いずれも体部外面は成形後下から上へ、ヘラ状工具による掻き上げ調整が施され、167は断面が逆三角形の高台を貼り付けている。内面に擂目は見られないものの平滑である。いずれも口縁端部はやや外反し、口唇部に沈線を有する。

BSK96

瀬戸美濃（大窯）（図63－169）



第62図　土坑出土遺物（６）（S＝１／３、158～160はS＝１／２）

169は、厚手の擂鉢である。小破片のため時期判別が不能であるが、擂目間の幅は広い。

瀬戸美濃（連房）（図63－170・171）

170は、加工円盤で内面に灰釉が施される。連房第Ⅱ段階18世紀中頃の碗の底部を利用したものと考えられる。171は、尾呂茶碗で口縁端部はやや内傾する。内外面に灰釉にうのふ釉が施される。連房第Ⅱ段階18世紀中頃の製品と考えられる。

金属製品（図63－172）

172は、鉄製の不明品で、断面形は楕円である。

BSK99

瀬戸美濃（連房）（図63－173）

173は、やや厚手の折縁皿である。体部は丸味を帯びて立ち上がり、口縁端部は段を有し外反する。口縁部に灰釉が施され、少量の煤が付着している。連房第Ⅰ段階17世紀前半の製品と考えられる。

BSK100

瀬戸美濃（連房）（図63－174）

174は、腰錆湯呑である。胴部に数条の沈線を有し、体部上方は灰釉、下方は鉄釉と釉が掛け分けられる。連房第Ⅲ段階19世紀初頭の製品と考えられる。

BSK102

古瀬戸（図63－175）

175は、擂鉢である。体部は直線的に開き口縁端部はやや内傾する。口縁部外面は回転ナデによる轆轤目が顕著で、錆釉が施される。古瀬戸後Ⅳ期新段階15世紀後半～末の製品と考えられる。

BSK103

石製品（図63－176）

176は、板状の手持ち砥石である。石材は泥岩で、表裏及び側面に多数の線状痕が認められる。

BSK106

金属製品（図63－177）

177は、銭貨（元豊通寶）である。

BSK113

中国磁器（図63－178）

178は、青磁皿の底部と思われる。底部外面は回転ナデによる調整が施され、底部内面には点描文を有する。

越前（図63－179）

179は、厚手の甕である。体部外面はヘラにより調整が施され、内面はハケによる横ナデが認められる。

BSK115

瀬戸美濃（連房）（図63－180～182）

180は、染付湯呑の底部である。底部外面周辺は回転ヘラ削りにより調整される。見込みに呉須絵が描かれる。連房18世紀後半から19世紀の製品と考えられる。181は、輪禿皿である。付高台で底部外面を除き灰釉が施される。内面見込部には印花文を有し、周辺の灰釉を拭き取った後、長石釉を施す。底部内面に輪ドチ痕が認められる。連房第Ⅱ段階18世紀初頭の製品と考えられる。182は、土瓶である。口縁内面より外面にかけて回転ナデにより調整され、口縁内面には鉄釉、外面にはうのふ釉が施される。連房第Ⅲ段階19世紀初頭から中頃の製品と考えられる。

BSK117

瀬戸美濃（連房）（図63－183・184）

183は、広東茶碗である。体部外面に蕉葉文が施される。底部周辺は回転ヘラ削りにより調整され、高台はやや高い。連房第Ⅲ段階19世紀中頃の製品と考えられる。184は、甕である。底部周辺を除き回転ナデにより調整され、鉄釉が施される。底部内面に輪ドチ痕が残る。連房18世紀後半から19世紀の製品と考えられる。

BSK121

瀬戸美濃（大窯）（図63－185）

185は、天目茶碗である。口縁部はほぼ直立し、端部は外反する。口縁内部より外部にかけて回転ナデによる調整が施される。大窯第3～4段階で16世紀中頃から末の製品と考えられる

5．その他の遺構

ASS 1

瀬戸美濃（連房）（図63－186）

186は、見込に梅文が施された染付皿である。底部外面周辺は回転ヘラ削りにより調整され、削り出し高台である。高台内に輪ドチ痕が認められる。連房第Ⅲ段階19世紀初頭から中頃の製品と考えられる。

ASQ 1

瀬戸美濃（連房）（図63－187－1・2）

187は、半筒形合子の身と蓋のセットである。187－1は、摘み無し形の上面がほぼ平坦な蓋である。やや中央部が高くなる。回転ヘラ削りにより内外面は丁寧に仕上げられている。187－2の身は、体部が筒状に立ち上がり、口縁部の内端には凸帯を持つ。底部は削り込みにより調整されるが高台は持たず、中央部にはやや凹みが認められる。いずれも外面には灰釉が施され、内面は無釉である。連房第Ⅲ段階18世紀末から19世紀初頭の製品と考えられる。

ASBk 1

瀬戸美濃（連房）（図63－188）

188は、磁器製の植木鉢である。体部はやや開き気味に立ち上がり、口唇部は外に大きく屈曲して雷文が施された平坦面を有する。内面体部下方は轆轤目が顕著で内外面に透明釉が施される。連房第Ⅲ段階19世紀以降の製品と考えられる。

金属製品（図63－189）

189は、鉄製の釘である。頭部はほぼ直角に曲がり先端部は欠損している。

ASP57

古瀬戸（図64－190）

190は、縁釉小皿である。体部内面より口縁外面にかけて回転ナデにより調整される。古瀬戸後Ⅰ期14世紀後半の製品と考えられる。

ASP102

山茶碗（図64－191）

191は、荒肌手の鉢である。体部外面は成形後下から上へ、ヘラ状工具による掻き上げ調整が施され、口唇部には内面に小突起を有する。

ASP424

金属製品（図64－192）

192は、銭貨（皇宋通寶）である。

ASP489

土師器（図64－193）

193は、やや厚手の土師器皿である。体部内面は横ナデにより調整され、外面は指頭圧痕が認められる。B2a類と考えられる。

ASP495

土師器（図64－194）

194は、やや生焼けの土師器皿である。体部内面は横ナデにより調整され、内外面に煤が付着している。B2a類と考えられる。

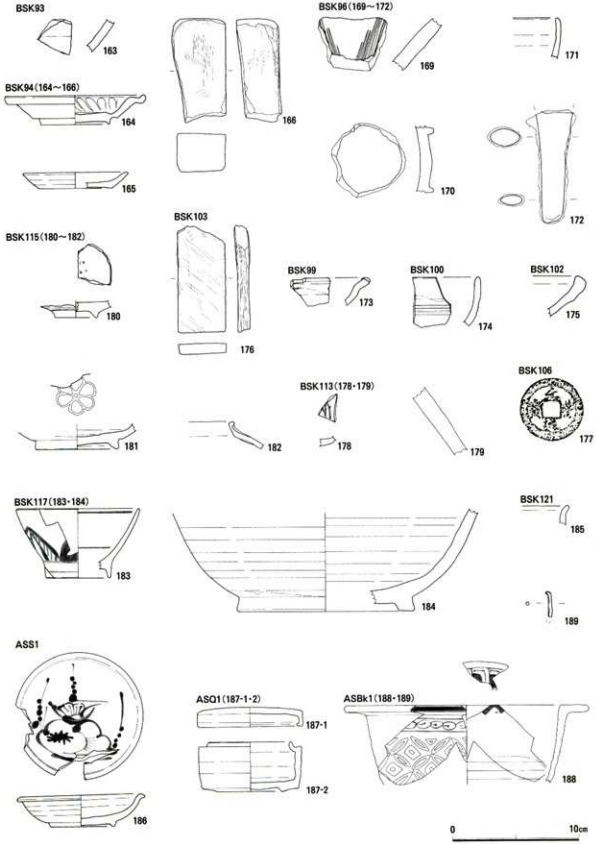
BSP69

瀬戸美濃（連房）（図64－195）

195は、丸碗である。体部下方は丸味を帯び、口縁部はほぼ垂直に立ち上がる。高台周辺を除き全面に灰釉が施される。連房第Ⅱ段階18世紀後半の製品と考えられる。

BSP73

瀬戸美濃（連房）（図64－196・197）



第63図　土坑出土遺物（7）・その他の遺構出土遺物（S＝1／3、177のみ S＝1／2）

196・197は、尾呂茶碗である。体部外面下方は回転ヘラ削り、その他は回転ナデにより調整される。いずれも底部を除き鉄釉にうのふ釉が施される。連房第Ⅱ段階18世紀初頭から中頃の製品と考えられる。

金属製品（図64－198）

198は、鉄製の釘である。頭部を欠損している。

BSP144

瀬戸美濃（連房）（図64－199）

199は、織部の向付の破片である。オリーブ色の釉と灰釉が塗り分けられる。連房第Ⅰ段階17世紀初頭の製品と考えられる。

BSP227

中国磁器（図64－200）

200は、底部外面中央が回転ヘラ削りによりややへこむ白磁皿である。13～14世紀の製品と考えられる。

BSP286

山茶碗（図64－201）

201は、小皿である。口縁端部にのみ自然釉がかかる。口縁内部より外面にかけて回転ナデによる調整が施される。白土原1の時期で13世紀初頭～中頃の製品と考えられる。

BSP298

灰釉陶器（図64－202）

202は、皿の底部である。体部内面は回転ナデ、外面下方は回転ヘラ削りにより調整が施される。折戸53号窯式で10世紀初頭の製品と考えられる。

BSP320

灰釉陶器（図64－203）

203は、碗である。外面下方を除き回転ナデにより調整が施される。高台は幅が狭くて高い。黒笹90号窯式～折戸53号窯式で9世紀末～10世紀初頭の製品と考えられる。

BSP858

古瀬戸（図64－204）

204は、擂鉢である。体部は直線的に開き、口縁部に平坦部を有する。体部内外面は、回転ナデにより調整され、錆釉が施される。体部外面には煤が付着し、漆による接合痕が認められる。古瀬戸後Ⅳ期古段階15世紀中頃の製品と考えられる。

BSP975

越前（図64－205）

205は、片口鉢である。口縁端部に沈線を有し、指で摘み口を成形している。体部内面から口縁部外面にかけては回転ナデによる調整が施される。14世紀後半ごろの製品と考えられる。

BSP1014

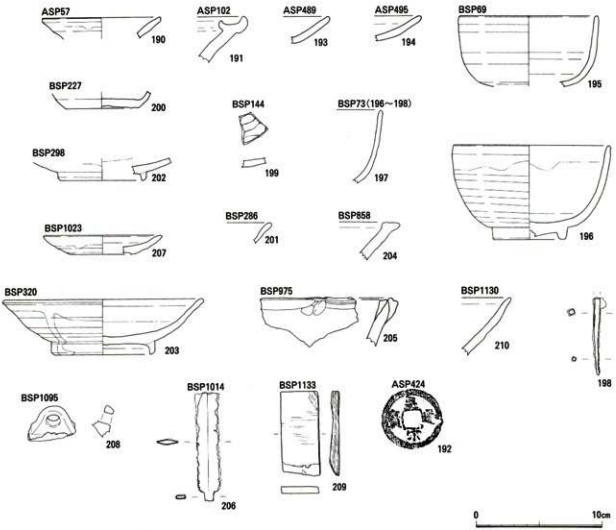
金属製品（図64－206）

206は、鉄製の鑓である。頭部、柄部とも折損している。

BSP1023

瀬戸美濃（大窯）（図64－207）

207は、やや小型の丸皿である。削り込み高台で体部下方を除く全面に灰釉が施される。大窯第4段階前半で16世紀末の製品と考えられる。



第64図　ピット出土遺物（S＝1／3、191のみ S＝1／2）

BSP1095

瀬戸美濃（連房）（図64－208）

208は、土瓶の耳である。内面は無釉、外面に鉄釉が施される。連房第Ⅲ段階19世紀後半の製品と考えられる。

BSP1130

古瀬戸（図64－210）

210は、碗型鉢である。体部は直線的に立ち上がり、口縁端部はやや外反する。内外面に灰釉が施される。古瀬戸後期Ⅰ～Ⅱ段階14世紀後半～15世紀初頭の製品と考えられる。

BSP1133

石製品（図64－209）

209は、板状の手持ち砥石である。石材は泥岩で、表裏及び側面に多数の線状痕が認められる。

第3節　包含層出土遺物

前節までに遺構と遺構内出土遺物について図示し説明したが、本節では包含層から出土した遺物(本郷遺跡試掘出土遺物を含む)を一括して述べる。ここでは遺構内出土遺物とほぼ同じ内容の遺物の掲載を避け、また器形や全体を復原できる遺物を中心に選択して図示した(図65～69)。各遺物の説明については種類別に略述するにとどめ、詳細は観察表を参照されたい(第24・25表)。

灰釉陶器(図65－211)

深碗(211)。

山茶碗(図65－212)

均質手の山茶碗(212)である。全体に極微量の出土である。

中国磁器(図65－213～231,図69－314・315)

青磁碗(213)・青磁皿(214・314)、枢府磁白磁皿(215)・白磁皿(216～219,315)・染付碗(220・221)・染付皿(222～230)・染付壺(231)。

土師器(図69－316)

土師器皿(316)。

古瀬戸(図65－232～234)

平碗(232・233)、天目茶碗(234)。

瀬戸美濃(大窯)(図65－235～245、図66－246～250、図69－317～319)

丸碗(235)、天目茶碗(236～238,317)、丸皿(239～245,319)、稜皿(318)、擂鉢(246～248)、茶入れ(249)、建水(250)。

越前(図66－251～256、図69－320)

擂鉢(251～254,320)、鉢(255)、お歯黒壺(256)。

瀬戸美濃(連房)(図66－257～264、図67－265～286、図68－287～295、図69－322・323)

天目茶碗(257)、丸碗(258・259)、御室茶碗(260)、染付丸碗(261)、広東茶碗(262～264)、端反碗(265～267)、染付湯呑(268～274)、腰錆湯呑(275)、志野丸皿(276・277・321)、鉄絵皿(278)、折縁皿(322)、染付皿(279・280)、灯明皿(283・323)、皿(281)、油皿(282)、擂鉢(284～289)、片口鉢(290)、鉢(291)、水甕(292)、土瓶蓋(293)、壺蓋(294)、芯押さえ(295)。

肥前(図68－297～303、図69－304)

染付湯呑み(297・298)、小坏(299)、染付皿(300～302)、蓋(303・304)。

信楽・在地系(図69－305～311)

火入れ(305)、土瓶(306・307)、鍋(308)、蓋(309・310)、行平鍋(311)。

玩具・加工円盤(図69－296・312)

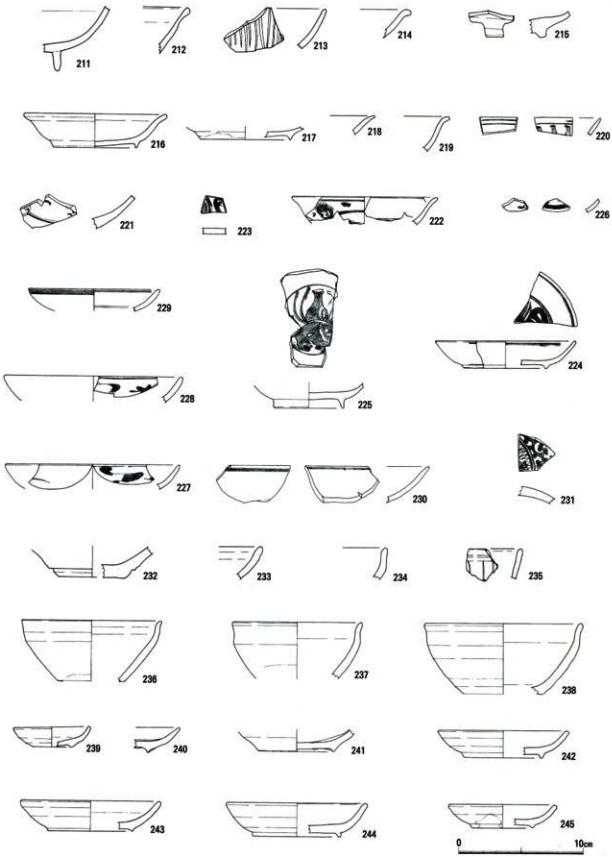
加工円盤(296)、人形(312)。

金属製品(図69－324～328)

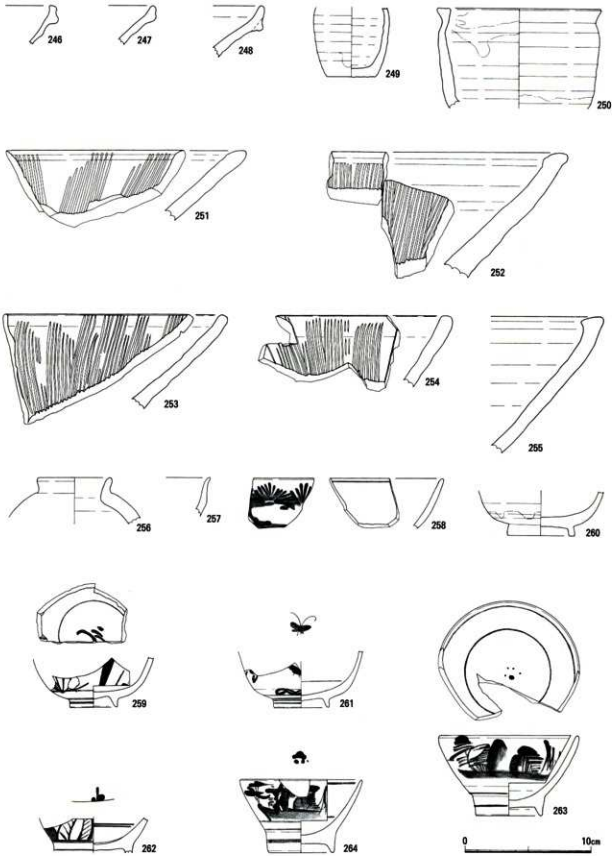
煙管雁首(325・326)、銭貨(327・328)、不明鉄製品(324)。

その他(図67－313、図69－329・330)

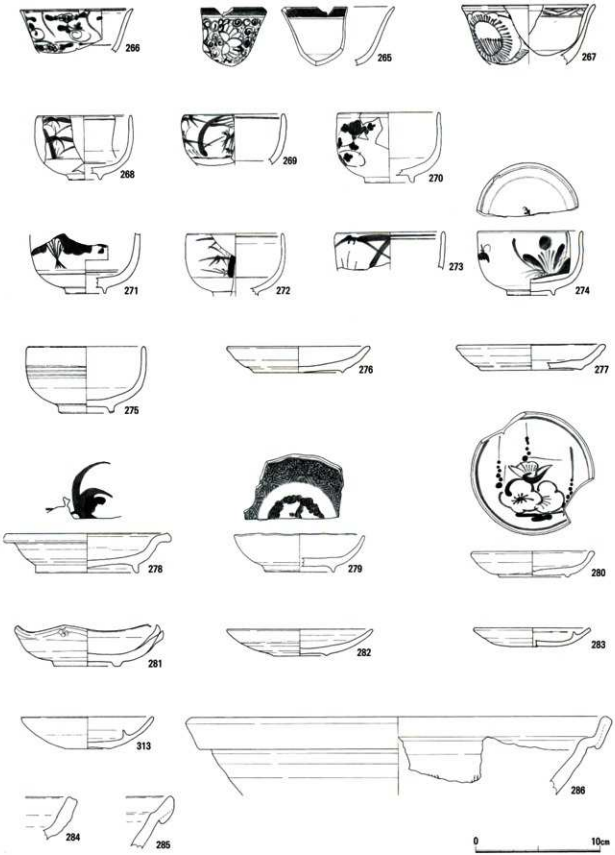
近代灯明皿(313)、砥石(329)、スクレイパー(330)。



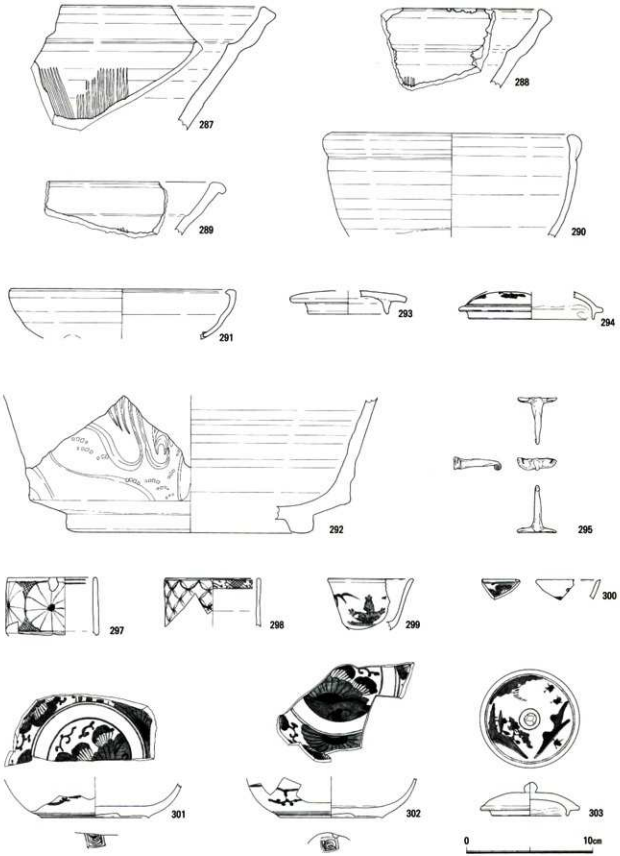
第65図　包含層出土遺物（1）（S＝1／3）



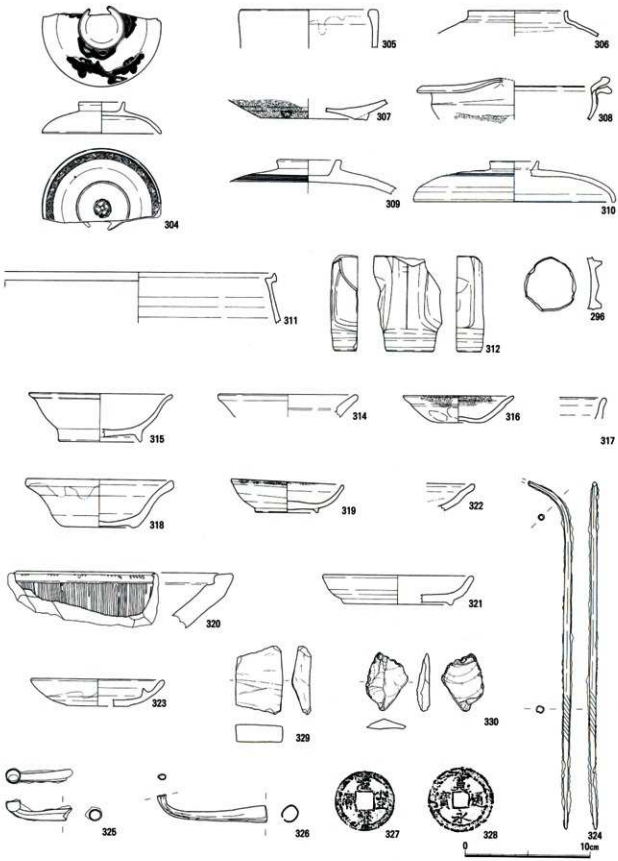
第66図　包含層出土遺物（2）（S＝1／3）



第67図　包含層出土遺物（3）（S＝1／3）



第68図　包含層出土遺物（4）（S＝1／3）



第69図　包含層出土遺物（5）（S＝1／3、327・328のみ S＝1／2）

第18表　遺構出土土器一覧表(1)

遺構名	グリッド	古代	中世																							近世									近現代	破片数合計	残存率(X/12)
		灰釉陶器	山茶碗	土師器(皿)	古瀬戸前期	古瀬戸後期 I	古瀬戸後期 II	古瀬戸後期 III	古瀬戸後期 IV古	古瀬戸後期 IV新	古瀬戸後期 時期不明	大窯 1	大窯 2	大窯 3前	大窯 3後	大窯 4前	大窯 4後	大窯 5	大窯 時期不明	越前 越前	越前 越前系	備前	中国磁器 青磁	中国磁器 白磁	中国磁器 染付・他	連房 I	連房 II	連房 III	連房 時期不明	肥前	唐津	信楽系	常滑	在地	その他		
SB1・ASP136	G9						1(1.6)																													1	(1.6)
SB1・ASP128	H8		1			1(0.7)																	1													3	(0.7)
SB2・ASP138	H9			1(3.6)																																1	(3.6)
SB2・ASP98	G8						1																													1	
SB3・BSP1013	N2		1																																	1	
SB3・BSP1020	N2	1		1(1.2)							1												1(3.5)													4	(1.7)
SB3・BSP1022	P3																											1								1	
SB3・BSP237	O3																						1(1.2)													1	(1.2)
SB4・BSP1012	N3			1(3.3)								3			1(1.6)																					8	(1.3)
SB4・BSP1013	O2			1			2																1													4	
SB4・BSP198	N4																												1							1	
SB7,10・ASP981	J6, J7						1(3.9)																													1	(3.9)
SB7・BSP159	L8																										1									1	
SB7・BSP962	K7														1(1.7)																					1	(1.7)
SB8・BSP961	K7								1(1.2)																											1	(1.2)
SB9・ASP128	J9						1(3.6)																													1	(3.6)
SB11・BSP979	K6			1																	1															2	
SA1a	K8~K11									1													8(1.6)			10(8.0)	1	36(25.6)		10(3.9)	7				16(23.6)	82	(66.7)
SA1b	K4~K7																											10(9.5)							10(7.8)	16	(38.3)
SA1c	D4~J4																											4(3.9)		2(8.4)			1			7	(4.3)
BSP1	M9			1(0.3)			2(3.4)															1(9.6)	6(3.5)					32(2.1)							2	39	(1.1)
ASD1	C9																											39(3.6)								39	(3.6)
ASD3	C8																											3(8.5)						4(3.3)		7	(1.8)
ASD4	D8																											6(1.8)								6	(1.8)
ASD5	D9																											12(0.6)								12	(0.6)
ASD7	E5,E6,F5			1				1(1.4)												1								5(8.4)								8	(1.8)
ASD8	H5, I6		1					2(1.3)	1		1									1(6.4)																6	(1.7)
ASD12	J8			1(3.8)																																1	(3.8)
BSD10	P14																												1(1.3)							1	(1.3)
ASK1	C11																											12(2.2)							1	13	(2.2)
ASK4	C9			6(0.3)								2(1.6)	1																							9	(1.5)
ASK5	C8~C9									1																		8(1.6)								9	(1.6)
ASK6	I9			1																																1	
ASK8	C11			1(0.7)																															1	2	(0.7)
ASK11	D9			2(1.3)									4(0.9)			3(1.3)												29(3.5)		6(2.4)	16	20			3(3.7)	87	(38.7)
ASK12	D9			1(0.1)															1									29(3.5)			1			7(3.6)	2	37	(31.6)
ASK14	C8																											4(1.5)							1	7	(1.5)
ASK15	D8			1(0.3)																								6(2.9)								7	(2.2)
ASK19	D8																											18								18	
ASK20	E9																											13(3.0)								13	(3.0)
ASK21	E9																											13(3.9)	5(2.4)							18	(11.4)
ASK22	D11			2(3.7)									1(1.1)	1(2.2)					1				1	1				8(2.6)								29	(21.5)
ASK23	D11			2(3.6)																								4							1(0.6)	7	(1.2)
ASK24	D10~11			1(3.5)																								3(3.8)								4	(4.3)
ASK26	E8			10(30.1)			1(3.7)			1(8.6)		1							1	1(1.6)					1				1						1	21	(34.0)
ASK27	E														1	2(1.3)				2			10(8.0)	1(1.4)	2(2.7)	6(2.5)			1							26	(8.7)
ASK28	E9			1								1		1	1(1.3)													1(0.1)								5	(2.0)
ASK29	D8~E8																											1								1	
ASK31	K8																																		1(1.3)	1	(1.3)
ASK32	E8																											7(05.3)				4				11	(13.3)
ASK33	K10			1(1.3)																								3(8.3)	11					1	1	17	(1.4)
ASK35	E9~E10																		1																	1	
ASK36	E10			3(4.3)																1(0.3)								1								5	(4.3)
ASK40	D10			1(1.6)																					1(1.3)	1(2.3)			3(1.7)							8	(6.8)
ASK49	F11			8(2.6)									1						1(3.6)										2							10	(2.6)
ASK51	F11			4(5.6)																																4	(4.6)
ASK54	F9,F10																							2												2	
ASK55	F10																										3	8(1.6)								12	(1.6)
ASK56	E10,F10																											1(12.0)								1	(12.0)
ASK59	F9														1									2	1(0.1)				2(0.3)							8	(0.6)
ASK65	F8			1(1.6)																		1							4(1.9)							6	(2.9)
ASK67	G8																												2							2	
ASK69	H8,I8	1(1.3)																																		1	(1.3)
ASK75	J6								1(6.8)																											1	(6.8)
ASK79	G5			1(0.7)																																1	(0.7)
ASK81	E9			3(4.5)											1					1(1.5)														2(3.6)		7	(4.5)
ASK86	D5			1(1.3)						1(0.2)			1(0.6)																							3	(1.6)
ASK87	D5			3(4.0)						1(1.4)		1												1(0.3)												5	(0.7)
ASK88	D9																											2(0.6)	5(2.3)		1(1.2)				3(1.2)	11	(11.7)
BSK4	L3			2(1.3)																1							1									4	(1.3)
BSK5	K4	1																					1													2	
BSK7	K5																													1						1	
BSK9	K4~K5																											2(0.2)								2	(0.2)
BSK10	J1																											2								2	
BSK13	L7																1(1.2)		1									1								3	(2.2)
BSK14	G5			2																																2	
BSK15	M4		1(0.3)				1																													2	(0.3)
BSK21	O7, P7				1																															1	
BSK26	P7																																1			1	
BSK27	Q7			1(0.3)																																1	(0.3)
BSK28	P6																											2								2	
BSK30	Q5~R5					1																														1	
BSK40	P13																									4(3.8)										4	(3.8)
BSK42	L10																									3(0.7)		4							3	8	(0.7)

第19表　遺構出土土器一覧表（2）

遺構名	グリッド	古代 灰釉陶器	中世 山茶碗	土師器(皿)	古瀬戸前期	古瀬戸後期 I	II	III	IV古	IV新	時期不明	大窯 1	2	3前	3後	4前	4後	5	時期不明	常滑 常滑	常滑系	越前	中国陶磁 青磁	白磁	染付・[illegible]	近世 連房 I	II	III	時期不明	肥前	唐津	信楽系	常滑	在地	近現代 その他	破片数合計	残存率(X/12)
BSK43	N15		1													1(1.0)																				2	(1.0)
BSK44	P12											1(1.1)																								1	(1.1)
BSK86	G4	2(1.2)	1(1.8)																				1													4	(3.0)
BSK87	G4		1					2(0.8)				1																								4	(0.8)
BSK89	H4			3(1.3)								37(1.0)	1						1	3(2.6)									1(0.3)							45	(11.9)
BSK90	G2~G3																											1								1	
BSK91	N3											10(0.7)			7	3(2.8)				1							20(17.6)	22(3.6)							1	76	(26.4)
BSK92	O3																							1(0.3)												1	(0.3)
BSK93	O2														3																					3	
BSK94	O3	1		1											8(1.0)	3(2.3)											3(2.6)	7(1.3)			1					24	(7.6)
BSK95	N2		38(1.0)																																	38	(1.0)
BSK96	O2											1				1	1		2	1							3(0.7)	8(2.8)								17	(3.5)
BSK97	M1~N1																											3							1(1.7)	4	(1.7)
BSK98	N2														1													3(0.8)								4	(0.8)
BSK99	N2																			1			1			1(0.8)		2								5	(0.8)
BSK100	N2												2														2(0.7)	1								5	(0.7)
BSK101	N2																											1								1	
BSK102	N3									1(0.3)																										1	(0.3)
BSK104	O3		2																																	2	
BSK105	O1																											1								1	
BSK113	Q6	2																		1			1													4	
BSK115	N15																										1	27(3.5)								28	(3.5)
BSK116	O8																											7(3.0)							1	8	(3.0)
BSK117	O8																											15(2.0)							3(1.0)	18	(3.2)
BSK121	K3														2(0.3)													2(0.1)								4	(0.4)
ASS1	B11																			1								17(1.5)								18	(1.5)
ASQ1	E11	1		1(2.0)								1																7(26.0)								9	(28.0)
ASBk1	B11			2(1.0)																								26(2.8)							1	29	(3.8)
ASP21	D10			2(0.4)																																2	(0.4)
ASP23	E8																											3(1.9)								3	(1.9)
ASP37	F11			1(2.0)																																1	(2.0)
ASP57	F11					1(0.8)																														1	(0.8)
ASP101	G8																						1(0.3)													1	(0.3)
ASP102	G9		1(0.8)																																	1	(0.8)
ASP107	G9						1(0.3)																													1	(0.3)
ASP112																			1																	1	
ASP384	I7~J7																																1			1	
ASP408	I5		1																																	1	
ASP452	G6																											1								1	
ASP459	D6			1(1.0)																																1	(1.0)
ASP465	E5																											1(0.3)								1	(0.3)
ASP488	F9~F10			3(1.0)																																3	(1.0)
ASP495	F12			1(1.0)																																1	(1.0)
BSP69	J3																										2(0.4)		1							3	(0.4)
BSP73	K3													1										1(1.0)			4(7.0)	2(3.8)	10(3.4)						1	18	(12.7)
BSP144	L6																									1										1	
BSP227	O7																							1												1	
BSP296	Q4		1(1.3)	1															1(0.8)																	3	(2.1)
BSP298	R5	1																																		1	
BSP312	R4										1																									1	
BSP320	R13	1(2.3)																																		1	(2.3)
BSP321	Q4																												1							1	
BSP643	L11			1(0.8)																																1	(0.8)
BSP648	K10																												1							1	
BSP657	K9																																		1	1	
BSP858	K9			1					1(1.0)																								2			4	(1.0)
BSP878	K8									1																										1	
BSP888	K4																						1(0.2)													1	(0.2)
BSP891	K7																						1						1						1	3	
BSP892	O7																		1		1															2	
BSP893	O7						1																						1(1.7)							2	(1.7)
BSP898	N7		1																																	1	
BSP899	N7						1																													1	
BSP971	H4																			1(1.3)																1	(1.3)
BSP1008	O3																												1							1	
BSP1016	P2																																		1	1	
BSP1018	P3	1																																		1	
BSP1021	N2																		1(0.6)																	1	(0.6)
BSP1022																			1																	1	
BSP1023	P3															1(2.0)			1																1	3	(2.0)
BSP1095	O1																											1								1	
BSP1107	O1																												1							1	
BSP1111	K7		1																																	1	
BSP1112	K8																												1(0.3)							1	(0.3)
BSP1138	K6						1(0.3)																													1	(0.3)
BSX3	P11~Q11																																		22(3.8)	22	(3.8)
BSX8				18																																18	
不明	K5																		1										1							2	
破片数合計		12	46	180	1	3	11	4	4	7	8	22	17	1	8	14	2		28	14	2	1	17	9	8	11	39	165	63	8	15	21	3	11	48	1126	
残存率合計(X/12)		(2.8)	(22.3)	(78.3)		(1.8)	(1.9)	(3.6)	(1.0)	(2.7)		(8.8)	(2.6)	(2.2)	(8.1)	(18.8)	(2.2)		(1.5)	(7.8)		(0.8)	(4.7)	(4.0)	(4.1)	(16.0)	(33.3)	(33.1)	(11.5)	(4.7)	(1.2)			(5.8)	(48.3)	(126.0)	(307.1)

第20表　包含層出土土器一覧表

遺構名	グリッド	古代	中世																						近世									近現代	破片数合計	残存率(X/12)
		灰釉陶器	山茶碗	土師器(皿)	古瀬戸前期	古瀬戸後期						大窯								常滑		渥美	中国陶磁			連房				肥前	瀬戸	信楽系	常滑	在地	その他		
						I	II	III	IV古	IV新	時期不明	1	2	3前	3後	4前	4後	5	時期不明	常滑	常滑系		青磁	白磁	染付・皿	I	II	III	時期不明								
A1			[illegible]																				1	1				1								5	[illegible]
B8																							[illegible]				[illegible]	[illegible]	1	[illegible]				[illegible]	[illegible]	41	[illegible]
B9				[illegible]																						1	4	[illegible]		[illegible]		4			3	11	[illegible]
B10																							1					[illegible]							[illegible]	17	[illegible]
B11																											[illegible]	[illegible]	2			2				8	[illegible]
C8																				[illegible]						[illegible]	2	[illegible]	2	[illegible]	[illegible]	[illegible]			3	[illegible]	[illegible]
C9																									1			[illegible]	2	[illegible]		[illegible]			[illegible]	[illegible]	[illegible]
C10				[illegible]																			1					[illegible]							1	[illegible]	[illegible]
C11				1				[illegible]								[illegible]									[illegible]		[illegible]	[illegible]	1	1					[illegible]	[illegible]	[illegible]
C12				1											[illegible]													3	1			1		[illegible]		4	[illegible]
D4																											1	[illegible]								2	[illegible]
D8						1								1													[illegible]	[illegible]	3	[illegible]	[illegible]				[illegible]	[illegible]	[illegible]
D9				[illegible]											2										1	[illegible]	4	[illegible]	1	[illegible]	[illegible]	[illegible]			[illegible]	[illegible]	[illegible]
D10				[illegible]								[illegible]			2					[illegible]				[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]			2					[illegible]	[illegible]
D11				1											1										[illegible]		1	[illegible]	2		1	2			2	[illegible]	[illegible]
E3																															1					1	
E5				[illegible]																								[illegible]								2	[illegible]
E8				[illegible]						[illegible]		[illegible]		4	[illegible]										4			[illegible]		1	1				[illegible]	[illegible]	[illegible]
E9				[illegible]								[illegible]		1	1	1				[illegible]						1	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]			[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
E10				[illegible]								[illegible]	[illegible]		[illegible]										[illegible]		1	[illegible]	[illegible]	[illegible]	1				[illegible]	[illegible]	[illegible]
E11		1		1						1		1		[illegible]									[illegible]				1	[illegible]	2	[illegible]					[illegible]	[illegible]	[illegible]
E12														1										[illegible]	1			[illegible]	3						[illegible]	[illegible]	[illegible]
F3																													8						8	12	
F9																									[illegible]				1		1					3	[illegible]
F10																											1	[illegible]			1					4	[illegible]
F11			[illegible]																					[illegible]	4			[illegible]	1						[illegible]	17	[illegible]
F12												[illegible]											2					[illegible]	1	1	[illegible]					8	[illegible]
F13																								1				[illegible]								2	[illegible]
G8																																			2	2	
G9								[illegible]		1																		1								3	[illegible]
G10																								1				[illegible]		1					1	4	[illegible]
G11																												[illegible]							[illegible]	2	[illegible]
G12																												1							[illegible]	3	[illegible]
H2		1																		1								[illegible]								3	[illegible]
H7																																			1	1	
H10																												2								2	
H11																							1													1	
H12								1																				[illegible]								3	[illegible]
I8									[illegible]																			2								5	[illegible]
J4																												1								1	
J6												[illegible]																								2	[illegible]
K4																												1	1							2	
K5																												1								1	
K6																												[illegible]							[illegible]	4	[illegible]
K12																											1	[illegible]	1						1	3	[illegible]
L4																												3								3	
L6																												1							[illegible]	2	[illegible]
L9																																			3	4	
L10																												1								1	
M6																																			1	2	
M7																												2							[illegible]	4	[illegible]
M8																												1							[illegible]	2	[illegible]
M9																												[illegible]							[illegible]	7	[illegible]
M10																																			1	1	
M11														1																					3	4	
N4																																			1	1	
N9		1																										[illegible]			[illegible]				2	3	[illegible]
N11																												1							[illegible]	2	[illegible]
N16																												1						1		2	
O2																												[illegible]							[illegible]	4	[illegible]
O7																												[illegible]								1	[illegible]
O8										1																										1	
O9																												1							1	2	
P2																												[illegible]							3	3	[illegible]
P6																												1		1						2	
P8																												[illegible]		1					[illegible]	[illegible]	[illegible]
Q12																																		[illegible]		1	[illegible]
R5								1																												1	
R8																												1							[illegible]	2	[illegible]
R12																												[illegible]							[illegible]	4	[illegible]
R14		1																																		1	
R15																												[illegible]			1					4	[illegible]
A区			[illegible]	[illegible]				1							2					1			[illegible]	[illegible]			[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]			[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
B区															1					[illegible]				[illegible]	1		[illegible]	[illegible]		[illegible]		[illegible]			1	[illegible]	[illegible]
不明		[illegible]	1	[illegible]								[illegible]	[illegible]	1	[illegible]	[illegible]			[illegible]	1				[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	8	[illegible]	[illegible]	2				[illegible]	[illegible]
破片数合計		8	8	30		1		3	4	4		11	5	[illegible]	[illegible]	3			1	12			[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	62	[illegible]	41	[illegible]	[illegible]	[illegible]		9	[illegible]	[illegible]	
口縁部残存率(X/12)		[illegible]	[illegible]	[illegible]				[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]			[illegible]	[illegible]			[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]	[illegible]		[illegible]

第21表　土器観察表（1）

挿図番号	出土地点	器種		法量 器高	法量 口径	法量 底径	法量 台径	残存率(X/12)	口縁部破片数	破片数合計	成形・調整	釉薬	備考	分類・時期	挿図図版	写真図版
1	SB1-ASP128	青磁	鉢							1	体部内面回転ナデ　外面鎬蓮弁文	(内外面)		B-I類	54	10
2	SB1-ASP128	古瀬戸	平碗					0.7	1	1	口縁部内外面回転ナデ	灰釉(内外面)		後I期	54	10
3	SB1-ASP105	古瀬戸	浅碗	(4.0)	(12.1)		(2.9)	1.6	1	1	削り出し高台	灰釉(高台周辺と底部内面を除く内外面)	底部内面にトチン痕	後II期	54	10
4	SB2-ASP139	土師器	皿	1.7	(6.8)	2.0		5.6	1	1	体部上方内外面横ナデ		焼成不良により器壁剥離		54	7
5	SB2-ASP88	古瀬戸	盤類							1	底部外面周辺を除き回転ナデ	灰釉(底部外面周辺を除く)		後I～II期	54	10
6	SB3-BSP1013	山茶碗	鉢(捏鉢手)							1	体部外面回転ヘラ削り		底部内外面摩滅、高台端部籾殻痕		54	10
7	SB3-BSP1020	青磁	碗					0.5	1	1	体部内面回転ナデ　外面回転ヘラ削り痕	(内外面)		D-I類	54	10
8	SB3-BSP217	青磁	鉢					1.2	1	1	体部内面回転ナデ　外面回転ヘラ削り痕	(内外面)		D-I類	54	10
10	SB4-BSP1015	青磁	鉢							1	体部内面回転ナデ　外面鎬蓮弁文	(内外面)		B-IV類	54	10
11	SB4-BSP1012	土師器	皿					2.2	1	1	体部上方内外面板状工具による横ナデ		口縁端部に煤付着	B2a類	54	
12	SB4-BSP1012	土師器	皿					1.3	1	1	体部上方内外面板状工具による横ナデ		口縁端部に煤付着	B2a類	54	10
13	SB4-BSP1015	古瀬戸	瓶子							1	体部内外面回転ナデ	灰釉(外面)		後I～II期	54	10
14	SB4-BSP1012	大窯	天目茶碗					1.0	1	1	口縁部内外面回転ナデ	鉄釉(内外面)		第1段階後半	54	11
15	SB4-BSP1012	大窯	有耳壷							2	体部内外面回転ナデ	鉄釉(内外面)		第1段階	54	11
17	SB7•10-ASP381	古瀬戸	平碗					0.9	1	1	口縁部内外面回転ナデ	灰釉(内外面)		後II期	54	10
18	SB7-BSP862	大窯	稜皿					1.7	1	1	体部内外面回転ナデ	鉄釉(内外面)		第3段階	54	11
19	SB8-BSP901	古瀬戸	縁釉小皿					1.3	1	1	体部内外面回転ナデ	鉄釉(外面底部周辺を除く内外面)		後IV期(古)	54	10
20	SB9-ASP228	古瀬戸	花瓶		(7.4)			3.0	1	1	口内面より口頸部にかけて回転ナデ	口内面より外面口頸部にかけて灰釉		後I～II期	54	7
21	SB10-BSP876	越前系	壷？							1	体部外面　回転ナデ			時期不明	54	11
22	SA1a西半裏込め土	青磁	碗					1.0	1	1	底部外面周辺を除き回転ナデ	(内外面)		E類	55	10
23	SA1a西半	青磁	鉢				(6.8)			1	削り出し高台	高台内面途中まで施釉		時期不明	55	10
24	SA1a西半裏込め土	古瀬戸	平碗							1	削り出し高台、外面底部周辺回転ヘラ削り	灰釉(内外面ただし高台周辺を除く)	内面底部にトチン痕	後IV期(新)	55	10
25	SA1a東半、A区Ⅲ層石垣A南	連房	染付丸碗	5.8	(10.0)	4.1		1.9	2	5(3.5)	底部外面周辺回転ヘラ削り、その他は回転ナデ	染め付け		第11小期	55	8
26	SA1a東半	連房	端反碗	5.9	(11.6)		(4.1)	1.2	1	1(0.8)	底部外面周辺回転ヘラ削り、その他は回転ナデ	染め付け		第9小期	55	12
27	SA1a	連房	染付皿				(7.6)			2	底部外面周辺回転ヘラ削り、その他は回転ナデ	染め付け		第10小期	55	12
28	SA1a裏込め土	連房	菊皿				(8.2)			1	削り出し高台	灰釉(内外面ただし底部外面を除く)		第5～第6小期	55	12
29	SA1a西半表土直下含む	連房	擂鉢					0.8	1	1	口縁部内外面回転ナデ	錆釉(内外面)		第1小期	55	13
30	SA1a裏込め土	連房	擂鉢					0.5	1	1	口縁部内外面回転ナデ	錆釉(内外面)		第10～第11小期	55	13
31	SA1a東半、A区Ⅲ層石垣南	連房	片口鉢	7.0	(15.5)		7.8	4.9	2	3	底部外面周辺は回転ヘラ削り　その他は回転ナデ　口縁切込み平形	灰釉(内外面ただし底部外面を除く)		第10～第11小期	55	9
32	SA1a	肥前	小碗					1.9	1	1	体部内外面回転ナデ	染め付け		江戸後期	55	12
33	SA1a西半　試掘坑(表土直下含む)	唐津	丸碗				5.1			2	底部外面周辺回転ヘラ削り　削り出し高台	灰釉		江戸後期	55	12
34	SA1a	その他	染付小碗		(9.5)			1.9	1		体部内外面回転ナデ	染め付け		近現代	55	
35	SA1a東半	その他	小坏		(6.4)			4.4	1	1	体部内外面回転ナデ	染め付け		近現代	55	
36	SA1a東半	その他	皿	2.4	(10.3)		(5.2)	1.6	1	1	底部外面周辺回転ヘラ削り　その他は回転ナデ	プリント		近現代	55	
37	SA1b表土直下含む	連房	染付丸碗			(5.1)	(4.6)			1	底部外面周辺回転ヘラ削り　その他は回転ナデ	長石釉(内外面)	見込コンニャク印判	第11小期	55	
38	SA1b表土直下含む K6区Ⅲ層	その他	染付プリント丸碗	5.4	(10.7)		3.7	3.2	2	5	体部内面から外部口縁部回転ナデ	染め付け　プリント		近現代	55	
39	BSF1	備前	鉢					0.6	1	1	口縁部内外面回転ナデ		口縁外面に刻み	16世紀	55	11
44	ASD3+C8区Ⅲ層	在地系	行平蓋	5.0	(16.8)			1.3	1	4	摘み周辺回転ヘラ削りその他内外面回転ナデ	錆釉		時期不明	56	13
45	ASD5	連房	染付鉢		(16.3)			0.2	1	8(1.6)	体部内外面回転ナデ	染め付け		第9小期	56	12
46	ASD8-1層	山茶碗	碗(均質手)			(6.0)				1	体部内外面回転ナデ、底部外面回転糸切痕未調整				56	10
47	ASD8	古瀬戸	折縁小皿					1.3	1	1	体部内面より口縁外面にかけて回転ナデ			後III期	56	10
48	ASD8	越前	鉢					0.4	1	1	口縁部内外面回転ナデ	無釉		14世紀後半	56	11
53	ASK4	土師器	皿							4	体部内外面横ナデ		丁寧に調整、真丸に近い	B2a類	57	7
54	ASK4	大窯	有耳壷		(11.8)			1.0	1	2	体部内外面回転ナデ	鉄釉(内外面)		第1段階	57	11
55	ASK11+ASK22	大窯	天目茶碗					1.5	1	2	底部外面周辺を除き回転ナデ	鉄釉(内外面ただし高台周辺を除く)		第4段階前半	57	7
56	ASK11	大窯	丸皿					0.9	1	1	底部外面周辺回転ヘラ削り、その他回転ナデ。	灰釉		第2段階	57	11
57	ASK11	連房	腰錆湯呑				3.6			1	底部外面周辺回転ヘラ削り　その他回転ナデ　削り出し高台	口縁部外面から体部内面にかけて灰釉　他は鉄釉		第9小期	57	12
58	ASK11+D9区Ⅱ層	連房	擂鉢		(30.6)			3.2	3	5	体部内外面回転ナデ	錆釉(内外面)	擂目一単位2.3cm、9条	第10小期	57	13
59	ASK11+ASK14	連房	徳利			(8.8)				3	底部外面周辺回転ヘラ削り、内面回転ナデ、底部外面回転糸切り後ナデ	灰釉(内外面)		第11小期	57	12
60	ASK11	肥前	広東茶碗	6.1	(11.1)		(6.6)	1.9	1	3	底部外面周辺回転ヘラ削り　その他回転ナデ	染め付け		江戸後期	57	12

第22表　土器観察表（2）

挿図番号	出土地点	器種		法量(cm) 器高	口径	底径	台径	残存率(X/12)	口縁部破片数	破片数合計	成形・調整	釉薬	備考	分類・時期	挿図図版	写真図版
61	ASK11＋E9区Ⅱ層＋攪乱	信楽系	徳利			(8.6)				3	底部外面周辺回転ヘラ削り	灰釉(外面ただし底部外面を除く)		江戸後期	57	13
62-1	ASK11＋D9・E9区Ⅱ層	信楽系	土瓶							13	体部内面回転ナデ	灰釉に鉄絵		江戸後期	57	13
62-2	ASK11＋C8区Ⅱ層＋Ⅲ層	信楽系	土瓶							11	体部内外面回転ヘラ削り	底部外面と内面下部を除き灰釉　蓋類は長石釉		江戸後期	57	13
62-3	ASK11＋B9区Ⅲ層＋C8区Ⅲ層	信楽系	土瓶							4	底部外面周辺回転ヘラ削り その他は回転ナデ　底部にアシ	底部外面周辺を除き灰釉 すす付着		江戸後期	57	13
64	ASK12＋D8・D10区Ⅱ層＋D9区Ⅲ層	在地系	湯呑み		(8.3)			3.0	4	7	体部内外面回転ナデ	灰釉に鉄絵		時期不明	57	13
65	ASK15＋E9区Ⅱ層	連房	染付丸碗					0.9	2	5	口縁部内外面回転ナデ	染め付け		第10～第11小期	57	
66	ASK19＋D8区Ⅱ層	連房	水滴(豆腐形)							8		染め付け		第9小期	57	9
67	ASK19D8区Ⅲ層	連房	水滴(鳥形)							8	型押し	染め付け	底部 墨書"天保六□ □□□□"	第9小期	57	9
68	ASK20＋E10区Ⅱ層	連房	広東茶碗		(11.1)			3.5	3	4	底部外面周辺回転ヘラ削り その他は回転ナデ	染め付け		第11小期	57	12
69	ASK20D10区Ⅲ層・F10区Ⅲ層	連房	染付丸碗		(10.3)			3.6	3	10	底部外面周辺回転ヘラ削り その他は回転ナデ	染め付け		第10～第11小期	57	12
70	ASK22	大窯	緑釉平碗		(17.0)			1.3	1	2	底部外面周辺回転ヘラ削り その他は回転ナデ	灰釉(内外面)		第2段階	57	11
71	ASK22・SP5	大窯	丸皿	2.3	(8.0)		4.2	2.2	1	2	削り出し高台	灰釉(全面)	底部外面に輪ドチ付着	第3段階前半	57	11
76	ASK26	中国陶磁	染付碗				(6.0)			1	底部外面カンナ痕	染め付け	呉須絵	染付碗C群	58	10
77	ASK26	土師器	皿	2.6	10.2	3.1		6.2	3	4	内外面ナデ　底部指頭圧痕			C2類	58	7
79	ASK26	越前	鉢	6.8	(30.4)	(15.0)		1.6	1	1	体部内外面回転ナデ		体部内面擂目		58	7
80	ASK27	白磁	皿		13.0			1.4	1	1	口縁部内外面回転ナデ	(内外面)		E群	58	10
81	ASK27	大窯	丸皿	1.9	(10.3)		(5.0)	1.3	1	2	削り込み高台	灰釉(全面)	底部外面に輪ドチ痕	第4段階前半	58	11
82	ASK27＋ASK28＋攪乱	連房	丸碗	7.0	(11.6)	5.0		2.5	1	5	底部外面周辺回転ヘラ削り その他は回転ナデ　削り出し高台	底部外面周辺を除き鉄釉流しかけ　口縁部周辺内外面灰釉	茶せんのあと	第2小期	58	8
84	ASK28	大窯	茶入れ					1.5	1	1	口縁部内外面回転ナデ	鉄釉(内外面)		第3段階	58	
85	ASK32	連房	蓋(端反碗)	2.8	8.9			11.7	3	3	つまり部周辺回転ヘラ削り その他は回転ナデ	染め付け		第9小期	58	9
95	ASK36	土師器	皿					2.4	1	1	体部上方外面横ナデ、内面板状工具による横ナデ		口縁部外面に煤付着	B2a類	58	10
96	ASK36	越前	擂鉢					0.2	1	1	口縁部内外面回転ナデ		体部内面擂目	Ⅲb	58	11
98	ASK46＋D9・C8区Ⅱ層	中国陶磁	輪花皿	1.8	(8.8)		(6.2)	1.3	1	4	底部外面周辺回転ヘラ削り その他は回転ナデ	唐草文様		染付皿B1群	58	7
99	ASK49	大窯	擂鉢							1	体部外面回転ナデによる轆轤目顕著	錆釉(内外面)		第1～第2段階	58	11
100	ASK49＋C9区Ⅱ層	大窯	甕			(12.3)				2	体部外面回転ナデ・内面ロクロ目顕著	鉄釉(外面ただし底部周辺を除く)		第1～第2段階	58	11
102	ASK51	土師器	皿	1.5	(7.9)	(3.5)		6.0	2	3	体部外面指頭圧痕・内面横ナデ			C2類	58	7
103	ASK55＋G10区攪乱	連房	摺絵皿				6.9			3	底部外面周辺回転ヘラ削り その他は回転ナデ	台を除き灰釉　内面中央に染め付け		第5～第6小期	59	12
104	ASK56	連房	灯明皿(受皿)	2.7	10.8	4.8		12.0	1	1	底部外面周辺回転ヘラ削り	錆釉(内外面ただし底部周辺を拭い取る)	桟部端部に煤付着	第8～第9小期	58	9
105	ASK65	備前	香炉							3	底部外面周辺及び内面回転ヘラ削り	底部外面周辺及び体部内面を除き灰釉　(?)		江戸後期	59	
106	ASK69	灰釉陶器	碗					0.3	1	1	口縁部内外面回転ナデ	灰釉(内外面)		時期不明	58	10
107	ASK75	古瀬戸	卸皿					0.8	1	1	口縁部内外面回転ナデ	灰釉(口縁内外面のみ)		後Ⅳ期(古)	58	10
108	ASK81	土師器	皿	1.7	9.2	2.3		2.5	1	1	体部外面無調整・内面一方向ナデ			C2類	59	10
109	ASK81	越前	擂鉢					1.5	1	1	体部内外面回転ナデ		擂目一単位2.3cm、8条	Ⅲb	59	11
110	ASK81＋D10区Ⅲ層	在地系	灯明皿	1.9	(10.6)	(4.8)		3.5	2	2	底部外面周辺回転ヘラ削り その他は回転ナデ	錆釉	内外面に炭化物付着	時期不明	59	9
114	ASK86	古瀬戸	腰折皿					0.2	1	3	底部外面周辺回転ヘラ削り 内面回転ナデ	灰釉(底部周辺を除く)		後Ⅳ期(新)	59	10
115	ASK87	土師器	皿	1.7	(8.9)	(4.8)		4.0	2	2	体部内面より外面にかけてナデ		端部つまみ上げる	B1類	59	7
116	ASK87	古瀬戸	平碗		(15.3)			1.4	1	1	底部外面周辺回転ヘラ削り その他回転ナデ	灰釉(内外面ただし外面底部を除く)		後Ⅳ期(新)	59	10
117	ASK87	大窯	擂鉢			9.8				1	底部外面回転糸切痕未調整	錆釉(内外面)	擂目一単位3.2cm、11条	第1段階	59	11
118	ASK88	連房	腰錆湯呑	5.3	9.8	4.0		12.0	1	1	底部外面周辺回転ヘラ削り その他は回転ナデ	口縁部外面から体部内面灰釉　他は鉄釉		第9小期	59	8
119	ASK88	連房	灯明皿(受皿)	2.6	(11.1)	4.2		1.0	1	1	底部外面周辺回転ヘラ削り	灰釉(内外面ただし底部周辺を除く)		第10～第11小期	59	9
120	ASK88	唐津	鉢					1.2	1	1	口縁部内外面回転ナデ	灰釉(内外面)		江戸後期	59	12
123	BSK5	灰釉陶器	壺?							1	体部内面轆轤目顕著	外面に自然釉			59	10
124	BSK13	大窯	丸皿	1.5	(8.7)		(3.1)	2.2	1	1	削り込み高台	灰釉(内外面ただし高台周辺を除く)		第4段階後半	59	11
127	BSK15	古瀬戸	卸皿			4.0				1	底部糸切り痕、内部に卸目	底部外面に灰釉		後Ⅰ～Ⅱ期	59	10
128	BSK21	古瀬戸	四耳壺							1	体部内外面回転ナデ	内外面灰釉		前期	61	10
130	BSK40	連房	鉄絵皿	2.4	(11.3)		7.0	3.6	2	2	底部外面周辺回転ヘラ削り その他は回転ナデ	長石釉に鉄絵		第2小期	59	8
131	BSK40	連房	鉄絵皿	2.4	(11.6)		7.4	5.2	2	2	底部周辺回転ヘラ削り その他は回転ナデ	長石釉に鉄絵		第2小期	59	8
132	BSK42	連房	鉢					0.7	1	1	口縁部内外面回転ナデ	口縁内部より外面にかけて長石釉　拭き取った後銅緑釉		第1小期	59	13
133	BSK43	大窯	擂鉢					1.0	1	1	口縁部内外面回転ナデ	錆釉(内外面)	擂目一単位2.2cm、11条	第4段階前半	61	11
135	BSK86	山茶碗	小皿(灼皆手)	(1.2)	(8.3)	(5.2)		5.8	1	1	体部内外面回転ナデ、底部外面回転糸切痕未調整		内外面に煤付着		61	7

第23表　土器観察表（3）

挿図番号	出土地点	器種		法量（cm）				残存率	口縁部破片数	破片数合計	成形・調整	釉薬	備考	分類・時期	挿図図版	写真図版
				器高	口径	底径	台径	(X/12)								
136	BSK86	山茶碗	小皿(均質手)	(1.0)	(8.1)	5.6		5.0	2	2	体部内外面回転ナデ、底部外面回転糸切痕未調整		内外面に煤付着		61	7
137	BSK87	古瀬戸	小鉢					0.5	1	1	底部外面周辺ヘラ削り その他回転ナデ	灰釉(内外面ただし高台周辺を除く)		後Ⅲ期	61	10
138	BSK89	土師器	皿					1.5	2	3	体部上方外面板状工具による一段ナデ、内面横ナデ			B1類	61	10
139	BSK89	大窯	丸碗	5.9	(11.3)		4.8	2.2	2	6	底部外面周辺ヘラ削り その他回転ナデ 付高台	灰釉(全面ただし底部外面を除く)	底部外面に輪ドチ痕	第1段階	61	7
140	BSK89	大窯	丸碗		(11.2)			3.0	1	1	底部外面周辺ヘラ削り その他回転ナデ	灰釉(内外面)		第1段階	61	11
141	BSK89	大窯	丸碗		(11.6)			1.8	1	2	底部外面周辺ヘラ削り その他回転ナデ	灰釉(内外面)		第1段階	61	11
142	BSK89	越前	擂鉢					0.5	1	1	体部内外面回転ナデ		擂目一単位2.9cm、11条以上	Ⅰ	61	11
143	BSK89	越前	擂鉢	12.2	(34.0)	(14.0)		0.5	1	3	体部内外面回転ナデ		体部内面平滑、擂目一単位2.8cm、11条	Ⅰ	61	7
144	BSK89	越前	鉢			(15.6)				1	体部内面回転ナデ、外面指圧痕			14～15世紀	61	11
145	BSK89	越前	壺		(12.1)			1.9	1	4	体部内外面回転ナデ			16世紀後半	61	11
146	BSK89	越前	片口壺			17.1				14	体部内面から外面にかけて回転ナデ	内面底に漆くそ		14世紀後半	61	7
147	BSK91	大窯	擂鉢		(28.6)			2.9	2	3	体部内外面回転ナデ	錆釉(内外面)	擂目一単位3.7cm、17条以上	第4段階前半	62	
148	BSK91	連房	小碗(筆筒形)		(12.6)			2.8	3	3	体部内外面にかけて回転ナデ	灰釉(内外面)		第5～第6小期	62	12
149	BSK91	連房	丸碗		(10.6)			2.5	3	11	底部外面周辺回転ヘラ削り その他は回転ナデ	灰釉(内外面)		第5～第6小期	62	12
150	BSK91	連房	丸碗		(9.8)			2.1	1	1	口縁部内外面回転ナデ	灰釉(内外面) 体部外面に鉄絵		第5～第6小期	62	12
151	BSK91	連房	丸碗		(10.3)			2.6	1	2	口縁部内外面回転ナデ	飴釉(内外面)		第7小期	62	12
152	BSK91	連房	丸碗					1.5	1	4	底部外面周辺回転ヘラ削り その他は回転ナデ	灰釉(底部外面周辺を除く)		第8～第9小期	62	12
153	BSK91	連房	丸碗					1.0	2	9	底部外面周辺回転ヘラ削り その他は回転ナデ	飴釉(内外面)		第8～第9小期	62	12
154	BSK91	連房	尾呂茶碗	6.3	(10.8)		4.8	4.9	2	2	底部外面周辺回転ヘラ削り その他は回転ナデ 削り出し高台	全面に飴釉 体部から底部に一部うのふ釉		第7小期	62	8
162	BSK92	白磁	碗					0.5	1	1	底部外面周辺を除き回転ナデ	(内外面)		E群	62	10
163	BSK93	大窯	天目茶碗				(4.4)			2	底部外面周辺回転ヘラ削り その他回転ナデ	鉄釉(底部外面周辺を除く)		第3～第4段階	63	11
164	BSK94	大窯	折縁皿	2.3	(11.1)		5.4	2.3	2	3	削り出し高台	灰釉(全面ただし底部内面凸部は拭い取られる)	体部内面にツギを施す、底部外面に輪ドチ付着	第4段階前半	63	7
165	BSK94	連房	丸皿	1.2	(8.2)		(5.6)	2.6	1	1	削り込み高台	灰釉(内外面ただし底部外面を除く)		第6～第7小期	63	12
167	BSK95	山茶碗	鉢	11.6	27.0	16.9		7.7	10	28	外面ヘラ状工具による掻き上げ調整 その他は回転ナデ 貼り付け高台		ゆがみ有り		62	7
168	BSK95	山茶碗	鉢		37.5			0.5	1	3	外面ヘラ状工具による掻き上げ調整 その他は回転ナデ 貼り付け高台		ゆがみ有り		62	10
169	BSK96	大窯	擂鉢							1	体部内外面回転ナデ	錆釉		時期不明	63	11
170	BSK96	連房	加工円盤			5.0				1		内面に灰釉		第6～第7小期	63	
171	BSK96	連房	尾呂茶碗					0.7	1	1	口縁部内外面回転ナデ	うのふ釉		第6～第7小期	63	12
173	BSK99	連房	折縁皿					0.9	1	1	口縁部内外面回転ナデ	灰釉	口縁端部煤付着	第1～第2小期	63	12
174	BSK100	連房	腰錆湯呑					0.7	1	1	底部外面周辺回転ヘラ削り その他は回転ナデ	口縁部外面から体部内面灰釉 他は鉄釉		第9小期	63	12
175	BSK102	古瀬戸	擂鉢					0.5	1	1	口縁部内外面回転ナデ	錆釉(内外面)		後Ⅳ期(新)	63	10
178	BSK113	青磁	皿							1	底部外面回転ナデ		点描文	時期不明	63	10
179	BSK113	越前	甕							1	外面ヘラにより調整 内面ハケによる横ナデ	内外面自然釉		16世紀後半	63	
180	BSK115	連房	染付湯呑			(3.2)				1	底部周辺回転ヘラ削り	染め付け	見込コンニャク印判	江戸後期	63	
181	BSK115	連房	輪禿皿			(6.9)	6.4			1	付高台	灰釉(内外面ただし高台周辺を除く)	底部内面中央に印花文、底部内面に輪ドチ痕	第5小期	63	12
182	BSK115	連房	土瓶					1.5	1	1	口縁部内外面回転ナデ	口縁内面鉄釉と灰釉、外面うのふ釉		第9～第10小期	63	12
183	BSK117+D8区Ⅱ・Ⅲ層+D8区Ⅱ層	連房	広東茶碗	5.6	(9.6)		(5.0)	1.2	1	4	底部外面周辺回転ヘラ削り その他は回転ナデ	染め付け		第10小期	63	12
184	BSK117	連房	甕				(13.6)			1	底部外面周辺を除き回転ナデ	鉄釉(底部周辺を除く)		江戸後期	63	13
185	BSK121	大窯	天目茶碗					0.3	1	1	口縁部内外面回転ナデ	口縁内部より外面にかけて鉄釉		第1～第2段階	63	11
186	ASS1	連房	染付皿	(2.6)	9.4		5.0	9.6	5	7	底部周辺回転ヘラ削り その他は回転ナデ	染め付け		第9～第10小期	63	8
187-1	ASQ1	連房	合子　身	4.0	8.4		5.2	12.0		1	口及び底部回転ヘラ削り その他は回転ナデ　半筒形	灰釉		第4～第5小期	63	9
187-2	ASQ1	連房	合子 摘み無	1.6	8.3			12.0		1	口、内面は回転ヘラ削り その他は回転ナデ	灰釉		第4～第5小期	63	9
188	ASBk1－4層	連房	植木鉢		19.0			0.8	1	15	体部下方内面ロクロ目顕著	透明釉(内外面ただし体部下方内面を除く)		第9～第11小期	63	
190	ASP57	古瀬戸	緑釉小皿					0.9	1	1	口縁部内外面回転ナデ	灰釉(底部周辺を除く)		後Ⅰ期	64	10
191	ASP102	山茶碗	鉢					0.6	1	1	底部外面周辺回転ヘラ削り その他は回転ナデ				64	10
193	ASP489	土師器	皿					1.9	1	2	体部上方内外面横ナデ			B2a期	64	10
194	ASP495	土師器	皿					1.4	1	1	体部上方外面横ナデ・内面板状工具による横ナデ			B2a期	64	10
195	BSP69	連房	丸碗		(10.8)			3.4	2	2	底部外面周辺回転ヘラ削り その他は回転ナデ	灰釉(内外面ただし高台周辺を除く)		第7小期	64	12
196	BSP73	連房	尾呂茶碗	7.6	12.3		5.5	6.0	2	2	底部外面周辺回転ヘラ削り その他は回転ナデ	底部外面周辺を除き飴釉 口縁部内外面うのふ釉		第6小期	64	8
197	BSP73	連房	尾呂丸碗					1.5	1	2	底部外面周辺回転ヘラ削り その他は回転ナデ	体部内面より外面にかけてうのふ釉		第5～第6小期	64	12

第24表　土器観察表(4)

挿図番号	出土地点	器種		法量(cm) 器高	口径	底径	台径	残存率(X/12)	口縁部破片数	破片数合計	成形・調整	釉薬	備考	分類・時期	挿図図版	写真図版
199	BSP144	瀬戸	向付け							1		灰釉		第1小期	64	12
200	BSP227	白磁	皿			(5.7)	7.2			1	底部外面回転ヘラ削り			Ⅸ期	64	10
201	BSP286	山茶碗	小皿					1.5		2	口縁部内外面回転ナデ	口縁端部のみ自然釉		5～6白土原の時期	64	10
202	BSP298	灰釉陶器	皿			(7.2)	(6.6)			1	底部外面回転ヘラ削り	灰釉(内外面ただし高台周辺と底部内面を除く)		O53	64	10
203	BSP320	灰釉陶器	碗	(4.5)	(15.7)	(8.5)	(7.6)	2.3	1	1	底部外面周辺回転ヘラ削りその他は回転ナデ	灰釉(口縁内外面から見込み部)		K90～O53	64	7
204	BSP858	古瀬戸	擂鉢					1.0	1	1	口縁部内外面回転ナデ	錆釉(内外面)	摩滅,体部内外面に重ね焼き痕,[illegible]	後Ⅳ期(古)	64	10
205	BSP975+H5区	越前	片口鉢		(15.7)			1.3	1	1	口縁部内外面回転ナデ		口が一部ゆがむ	16世紀後半	64	11
207	BSP1023	大窯	丸皿	1.5	(9.3)		(5.2)	2.0	1	1	削り込み高台	灰釉(内外面ただし高台周辺を除く)		第4段階前半	64	11
208	BSP1095	瀬戸	土瓶							1		鉄釉		第11小期	64	13
210	BSP1130	古瀬戸	碗型鉢					0.5	1	1	底部外面周辺回転ヘラ削りその他は回転ナデ	灰釉(内外面)		後Ⅰ～Ⅱ期	64	10
211	H5区B区でのⅣ層上面	灰釉陶器	深碗							1	底部外面周辺回転ヘラ削り底部内面回転ナデ	灰釉(内外面ただし体部下方以下を除く)		O53～H72	65	10
212	A区Ⅰ層	山茶碗	碗(均質手)					1.8	1	1	体部内外面回転ナデ				65	10
213	E10区Ⅲ層+E11区Ⅲ層	青磁	碗						1	1	体部内外面回転ナデ		連弁文	B－Ⅰ類	65	10
214	A区Ⅰ層	青磁	皿					0.8	1	1	口縁部内外面回転ナデ	(内外面)		D－Ⅰ類	65	10
215	E11区Ⅲ層ASK54やめた	白磁	皿							2	底部周辺回転ヘラ削り		枢府磁	B群	65	10
216	B区表土+石垣南の溝	白磁	皿	2.7	11.1		6.6	7.4	5	5	底部外面周辺回転ヘラ削りその他は回転ナデ　削り出し高台	(全面ただし畳付き部を除く)	畳付き部に砂が付着	E群	65	7
217	G10区攪乱	白磁	皿							1	底部周辺回転ヘラ削り			E群	65	10
218	D10区Ⅱ層	白磁	皿					0.7	1	1	口縁部内外面回転ナデ			E群	65	10
219	A区Ⅰ層	白磁	皿					0.6	1	1	口縁部内外面回転ナデ				65	10
220	F9区Ⅲ層	中国陶磁	染付碗		(6.8)			1.0	1	3	口縁部内外面回転ナデ	染め付け	ボン字文	染付碗C群	65	10
221	F11区Ⅲ層	中国陶磁	染付碗							4	体部内外面回転ナデ	染め付け		染付碗C群	65	10
222	E8区Ⅱ層	中国陶磁	染付皿		(11.6)					4	口縁部内外面回転ナデ	染め付け	ボタン唐草文	染付皿B1群	65	10
223	C11区Ⅲ層	中国陶磁	染付皿							1		染め付け	玉取シシ	染付皿B1群	65	10
224	攪乱	中国陶磁	染付皿	2.2	(5.6)		(6.5)	6.6	1	1	底部外面周辺回転ヘラ削りその他は回転ナデ	染め付け	蛟龍文	染付皿E群	65	10
225	D9区Ⅱ層+E11区Ⅲ層	中国陶磁	染付皿				5.5			3	底部周辺回転ヘラ削り,底部内面回転ナデ	染め付け	高台内カンナ痕あり。	染付碗E群	65	10
226	E12区Ⅲ層	中国陶磁	染付皿							1		染め付け		染付皿E群	65	10
227	D9区Ⅱ層	中国陶磁	染付皿							2	口縁部内外面回転ナデ	染め付け		時期不明	65	10
228	A区Ⅰ層+E8区Ⅱ層	中国陶磁	染付皿		(14.2)					2	口縁部内外面回転ナデ	染め付け		時期不明	65	10
229	E9(ASK27より変更)	中国陶磁	染付皿		(10.3)			2.9	2	2	口縁部内外面回転ナデ	染め付け	漳州窯系	時期不明	65	10
230	E10区Ⅱ層+E9区Ⅱ層	中国陶磁	染付皿					1.4	2	2	口縁部内外面回転ナデ	染め付け		時期不明	65	10
231	B区表土	中国陶磁	染付壺							1	体部内外面回転ナデ			時期不明	65	
232	H12区	古瀬戸	平碗			(5.3)				1	底部周辺回転ヘラ削り,削り出し高台	内面に灰釉		後Ⅲ期	65	10
233	O8区	古瀬戸	平碗					1.0	1	1	口縁部内外面回転ナデ	灰釉(口縁内外面のみ)		後Ⅳ期(古)	65	10
234	I10攪乱	古瀬戸	天目茶碗					0.8	1	1	口縁部内外面回転ナデ	口縁内部より外面にかけて鉄釉		後Ⅳ期(古)	65	10
235	E9区Ⅱ層	大窯	丸碗					1.0	1	1	口縁部内外面回転ナデ	灰釉(体部内面より口縁外面にかけて)		第1段階	65	11
236	攪乱	大窯	天目茶碗					1.4	1	1	体部外面回転ヘラ削り	飴釉(内外面ただし高台周辺を除く)		第2段階	65	11
237	C11区Ⅲ層	大窯	天目茶碗		(10.3)			1.0	1	1	底部外面周辺回転ヘラ削りその他は回転ナデ	鉄釉(底部外面周辺を除く)		第4段階前半	65	11
238	攪乱	大窯	天目茶碗		(12.4)			2.2	1	1	底部外面周辺回転ヘラ削りその他は回転ナデ	鉄釉(内外面ただし高台周辺を除く)		第4段階前半	65	
239	攪乱	大窯	丸皿	1.7	8.0	3.1		8.2	2	2	底部外面周辺回転ヘラ削りその他は回転ナデ　削り出し高台	灰釉(全面)		第1～第2段階	65	7
240	E8区Ⅲ層	大窯	丸皿					0.5	1	1	底部外面周辺回転ヘラ削りその他は回転ナデ	灰釉(全面)		第3段階	65	11
241	E8区Ⅱ層+Ⅲ層	大窯	丸皿			6.1				3	底部外面周辺回転ヘラ削り内面回転ナデ	内外面灰釉　高台端部釉をぬぐいとる	輪ドチあり	第2～第3段階	65	11
242	攪乱	大窯	丸皿	2.2	(10.2)		(8.2)	2.0	2	3	底部外面周辺回転ヘラ削りその他は回転ナデ　削り出し高台	灰釉(全面)	底部外面に輪ドチ痕	第3段階後半	65	11
243	攪乱	大窯	丸皿	2.4	(11.0)		(6.0)	1.3	1	1	底部外面周辺回転ヘラ削りその他は回転ナデ　削り出し高台	灰釉(内外面ただし体部内面以下を除く)	底部外面に輪ドチ痕	第3段階後半	65	11
244	C12区Ⅰ・Ⅲ層	大窯	丸皿	2.7	(11.1)		(7.1)	2.3	1	1	底部外面周辺回転ヘラ削りその他は回転ナデ　削り出し高台	灰釉(全面)	底部外面に輪ドチ痕	第3段階後半	65	11
245	E10区Ⅱ層+E9区Ⅱ層	大窯	丸皿	1.9	(8.4)	(4.7)		5.0	2	2	体部外面回転ヘラ削り,削り出し高台	錆釉・灰釉流し掛け(内外面ただし底部外面を除く		第3段階後半	65	11
246	J6B区Ⅳ層	大窯	擂鉢					0.3	1	1	口縁部内外面回転ナデ	体部内面から外部口縁にかけて鉄釉		第1段階	66	11
247	E10区Ⅲ層	大窯	擂鉢					1.0	1	2	口縁部内外面回転ナデ	体部内面より口縁外部にかけて錆釉		第1段階	66	11
248	E10区Ⅱ層	大窯	擂鉢					1.0	1	1	口縁部内外面回転ナデ	錆釉(内外面)		第2段階	66	11
249	B区表土	大窯	茶入れ			4.0				1	体部内外面回転ナデ,底部外面回転糸切痕未調整	鉄釉(内外面ただし底部周辺を除く)	芋子形	第3段階	66	9
250	E10区Ⅲ層	大窯	建水		(12.8)			2.0	1	2	体部内外面回転ナデ	口縁内部から体部外面にかけて鉄釉		第3段階後半	66	11

第25表　土器観察表（5）

挿図番号	出土地点	器種		法量(cm) 器高	口径	底径	台径	残存率(X/12)	口縁部破片数	破片数合計	成形・調整	釉薬	備考	分類・時期	挿図図版	写真図版
251	攪乱	越前	擂鉢					1.3	1	1	体部内外面回転ナデ		擂目一単位の幅3.0cm・9条	Ⅱ	66	11
252	D9区Ⅱ層	越前	擂鉢					0.5	1	2	底部外面周辺回転ヘラ削り 内面回転ナデ		擂目一単位3.3cm,11条	Ⅲb	66	11
253	C8区Ⅲ層	越前	擂鉢					1.0	1	1	体部内外面回転ナデ		擂目一単位の幅2.2cm・8条	時期不明	66	11
254	E9区Ⅱ層+攪乱	越前	擂鉢		(31.5)			1.1	1	3	体部内外面回転ナデ		擂目一単位の幅2.1cm・8条	時期不明	66	11
255	B区Ⅲ層石垣A南	越前	鉢					0.9	1	1	体部内外面回転ナデ			14～15世紀	66	11
256	B区Ⅲ層石垣A南	越前	壺		(5.5)			2.2	1	1	体部内外面回転ナデ		内面に鉄付着	16世紀後半	66	11
257	C8区Ⅱ層	瀬戸	天目茶碗					0.6	1	2	口縁部内外面回転ナデ	口縁内部より外面にかけて鉄釉		第2～第3小期	66	12
258	E10区Ⅲ層+D9区Ⅲ層	瀬戸	丸碗					1.8	2	2	口縁部内外面回転ナデ	染め付け		第9～第10小期	66	
259	A区Ⅰ層	瀬戸	丸碗				(3.7)			1	底部周辺回転ヘラ削り	染め付け		第11小期	66	
260	A区	瀬戸	御室茶碗				5.3			1	底部外面周辺回転ヘラ削り 内面回転ナデ	底部周辺を除き灰釉		第7小期	66	12
261	C11区Ⅲ層+B9区Ⅲ層+A区Ⅰ層	瀬戸	染付丸碗				4.3			3	底部外面周辺回転ヘラ削り その他回転ナデ	染め付け		第10～第11小期	66	12
262	B区表土	瀬戸	広東茶碗							1	底部外面周辺回転ヘラ削り その他回転ナデ	染め付け		第10小期	66	12
263	B区表土	瀬戸	広東茶碗	6.5	(10.8)		5.1	5.5	3	5	底部外面周辺回転ヘラ削り その他回転ナデ	染め付け		第10小期	66	8
264	B区表土	瀬戸	広東茶碗	5.9	9.8		5.0	8.7	5	7	底部外面周辺回転ヘラ削り その他回転ナデ	染め付け		第10小期	66	8
265	D9区Ⅱ層	瀬戸	端反碗					1.4	2	2	体部内面から外部口縁部回転ナデ	染め付け		第9小期	67	12
266	D9区Ⅱ層+E9区Ⅲ層	瀬戸	端反碗		(8.9)			3.5	2	5	体部内面から外部口縁部回転ナデ	染め付け		第10小期	67	12
267	B区表土	瀬戸	端反碗		(10.5)			2.0	1	2	体部内面から外部口縁部回転ナデ	染め付け	なま焼け	第10～第11小期	67	12
268	B9区Ⅰ層 B8区Ⅱ層+Ⅲ層	瀬戸	染付湯呑	5.1	(7.4)		(2.4)	1.0	1	4	底部周辺回転ヘラ削り その他は回転ナデ	染め付け		第11小期	67	
269	D8区Ⅲ層	瀬戸	染付湯呑		(8.0)			1.1	1	1	底部周辺回転ヘラ削り その他は回転ナデ	染め付け		第11小期	67	12
270	D8区Ⅱ層+E9区Ⅱ層+D9区Ⅱ層	瀬戸	染付湯呑	5.6	(8.1)		3.8	0.5	1	8	底部周辺回転ヘラ削り その他は回転ナデ	染め付け		第10小期	67	8
271	G10区攪乱+B8区Ⅲ層	瀬戸	染付湯呑				3.2			3	底部周辺回転ヘラ削り その他は回転ナデ	染め付け		第10小期	67	12
272	D8攪乱	瀬戸	染付湯呑		7.6			1.9	1	1	底部周辺回転ヘラ削り その他は回転ナデ	染め付け		第11小期	67	
273	D9区Ⅱ層	瀬戸	染付湯呑		(8.6)			2.3	2	2	体部内面より外部口縁にかけて回転ナデ	染め付け		第11小期	67	
274	B区表土	瀬戸	染付湯呑	5.1	(8.2)		(3.7)	5.6	1	1	底部周辺回転ヘラ削り その他は回転ナデ	染め付け		第10～第11小期	67	
275	E10区Ⅱ層	瀬戸	腰錆湯呑	5.3	(9.2)		3.7	2.6	3	3	底部周辺回転ヘラ削り その他は回転ナデ 削り出し高台	口縁部外面～体部内面灰釉 他は鉄釉	高台に溝あり	第9小期	67	12
276	D10区Ⅲ層	瀬戸	志野丸皿	2.1	(11.2)		(7.2)	3.1	2	3	底部周辺回転ヘラ削り その他は回転ナデ 削り出し高台	長石釉(内外面ただし底部外面を拭い取る)	底部内面に円錐ピン痕	第2小期	67	8
277	攪乱	瀬戸	志野丸皿	2.0	(11.6)	(8.0)		1.2	1	1	底部周辺回転ヘラ削り その他は回転ナデ 削り出し高台	長石釉(内外面ただし底部外面を除く)	底部内面に円錐ピン痕	第2小期	67	12
278	B区表土	瀬戸	鉄絵皿	3.1	(12.8)		(8.1)	4.0	2	3	底部周辺回転ヘラ削り その他は回転ナデ	底部周辺無釉 その他透明釉に灰釉,鉄絵		第2～第3小期	67	8
279	D8区Ⅱ層+E9区Ⅱ層	瀬戸	染付皿	3.0	(10.4)		5.5	2.2	2	4	底部周辺回転ヘラ削り その他は回転ナデ 削り出し高台	染め付け		第8～第9小期	67	12
280	B区表土	瀬戸	染付皿	2.1	9.5		5.7	8.9	2	2	底部周辺回転ヘラ削り その他は回転ナデ 削り出し高台	染め付け		第9～第10小期	67	8
281	B区Ⅲ層石垣A南	瀬戸	陶器 皿	3.3	12.9	5.3		4.1	1	1	底部周辺のみ回転ヘラ削り その他は回転ナデ	全体に鉄釉 内面口縁部下方にうのふ釉		第8～第9小期	67	8
282	B区Ⅰ層	瀬戸	陶器油皿	2.1	(11.6)	4.3		2.4	1	1	底部周辺のみ回転ヘラ削り その他は回転ナデ	体部下方から底部周辺を除き灰釉		第10～第11小期	67	12
283	B区Ⅲ層石垣A南+E10区Ⅲ層	瀬戸	灯明皿	1.5	9.2	3.2		6.0	2	2	底部周辺のみ回転ヘラ削り その他は回転ナデ	全面に灰釉 底部周辺ふき取り		第11小期	67	9
284	O7区Ⅳ層	瀬戸	擂鉢					0.7	1	1	口縁部内外面回転ナデ	錆釉(全面)		第8～第9小期	67	13
285	攪乱	瀬戸	擂鉢					0.6	1	1	口縁部内外面回転ナデ	錆釉(全面)		第6小期	67	13
286	B区表土	瀬戸	擂鉢		33.2			2.0	3	5	口縁部内外面回転ナデ	体部内面から口縁外部にかけて錆釉		第6小期	67	13
287	E10区Ⅱ層	瀬戸	擂鉢					0.8	1	1	口縁部から体部内面回転ナデ,体部外面回転ヘラ削り	錆釉(内外面)	擂目一単位2.5cm,10条	第9小期	68	13
288	B9区Ⅲ層	瀬戸	擂鉢					0.4	1	1	口縁部内外面回転ナデ	全面に錆釉 口縁内外面一部に鉄釉		第9小期	68	13
289	南壁Ⅲ層	瀬戸	擂鉢					0.7	1	7	内部から外部口縁外部にかけて回転ナデその他は回転ヘラ削り	錆釉(内外面)		第10小期	68	
290	B区表土	瀬戸	片口鉢		18.9			2.0	1	1	体部内面より体部外面口縁部まで回転ナデ その他は回転ヘラ削り	底部周辺を除いて灰釉		第7～第8小期	68	13
291	A区Ⅰ層	瀬戸	鉢		(17.6)			2.2	2	2	口と体部外面下方回転ヘラ削り その他は回転ナデ	底部外面周辺を除き透明釉	胴部下方に孔、口縁部下って蓋があると思われる	第8小期	68	
292	A区	瀬戸	水盤				(17.8)			1	底部周辺回転ヘラ削り その他回転ナデ	底部を除き灰釉		第8～第9小期	68	9
293	E9区Ⅱ層	瀬戸	土瓶蓋	2.0	(9.3)		(6.3)	3.6	1	1	内外面回転ヘラ削り 蓋内面台回転ナデ	内面を除き錆釉		第9～第11小期	68	13
294	D10区Ⅱ層	瀬戸	蓋(壺)		(11.3)		(9.8)	2.8	1	1	蓋内面台周辺は回転ヘラ削り その他は回転ナデ	染め付け 台部のみ拭き取り		第9～第10小期	68	12
295	石垣A南	瀬戸	芯押さえ							1		染め付け		第9小期	68	12
296	D4区表土	瀬戸	加工円盤				3.8			1		底部外面無釉 内面灰釉		第7小期	68	
297	A区Ⅰ層	肥前	染付湯呑		7.0			8.8	4	4	底部周辺回転ヘラ削り その他は回転ナデ	染め付け	筒形湯呑み	江戸後期	68	8
298	D8区Ⅱ層	肥前	染付湯呑		(7.5)			2.5	2	2	体部内面より外部口縁部にかけて回転ヘラ削り	染め付け	二重網目	江戸後期	68	12
299	E9区Ⅱ層	肥前	小杯		(6.8)			3.6	3	5	底部周辺回転ヘラ削り その他回転ナデ	染め付け		江戸後期	68	12
300	ASA1c(表土を含む)包含層に含める変更	肥前	染付皿					0.3	1	2	口縁部内外面回転ナデ	染め付け		江戸後期	68	12

第26表　土器観察表（6）

挿図番号	出土地点	器種		法量(cm) 器高	口径	底径	台径	残存率(X/12)	口縁部破片数	破片数合計	成形・調整	釉薬	備考	分類・時期	挿図図版	写真図版
301	E10区Ⅱ層C11区Ⅲ層	肥前	染付皿			8.4				3	底部周辺ヘラ削り　内面回転ナデ	ウズフク・染め付け	蛇の目凹高台皿	江戸後期	68	8
302	C8区Ⅱ層+D8区Ⅱ層+C11区Ⅲ層	肥前	染付皿				(8.3)			3	底部周辺回転ヘラ削り　その他回転ナデ	ウズフク・染め付け	蛇の目凹高台皿	江戸後期	68	
303	B区表土	肥前	蓋	2.7	6.6			9.0	1	1	台周辺回転ヘラ削りその他は回転ナデ	染め付け	つまみ径(1.0)	江戸後期	68	9
304	E9区Ⅱ層	肥前	蓋	2.5	9.4			6.5	2	2	摘み周辺回転ヘラ削り	透明釉	つまみ径(3.6)	江戸後期	69	9
305	C9区Ⅲ層-D9区Ⅱ層	信楽系	火入れ		(10.8)			2.6	3	3	口縁端部回転ナデ	口縁部内面から体部外面にかけて灰釉		江戸後期	69	13
306	B区表土	信楽	土瓶		(7.8)			1.8	1	3	口縁部回転ヘラ削り	口縁部内面から体部外面にかけて緑釉とうのふ釉		江戸後期	69	13
307	B区表土	信楽系	土瓶			(7.6)				1	底部周辺回転ヘラ削り　内面回転ナデ	内面灰釉　底部周辺無釉		江戸後期	69	13
308	B区表土	信楽系	鍋		(14.6)			3.1	1	1	体部内面から口縁外部にかけて回転ナデ　その他回転ヘラ削り	底部外面周辺を除き灰釉?	口をゆがめる	江戸後期	69	13
309	B11区Ⅲ層	信楽系	行平蓋							2	体部外部摘み部周辺回転ヘラ削り　内面回転ナデ	全面に灰釉		江戸後期	69	13
310	D9区Ⅱ層+D10区Ⅲ層	信楽	行平蓋	3.2	(15.8)			5.4	4	5	体部外部摘み部周辺回転ヘラ削り　内面回転ナデ	内外面に灰釉		江戸後期	69	13
311	C12区Ⅰ・Ⅲ層	在地系	行平		(21.8)			1.1	1	1	口縁部内面回転ナデ　口から体部下方回転ヘラ削り	口唇部以外飴釉と鉄釉		時期不明	69	
312	石垣南の溝	不明	人形玩具類							1		素焼き	着物の袖らしい物が両側にある	江戸後期	69	9
313	F11区Ⅲ+C9区Ⅱ層-B9区Ⅲ層	その他	灯明皿(受皿)	2.6	(10.5)	3.6		1.2	2	5	内部から口縁外部にかけて回転ナデその他は回転ヘラ削り	透明釉		近現代	69	
314	本郷地区　99試掘坑9-2～3層	青磁	皿		(11.0)			2.3	1	1	口縁部内外面回転ナデ	(内外面)		時期不明	69	10
315	本郷地区　99試掘坑18-盛土	白磁	皿	3.9	(11.2)	6.4		0.5	1	2	底部周辺回転ヘラ削り　その他回転ナデ	高台内無釉		E群	69	7
316	本郷地区　92試掘坑18	土師器	皿	2.2	(8.6)	(4.2)		2.8	1	1	体部上方外面指頭による1段ナデ・内面横ナデ、底部内面無調整		口縁内外面に煤付着	B2a類	69	10
317	本郷地区　99試掘坑16-SK1	大窯	天目茶碗					1.1	1	1	口縁部内外面回転ナデ	鉄釉(内外面)		第4段階後半	69	11
318	本郷地区　92試掘坑16	大窯	稜皿	3.8	(11.4)		(5.2)	3.2	1	1	底部周辺回転ヘラ削り　その他回転ナデ　削り込み高台	鉄釉(口縁端部から内面全体)	炻器質胎土	第3段階後半	69	11
319	本郷地区　99試掘坑16-1～3層	大窯	丸皿	2.7	9.6		5.0	7.0	1	1	底部周辺回転ヘラ削り　その他回転ナデ　付高台	灰釉(全面)	口縁端部に煤付着、底部外面に輪トチ痕	第2段階	69	7
320	本郷地区　試掘坑1赤褐(灰混)2盛土	越前	擂鉢					1.0	1	1	口縁部内外面回転ナデ		擂目一単位の幅2.2cm・9条	Ⅲb	69	11
321	本郷地区　99試掘坑16-5層	瀬戸	志野丸皿	2.3	(11.8)		(6.6)	1.2	1	2	底部周辺回転ヘラ削り　その他回転ナデ　削り出し高台	長石釉(内外面)	底部内面に円錐ピン痕	第2～第3小期	69	12
322	本郷地区　99試掘坑16-1～3層	瀬戸	折縁皿					1.2	1	1	口縁内部人回転ナデ、体部外面回転ヘラ削り	灰釉(口縁端部から体部上方内面)		第3～第4小期	69	12
323	本郷地区　99試掘坑12-1～3層	瀬戸	灯明皿	2.2	(10.4)	4.8		2.3	2	4	体部下方回転ヘラ削り	灰釉(内外面ただし体部下方外面を除く)		第11小期	69	

第27表　土錘観察表

挿図番号	出土地点	器種	法量(cm) 長さ	小径	大径	孔径	重量(g)	胎土	焼成	備考	挿図図版	写真図版
78	ASK26	土錘	3.9	0.9	1.6	0.5	7.7	密、径1mm以下、赤褐色粒	普通	紡錘形を呈する	58	10
122	BSK4	土錘	4.8	0.8	1.7	0.4	10.6	密、径2mm以下、赤褐色粒	普通	紡錘形を呈する	59	10

第28表　金属製品観察表

挿図番号	出土地点	種類	長さ	幅	厚さ	質量	材質	備考	挿図図版	写真図版
49	SD8	釘	(3.25)	0.2～0.3	0.15～0.16	0.90	鉄		56	15
50	SD8	釘	(4.62)	0.50	0.25	3.20	鉄		56	15
63	ASK11	釘	(4.50)	0.32	0.30	2.90	鉄		57	15
72	ASK22	刀子	(3.10)	1.90	0.15	3.00	鉄		57	15
73	ASK22	釘	(4.10)	0.50	0.45	4.30	鉄		57	15
83	ASK27	釘	(1.70)	0.30	0.30	1.50	鉄		58	15
86	ASK32	釘	(2.69)	0.40	0.30	1.20	鉄		58	15
87	ASK32	釘	(2.80)	0.42	0.30	1.30	鉄		58	15
88	ASK32	釘	(2.80)	0.30	0.20	2.40	鉄		58	15
89	ASK32	釘	(2.00)	0.30	0.25	1.10	鉄		58	15
90	ASK32	釘	(2.90)	0.20	0.20	2.00	鉄		58	15
91	ASK32	釘	(4.48)	0.40	0.30	2.80	鉄		58	15
92	ASK32	釘	(3.60)	0.22	0.20	3.10	鉄		58	15
94	ASK35	釘	(3.70)	0.23	0.11	1.30	鉄		58	15
101	ASK49	釘	(2.94)	0.35	0.30	1.10	鉄		58	15
111	ASK81	切羽	4.23	2.30	0.20	6.40	銅		59	15
112	ASK81	把手	2.10	0.24	0.22	3.60	銅		59	15
129	BSK26	釘	(3.60)	0.31	0.28	2.70	鉄		59	15
134	BSK44	刀子	(5.70)	1.00	0.12	7.50	鉄		59	15
155	BSK91	刀子	(8.40)	刃部1.8柄部0.5	0.20	17.00	鉄		62	15
156	BSK91	釘	(3.10)	0.30	0.25	1.10	鉄		62	15
157	BSK91	釘	(4.20)	0.41	0.38	5.10	鉄		62	15
172	BSK96	不明	(8.50)	1.70～2.31	0.8～1.4	70.40	鉄		63	15
189	ASBk1	釘	(2.00)	0.25	0.21	0.80	鉄		63	15
198	BSP73	釘	(6.17)	0.23～0.35	0.22～0.3	5.00	鉄		64	15
206	BSP1014	鎌	(8.61)	刃部1.65柄部0.62	0.40	19.40	鉄		64	15
324	O7	不明	27.80	0.55～0.25	0.5～0.3	37.70	鉄		69	15

第29表　煙管雁首観察表

挿図番号	出土地点	種類	長さ	火皿径	接合部径	質量	材質	備考	挿図図版	写真図版
325	E10	煙管	(5.15)	1.11	0.95	5.50	銅		69	15
326	TP16	煙管	(8.60)	0.35	1.30	6.60	銅		69	15

第30表　銭貨観察表

整理番号	挿図番号	出土地点	種類	孔径	内径	孔厚	質量	材質	国名・初鋳年	備考	挿図図版	写真図版
1	16	SD4－BSP1012	銭元通寶	2.4	0.65×0.65	1.5	2.4	銅	唐宋　1195		54	14
2	×	SB10－AP374	不明	不明	不明	1.3	0.9	銅				
3	×	SB12－BSP228	不明	2.4	0.58×0.58	1.3	2.5	銅				
4	40	SP1	寛永通寶	2.4	0.5×0.5	1.4	3.5	銅		古寛永	55	14
5	41	SP1	寛永通寶	2.4	0.57×0.57	1.6	3.4	銅		新寛永	55	14
6	42	SP1	寛永通寶	2.5	0.6×0.6	1.5	2.4	銅		新寛永	55	14
7	43	SP1	寛永通寶	2.4	0.61×0.61	1	2.3	銅		新寛永	55	14
8	51	SD8	開元通寶	2.2	0.6×0.55	1.5	2.3	銅	南唐　960		56	14
9	52	SD8	寛永通寶	2.2	0.68×0.68	1.2	2.3	銅		新寛永	56	14
10	74	ASK24	開元通寶	2.3	0.6×0.6	1.6	3.2	銅	南唐　960		58	14
11	75	ASK24	紹聖元寶	2.3	0.68×0.68	1.3	2.6	銅	北宋　1094		58	14
12	125	BSK12	宋通元寶	2.4	0.65×0.68	1.3	2.8	銅	北宋　960		59	14
13	126	BSK12	開元通寶	2.4	0.65×0.65	1.5	2.4	銅	南唐　960		59	14
14	158	BSK91	寛永通寶	2.2	0.61×0.61	1.2	2.2	銅		新寛永	62	14
15	159	BSK91	寛永通寶	2.2	0.6×0.6	1.2	2.6	銅		新寛永	62	14
16	160	BSK91	寛永通寶	2.2	0.58×0.55	1.4	3	銅		新寛永	62	14
17	177	BSK106	元豊通寶	2.5	0.6×0.6	1.4	3.4	銅	北宋　1078		63	14
18	192	ASP424	皇宋通寶	2.3	0.65×0.68	1.3	2.4	銅	北宋　1038		64	14
19	327	A区	紹聖通寶	2.3	0.68×0.68	1.4	3.2	銅	隆　1341		69	14
20	×	B区石垣裏	不明	2.4	0.65×0.65	1.3	1.7	銅				
21	328	TP16	寛永通寶	2.5	0.57×0.6	1.5	3.1	銅		新寛永	69	14

第31表　砥石観察表

No	挿図番号	出土地点	石材	長さ（cm）	幅（cm）	厚（cm）	質量（g）	研磨面	遺存状況	挿図図版	写真図版
1	93	ASK32	砂岩	(6.0)	(3.2)	(1.9)	(39.9)	4	欠損	58	14
2	97	ASK38	安山岩	(7.2)	(4.3)	(1.6)	(30.3)	2	欠損	58	14
3	161	BSK91	泥岩	6.1	4.2	0.5	18.8	2	完形	62	14
4	166	BSK94	砂岩	(8.3)	(4.3)	(3.4)	(174.7)	4	欠損	63	14
5	176	BSK103	泥岩	(8.5)	(2.8)	(12.6)	(61.5)	2	欠損	63	14
6	9	BSP298（SD3）	泥岩	(8.9)	(3.6)	(8.9)	(32.6)	1	欠損	54	14
7	209	BSP1153	泥岩	(6.8)	(3.1)	(6.5)	(25.1)	2	欠損	64	14
8	329	A31	安山岩	(3.5)	(3.8)	(1.4)	(38.3)	2	欠損	69	14

第32表　硯観察表

No	挿図番号	出土地点	石材	長さ（cm）	幅（cm）	厚（cm）	質量（g）	遺存状況		挿図図版	写真図版
1	113	ASK81	泥岩	(4.5)	(3.0)	(3.5)	(8.3)	欠損		59	14

第33表　剝片観察表

No	挿図番号	出土地点	機種	石材	長さ（cm）	幅（cm）	厚（cm）	質量（g）		挿図図版	写真図版
1	330	TP3	スクレイパー	チャート	4.6	3.3	1.1	11.0		69	14

第34表　不明石器観察表

No	挿図番号	出土地点	機種	石材	長さ（cm）	幅（cm）	厚（cm）	質量（g）		挿図図版	写真図版
1	121	ASK88	基壇？							60	14

第5章　自然科学分析

第1節　放射性炭素年代測定

山形秀樹（パレオ・ラボ）

徳山陣屋跡から出土した炭化材試料4点と鉄ナベ付着炭化物1点、併せて5点の放射性炭素年代をAMS法にて測定した。測定結果と暦年代較正して得られた結果は第35表に記載した。

1．放射性炭素年代測定について

試料は、酸・アルカリ・酸洗浄を施して不純物を除去し、石墨（グラファイト）に調整した後、加速器質量分析計（AMS）にて測定した。測定された14C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、補正した ^{14}C 濃度を用いて ^{14}C 年代を算出した。

なお、^{14}C 年代値（yrBP）の算出には ^{14}C の半減期として Libby の半減期5,568年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差（±1σ）は、計数値の標準偏差σに基づいて算出し、標準偏差（One sigma）に相当する年代である。これは、試料の ^{14}C 年代が、その ^{14}C 年代誤差範囲内に入る確率が68%であることを意味する。試料の ^{14}C 計数率と現在の標準炭素（Modern standard carbon）の ^{14}C 計数率の比が $^{14}C_{Sample}/^{14}C_{Modern} \geqq 1$ の時は Modern と表記する。

2．同位体分別効果の補正について

表1に記載した $\delta^{13}C_{PDB}$ 値は、PDB 標準試料の $^{13}C/^{12}C$ 比（$(^{13}C/^{12}C)_{PDB}=0.0112372$）を標準値として、その標準値からのずれを千分率で示し、試料炭素の $^{13}C/^{12}C$ 比（$(^{13}C/^{12}C)_{Sample}$）を質量分析計で測定して、$\delta^{13}CPDB=[\{(^{13}C/^{12}C)_{Sample}-(^{13}C/^{12}C)_{PDB}\}/(^{13}C/^{12}C)_{PDB}]\times1000$ の計算式によって算出した。試料の $\delta^{13}C_{PDB}$ 値を−25.0‰に規格化することにより、測定された試料の $\delta^{13}C_{PDB}$ 値を用いて ^{14}C 濃度を補正し、これを用いて ^{14}C 年代を算出した。したがって、第35表に記載した ^{14}C 年代は同位体分別効果による測定誤差を補正した年代である。

3．暦年代較正について

暦年代較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が5,568年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、および半減期の違い（^{14}C の半減期5,730±40年）を較正し、より正確に真の年代を求めるために、^{14}C 年代を暦年代に変換することである。具体的には、年代既知の樹木年輪の ^{14}C 年代の詳細な測定値を用い、さらに珊瑚の U−Th 年代と ^{14}C 年代の比較、および海成堆積物中の縞状の堆積構造を用いて ^{14}C 年代と暦年代の関係を調べたデータにより、較正曲線を作成し、これを用いて較正暦年代を算出する。較正暦年代の算出に Radiocarbon Calibration Program* CALIB rev. 4.3{Reference for datasets used : Stuiver,M., Reimer,P.J., Bard,E., Beck,J.W., Burr,G.S., Hughen,K.A., Kromer,B., McCormac,F.G., v.d. Plicht,J., and Spurk,M.（INTCAL98：Stuiver et al. ,1998a）. Radiocarbon40, p. 1041−1083} を使用した。なお、較正暦年代値は ^{14}C 年代値に対応する較正曲線上の暦年代値であり、真の年代で

ある可能性が最も高いことを示す。また、1σ暦年代範囲および2σ暦年代範囲は確率分布を用いて算出した暦年代範囲であり、その範囲内に真の年代が入る可能性が高いことを示す。1σ暦年代範囲は14C年代誤差に相当する較正曲線上の暦年代範囲であり、真の年代が入る確率が68%であることを示す。1σ暦年代範囲のProbabilityは、68%のうちで、さらに特定の1σ暦年代範囲に入る確率を示す。同様に、2σ暦年代範囲は14C年代誤差の2倍（±2σ）に相当する較正曲線上の暦年代範囲であり、真の年代が入る確率が95%であることを示す。2σ暦年代範囲のProbabilityは、95%のうちで、さらに特定の2σ暦年代範囲に入る確率を示す。

較正曲線は^{14}C濃度の変動のためデコボコしており、そのため^{14}C年代値に対応する暦年代値、または^{14}C年代誤差に相当する暦年代範囲が複数存在する場合があるが、較正暦年代値はいずれも等しく真の年代である可能性があり、1σ暦年代範囲はいずれも68%、2σ暦年代範囲はいずれも95%の確率で、さらにProbabilityに示された確率で真の年代が入る。

暦年代較正は約二万年前からAD1,950年までが有効であり、該当しないものについては較正暦年代値を＊＊＊＊＊またはModernと表記し、1σ暦年代範囲および2σ暦年代範囲を＊＊＊＊＊と表記する。また、cal　AD1955＊は核実験後の年代を指し、Modernを意味する。ただし、一万年以前のデータはまだ不完全であるため注意する必要がある。

第35表　放射性炭素年代測定結果

測定番号（測定方法）	試料データ	δ^{13}CPDB（‰）	^{14}C年代（yrBP±1σ）	較正暦年代		
				較正暦年代値	1σ暦年代範囲(Probability)	2σ暦年代範囲(Probability)
PLD-869（AMS）	鉄ナベ？付着炭化物 No. 99 ASBk1カマド	-24.7	160±25	cal AD1680 cal AD1740 cal AD1750 cal AD1755 cal AD1805 cal AD1935 cal AD1945	cal AD1670-1685(13.7%) cal AD1730-1780(54.2%) cal AD1800-1810(10.4%) cal AD1925-1945(19.7%)	cal AD1665-1700(16.4%) cal AD1725-1785(42.3%) cal AD1790-1815(11.7%) cal AD1915-1950(19.9%)
PLD-870（AMS）	炭化材 No. 44 SB1-ASP126	-26.2	520±25	cal AD1415	cal AD1405-1430(100%)	cal AD1400-1440(95.4%)
PLD-871（AMS）	炭化材 No. 46 SB1-ASP93	-28.4	1000±25	cal AD1020	cal AD1000-1035(98.4%)	cal AD985-1040(81.6%) cal AD1095-1120(10.1%)
PLD-872（AMS）	炭化材 No. 62 BSK117(底部)	-27.7	150±25	cal AD1680 cal AD1735 cal AD1805 cal AD1930 cal AD1945	cal AD1675-1695(17.1%) cal AD1725-1775(43.6%) cal AD1800-1815(10.5%) cal AD1920-1940(20%)	cal AD1670-1705(16.6%) cal AD1720-1780(34.2%) cal AD1795-1820(10.5%) cal AD1825-1885(19.2%) cal AD1915-1950(19.4%)
PLD-873（AMS）	炭化材 No. 70 ASK69土坑	-25.9	1180±25	cal AD785 cal AD885	cal AD780-790(12.7%) cal AD810-845(39.7%) cal AD850-890(47.7%)	cal AD775-895(91.9%)

Modernは AD1,950年以降の新しい年代を指す。yrBPは AD1,950年から過去へ遡った年代を意味する。calは較正した暦年代を意味し、実年代との混同を防ぐためにつけられる。また、Probability が10%未満の1σ年代範囲および2σ年代範囲については記載を省略した。

引用文献

中村俊夫（2000）放射性炭素年代測定法の基礎．　日本先史時代の^{14}C年代、p.3－20.

Stuiver, M. and Reimer, P. J.（1993）Extended ^{14}C Database and Revised CALIB3. 0 ^{14}C Age Calibration Program, Radiocarbon, 35, p. 215－230.

第2節　木材および炭化材の樹種同定

植田弥生（パレオ・ラボ）

1．はじめに

藤橋村徳山地区の揖斐川左岸に位置する徳山陣屋跡から出土した、木材と炭の樹種同定結果を報告する。調査試料は、主に近世の竈から出土した燃料材と思われる炭、15世紀前半の掘建柱建物跡の炭、近世以降のトイレ遺構から出土した炭や木材である。当地区は徳山ダム建設事業に伴う水没地区内にあり、今までにも揖斐川流域の上開田村平遺跡（1999）・山手宮前遺跡（1997）・いんべ遺跡（2000）・塚遺跡（1998）などにおいて炭化材の樹種調査が実施され、森林環境や木材利用の記録がなされた。これらの遺跡で樹種同定が実施された遺構は、主に縄文時代であった。従って、当遺跡の今回の調査は新たな時期の当地区での暮らしを理解する貴重な資料となる。

2．同定の方法

炭化していない木は、片刃の剃刀を用いて材の横断面（木口）・接線断面（板目）・放射断面（柾目）の3方向を薄く剥ぎ取り、スライドグラスの上に並べ、ガムクロラールで封入し永久プレパラートを作成した。そして光学顕微鏡を用いてこれらの材組織を観察し同定を行った。プレパラートは、パレオ・ラボに保管されている。

炭は、3方向（横断面・接線断面・放射断面）の断面を作成して、走査電子顕微鏡で拡大し同定を行った。

木と炭化材試料は、財団法人 岐阜県文化財保護センターに保管されている。

3．結果

樹種同定結果の一覧を第36表にまとめた。

第36表　木材および炭化材の樹種同定結果

自然遺物No.	種　別	遺構名	遺構の種別	遺構の年代	樹　種
83	炭	ASBk 1	竈	近世	針葉樹 スギ ヒノキ属 ブナ属 コナラ節 クリ ケヤキ クスノキ科 カエデ属 トチノキ ミズキ属
44	炭	SB 1 －ASP126	掘立柱建物	15世紀前半	ヒノキ属 カエデ属
46	炭	SB 1 －ASP93	掘立柱建物	15世紀前半	ヒノキ属
62	炭	BSK117（底部）	トイレ遺構	近世	広葉樹
70	炭	ASK69	土坑	古代以降	ケヤキ
16	木	ASK33	トイレ遺構	19世紀前葉	サワラ
26	木	ASK33	トイレ遺構	19世紀前葉	サワラ
78	木	ASK33	トイレ遺構	19世紀前葉	サワラ

ASBk 1（竈）出土炭（No.83）

小破片が多数あり、燃料材として使用された材と推定される。針葉樹のスギ・ヒノキ属・樹脂道を持たない針葉樹材、落葉広葉樹のブナ属・コナラ節・クリ・ケヤキ・クスノキ科・カエデ属・トチノキ・ミズキ属の合計11分類群が検出された。ほとんどの分類群は、2片以上が検出された。針葉樹材が最も多く検出されすべて樹脂道がない材であった。針葉樹材から数点を抽出して走査電子顕微鏡で同定した結果、すべてサワラの可能性が高いヒノキ属であった。広葉樹材はほとんどが破片であったが、針葉樹材は直径が0.7～1.5cmの細い丸木のものが多かった。なお、生焼けのような破片も含まれていたが、材組織の保存が悪く樹種は不明である。

SB 1 －ASP126（掘立柱建物）出土炭（No.44・No.46）

No.44からは、カエデ属とヒノキ属が検出された。カエデ属の破片2点は、放射方向の径が1～2.5cmのみかん割れの形状であった。また鋸歯のような傷痕が見られた。ヒノキ属は、放射方向の径が0.7～2.0cmの破片で、いずれも中心部に近い材であった。

No.46の大きさの異なる2片は、いずれもヒノキ属であり、1片は非常に年輪が緻密であった。

ASK69（土坑）出土炭（No.70）

放射方向の径が2cm、接線方向の幅3cmの破片で、樹種はケヤキであった。

ASK33（トイレ遺構）出土炭と木（No.62・No.16・No.26・No.78）

No.62の炭2片は、ねじれていて節部のようであった。2片とも保存が悪く広葉樹材であることまでしか判らなかったが、道管は単穿孔で放射組織は異性であり材組織は類似していた。

ASK33から出土したNo.16・No.26・No.78は、いずれも薄い板状破片で、樹種はヒノキ属のサワラであった。

樹種組織記載

スギ Cryptomeria japonica D.Don　スギ科　図版17　1a－1c（No.83）

仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞からなる針葉樹材。早材部の分野壁孔は、大きな楕円形を呈し孔口も大きく開いた楕円形で壁孔縁は少ないことからスギ型であり、1分野に2～4個が整然と配置している。横断面の観察では、晩材部の量が少なく仮道管の壁も薄いのでヒノキ科の材に類似していたが、分野壁孔の特徴からスギと同定された。日本海側のスギには、当試料のように晩材部の量が少なく仮道管の肥厚も薄い傾向が見られる。

サワラ　Chamaecyparis pisifera(Sieb. et Zucc.)　ヒノキ科　図版17　2a－2b(No.16) 3 (No.78)

仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞からなる針葉樹材。晩材部の量は少なく、早材から晩材への移行はやや急で、仮道管の肥厚は目立つ。樹脂細胞は年輪後半では接線状に配列する。分野壁孔は大きなヒノキ型で、その孔口は大きく楕円形に開き、1分野に2～4個でおもに2個が水平に整然と配列する。孔口の開口がヒノキより大きいことからサワラと同定した。

ヒノキ属　Chamaecyparis　ヒノキ科　図版17　4a－4c（№44）

仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞からなる針葉樹材。晩材の量は非常に少ない。分野壁孔の輪郭は丸く、孔口は細い楕円形に開いている部分が多く、1分野に2～3個ある。サワラの可能性が高い炭化材である。

ブナ属　Fagus　ブナ科　図版18　5a－5c（№83）

丸みをおびた小型の管孔が密在し除々に径を減じてゆき、晩材では極めて小型となり分布数も減る散孔材。道管の壁孔は交互状から階段状、孔口はレンズ状に水平に開き、穿孔は階段数が10～20本の階段穿孔と単穿孔がある。放射組織は異性、1～3細胞幅のものと広放射組織があり、道管との壁孔は大きなレンズ状である。

コナラ属コナラ亜属コナラ節　Quercus. subgen. Quercus sect. Prinus　ブナ科　図版18　5a－5c（№83）

年輪の始めに中型の管孔が1層配列し、その後は急に径を減じて薄壁で角形の小型の管孔が火炎状に配列する環孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は単一、内腔にチロースがある。放射組織はほぼ同性、単列と広放射組織がある。

クリ　Castanea crenata Sieb. et Zucc.　ブナ科　図版18　7a－7c（№83）

年輪の始めに中型～大型の管孔が密に配列し除々に径を減じてゆき、晩材部では非常に小型の管孔が火炎状に配列する環孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は単一、内腔にはチロースがある。放射組織は単列同性、道管との壁孔は孔口が大きく開く。

ケヤキ　Zelkova serrata（Thunb.）Makino　ニレ科　図版19　8a－8（№70）

年輪の始めに中型の管孔が1層配列し、その後は多数の小型の管孔が塊状に集合して分布している環孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は単一、小道管にらせん肥厚がある。放射組織は異性、1～6細胞幅の紡錘形、上下端や縁に大型の結晶細胞が多い。

クスノキ科　Lauraceae　図版19　9a－9c（№83）

小型の管孔が単独または2～3個が放射方向に複合して散在する散孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は単一である。放射組織は異性、1～2細胞幅、上下端に大きな油細胞がある。管孔が大きく、単独の大型油細胞が多いクスノキ・タブノキなど以外の樹種であるがこれ以上は区別できなかった。当遺跡の環境からクロモジ属（Lindera）の可能性が高いと思われる。

カエデ属　Acer カエデ科　図版19　10a－10c（№44）

小型の管孔が単独または2～3個が放射方向に複合して散在する散孔材。中型の管孔からなる破片や、帯状の柔組織が顕著な破片もあった。道管の壁孔は交互状、穿孔は単一、内腔に細いらせん肥厚がある。放射組織は同性、1～4細胞幅、道管との壁孔は交互状で孔口はやや大きい。

トチノキ　Aesculus turbinata Blume　トチノキ科　図版20　11a－11c（№83）

中型の管孔が単独または2～数個が複合して散在し、年輪界付近では分布数が減少する散孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は単一、内腔にらせん肥厚がある。放射組織は単列同性で層階状に配列し、道管と放射組織の壁孔はやや大きくて交互状に密在する。

ミズキ属　Cornus　ミズキ科　図版20　12a－12c（№83）

中型の管孔が主に単独でまれに複合して均一に分布し、年輪界の管孔は小型である散孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は横棒数が多い階段穿孔である。放射組織は異性、1～4細胞幅、単列や多列部の上下端に方形細胞や直立細胞がある。

4．まとめ

竈から出土した炭からは、スギ・ヒノキ属・ブナ属・コナラ節・クリなど11分類群が検出された。これらの樹種構成は、あまり人手の加わっていない中間温帯林の主要な樹種と一致する。周辺遺跡の縄文時代の遺構から出土した炭化材からも、種類数の豊富な中間温帯林を利用していたと推定される報告がなされている。そして現在でも、徳山地区では集落のすぐ近くにこのような森林が成立している。二次林の代表的樹種のマツ類やナラ類（コナラ節やクヌギ節）・クリが目立って多く出土するような事は無かった。従って徳山陣屋跡でも、燃料材として入手が容易な周囲の森林は様々な樹種が豊富に生育していてそれらを利用していた様子が、発掘遺構の炭から確認できた。

15世紀後半の掘建柱建物から検出された炭は、ヒノキ属とカエデ属であり、2種ともに建築材に使われることの多い樹種であった。

トイレ遺構から出土した木は、いずれも針葉樹のサワラであった。№78は桶材の可能性が指摘されているが、サワラは中部地方では桶材によく使われる樹種である。

参考文献

（財）岐阜県文化財保護センター　1997　『山手宮前遺跡』
（財）岐阜県文化財保護センター　1998　『塚遺跡』
（財）岐阜県文化財保護センター　1999　『上開田村平遺跡』
（財）岐阜県文化財保護センター　2000　『いんべ遺跡』

第3節　寄生虫卵

鈴木　茂（パレオ・ラボ）

徳山陣屋跡において行われた発掘調査で、トイレ遺構と考えられている土坑が検出された。ここではトイレとして使用された裏付けをとる目的で行った寄生虫卵分析の結果・考察を示し、糞便の混入、すなわちトイレとしての可能性について検討した。

1．試料と分析方法

試料は遺構 BSK115～117および ASK33の 4 遺構より採取された 9 試料である。各試料について、試料1, 2は時代不明の BSK115の覆土下部より採取された 2 試料で、最下部試料 BSK115－②は黒褐色～暗褐色のローム質土、その直上の①は暗褐色ローム塊混じりの黒褐色土壌である。試料 3 ～ 5 は近世以前と考えられている BSK116の壁面より採取された 3 試料で、BSK116－①は暗褐色粘土の薄層（約 3 ㎜）2 枚とそのまわりの黒褐色有機質土である。②は砂混じりの黒褐色ローム質土、③は小レキ混じりの暗褐色ローム質土である。BSK117より採取された 3 試料について、①は薄板とそれにへばり付いていた小レキおよび黒褐色土壌で、白色粒子が点在している。②は小レキ混じりの黒褐色砂質シルトで、板状の炭片付きである。③はレキに付着している黒褐色の土壌である。ASK33はレキ混じりの黒褐色砂質粘土～シルトで、炭片が認められる。これら 9 試料について以下の手順にしたがって寄生虫卵分析を行った。

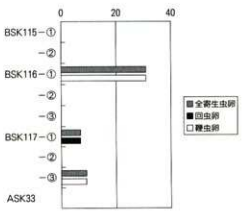
堆積を計測した試料について、10%水酸化カリウム処理→傾斜法→46%フッ化水素酸処理→比重分離→酢酸処理→アセトリシス処理の順に物理・化学的処理を行った。この残渣に適容量のグリセリンを加え全容量を計測した。検鏡は使用容量を計測したプレパラートを適宜作成し、全面にわたり行った。なお、各試料とも遺構壁面や堆積レキなどに付着した土壌を削り取るように採取されたものであり、堆積についてはあまり正確ではない。

2．分析結果

観察の結果、BSK116の①と BSK117の①および③の 3 試料より若干の寄生虫卵が検出された（第37表）。

第37表　試料 1 cc 中の寄生虫卵個数

遺構	試料 No.	全寄生虫卵	回虫卵	鞭虫卵
BSK115	①	0	0	0
	②	0	0	0
BSK116	①	32	0	32
	②	0	0	0
	③	0	0	0
BSK117	①	7	7	0
	②	0	0	0
	③	9	0	9
ASK33		0	0	0



第70図　寄生虫卵分布図（個/cc）

そのうちBSK116の①においては鞭虫卵が試料1cc中32個体、BSK117の①より回虫卵が7個体、③より鞭虫卵が9個であった。

3．検出寄生虫卵について

上記したように9試料中3試料より若干の寄生虫卵が観察された。（写真図版21）ここで寄生虫卵個数について示すと、試料1cc中に1,000個以上の寄生虫卵があれば糞便の可能性があると考えられている（金原　1997）。今回の分析ではこれをはるかに下まわる寄生虫卵の検出個数であり、金原（1997）に従えば分析試料が糞便である可能性は低いと考えられる。しかしながら各試料とも遺構内埋土を完掘後に採取されたもので、壁面や遺構内から検出されたレキにわずかに付着していた埋土を削り取るように採取し試料としたものである。よって使用した試料すべてが遺構の埋土ではなく、多くは地山や遺構廃棄後の土壌である可能性が高い。このような状況のもと寄生虫卵が検出されたBSK116および4の両①試料は壁面の板に付着していた土壌を主な試料としたと考えられ、多少とも板に残存していた糞便が混入して寄生虫卵が検出されものと推測される。また寄生虫卵が検出されなかったBSK115およびASK33の試料については糞便の影響をうけた土壌は残っていなかったと思われる。

以上のように、BSK116, BSK117の2遺構については若干ではあるが寄生虫卵が検出され、これらがトイレであったとことを多少とも裏付ける資料が得られたと判断されよう。一方、寄生虫卵が認められなかったBSK115, ASK33はトイレについては言及できない。なお、検出された鞭虫卵，回虫卵はこれらに汚染された野菜を摂取することにより感染が成立する（中村ほか　1994）。

引用文献

金原正明（1997）自然科学的研究からみたトイレ文化．トイレの考古学，大田区立郷土博物館編，p.197－216.

中村敏夫・佐藤淳夫・荒木恒治・辻　守康（1994）医学要点双書10寄生虫病学第2版．金芳堂，203p.

第4節　ASQ1出土合子の内容物

藤根　久（パレオ・ラボ）

1．はじめに

徳山陣屋跡の調査では、蓋をした状態で合子が出土した。この合子の蓋を開けた際、内部には砂粒が一杯詰まっていた（写真図版22）。これらの砂粒は比較的淘汰の良い砂粒から構成され、砂粒をある程度取り除いた際、砂粒物が底部一面にほぼ付着していた。

ここでは、この合子が如何なる目的で使用された遺物であるかについての検討材料として、内容物について特徴記載を行った。

2．試料と方法

内容物は、比較的粒度の揃った砂粒であることが容易に理解されたため、砂粒の粒度組成と砂粒以外の細粒物の無機化学組成を調べた。

砂粒組成は、約0.5g程度を取り出し測定試料とした。また、約3g程度の試料に蒸留水を加え、超音波洗浄を行った後、傾斜法によりコロイド分を取り出した。さらに、遠心分離器を用いて遠心管に濃集した後、スライドグラス上に展開・乾固して蛍光X線分析試料とした。

粒度分析は、㈱島津製作所製レーザ回折式粒度分布測定装置SALD－3000S（測定範囲0.08～3000μm、0.25φ間隔）形を用いて測定した。試料は、分散剤（2％ヘキサメタリン酸ナトリウム）と混ぜ合わせ32回繰り返し測定を行った。

蛍光X線分析は、セイコー電子工業（株）製のエネルギー分散型蛍光X線分析計SEA－2001Lを用いた。X線発生部の管球はロジウム（Rh）ターゲット、ベリリウム（Be）窓、X線検出器はSi（Li）半導体検出器である。測定条件は、測定時間300秒、照射径10㎜、電流7μm、電圧50KV、試料室内真空である。なお、地質調査所配布標準試料JG－3を用いたファンダメンタルパラメータ法により半定量分析も行った。

3．結果および考察

砂粒の実体顕微鏡観察では、赤色あるいは乳白色のチャート、石英、堆積岩類と思われる黒色砂粒などから構成されている。

第72図に粒度分析の結果を示す。横軸は、φスケール（粒径d（㎜）は、d＝（1／2）$^{\phi}$で換算）で示し、縦軸は各粒度階の頻度％を示す。粒度組成は、予想されたように1.00～0.75φ（500～約597μm）を最頻値として理想的な正規分布を示し、1.50～0.50φ（353～707μm）の粒度が全体の約76％を占め、1.75～0.25φ（297～840μm）では全体の約85％に達する（第72図）。

こうしたことから、この砂粒は淘汰が非常に良く、粒度管理の行われた砂粒を使用していることが理解される。

なお、8.00～5.50φ（約3.9～22μm）の間の細粒分が合計約4.0％ほど含まれている。これらの細粒分は、一部砂粒に伴うものも含まれると考えられるが、当時利用された際に添加された物質の残留物と考えられる。

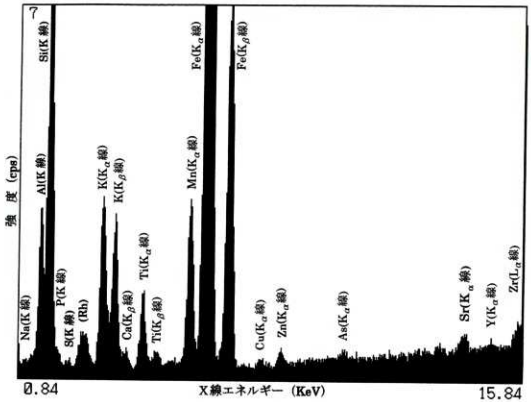
蛍光X線分析によるコロイド分の無機化学組成は、主成分元素として、ケイ素（Si）、アルミニウム（Al）、カリウム（K）が特徴的に検出され、その他ナトリウム（Na）、マグネシウム（Mg）、リン（P）、チタン（Ti）、マンガン（Mn）、鉄（Fe）が検出された。なお、微量成分元素として銅（Cu）、亜鉛（Zn）、ヒ素（As）、ストロンチウム（Sr）なども検出されている（第71図）。

第39表に、標準試料JG－3を用いたファンダメンタルパラメータ法による半定量分析結果を示す。定量の結果、土壌などと比べて酸化カリウム（K_2O）が多く含まれていた（第38表）。なお、顕微鏡による観察では、こうした組成の特徴を示す直接的な証拠は見られなかった。

このように、内容物の大半は、粒度管理が行われた淘汰の良い砂粒分が大半を占め、使用時に添加された物質の残留物と考えられる細粒分（コロイド分を含む）が約4％含まれていた。植物などの有機物は、分解され残留物として残っていないが、これら有機物が分解した際の無機残渣が細粒物として残っているものと考える。なお、コロイド分の蛍光X線分析では、酸化カリウム（K_2O）が特徴的に多く含まれていたが、その実体については明らかでない。

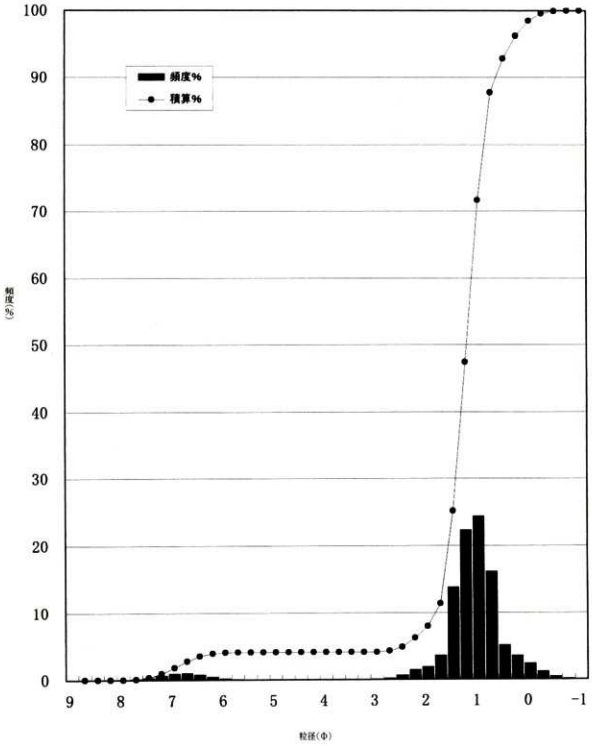
第38表　コロイド分の主成分元素分析値（単位%）

試料	Na_2O	MgO	Al_2O_3	SiO_2	P_2O_5	K_2O	CaO	TiO_2	MnO	Fe_2O_3	Total
コロイド	3.00	0.58	15.50	61.07	0.11	15.07	0.00	0.36	0.29	3.96	99.94



［元素記号］　Na:ナトリウム、Al:アルミニウム、Si:ケイ素、P:リン、S:イオウ、K:カリウム、Ca:カルシウム、Ti:チタン、Mn:マンガン
Fe:鉄、Cu:銅、Zn:亜鉛、As:ヒ素、Sr:ストロンチウム、Y:イットリウム、Zr:ジルコン、Rh:ロジウム（X線管球から）

第71図　コロイドの蛍光X線スペクトル図



第72図　合子内砂粒物の粒度組成（粒径d（mm）は、d=（1／2）^Φで換算）

第5節　ASQ1出土の合子に残存する脂肪の分析

帯広畜産大学生物資源科学科　中野益男
㈱スコージャ・総合科学研究所　中野寛子，清水　了
門　利恵，星山賢一

動植物を構成している主要な生体成分にタンパク質，核酸，糖質（炭水化物）および脂質（脂肪・油脂）がある。これらの生体成分は環境の変化に対して不安定で，圧力，水分などの物理的作用を受けて崩壊してゆくだけでなく，土の中に棲んでいる微生物による生物的作用によっても分解してゆく。これまで生体成分を構成している有機質が完全な状態で遺存するのは，地下水位の高い低地遺跡，泥炭遺跡，貝塚などごく限られた場所に過ぎないと考えられてきた。

最近，ドイツ新石器時代後期にバター脂肪が存在していたこと[1]，古代遺跡から出土した約2千年前のトウモロコシ種子[2]，約5千年前のハーゼルナッツ種子[3]に残存する脂肪の脂肪酸は安定した状態に保持されていることがわかった。このように脂肪は微量ながら比較的安定した状態で千年・万年という長い年月を経過しても変化しないで遺存することが判明した[4]。

脂質は有機溶媒に溶けて，水に溶けない成分を指している。脂質はさらに構造的な違いによって誘導脂質，単純脂質および複合脂質に大別される。これらの脂質を構成している主要なクラス（種）が脂肪酸であり，その種類，含量ともに脂質中では最も多い。その脂肪酸には炭素の鎖がまっすぐに延びた飽和型と鎖の途中に二重結合をもつ不飽和型がある。動物は炭素数の多い飽和型の脂肪酸，植物は不飽和型の脂肪酸を多く持つというように，動植物は種ごとに固有の脂肪酸を持っている。ステロールについても，動物性のものはコレステロール，植物性のものはシトステロール，微生物はエルゴステロールというように動植物に固有の特徴がある。従って，出土遺物の脂質の種類およびそれらを構成している脂肪酸組織と現生動植物のそれとを比較することによって，目に見える形では遺存しない原始古代の動植物を判定することが可能となる。

このような出土遺構・遺物に残存する脂肪を分析する方法を「残存脂肪分析法」という。この「残存脂肪分析法」を用いて徳山陣屋跡から出土した土坑の性格を解明しようとした。

1．合子および土壌試料

岐阜県揖斐郡藤橋村に所在する徳山陣屋跡からは，これまでに16～18世紀のものと推定されている遺構・遺物が出土している。この遺跡から出土した18世紀のものと推定されている陶器製の合子とその内部の土壌を分析した。遺跡内での合子出土地点および陶器内での土壌試料採取地点は第3章第2節第14図に示す。遺構実測図は同章第50図を参照。試料No.1は合子そのもので蓋と身のうち身のみ，No.2とNo.3は合子内の土壌で，No.2が底部に付着したもの，No.3がそれ以外の合子内のすべての砂質土壌である。また，合子そのものの底にはNo.2に相当する付着したものをとった後にも浸み込んだような形で何かの物質の後が残っていた。

2．残存脂肪の抽出

合子試料はヒト手に触れている可能性が有るので，表面のみを予めベンゼンで洗浄した。洗浄した

合子試料124gに試料が十分浸漬する量，土壌試料8gと123gに3倍量のクロロホルム－メタノール（2：1）混液を加え，超音波浴槽中で30分間処理し残存脂肪を抽出した。処理液をろ過後，残渣に再度クロロホルム－メタノール混液を加え，再び30分間超音波処理をする。この操作をさらに2回繰り返して残存脂肪を抽出した。得られた全抽出溶媒に1％塩化バリウムを全抽出溶媒の4分の1容量加え、クロロホルム層と水層に分配し，下層のクロロホルム層を濃縮して残存脂肪を分離した。

残存脂肪の抽出量を第39表に示す。抽出率は土器試料が0.0023%，土壌試料が0.0064%と0.0025%，平均0.0045%であった。これらの値は全国各地の遺跡から出土した土壌，石器，土器などの試料の平均抽出率0.0010～0.0100%の範囲内のものではあるが，土器試料の方が低めであった。

残存脂肪をケイ酸薄層クロマトグラフィーで分析した結果，脂肪は単純脂質で構成されていた。このうち遊離脂肪酸が最も多く，次いでグリセロールと脂肪酸が結合したトリアシルグリセロール（トリグリセリド），ステロールエステル，ステロールの順に多く、微量の長鎖炭化水素も存在していた。

第39表　試料の残存脂肪抽出量

試料No.	試　料　名	湿重量（g）	全脂質（mg）	抽出率（%）
1	陶器	124.4	2.8	0.0023
2	陶器内底部土壌	7.8	0.5	0.0064
3	陶器中・上部土壌	123.1	3.1	0.0025

3．残存脂肪の脂肪酸組成

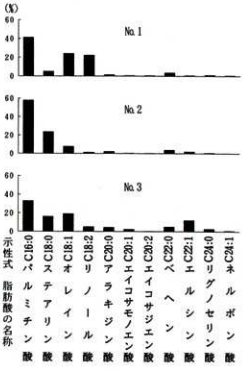
分離した残存脂肪の遊離脂肪酸とトリアシルグリセロールに5％メタノール性塩酸を加え，125℃封管中で2時間分解し、メタノール分解によって生成した脂肪酸メチルエステルを含む画分をクロロホルムで分離し、さらにジアゾメタンで遊離脂肪酸を完全にメチルエステル化してから，ヘキサン－エチルエーテル－酢酸（80：30：1）またはヘキサン－エチルエーテル（85：15）を展開溶媒とするケイ酸薄層クロマトグラフィーで精製後，ガスクロマトグラフィーで分析した。

残存脂肪の脂肪酸組成を第73図に示す。残存脂肪から11種類の脂肪酸を検出した。このうちパルミチン酸（C16：0），ステアリン酸（C18：0），オレイン酸（C18：1），リノール酸（C18：2），アラキジン酸（C20：0），エイコサモノエン酸（C20：1），ベヘン酸（C22：0），エルシン酸（C22：1），リグノセリン酸（C24：0），ネルボン酸（C24：1）の10種類の脂肪酸をガスクロマトグラフィー－質量分析により同定した。

試料中の脂肪酸組成をみるとすべての試料中で主要な脂肪酸はパルミチン酸であった。このうち酸素数18までの中級脂肪酸は，試料No.1ではパルミチン酸に次いで，オレイン酸とリノール酸がほぼ同程度分布しており、No.2ではパルミチン酸に次いで，ステアリン酸，オレイン酸が順に多く，No.3ではパルミチン酸に次いでオレイン酸，ステアリン酸が順に多く分布していた。一般に考古遺物にはパルミチン酸が多く含まれている。これは長い年月の間にオレイン酸，リノール酸といった不飽和脂肪酸の一部が分解し、パルミチン酸を生成するためで，主として植物遺体の土壌化に伴う腐植物から来ていると推定される。ステアリン酸は動物体脂肪や植物の根に比較的多く分布している。オレイン酸の分布割合の高いものとしては，動物性脂肪と植物性脂肪の両方が考えられ，植物性脂肪は特に根，茎，種子に多く分布するが，動物性脂肪の方が分布割合は高い。オレイン酸はまた，ヒトの骨のみを

埋葬した再葬墓試料などにも多く含まれる。リノール酸は主として植物種子・葉に多く分布する。

一方、高等動物、特に高等動物の臓器、脳、神経組織、血液、胎盤に特徴的にみられる炭素数20以上のアラキジン酸、ベヘン酸、リグノセリン酸などの高級飽和脂肪酸は、それら3つの合計含有率がすべての試料中で約6～12%であった。通常の遺跡出土土壌中でのアラキジン酸、ベヘン酸、リグノセリン酸の高級飽和脂肪酸3つの合計含有率は約4～10%であるから、試料No.3の含有率はわずかに高くはあるが、すべての高級飽和脂肪酸含有量はほぼ通常の遺跡出土土壌中の植物腐植土並みであった。高級飽和脂肪酸含有量が多い場合としては、試料中に高等動物の血液、脳、神経組織、臓器などの特殊な部分が含まれている場合と、植物の種子・葉などの植物体の表面を覆うワックスの構成分が含まれている場合とがある。高級飽和脂肪酸が動物、植物のどちらに由来するかはコレステロールの分布割合によって決めることができる。概して、動物由来する場合はコレステロール含有量が多く、植物由来する場合はコレステロール含有量が少ない。他に、試料No.3には高級不飽和脂肪酸であるエルシン酸が約12%分布していた。エルシン酸は古代のナタネ油やダイコン、カラシナなどのアブラナ科植物の種子に特異的に分布している脂肪酸である。



第73図　試料中に残存する脂肪の脂肪酸組成

以上、徳山陣屋跡のすべての試料中にはパルチミン酸が最も多く含まれており、次いで合子試料にはオレイン酸とリノール酸が多く、合子内土壌試料にはステアリン酸とオレイン酸が多いことがわかった。高級飽和脂肪酸はすべての試料中にほぼ通常の遺跡出土土壌中の植物腐植土並みに含まれていたが、合子内中・上部土壌試料No.3には高級不飽和脂肪酸であるエルシン酸が通常よりはかなり多く含まれていることもわかった。

4．残存脂肪のステロール組成

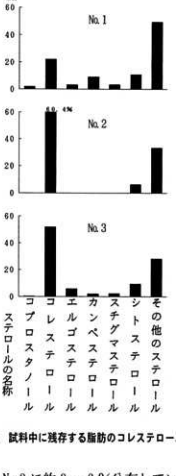
残存脂肪のステロールをヘキサン－エチルエーテル－酢酸（80：30：1）を展開溶媒とするケイ酸薄層クロマトグラフィーで分離・精製後、ピリジン－無水酢酸（1：1）を窒素気流下で反応させてアセテート誘導体にする。得られた誘導体をもう一度同じ展開溶媒で精製してから、ガスクロマトグラフィーにより分析した。残存脂肪の主なステロール組成を第74図に示す。残存脂肪から8～16種類のステロールを検出した。このうちコプロスタノール、コレステロール、エルゴステロール、カンペステロール、スチグマステロール、シトステロールなど8種類のステロールをガスクロマトグラフィー一質量分析により同定した。

資料中のステロール組成をみると、動物由来のコレステロールは試料No.1に約22%、No.2とNo.3に

約52～60%分布していた。通常一般的な植物腐植土中にはコレステロールは2～6%分布している。従って、すべての試料中でのコレステロール含有量は多く、特に試料No.2とNo.3では非常に多かった。

植物由来のシトステロールはすべての試料中に約6～11%分布していた。通常の遺跡出土土壌中にはシトステロールは30～40%、もしくはそれ以上に分布している。従って、全ての試料中のシトステロール含有量は通常の遺跡出土土壌の植物腐植土中でよりも少なめであった。

クリ、クルミなどの堅果植物由来のカンペステロール、スチグマステロールは、カンペステロールが試料No.2に痕跡程度、No.1に約9%、No.3に約2%、スチグマステロールがNo.2で検出されず、No.1とNo.3に約2～3%分布していた。通常の遺跡出土土壌中にはカンペステロール、スチグマステロールは1～10%分布している。従って、試料中に含まれているカンペステロール、スチグマステロール含有量は通常の遺跡出土土壌中の植物腐植土並みか、少なめであった。



第74図　試料中に残存する脂肪のコレステロール組成

微生物由来のエルゴステロールは試料No.2に混成程度、No.1とNo.3に約3～6%分布していた。通常の遺跡出土土壌中にはエルゴステロールは数%分布している。従って、試料No.3に若干多くはあるが、この程度の量は土壌微生物の存在による結果と考えられる。

哺乳動物の腸もしくは糞便中に特異的に分布するコプロスタノールは、試料No.2に痕跡程度、No.1とNo.3に約0.4～2.0%分布していた。コプロスタノールは、通常の植物腐植土壌中には分布していないが、1～2%程度の量は検出されることがある。また、コプロスタノールはその分布により試料中での哺乳動物の存在を確認することができる他に、コプロスタノールが10%以上含まれていると、試料中に残存している脂肪の持ち主の動物種や性別、また遺体の配置状況などが特定できる場合がある[6]。今回のコプロスタノール含有量は通常の遺跡出土土壌中の植物腐植土並みであった。

一般に動物遺体の存在を示唆するコレステロールとシトステロールの分布比の指標値は土壌で0.6以上[7]、土器・石器・石製品で0.8～23.5をとる[8・9]。試料中のコレステロールとシトステロールの分布比を第40表に示す。表からわかるように、分布比はすべての試料が0.6以下であった。従って、分布比はすべての試料中に動物遺体または動物由来の脂肪が残存している可能性があることを示唆している。特に、試料No.2とNo.3の分布比は非常に高く、これらの試料中には動物遺体または動物由来の脂肪が非常に多く残存していることを示していた。

以上、徳山陣屋跡の試料中に含まれている各種ステロール類は、動物由来のコレステロールがすべての試料中に多く、特に合子内土壌試料中に非常に多い他は、すべて通常の遺跡出土土壌中の植物腐

植土並みか少なめであることがわかった。コレステロールとシトステロールの分はすべての試料が0.6以上で、すべての試料中に動物遺体または動物由来の脂肪が残存している可能性があり、特に合子内土壌試料にはその可能性が非常に高いこともわかった。

第40表　試料中に分布するコレステロールとシトステロールの割合

試料No.	コレステロール（%）	シトステロール（%）	コレステロール/シトステロール
1	22.05	10.78	2.05
2	60.43	6.28	9.62
3	51.88	9.41	5.51

5．脂肪酸組成の数理解析

残存脂肪の脂肪酸組成をパターン化し、重回帰分析により各試料間の相関係数を求め、この相関係数を基礎にしてクラスター分析を行って各試料の類似度を調べた。同時に同じ岐阜県内の遺跡で出土土壌に残存する脂肪はヒト遺体を直接埋葬したことに関わる遺跡の試料やヒトの体脂肪、遺跡によってはイノシシ、ニホンジカのような動物試料の脂肪とも類似していると判定した家の下遺跡、西田遺跡[10]、弥勒寺東遺跡[11]、丸山遺跡[12]、出土した埋甕に残存する脂肪はヒト遺体を直接埋葬したことに関わる遺跡の試料やヒトの体脂肪、もしくはヒトの胎盤、遺跡によってはイノシシ、ニホンジカのような動物試料の脂肪とも類似していると判定した岡前遺跡[13]、牛垣内遺跡[14]、出土した埋め込み型瓶に残存する脂肪はヒトの骨部分もよく含むヒト遺体全般の脂肪と類似していると判定した松葉野遺跡[15]、出土土器を幼児埋葬用甕棺と判定した静岡県原川遺跡[16]、出土土壌を土壙墓と判定した兵庫県寺田遺跡[17]、ヒトの体脂肪、ヒトの胎盤、出土土壌を再葬墓と判定した宮城県摺萩遺跡[18]、ヒトの骨油試料など、各種遺跡試料や現生動植物の脂肪酸との類似度も比較した。予めデータベースの脂肪酸組成と試料中のそれとでクラスター分析を行い、その中から出土状況を考慮して類似度の高い試料を選び出し、再びクラスター分析によりパターン間距離にして表したのが第75図である。

図からわかるように、徳山陣屋跡の試料No.1はヒトの胎盤、タヌキのような動物、モズ、ツグミのような野鳥と共に相関行列距離0.1以内でA群を形成し、よく類似していた。試料No.1はA群の中でもヒトの胎盤試料とは相関行列距離で0.1以内の最も近い所にあり、特によく類似していた。徳山陣屋敷の試料No.2はニホンジカ、テン、ウサギイノシシのような動物、カラスのような野鳥、原川遺跡、丸山遺跡、家の下遺跡、寺田遺跡の試料と共に相関行列距離0.1以内でD群を形成し、よく類似していた。徳山陣屋跡の試料No.3は西田遺跡、岡前遺跡、牛垣内遺跡、弥勒寺東遺跡の試料と共に相関行列距離0.1以内でE群を形成し、よく類似していた。これらの群のうちA群とB群は相関行列距離約0.1以内の所にあり、D群とE群も別の群で相関行列距離0.15以内の所にあり、それぞれ互いに類似していた。

以上、徳山陣屋跡の合子資料中に残存する脂肪はヒトの胎盤試料やタヌキ、モズ、ツグミのような動物試料の脂肪と、合子内土壌試料のそれはニホンジカ、イノシシ、テン、ウサギ、カラスのような動物試料やヒト遺体を直接埋葬したことに関わる遺跡試料の脂肪と類似することがわかった。今回は合子試料そのものと合子内土壌試料とでは残存する脂肪の傾向がやや異なっていた。

6．脂肪酸組成による種特異性相関

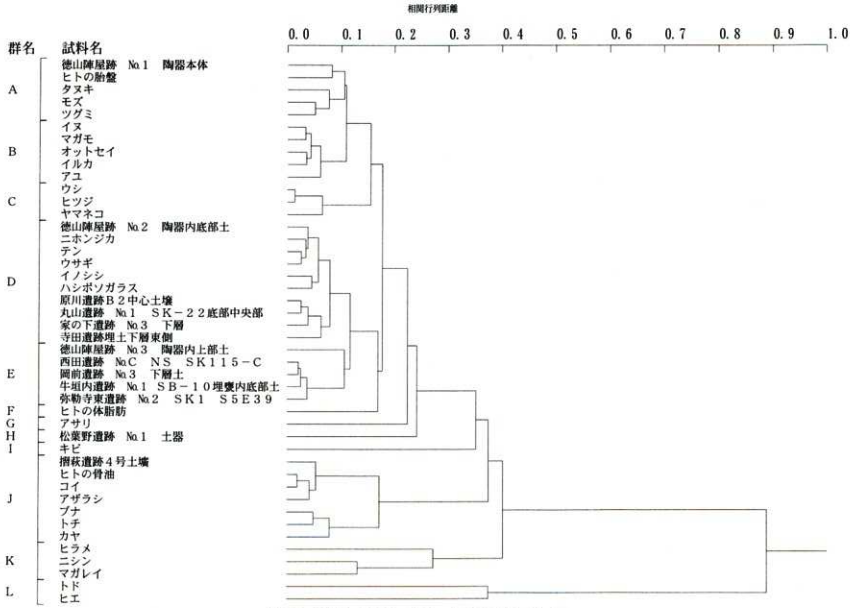
残存脂肪の脂肪酸組成から種を特定するために、中級脂肪酸（炭素数16のパルミチン酸から炭素数18のステアリン酸、オレイン酸、リノール酸、リノレン酸まで）と高級脂肪酸（炭素数20のアラキジン酸以上）との比をX軸に、飽和脂肪酸と不飽和脂肪酸との比をY軸にとり種特異性相関を求めた。この比例配分により第1象限の原点から離れた位置に高等動物の血液、脳、神経組織、臓器等に由来する脂肪、第1象限から第2象限の原点から離れた位置にヒト胎盤、第2象限の原点から離れた位置に高等動物の体脂肪、骨油に由来する脂肪がそれぞれ分布する。第2象限から第3象限にかけての原点付近に植物と微生物、原点から離れた位置に植物腐植土、第3象限から第4象限にかけての原点から離れた位置に海産動物に由来する脂肪が分布する。

試料の残存脂肪から求めた種特異性相関を第76図に示す。図からわかるように、徳山陣屋跡のすべての試料は第2象限内の広範囲に分布し、単独でA、C、D群を形成した。これらの群の分布位置は試料中に残存する脂肪が高等動物の体脂肪や骨油に由来することを示唆している。特に、試料№2は第2象限内でもY軸上でかなり上部に位置したが、これはこの試料中に飽和脂肪酸が多いためにそのような位置に分布したと考えられ、飽和脂肪酸が多いということは動物性脂肪が多いということを意味している。

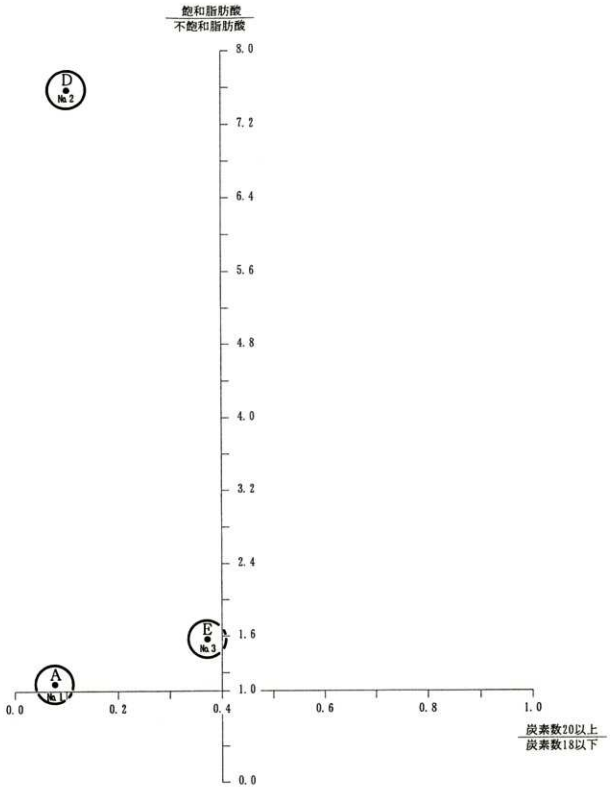
以上、徳山陣屋跡の試料中に残存する脂肪は高等動物の体脂肪や骨油に由来することがわかった。特に合子内底部土壌試料№2に残存する脂肪は、動物性脂肪が多いこともわかった。

7．総括

徳山陣屋跡から出土した合子の性格を判定するために、合子と合子内土壌試料の残存脂肪分析を行った。残存する脂肪の脂肪酸分析、ステロール分析の結果、合子試料に残存する脂肪は動物由来のものであることがわかった。脂肪酸組成の分布に基づく数理解析の結果では合子試料に残存する脂肪はヒトの胎盤試料やタヌキ、モズ、ツグミのような動物試料の脂肪と、合子内土壌試料のそれはシカ、イノシシ、テン、ウサギ、カラスのような動物試料やヒト遺体を直接埋葬したことに関わる遺跡試料の脂肪と類似していることがわかった。合子試料そのものと合子内土壌試料とでは残存する脂肪の傾向がやや異なっていたが、これは合子の内容物と合子内土壌が混ざり、合子内土壌が必ずしも合子の内容物を示すものではない可能性が考えられ、合子の内容物の特徴は底部に浸み込んだような形で残存していた物質に残存する脂肪の方が示している可能性が強い。しかし、合子試料と合子内土壌試料を合わせて考えても、それらすべてに残存する脂肪はヒト胎盤やヒト遺体、またタヌキ、シカ、イノシシ、テン、ウサギのような動物やモズ、ツグミ、カラスのような野鳥の脂肪と類似していることになる。従って、この合子に残存する脂肪はヒト胎盤試料や他の動物試料の脂肪と類似している可能性が強い。また、合子内中・上部土壌試料にエルシン酸が少し多かったが、その理由については不明である。ヒト胎盤であるかどうかの正確な判定には、動物種特有の抗原抗体反応を用いた免疫試験を行うと詳細が判明する場合もある。他の動物試料の脂肪とも類似していることについては、奈良時代に平城京で地鎮具として壺にニワトリなどの動物の煮汁を入れて埋納する風習があったことも考慮の余地がある。[28]



第75図　試料中に残存する脂肪の脂肪酸組成樹状構造図



第76図　試料中に残存する脂肪の脂肪酸組成による種特異性相関

参考文献

（1）R.C.A.Rottlander and H.Schlichtherle：「Food identification of samples from archaeological sites」、『Archaeo Physika』、10巻、1979、pp260。

（2）D.A.Priestley,W.C.Galinat and A.C.Leopold：「Preservation of polyunsatu－rated fatty acid in ancient Anasazi maize seed」、『Nature』、292巻、1981、pp146。

（3）R.C.A.Rottlander and H. Schlichtherle：「Analyse fruhgeschichtlicher Ge－faβinhalte」、『Naturwissens chaften』、70巻、1983、pp33。

（4）中野益男：「残存脂肪分析の現状」、『歴史公論』、第10巻（6）、1984、pp124。

（5）M.Nakano and W.Fischer：「The Glycolipids of Lactobacillus casei DSM20021」、『Hoppe－Seyler's Z.Physiol.Chem.』、358巻、1977、pp1439。

（6）中野益男：「残留脂肪酸による古代復元」、『新しい研究法は考古学になにをもたらしたか』、田中　琢、佐原　眞編、クバプロ、1995、pp148。

（7）中野益男、伊賀　啓、根岸　孝、安木教博、畑　宏明、矢吹俊男、佐原　眞、田中　琢：「古代遺跡に残存する脂肪の分析」、『脂質生化学研究』、第26巻、1984、pp40。

（8）中野益男：「真脇遺跡出土土器に残存する動物油脂」、『真脇遺跡』、石川県鳳至郡能都町教育委員会・真脇遺跡発掘調査団、1986、pp401。

（9）中野益男、根岸　孝、長田正宏、福島道広、中野寛子：「ヘロカルウス遺跡の石器製品に残存する脂肪の分析」、『ヘロカルウス遺跡』、北海道文化財研究所調査報告書第3集、1987、pp191。

（10）中野寛子、明瀬雅子、長田正宏、中野益男：「家の下遺跡の土壌に残存する脂肪の分析」、『未発表』、岐阜県吉城郡宮川村教育委員会。

（11）中野益男、中野寛子、長田正宏：「土壌（SK115）に残存する脂肪の分析」、『西田遺跡』、岐阜県文化財保護センター調査報告書第29集、岐阜県土木部・(財)岐阜県文化財保護センター、1997、pp306。

（12）中野益男、中野寛子、長田正宏：「弥勒寺東遺跡から出土した土壌に残存する脂肪の分析」、『未発表』、岐阜県関市教育委員会。

（13）中野益男、中野寛子、長田正宏：「丸山遺跡から出土した土壌に残存する脂肪の分析」、『丸山遺跡』、岐阜県文化財保護センター調査報告書第45集、1998、pp128。

（14）中野益男、中野寛子、長田正宏：「岡前遺跡から出土した土器に残存する脂肪の分析」、『未発表』、(財) 岐阜県文化財保護センター。

（15）中野益男、中野寛子、長田正宏：「牛垣内遺跡から出土した土器に残存する脂肪の分析」、『牛垣内遺跡』、岐阜県文化財保護センター調査報告書第44集、1998、pp212。

（16）中野益男、中野寛子、清水　了、門　利恵、星山賢一：「松葉野遺跡から出土した土器に残存する脂肪の分析」、『未発表』、岐阜県益田郡金山町教育委員会。

（17）中野益男、幅口　剛、福島道広、長田正宏：「原川遺跡の土器棺に残存する脂肪の分析」、『原川遺跡Ⅰ』、静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第17集、(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所、1988、pp79。

（18）中野益男、中野寛子、福島道広、長田正宏：「寺田遺跡土壌墓状遺構に残存する脂肪の分析」、『未発表』、兵庫県芦屋市教育委員会。

（19）中野益男、福島道広、中野寛子、長田正宏：「摺萩遺跡の遺構に残存する脂肪の分析」、『摺萩遺跡』、宮城県文化財調査報告書第132集、宮城県教育委員会・宮城県土木部水資源開発課1990、pp929。

（20）正宗敦夫編集・校閲、日本古典全集　第5期：「医心方」、第6巻、pp2075、日本古典全集刊行会、東京。

第6節　動物遺体

名古屋大学博物館　新美　倫子

徳山陣屋跡では15～19世紀に属する土坑・溝から、動物遺体が92点出土した。この内訳は、貝類32点、魚類5点、鳥類6点、哺乳類25点、不明焼破片24点である。これらの大部分は発掘時に取り上げられたが、遺構覆土の一部を1.7mm目のふるいにかけて水洗選別で検出された資料も含まれている。第41・42表にこれらの出土量を示し、以下にその内容について述べることにする。

なお、国立歴史民俗博物館の西本豊弘先生には種同定に関して御教示をいただいたことをここに感謝いたします。

1．貝類（第41表）

貝類は、ASK51（中世後期）、ASK27・ASK36（15－16世紀）、ASK81（16世紀中葉）BSP73（18世紀前半）、BSK91（18－19世紀）の6カ所の土坑から出土している。ASK51からはハマグリ右殻1点が出土した。この資料は保存状態が悪く殻頂部だけしか残存していないが、大型の個体である。ASK27ではハマグリ左殻2点と右殻1点が見られ、いずれも破損しているが比較的大きな個体と思われる。他に貝破片も5点出土し、これらのうち4点はハマグリであった。なお、ここでは殻頂部の残らない資料を貝破片としている。ASK36ではハマグリ左殻1点と右殻1点、サザエ（芯のみ）1点、サザエの蓋1点が見られた。サザエは殻高7cm程度の個体であり、蓋は長径3.3cmであった。ASK81では貝破片1点が見られた。

BSP73では貝破片1点が出土している。BSK91ではハマグリ左殻6点と右殻6点が見られ、そのうち殻長5cm程度の右殻1点には、内側全面にウルシが付着しており、ウルシをかき取ったあとも見られる。これは、ハマグリの貝殻をウルシの容器として用いたものと思われる。残りの11点のうち8点は殻長5cm以下で、さらにその中の5点は3cm以下であり、小さな個体が多い。これらのハマグリは遺跡に食料として持ち込まれ、その一部が容器にも用いられたのであろう。他に貝破片5点が見られたが、そのうち1点はハマグリである。15－16世紀に属する土坑と18－19世紀の土坑では、いずれも出土資料のほとんどはハマグリであり、貝類の出土内容に時期による違いは特に見られない。

第41表　貝類出土一覧表

時　期	遺　構	種・出土量
中世後期	ASK51	ハマグリ右殻1
15－16世紀	ASK27	ハマグリ左殻2、右殻1、貝破片5
	ASK36	ハマグリ右殻1、右殻1 サザエ1、サザエの蓋1
16世紀中葉	ASK81	貝破片1
18世紀前半	BSP73	貝破片1
18－19世紀	BSK91	ハマグリ左殻6、右殻6、貝破片5
計		32

2．魚類（第42表）

魚類は3カ所の土坑で出土したが、出土量はわずかであり、ASP459（15－16世紀）から魚類焼破片1点、ASK27（15－16世紀）で魚類破片1点と魚類焼破片1点、BSK91（18－19世紀）からサバ類椎骨1点と魚類鱗破片1点が出ている。これらのうち、ASK27とBSK91出土資料は、ふるいを用いた水洗選別で検出されたものである。サバ類椎骨はその大きさから見て体長20cm程度の個体と思われる。魚類破片・魚類焼破片・魚類鱗破片は細かな破片であり、種はわからない。

3．鳥類（第42表）

鳥類も2カ所の土坑で出土したが、出土量は少ない。ASK27（15－16世紀）でキジ類？左中足骨遠位部1点と種不明鳥類焼破片2点、ASK81（16世紀中葉）でキジ類の左脛骨遠位部1点、種不明鳥類四肢中間部2点が見られた。キジ類脛骨は現生標本の雄のキジよりも少し小さく、キジの雌かもしれない。なお、ASK27出土の鳥類焼破片2点はふるいを用いた水洗選別で検出された資料である。

4．哺乳類（第42表）

哺乳類は7カ所の土坑と1カ所の溝から出土している。ASP57(15世紀)からは、シカの角の焼けた破片が6点と不明焼破片23点が出土した。ASP459(15世紀)では陸獣焼破片1点と不明焼破片も1点見られた。この不明焼破片は陸獣またはヒトと思われる。ASD8（15－16世紀）ではイノシシ類の臼歯破片が9点出土した。なお、哺乳類の出土した遺構ではこのASD8だけが溝で、残り全て土坑である。

ASK27(15－16世紀)からは、ネズミ類右上顎骨1点、テン椎骨3点、陸獣焼破片1点が出土した。これらの資料は、ふるいを用いた水洗選別で検出されている。ネズミ類の上顎骨は現生ドブネズミと同じ大きさであった。ASK36(15－16世紀)ではイノシシ類の右寛骨1点が見られた。これは、寛骨臼部分は完存であるが、腸骨翼は鉈状の金属器によって切断されており、座骨・恥骨部分には動物の咬み痕が多く見られる。また、寛骨臼の裏側の面には多数の細い擦痕が見られる。ASK81(16世紀中葉)で出土したイヌの第一頸椎1点は半分欠損しており、幼獣のものであるが大きさはすでに現生甲斐柴犬(成犬)程度となっており、大型犬のものと思われる。ASQ1（18世紀）ではイノシシ類上顎右第三後臼歯1点が出土し、これは萌出が完了して第2咬頭まで摩滅が見られる。BSP1024(19世紀)でイノシシ類肋骨1点が見られた。

第42表　魚類・鳥類・哺乳類出土一覧表

時　期	遺　構	種・出土量
15－16世紀	ASP57	シカ角焼破片6、不明焼破片23
	ASP459	魚類焼破片1、陸獣焼破片1、不明焼破片1
	ASD8	イノシシ類歯破片9
	ASK27	魚類破片1、魚類焼破片1 キジ類？中足骨左下1、鳥類焼破片2 ネズミ類上顎骨右1、テン椎骨3、陸獣焼破片1
	ASK36	イノシシ類寛骨右1
16世紀中葉	ASK81	キジ類脛骨右下1、鳥類四肢中間部2 イヌ第一頸椎1幼
18世紀	ASQ1	イノシシ類上第三後臼歯右1
18－19世紀	BSK91	サバ類椎骨1、魚類鱗破片1
19世紀	BSP1024	イノシシ類肋骨1
計		60

註幼：幼獣、下：遠位部。哺乳類で幼のないものは成獣。

第6章　まとめ

第1節　出土土器について

今回の調査で出土した遺物は、中世後期・近世後期の大きく二つの時期にその割合が多い。ここでは、それぞれの時期ごとに組成の検討をすることとし、それ以外の遺物は除外した。なお、個体数については口縁部計測法を用い小数点以下第1位まで計測し、その他は遺構及び包含層出土の接合前破片数を用い算出した。

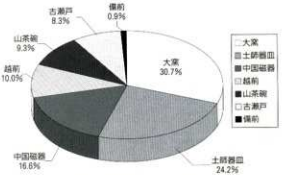
1．中世後期の遺物について

第43表及び第77図は、中世後期と想定できる遺物の器種別組成を示したものである。大窯が30.7%と全体の約3分の1を占める。土師器皿は、24.2%で、口縁部残存率にも表れるように個体数が多い。また、次に多く出土した中国磁器は16.6%で96点出土した。その内訳は青磁29点、白磁30点、染付37点で、割合が非常に高く、輪花皿（第58－98）を含む格式の高い屋敷の存在が想定される。山茶碗そのほとんどが碗類ではなく、まとまって出土したものが鉢である。

第44表及び第78図に見られるように、用途別にでは、供膳具が71.5%と大半を占める。また、茶道具は全体の8.1%を占め供膳具に次ぐ。大窯第3段階後半の時期の天目茶碗などが想定される。

第43表　器種別土器組成表（中世）

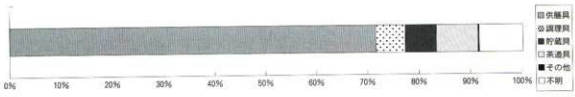
	口縁部残存率（x／12）	比率(%)	破片数（接合前）
大窯	75.2	30.7%	178
土師器皿	94.6	24.2%	140
中国磁器	36.4	16.6%	96
越前	14.2	10.0%	58
山茶碗	25.0	9.3%	54
古瀬戸	22.4	8.3%	48
備前	0.6	0.9%	5
合　計	268.4	100.0%	579



第77図　器種別土器組成図（中世）

第44表　用途別土器組成表（中世）

	供膳具	調理具	貯蔵具	茶道具	灯火具	火具	化粧具	神仏具	調度具	その他	不明	合計
破片数	414	33	35	47	0	0	0	0	0	1	49	579
割合(%)	71.5%	5.7%	6.0%	8.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%	8.5%	100.0%



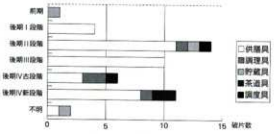
第78図　用途別土器組成（中世）

第45表　古瀬戸時期別組成表

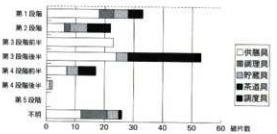
	供膳具	調理具	貯蔵具	茶道具	調度具	合計
前期	0	0	1	0	0	1
後期Ⅰ段階	4	0	0	0	0	4
後期Ⅱ段階	11	1	1	0	1	14
後期Ⅲ段階	10	0	0	0	0	10
後期Ⅳ古段階	3	2	0	1	0	6
後期Ⅳ新段階	8	1	0	2	0	11
不明	1	0	1	0	0	2
古瀬戸合計	37	4	3	3	1	48

第46表　瀬戸美濃（大窯）時期別組成表

	供膳具	調理具	貯蔵具	茶道具	調度具	合計
第1段階	18	5	5	5	0	33
第2段階	6	2	6	8	0	22
第3段階前半	23	0	0	0	0	23
第3段階後半	24	4	0	23	2	53
第4段階前半	7	4	0	6	0	17
第4段階後半	1	0	0	1	0	2
第5段階	0	0	0	0	0	0
不明	12	9	4	1	0	28
大窯合計	91	24	16	44	2	178



第79図　古瀬戸時期別組成



第80図　大窯時期別組成

近世に比べ貯蔵具の占める割合は高く、調理具の擂鉢と共に運び込まれた越前の擂鉢や甕類がそれに該当する。自然科学分析の動物遺体の分析に見られるようにこの地方にないサバやハマグリなどの搬入など日本海側との交流が盛んであったことが想像できる。

遺物の時期が判別できた古瀬戸・大窯の時期別区分についてさらに詳細にまとめたものが第45・46表、第79・80図である。古瀬戸後期から大窯第3段階の頃にかけての遺物数が増え、それ以後は次第に減少する。また、古瀬戸で見られる碗・鉢類は大窯においても割合が高いが、大窯の時期には擂鉢など調理具・茶道具が増加している。

2．近世後期の遺物について

第48表及び第82図は、近世後期と想定できる遺物の器種別組成を示したものである。連房が76.8%とほぼ8割を占める。一大生産地である瀬戸美濃からいろいろな用途のものが搬入されたと考えられる。遺物点数も2,000点を超え、この時期に遺跡地内に多くの人々が生活していたと想像できる。また、肥前3.4%、信楽2.6%、唐津2.1%と他地域との交流も感じられる。第81図に見られるように大半が供膳具であるが、肥前においては瓶類などが多くなり、信楽においても鍋・土瓶などの調理具が多くなるのが特徴的である。けれども中世の時期とは違い越前の甕などは見当たらず、常滑の甕なども小破片が7点と非常に少ない。

第47表　用途別土器組成表（近世）

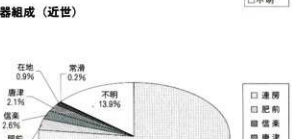
	供膳具	調理具	貯蔵具	茶道具	灯火具	火具	化粧具	神仏具	調度具	その他	不明	合計
破片数	1,463	331	21	9	26	9	4	12	44	82	265	2,266
割合(%)	64.6%	14.6%	0.9%	0.4%	1.1%	0.4%	0.2%	0.5%	1.9%	3.6%	11.7%	100.0%

第49表、第83図からは、連房の前半の遺物は少なく第Ⅲ段階に激増していることが窺える。遺物からは中世の後半から近世半ばにかけて一時的に生活域が縮減されまた、後半に新たに生活が営まれていたのではないかということが考えられる。

第81図　用途別土器組成（近世）

第48表　器種別土器組成表（近世）

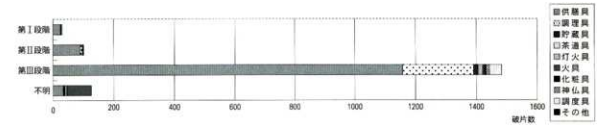
	口縁部残存率（x／12）	比率(%)	破片数（接合前）
連房	587.2	76.8%	1,740
肥前	45.0	3.4%	78
信楽	13.9	2.6%	60
唐津	8.1	2.1%	48
在地	15.5	0.9%	20
常滑	0	0.2%	5
不明	0	13.9%	315
合　計	669.7	100.0%	2,266



第82図　器種別土器組成図（近世）

第49表　瀬戸美濃（連房）時期別組成表

	供膳具	調理具	貯蔵具	茶道具	灯火具	火具	化粧具	神仏具	調度具	その他	合計
第Ⅰ段階	25	1	1	3	0	0	0	0	0	0	30
第Ⅱ段階	90	7	1	0	1	0	0	0	0	2	101
第Ⅲ段階	1,158	233	13	1	16	6	4	12	40	0	1,483
不明	32	2	6	5	0	0	0	0	1	80	126
連房合計	1,305	243	21	9	17	6	4	12	41	82	1,740



第83図　連房時期別組成

第２節　遺物出土状況と遺構

第84図は包含層及び遺構出土の接合前破片を器種別に分類し、地区別に点数を示したものである。前述した中世後期と近世後期の遺物を地区別に再検討する。遺跡全体の出土分布はＢ８～Ｆ12区とＨ２～Ｐ３区、及びＪ９～Ｐ10辺りを中心に出土量が多く、その中でも遺跡北東部の平坦部であるＢ７～Ｆ12区の出土量は著しい。この辺りは、住居はないものの土坑集中区であり、土坑内からの遺物も

第50表　遺構別出土遺物一覧表

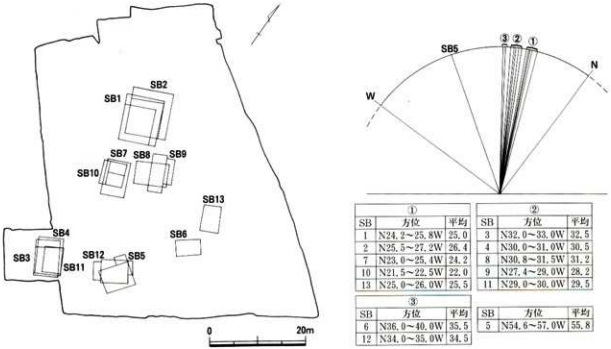
| 遺構名 | 古代 | 中世 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 近世 | | | | | | | | | | 近代 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

多い。そして他の住居域がやや傾斜があるのに対して平坦部がB7～G13には面的にかなりの広さを持つことも特徴的である。また、同様に南西部のM1～P4区にも平坦部が存在する。

いわゆる古瀬戸・土師器皿・中国磁器・大窯・越前など中世の遺物にもさらに分布の状況にわずかな差が認められる。時期区分を古瀬戸・土師器皿・中国磁器が15世紀後半から16世紀、大窯・越前が16世紀初頃から末までととらえると、同時期の古瀬戸と土師器皿・中国磁器の出土分布に違いが見られる。すなわち前者は北東部に位置する平坦部にさほど遺物が出土しないのに対し、後者の出土量は特徴的である。土師器皿・中国磁器の投棄箇所が前述の掘立柱建物域よりさらに北東部に位置する土坑群に廃棄されたことは住居域との区別を考える上で興味深い。ASD8をいわゆるハレの部分の庭園と考えるならば、この北東部の平坦部は裏側に当たる区域と言える。

さらに、近世後期の連房と唐津・肥前の出土分布をみると、どちらも中世後期出土の遺物と同様上記のB8～F12区に出土量が集中しているが、後者はM1～P4区にはほとんど出土しない。同時期の遺物でありながら地点差が認められることは、北東部の平坦部と南西部の平坦部は区別されていたのでないかと想像される。

第85図は掘立柱建物の主軸の方位をまとめたものである。平均ではN30.8° Wであり、SB5を除き、わずかな差であるが①SB1・2・7・10・13　②SB3・4・8・9・11　③SB6・12の3つに分けられそうである。遺物等からSB1・2・3・4・8・9・10においては中世と考えられ、SB5以外にはほぼ主軸がまとまり、同様な時期に建てられた可能性がある。どの建物も規模が小さく、掘も確認できなかったことなどから徳山氏の屋敷跡であると断定できない。ただ、SB1・2を中心として軸をほぼ同じくする建物に隣接して、ASD8など庭園跡の可能性がある遺構があり、建物や施設を計画的に配置した屋敷地である考えられる。



①		
SB	方位	平均
1	N24.2～25.8W	25.0
2	N25.5～27.2W	26.4
7	N23.0～25.4W	24.2
10	N21.5～22.5W	22.0
13	N25.0～26.0W	25.5

②		
SB	方位	平均
3	N32.0～33.0W	32.5
4	N30.0～31.0W	30.5
8	N30.8～31.5W	31.2
9	N27.4～29.0W	28.2
11	N29.0～30.0W	29.5

③		
SB	方位	平均
6	N36.0～40.0W	35.5
12	N34.0～35.0W	34.5

SB	方位	平均
5	N54.6～57.0W	55.8

第85図　掘立柱建物における軸の方位の傾向

参考文献

青木　修　1993「片口鉢の研究－中世知多古窯跡群を中心として－」『瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』第1輯　(財)瀬戸市埋蔵文化財センター。

井川　祥子　1997「15世紀後半から16世紀前葉の土師器皿－中濃地域を中心にして－」『美濃の考古学』第2号　美濃考古学刊行会。

井汲　隆夫他　1992『内藤町遺跡－放射5号線整備事業に伴う緊急発掘調査報告書』新宿区内藤町遺跡調査会。

井上喜久男他　1989『美濃の古陶　美濃古窯研究会会報』No.3　美濃古窯研究会。

上田　秀夫　1982「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究』No.2　日本貿易陶磁研究会。

宇野　隆夫　1992「食器計量の意義と方法」『国立歴史民俗資料館研究報告』第40集。

遠藤　才文他　1993『名古屋城三の丸遺跡（Ⅳ）』愛知県埋蔵文化財センター。

小野　正敏　1982「15～16世紀の染付碗、皿の分類と年代」『貿易陶磁研究』No.2　日本貿易陶磁研究会。

小野木　学　1996「角之御前遺跡出土の中世遺物について」『美濃の考古学』創刊号　美濃考古学刊行会。

「美浪地方における中世前期の土師器皿の様相」『美濃の考古学』第2号　美濃考古学刊行会。

河合　君近　1998「越前窯」『六古窯の時代』(財)瀬戸市埋蔵文化財センター。

川井　啓介他　1994『室遺跡』愛知県埋蔵文化財センター。

小日置晴展他　1990『白鳥』都立学校遺跡調査会。

田口　昭二他　1993『多治見の古窯第3号　美濃窯の焼き物』多治見市教育委員会。

楯崎　彰一他　1990『尾呂』瀬戸市教育委員会。

藤澤　良祐　1986「瀬戸大窯発掘調査報告」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要』Ⅴ　瀬戸市歴史民俗資料館。

1987「本業焼の研究(1)～(3)」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要』Ⅵ－Ⅷ　瀬戸市歴史民俗資料館。

1996「中世瀬戸窯の動態」『古瀬戸をめぐる中世陶器の世界～その生産と流通～　資料集』(財)瀬戸市埋蔵文化財センター。

藤原　武二他　1983『県道鯖江・美山線改良工事に伴う発掘調査報告書』福井県立朝倉氏遺跡資料館。

松田　訓他　1995『名古屋城三の丸遺跡（Ⅴ）』愛知県埋蔵文化財センター。

水野　和雄他　1988『特別史跡　－乗谷朝倉氏遺跡発掘調査報告書Ⅱ　第10・11・54次調査』福井県立教育委員会　福井県立朝倉氏遺跡資料館。

森田　勉　1982「14～16世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁研究』No.2　日本貿易陶磁研究会。

図　版

本郷地区遠景写真
1978年撮影　　（南東から）

徳山陣屋跡調査前
遠景　　（南東から）

徳山陣屋跡調査前
近景　　（南東から）

SB１・２付近完掘状況（南東から）

SB３・４・11付近完掘状況（南東から）

SB１・２付近完掘状況（北東から）

SB７・10付近完掘状況（北西から）

SB８・９付近完掘状況（北西から）

SA 1 a　検出状況（南東から）

SA 1 a　積み直し部除去後状況（南東から）

SA 1 b　検出状況（南東から）

SA 1 b　積み直し部除去後状況（南東から）

SA 1 c　検出状況（南西から）

SA 1 b・c　積み直し部除去後状況（南西から）

SA 2　検出状況（南から）

SA 4　検出状況（南から）

ASD 8　完掘状況（南東から）

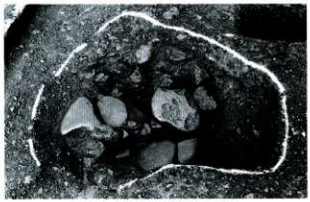
ASK11　完掘状況（南から）

ASK19　検出状況（西から）

ASK26　検出状況（北から）

ASK26　半割状況（南から）

ASK43　礫出土状況（西から）



ASK67　礫出土状況（南から）

ASK65　半割状況（西から）

ASK65　礫出土状況（西から）

ASK69　礫出土状況（南から）

ASK73　礫出土状況（西から）

ASK88　遺物出土状況（南から）

BSK 8　礫出土状況（南から）

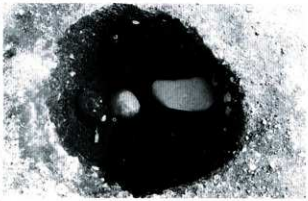
BSK15　礫出土状況（南から）

BSK21　礫出土状況（南から）

BSK89　半割状況（南から）

BSK89　遺物出土状況（南から）

BSK91　遺物出土（上部）状況（南から）



BSK91　遺物出土（底部）状況（南から）

BSK93　礫出土状況（南から）

BSK95　礫出土状況（南から）

BSK96　礫出土状況（南から）

BSK115　完掘状況（南から）

BSK116　完掘状況（南から）

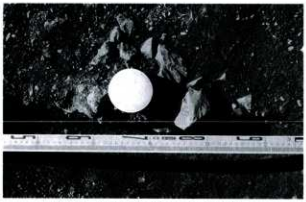
BSK115　側面状況（南から）

ASS 1　平面検出状況（東から）

ASBk 1　半割状況（西から）

ASQ 1　遺物出土状況（北から）

ASBk 1　覆土完掘状況（西から）



ASQ 1　遺物出土状況詳細（南から）

BSF 1　遺物出土状況（東から）

BSP73　遺物出土状況（南東から）

BSP320　遺物出土状況（北東から）

203

135

136

216

315

98

53

115

102

77

4

20

55

139

164

239

319

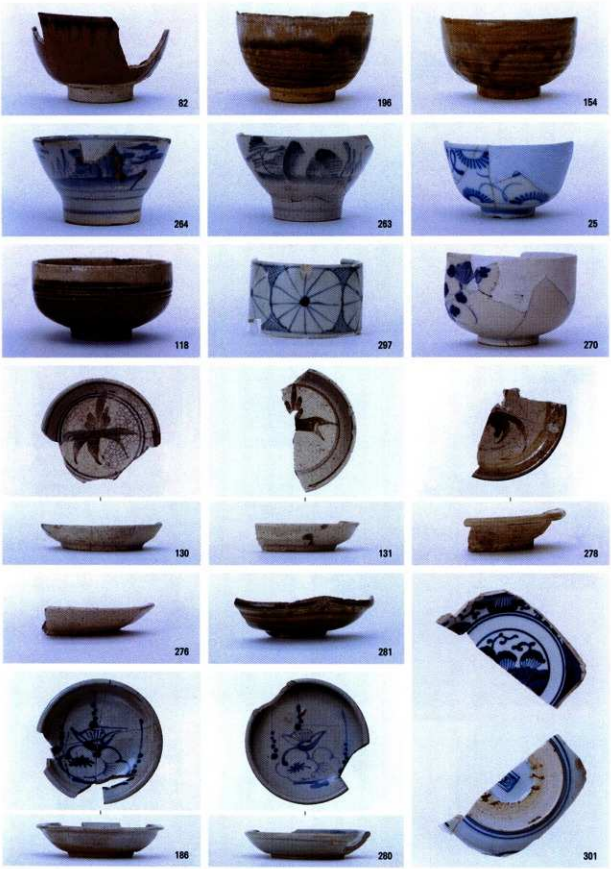
167

79

143

148

図 版 8



110

104

119

283

67

303

249

304

85

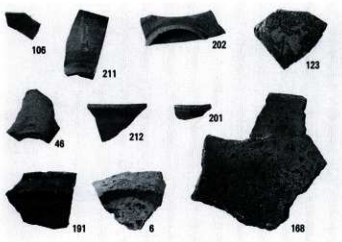
312

187

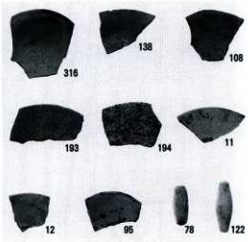
66

31

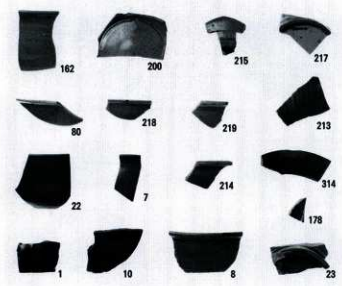
292



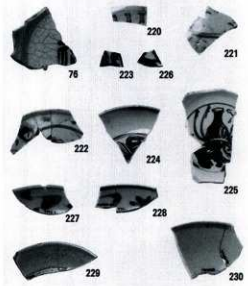
灰釉陶器・山茶碗



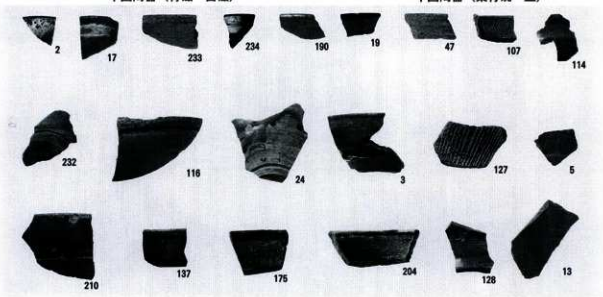
土師器皿・土鍾



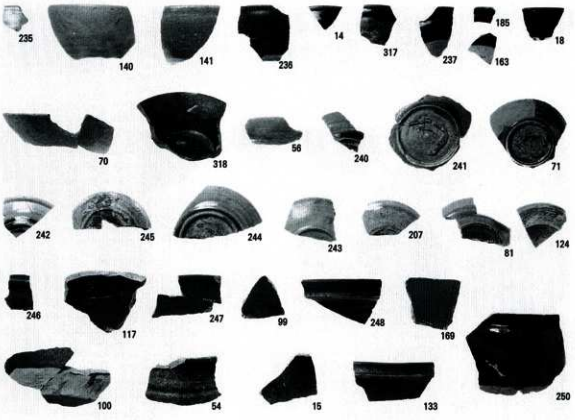
中国陶器（青磁・白磁）



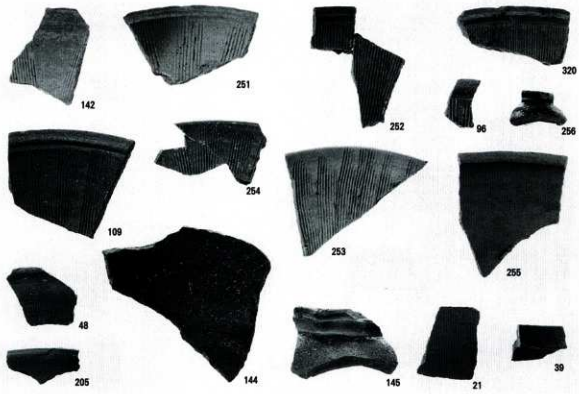
中国陶器（染付碗・皿）



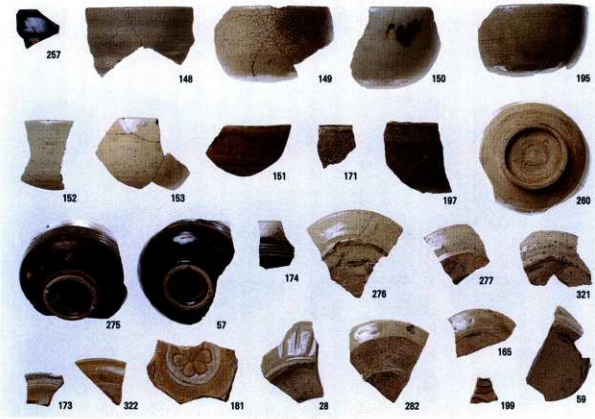
古瀬戸


235
140
141
236
14
317
237
185
163
18
70
318
56
240
241
71
242
245
244
243
207
81
124
246
117
247
99
248
169
100
54
15
133
250

瀬戸美濃（大窯）

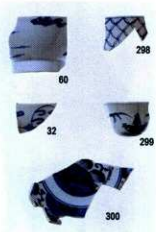

142
251
252
320
96
256
109
254
253
255
48
205
144
145
21
39

越前・備前

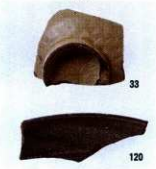


瀬戸美濃（連房）1

瀬戸美濃（連房）2



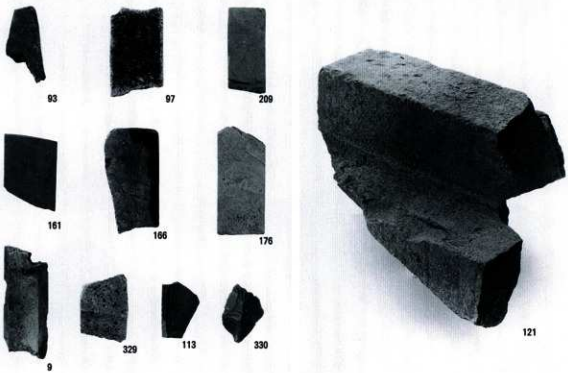
肥前



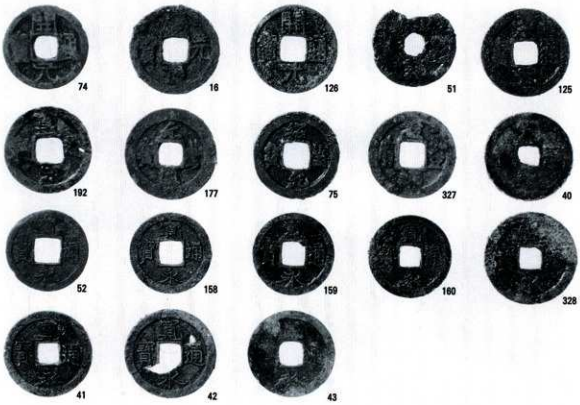
唐津

瀬戸美濃（連房）3

信楽系・在地系


93
97
209
161
166
176
9
329
113
330
121

石製品


74
16
126
51
125
192
177
75
327
40
52
158
159
160
328
41
42
43

銭貨

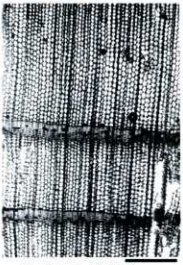
63
73
83
91
87
86
90
88
92
94
89
101
129
157
156
198
189
49
50
72
134
155
324
172
206
111
325
112
326

金属製品

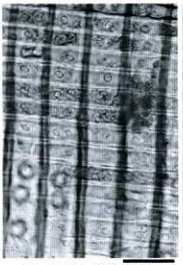
1a スギ（横断面）
No.83 bar：0.5mm

1b スギ（接線断面）
No.83 bar：0.1mm

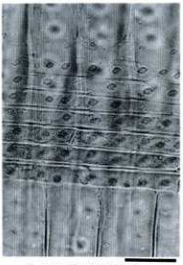
1c スギ（放射断面）
No.83 bar：0.05mm



2a サワラ（横断面）
No.16 bar：0.5mm



2b サワラ（放射断面）
No.16 bar：0.05mm



3 サワラ（放射断面）
No.78 bar：0.05mm

4a ヒノキ属（横断面）
No.44 bar：0.5mm

4b ヒノキ属（接線断面）
No.44 bar：0.1mm

4c ヒノキ属（放射断面）
No.44 bar：0.05mm

徳山陣屋跡出土木材および炭化材樹種

5a ブナ属（横断面）
No.83 bar：0.5mm

5b ブナ属（接線断面）
No.83 bar：0.1mm

5c ブナ属（放射断面）
No.83 bar：0.1mm

6a コナラ節（横断面）
No.83 bar：0.5mm

6b コナラ節（接線断面）
No.83 bar：0.1mm

6c コナラ節（放射断面）
No.83 bar：0.5mm

7a クリ（横断面）
No.83 bar：0.5mm

7b クリ（接線断面）
No.83 bar：0.1mm

7c クリ（放射断面）
No.83 bar：0.1mm

徳山陣屋跡出土木材および炭化材樹種

8a ケヤキ（横断面）
No.70 bar：0.5mm

8b ケヤキ（接線断面）
No.70 bar：0.5mm

8c ケヤキ（放射断面）
No.70 bar：0.5mm

9a クスノキ科（横断面）
No.83 bar：0.5mm

9b クスノキ科（接線断面）
No.83 bar：0.1mm

9c クスノキ科（放射断面）
No.83 bar：0.1mm

10a カエデ属（横断面）
No.44 bar：0.5mm

10b カエデ属（接線断面）
No.44 bar：0.1mm

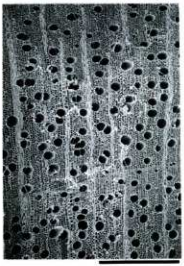
10c カエデ属（放射断面）
No.44 bar：0.1mm

徳山陣屋跡出土木材および炭化材樹種

11a トチノキ（横断面）
No.83 bar：0.5mm

11b トチノキ（接線断面）
No.83 bar：0.1mm

11c トチノキ（放射断面）
No.83 bar：0.1mm

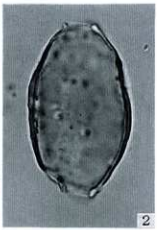


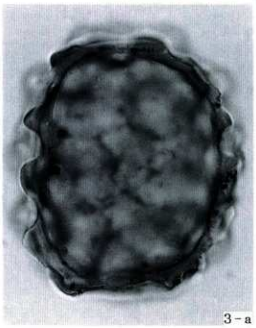
12a ミズキ属（横断面）
No.83 bar：0.5mm

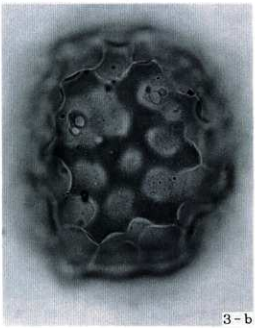
12b ミズキ属（接線断面）
No.83 bar：0.5mm

12c ミズキ属（放射断面）
No.83 bar：0.5mm

徳山陣屋跡出土木材および炭化材樹種







1，2：——————　　3：——————

1：鞭虫卵　PLC.SS 2985 BSK116—①

2：鞭虫卵　PLC.SS 2987 BSK117—③

3：回虫卵　PLC.SS 2986 BSK117—①

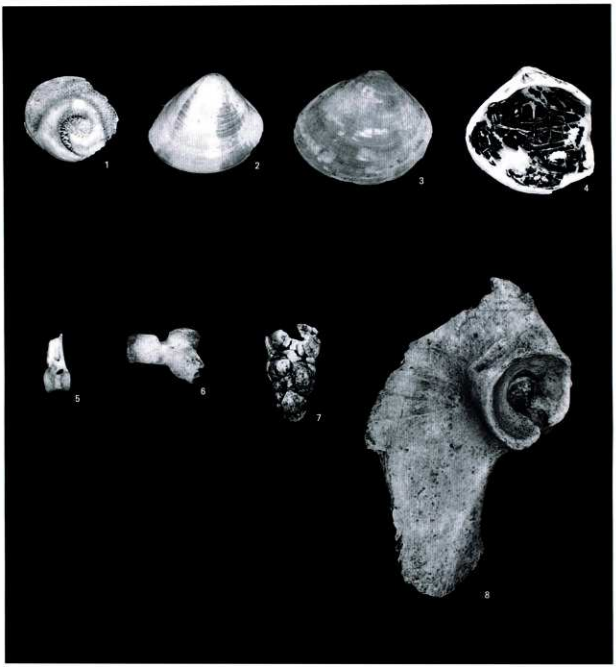
徳山陣屋跡遺跡の寄生虫卵（scale　bar：20μm）

1. 状況写真

2. 底部付着状況

3. 砂粒の拡大

合子のマイクロスコープ写真



動物遺体（約3／4）

1．サザエの蓋　　2～4．ハマグリ（4は内側にウルシが付着したもの）

5．キジ類脛骨　遠位部　　6．イヌ第一腰椎（半欠）　7．イノシシ類上顎三後臼歯

8．イノシシ類寛骨　2～4は右殻　5・7・8は右側

報告書抄録

ふりがな	とくやまじんやあと
書名	徳山陣屋跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	岐阜県文化財保護センター調査報告書
シリーズ番号	第76集
編著者名	坂東肇、三輪晃三、浅野哲男、新美倫子
編集機関	財団法人岐阜県文化財保護センター
所在地	〒502－0003　岐阜市三田洞東１－26－１　℡058（237）8550
発行年月日	西暦2002年12月25日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間 調査面積	調査原因
徳山陣屋跡 （とくやまじんやあと）	岐阜県揖斐郡 （ぎふ　いび） 藤橋村大字 （ふじはし） 徳山字村平 （とくやま　むらだいら）	21407	06423	35° 41' 65"	136° 29' 00"	20000801～ 20001215 3000㎡	徳山ダム 建設事業 に伴う

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
徳山陣屋跡	城館跡	中世～ 近世	掘立柱建物跡 土坑 溝 竈 地鎮遺構	13 139 22 1 1	中世陶器 中国磁器 近世陶磁器	483 96 1,951	中世の屋敷跡と思われる掘立柱建物跡を検出した

岐阜県文化財保護センター調査報告書　第76集

徳山陣屋跡

2002年12月25日

編集・発行　財団法人　岐阜県文化財保護センター
岐阜市三田洞東１－26－１
印　　刷　ニホン美術印刷株式会社